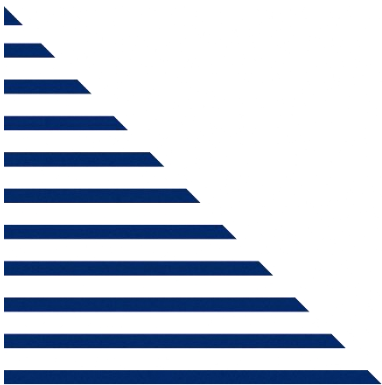




長岡京市
男女共同参画社会についての
市民・事業所意識調査
報告書

令和7年3月
長岡京市



はじめに

長岡京市では、平成22年10月に「長岡京市男女共同参画推進条例」を制定し、男女共同参画社会の実現を目指してきました。条例では、すべての人が性別にかかわらず個人として尊重され、自らの意思によって、その個性と能力を発揮する機会が確保されることにより、一人ひとりが人権を尊重され、その人らしくいきいきと暮らすことのできる「男女共同参画社会」を実現することを目的に掲げています。

市では、条例に基づき、令和3年度から7年度を計画期間とする「長岡京市男女共同参画計画 第7次計画」を策定し、さまざまな分野の施策や事業に取り組んでまいりました。

このたび、第7次計画の目標年度を令和7年度に迎えることから、令和8年度からの「長岡京市男女共同参画計画 第8次計画」の策定にあたり、男女共同参画に関する本市の現状や市民の皆様、事業所の皆様のニーズや考え、実態などを把握するため、「市民・事業所意識調査」を実施しました。

今回の調査結果を踏まえ、次期計画策定や市の施策に反映していきたいと考えています。市民の皆様や事業所の皆様、教育関係者には、男女共同参画の推進についての理解を深め、ご協力いただくための基礎資料として、この報告書をご活用いただければ、幸いです。

結びに、本調査の実施にあたり、ご協力をいただきました市民の皆様、事業所の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

令和7年3月

長岡京市長 中小路 健吾

目 次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書を見る際の注意事項	2
5. 標本誤差	2
II 調査結果からみえるまとめ	3
【市民意識調査】	3
1. 仕事について	3
2. 子育てや暮らしなどについて	4
3. 人権の尊重について	6
4. 困難な問題を抱える女性に関することについて	8
5. 男女共同参画社会について	8
【事業所意識調査】	10
1. 女性の活躍推進について	10
2. 従業者の仕事と子育てや介護との両立支援について	11
3. 働きやすい職場環境について	12
III 調査結果からみえる課題	13
IV 市民意識調査結果	15
1. 回答者の属性	15
2. 仕事について	19
3. 子育てや暮らしなどについて	35
4. 人権の尊重について	58
5. 困難な問題を抱える女性に関することについて	81
6. 男女共同参画社会について	90
V 事業所意識調査結果	113
1. 事業所の属性	113
2. 女性の活躍について	117
3. ワーク・ライフ・バランスについて	123
4. ハラスメントへの取り組みについて	128
5. 事業所の今後の取り組みや行政の取り組み、支援について	130

VI 自由意見のまとめ	133
1. 自由意見の要約	133
2. 主な自由意見	136
VII 調査票	149
1. 市民意識調査	149
2. 事業所意識調査.....	164

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画社会に関する意識と実態、ならびに市内事業所の従業者に対する両立支援、女性の活躍推進、働きやすい職場環境づくりに関する意識と取り組みについて知ることで、「長岡京市男女共同参画計画」の進捗状況を把握する基礎資料の1つとするとともに、次期計画策定のための基礎資料を得ることを目的として実施しました。

2. 調査の設計

	市民意識調査	事業所意識調査
(1)調査対象	市内在住の18歳以上の市民	市内事業所
(2)標本数	2,000人(女性1,000人、男性1,000人)	200事業所
(3)抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出 (基準日:令和6年8月1日)	令和3年「経済センサス活動調査」 から無作為抽出
(4)調査方法	郵送配布・郵送及びWEB回収 ※9月25日に調査協力のお礼とお送りを送付	
(5)調査期間	令和6年9月5日から9月30日まで	
(6)調査内容	①回答者の属性 ②仕事について ③子育てや暮らしなどについて ④人権の尊重について ⑤困難な問題を抱える女性に関することについて ⑥男女共同参画社会について	①事業所について ②女性の活躍について ③ワーク・ライフ・バランスについて ④ハラスメントへの取り組みについて ⑤事業所の今後の取り組みや行政の取り組み、支援について

3. 回収状況

市民意識調査

	標本数	回収数	無効数	有効回収数				
				全体	女性	男性	自由記述	無回答
件数	2,000	814 (397)	0	814 (397)	463 (197)	348 (197)	1 (1)	2 (2)
割合	100.0	40.7 (19.9)	0.0	40.7 (19.9)	23.2 (9.9)	17.4 (9.9)	0.1 (0.1)	0.1 (0.1)

事業所意識調査

	標本数	回収数	無効数	有効回収数
件数	200	90(50)	0	90(50)
割合	100.0	45.0(25.0)	0.0	45.0(25.0)

※()内の数値は、WEB 回答

4. 報告書を見る際の注意事項

- 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示しています。
- 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が「100.0%」にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が「100.0%」を超える場合があります。
- 図表上の「MA%」という表記は複数回答(Multiple Answer の略)の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答(Limited Answer の略)を示しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 回答者数(n)が少数となる場合は参考までに数値を見るにとどめ、結果の利用には注意が必要です。
- 「内閣府調査」とは、内閣府が令和4年に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」を指します。なお、グラフ内の数値は「世論調査報告書」(内閣府)を加工して作成しています。
(出典:<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-danjo/#T2>)

5. 標本誤差

市民意識調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおりです。

調査結果の信頼度95%レベルにおける信頼区間を、主な%について求めたのが下記の表です。この表から、例えば本市民意識調査結果で30%の女性が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が 4.1%であることから、100 回調査をすると 95 回まで 25.9%から 34.1%の間で答が得られるというようにみることができます。(男性の場合は 25.2%から 34.8%)

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

N = 母集団数 (令和 6 年 8 月 1 日時点の 18 歳以上の市民) 女性 : 35,888 男性 : 32,964
n = 標本数 (市民意識調査の回答者数) 女性 : 463 男性 : 348
P = 標本測定値 (回答の比率 : %)

P(%)	標本誤差	
	女性	男性
50%	±4.5	±5.2
45%または55%	±4.5	±5.2
40%または60%	±4.4	±5.1
35%または65%	±4.3	±5.0
30%または70%	±4.1	±4.8
25%または75%	±3.9	±4.5
20%または80%	±3.6	±4.2
15%または85%	±3.2	±3.7
10%または90%	±2.7	±3.1
5%または95%	±2.0	±2.3

Ⅱ 調査結果からみえるまとめ

【市民意識調査】

1. 仕事について

①働く人にとって、収入の少なさは男女共通の不満(問 7)

何らかの仕事をしている人は、女性の 71.7%、男性の 85.1%であり、それらの人に今の職場・仕事に対する不満や悩みをたずねたところ、「収入が少ない」(女性:28.9% 男性:26.0%)が男女ともに最も高く、共通の不満として挙げられています。

②現在働いている人の現状維持志向は女性の方が強い傾向(問 8)

現在働いている人の回答で、「今の職場で、現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」(女性:35.8% 男性:29.1%)が男女とも最も高く、女性の方が 6.7 ポイント、「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」(女性:4.5% 男性:13.9%)は男性の方が 9.4 ポイント高くなっています。

③男女とも令和 5 年中の年間収入は、「250～500 万円未満」が最も多い(問 9)

現在働いている人の令和 5 年中の年間収入(税込)は、男女とも「250～500 万円未満」(女性:27.7% 男性:29.4%)が最も高くなっています。

職業別にみると、女性の正規雇用者では「250～500 万円未満」、女性の非正規雇用者では「103 万円未満」がそれぞれ 4 割を占め、最も高くなっています。

④女性は都合のよい時間に働ける、男性は時間や日数の短さ・正社員として働ける職場がなかったことがパート・アルバイト等で働く理由として多い(問 10)

パート・アルバイト等で働いている人の割合は、女性は 31.1%で 30 歳代から 60 歳代に分散していますが、男性は 9.8%で各年代の 1 割前後を占めています。パート・アルバイト等で働く理由は、女性では、「自分の都合のよい時間に働けるから」(44.4%)、男性では「勤務時間や労働日数が短いから」「正社員として働ける職場がなかったから」(ともに 32.4%)が最も高くなっています。

⑤現在働いていない人の今後の働き方について、就労を希望する人は 4 割(問 11)

現在働いていない人に今後の働き方をたずねたところ、『働きたい』(「できるだけ早く雇用されて働きたい」「将来的には雇用されて働きたい」「自営・起業など雇用されずに働きたい」の合計)は男女ともに 4 割を占めています。

⑥今後働きたい人で困りごとや不安を感じるのは女性の方が多い(問 12)

今後働きたいと思う人のうち、男性は 22.7%が仕事につきたいと思う上で困ったことや不安は「特にない」と回答していますが、女性では「特にない」が 6.1%で、何らかの困りごとや不安がある人がほとんどを占めています。男性に比べて女性で顕著に多い困りごとや不安は「自分にキャリアや資格がない」(女性:36.7% 男性:18.2%)、「仕事の募集が少ない」(女性:24.5% 男性:9.1%)で、男女差は 15 ポイント以上あります。

⑦性別にかかわらず、いきいきと働ける職場づくりに対するニーズは女性が高い傾向(問 13)

「研修や能力開発の機会を充実する」を除く項目で女性が男性より高くなっており、特に「育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる」(女性:68.5% 男性:55.7%)は女性の方が 12.8 ポイント高くなっています。

2. 子育てや暮らしなどについて

①男女でギャップが大きい性別役割分担意識(問 14)

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方に対して『反対』(「反対」「どちらかといえば反対」の合計)の方が、男女とも『賛成』(「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計)より高くなっています。『反対』は女性 64.5%に対して男性 55.4%で、9.1 ポイントの差がみられます。

令和元年度実施の前回調査と比較すると、男女とも『反対』は前回調査より 5 ポイント以上高くなっています。

②女性の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度における希望と現実にギャップ(問 15)

優先度の希望は、女性で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」(25.7%)、男性で「仕事と家庭生活」(26.7%)が最も高くなっています。現実に「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」を優先しているのは、女性で 8.4%と低くなっています。また、男性は「仕事」(32.8%)が現実に優先しているものの中で最も高くなっています。優先したいことの希望と現実が一致している割合は、女性 32.0%、男性 31.5%となっています。

令和元年度実施の前回調査と比較すると、現実には女性で「仕事と家庭生活」が 11.8 ポイント、「仕事」が 5.5 ポイント、男性で「仕事と家庭生活」が 14.0 ポイント高くなっています。

③男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加するためには、上司や周囲の理解・労働時間の短縮や休暇制度の普及が必要(問 16)

男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために必要なことは、女性で「職場における上司や周囲の理解を進めること」(女性:56.4% 男性:41.4%)が最も高く、男性との差は 15.0 ポイントとなっています。また、「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(女性:55.5% 男性:55.7%)も過半数を占め高くなっています。

④男女平等教育は、家庭では協力しあって家事・子育てなどをする、学校などでは性別に偏ることなく個人の能力、個性、希望を重視(問 17、18)

男女平等のために必要な家庭教育は、「協力しあって家事・子育てなどをする」(女性:85.5% 男性:79.3%)、「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」(女性:66.7% 男性:56.3%)の2項目が男女とも高くなっています。

学校などでは、「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」(女性:71.9% 男性:65.2%)が男女ともに最も高く、次いで「幼少の頃から自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」(女性:58.5% 男性:41.7%)となっています。

⑤女性の方が地域活動の参加経験は多い(問 19)

女性では、「自治会や町内会の活動」「PTAや子ども会の活動」における参加経験が過半数を占めているのに対し、男性では「自治会や町内会の活動」が4割、「PTAや子ども会の活動」が3割と男女で差がみられます。

今後の参加意向は、男女とも「地域における文化・スポーツ・学習の活動」「NPO(非営利団体)やボランティアの活動」が4割を超えています。

⑥地域活動に参加したくない主な理由は「仕事が忙しい」「人間関係」「関心がない」(問 19-1)

地域活動に参加したくない理由として、女性では「人間関係がわずらわしいから」(33.1%)、男性では「仕事が忙しいから」(42.4%)が最も高くなっています。男女とも「あまり関心がないから」も3割前後を占めています。「家事・子育て・介護で忙しいから」は女性で27.1%と男性より11.8ポイント高くなっています。

⑦心とからだの健康を保つために必要な取り組みは「悩みや不安を相談できる体制」「リフレッシュできるような場の提供」(問 20)

女性では「悩みや不安を相談できる体制を充実する」(48.8%)、男性では「リフレッシュできるような場を提供する」(48.3%)が最も高くなっています。また、女性で「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」も4割を占め、男性より8.8ポイント高くなっています。

⑧女性の方が今後の大規模災害に備え、性別などに配慮した取り組みの必要度がより高いと感じている(問 21)

すべての項目で、『必要だと思う』(「とても必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」の合計)は男性より女性の方が高くなっています。特に、女性で「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際に配慮する」「男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う」は9割を超えています。

3. 人権の尊重について

①女性・男性の人権ではともに、「ドメスティック・バイオレンス」「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」で侵害されていると感じている割合が高い(問 22)

女性の人権の上位 3 項目は、「ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力)やデートDV(恋人からの暴力)」(女性:81.4% 男性:71.8%)、「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」(女性:81.2% 男性:76.7%)、「ストーカー行為」(女性:67.2% 男性:60.9%)となっています。

男性の人権は、女性で「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」が 49.9%と最も高く、次いで「ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力)やデートDV(恋人からの暴力)」が 47.3%、「男女の役割分担を固定化する考え方」が 42.3%となっています。男性では、「男女の役割分担を固定化する考え方」が 53.4%と最も高く、女性との差は 11.1 ポイントあります。次いで、「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」が 47.7%、「ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力)やデートDV(恋人からの暴力)」が 46.3%となっています。

②女性の方が性差別的な行為を受けた経験は多い傾向(問 23)

「上記のような経験はない」と「無回答」を除く、何らかの性差別的な行為を受けた経験者の割合について、女性は職場で 39.1%、学校で 30.0%、地域で 22.0%であり、男性は職場で 26.5%、学校で 24.5%、地域で 8.6%となっています。職場と地域でいずれかの行為を経験した割合は女性の方が 10 ポイント以上高くなっています。

それぞれの項目を性別にみると、総じて女性の方が受けた割合が高くなっています。特に、職場で「異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる」は、女性が 19.2%に対し男性は 5.2%と 14.0 ポイントの差があります。

③性的な被害に関する問題は、言葉だけを含めると過半数が認知している(問 24)

「言葉は聞いたことがある」を含めた認知度は、いずれの項目も男女とも過半数を占めています。しかし、男性の「リベンジポルノ」を除き、「よく知っている」は 2 割に満たず低くなっています。

年齢別にみると、男女とも比較的若い年齢層で「よく知っている」が高い傾向にあります。

④LGBT などの言葉の認知度は男女でほとんど差がない(問 25)

LGBT などセクシュアルマイノリティ(性的少数者)全般を指す言葉の「言葉は聞いたことがある」を含めた認知度は、男女とも 9 割を超えています。

年齢別にみると、女性の 18～29 歳で「よく知っている」が 4 割を占め、他の年齢層より高くなっています。

⑤性の多様性を認める社会の実現のために必要なことは、「学校教育の充実」「制度面の配慮」(問 26)

「性の多様性について学校教育を充実する」(女性:55.7% 男性:37.1%)、「同性パートナーシップなど制度面の配慮を行う」(女性:54.4% 男性:44.0%)は、女性で過半数を占め、男性より 10 ポイント以上高くなっています。また、「性的少数者の生きづらさや困りごとを社会的な課題として啓発する」(女性:43.0% 男性:39.1%)も高くなっています。

⑥性の多様性について、自身の理解には男女差があり、周りの理解は進んでいないと感じている(問 27)

「あなた自身の性の多様性についての理解」が『進んでいる』(「進んでいる」「どちらかといえば進んでいる」の合計)は、女性 51.0%、男性 38.2%と差が 12.8 ポイントあります。

「あなたの周りでの性の多様性についての理解」が『進んでいない』(「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計)は、女性 37.1%、男性 34.2%と『進んでいる』(女性:29.0% 男性:23.0%)を上回っています。

⑦暴力にあたる行為を受けた経験は女性に多く、精神的な暴力は受けた経験・した経験ともに高い(問 28)

5 つの種類の暴力について、配偶者やパートナー、恋人から受けた経験をたずねたところ、すべての項目で女性の方が男性より高くなっています。

「精神的な暴力」は男女とも受けた経験、した経験いずれにおいても他の暴力の種類に比べて高くなっており、一度でも受けた経験は女性 30.2%、男性 18.4%となっています。また、一度でも行った経験は女性 18.1%、男性 19.5%となっています。

⑧暴力にあたる行為を受けた際に相談しようと思わなかったのは、女性で 3 割、男性で 5 割を占める(問 28-1、28-2)

暴力にあたる行為を受けたことがあると回答した人に相談についてたずねたところ、「相談しようと思わなかった」が女性 34.5%、男性 57.7%と差が 23.2 ポイントあります。また、「相談したかったが、しなかった」は男女ともに 1 割前後を占めています。

相談しなかった、しようと思わなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」(女性:46.2% 男性:54.3%)が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(女性:29.5% 男性:34.8%)、「自分さえがまんすればすむと思ったから」(女性:19.2% 男性:28.3%)となっています。

4. 困難な問題を抱える女性に関することについて

①困難な問題を抱えている女性を見たり聞いたりしたことがあるのは女性の方が多く、その内容は「家庭不和」が多い(問 29、29-1)

困難な問題を抱えている女性を「周りで見たことがある(知っている)」は女性で 19.9%と男性より 10.4 ポイント高くなっています。

抱えている困難な内容は、女性で「家庭不和(家族が抱える問題も含む)」が 52.2%と最も高く、次いで「配偶者や元配偶者、交際相手からの暴力・暴言」が 47.8%、「離婚問題(養育費問題も含む)」が 43.5%となっています。

②男性は、困難な問題を抱える女性の相談機関で知っているものが女性より少ない(問 30)

男性で、困難な問題を抱える女性の相談機関を「どれも知らない」は 65.5%と女性より 16.3 ポイント高くなっています。男女とも上位 2 項目は、「女性の相談室(長岡京市男女共同参画センター)」(女性:27.9% 男性:14.4%)、「DV相談(長岡京市男女共同参画センター)」(女性:25.9% 男性:14.7%)となっています。

③女性が困難な状況から回復するために必要なことは、「安心できる居場所」「困難な状況に気づいてくれる人の存在」「経済的な自立」(問 31)

男女とも「安心できる居場所」(女性:54.4% 男性:54.9%)が最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」(女性:52.3% 男性:49.1%)、「経済的な自立」(女性:30.0% 男性:30.5%)となっています。

④相談する場合の方法や場所は、女性で「電話」、男性で「支援機関(対面)」が多い(問 32)

相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいかたずねたところ、女性では「電話」(43.0%)、男性では「支援機関(対面)」(45.4%)が最も高くなっています。

年齢別にみると、年齢が下がるほど「SNS」が高くなる傾向にあり、18～29 歳と 30～39 歳で 4 割前後を占めています。

5. 男女共同参画社会について

①女性では 7 割、男性では 6 割が、社会全般として男性優遇と感じている(問 33)

社会の様々な分野における男女の平等感について、「平等になっている」が過半数を占めているのは、女性で「学校教育の場」(58.5%)、男性で「学校教育の場」(65.8%)、「地域」(55.2%)となっています。

ここで挙げたすべての分野について、男性より女性の方が男性優遇と感じている割合が高く、「家庭生活」「法律や制度の上」では男女間で 20 ポイント以上の差があります。

令和元年度実施の前回調査と比較すると、女性で「地域」、男性で「職場」「地域」においての『男性優遇』(「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)が 10 ポイント以上低くなっており、ほとんどの項目において男女とも「平等になった」が今回調査で高くなっています。

②「ジェンダー」「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は男女ともに高い(問 34)

ここで挙げた項目のうち、男女とも『知っている』(「よく知っている」「少しは中身を知っている」「言葉は聞いたことがある」の合計)が過半数を占めているのは、「ジェンダー」(女性:71.0% 男性:66.0%)、「男女共同参画社会」(女性:62.2% 男性:55.8%)、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(女性:50.3% 男性:52.6%)となっています。「長岡京市パートナーシップ宣誓制度」では、女性で 33.5%と男性より 10.0 ポイント高くなっています。

③「長岡京市パートナーシップ宣誓制度」について、肯定的な意見は女性で 8 割、男性で 6 割(問 35)

令和 3 年 6 月に導入された「長岡京市パートナーシップ宣誓制度」について、『良い』(「とても良い」「どちらかといえば良い」の合計)は、女性 81.7%、男性 68.9%とその差は 12.8 ポイントあります。

④効果的だと思う広報活動は、「駅やスーパーなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する」「SNSなどを使った発信を充実させる」(問 36)

男女共同参画社会に関する制度や言葉、長岡京市の取り組みを知ってもらうために効果的だと思う広報活動をたずねたところ、男女とも「駅やスーパーなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する」「SNSなどを使った発信を充実させる」が 2 割を占め高くなっています。

⑤「男女平等の考え方」「職場や地域などでの女性の活躍」は、5 年間で『前進』したと男女とも 6 割前後が感じている(問 37)

男女共同参画において 5 年間で『前進』(「前進した」「どちらかといえば前進した」の合計)したと感じる割合は、「男女平等の考え方」(女性:60.1% 男性:62.7%)、「職場や地域などでの女性の活躍」(女性:57.7% 男性:64.3%)と高くなっています。一方、女性で「仕事と生活のバランスの実現」「セクシュアル・ハラスメントやDV、児童虐待などあらゆる暴力への対応」の『前進』は男性より 10 ポイント以上低くなっています。

令和元年度実施の前回調査と比較すると、男女ともいずれの項目も『前進』が今回調査で高くなっています。

⑥男女共同参画社会の実現のために市が取り組むべきことで、女性のニーズが特に高いのは「保育施設・サービスや高齢者の施設・介護サービスの充実」「DV や児童虐待への取り組み」(問 38)

「男女共同参画社会」の実現のために長岡京市が取り組むべきことは、「保育施設・保育サービスや高齢者の施設や介護サービスを充実する」(女性:59.0% 男性:44.3%)、「DVや児童虐待を根絶するための取り組みを進める」(女性:42.3% 男性:33.6%)が高くなっています。

【事業所意識調査】

1. 女性の活躍推進について

①事業所における女性の活躍に対する期待は高い(問 5、5-1)

女性従業員の活躍について、6 割が「大いに期待している」と回答し、「期待している」と合わせると 9 割を超えています。

その理由は、「男女にかかわらず能力発揮を期待するのは当然であるため」が 82.1%と最も高く、次いで「多様な視点を持つことで多方面からのニーズに応えられるため」「女性従業員の活躍が、生産性の向上や競争力アップにつながるため」が 4 割前後を占めています。

②管理職を対象にした女性従業員活用のための指導や研修は、実施率が低い(問 6)

「管理職を対象にした女性従業員活用のための指導や研修の実施」は、「実施している」が 18.9%と 2 割未満にとどまり、「実施する予定はない」が 33.3%とここで挙げた 10 項目の中で最も高くなっています。

すでに実施している割合が高い項目は、「従業員から仕事や職場・就業環境について意見要望を取り上げるなどの改善」(57.8%)となっています。

今後の実施を検討している項目は、「従業員のメンタルヘルスに関するサポート」が 31.1%と最も高くなっています。

③女性活躍推進における主な課題は、「家庭生活への配慮」「休業中の代替要員の確保」(問 7)

女性活躍推進にあたっての課題は、「家庭生活へ配慮する必要がある」が 52.2%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業中など代替要員の確保」が 45.6%となっています。

④女性の管理職登用の課題を挙げるとするならば、「女性従業員が少ない又はいない」「管理職になることを希望しない」が 2 割を占める(問 8)

女性の管理職登用にあって、「特に課題はない」は 35.6%となっています。挙げられた課題の中では、「女性従業員が少ない又はいない」が 28.9%と最も高く、次いで「女性自身が管理職になることを希望しない」が 24.4%となっています。

⑤女性活躍推進法改正の認知度は 4 割、一般事業主行動計画策定は 1 割(問 9-1、9-2、9-3)

女性活躍推進法改正による対象事業所の拡大を「知っている」事業所は 41.1%、女性活躍推進法における一般事業主行動計画を「策定済み」「今後の策定を検討している」の事業所はともに 15.6%となっています。

「えるぼし認定」を取得している事業所は 6.7%(6 社)となっています。

2. 従業員の仕事と子育てや介護との両立支援について

①次世代育成支援対策推進法の一般事業主行動計画策定は1割(問9-2、9-3)

次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画を「策定済み」の事業所は16.7%、「今後の策定を検討している」は15.6%となっています。

「くるみんマーク」を取得している事業所は10.0%(9社)、『『京都モデル』ワーク・ライフ・バランス認証』の認証を受けている事業所は3.3%(3社)となっています。「知っている」は、「くるみんマーク」(32.2%)に比べて、『『京都モデル』ワーク・ライフ・バランス認証』(20.0%)が低くなっています。

②ワーク・ライフ・バランスの取り組みとしては、「有給休暇取得促進」の実施が最も多い(問10)

ワーク・ライフ・バランスのための取り組みの実施状況では、「半日又は時間単位の有給休暇の付与制度」が61.1%と最も高く、次いで「有給休暇の計画的取得、時季指定の取得」が55.6%、「残業の事前承認による残業時間の削減」が46.7%となっています。「今後の実施を検討している」取り組みは、「複数担当制などの他の人が仕事を代替できる体制」(33.3%)、「妊娠・出産・子育て・介護を理由に退職した従業員を対象とした再雇用制度」(28.9%)が3割前後を占め、高くなっています。

③令和5年度の育児休業の利用は4割、介護休業の利用は1割(問11、12)

令和5年度の育児・介護休業の利用状況は、「対象者なし」(育児:44.4% 介護:55.6%)が最も高くなっています。『利用あり』(「女性のみが利用」「男性のみが利用」「女性・男性ともに利用」の合計)は、育児休業で40.0%、介護休業で14.4%となっています。

④出産、育児、介護などが理由で退職した女性の再雇用時の雇用形態は、パート・アルバイトが多い(問13)

過去5年間に配偶者の転勤や出産、育児、介護が理由で退職した女性を再雇用した際、「パート、アルバイトとして再雇用した」が13.3%と最も高くなっています。また、「女性の再雇用の実績はない」は68.9%となっています。

⑤両立支援制度利用促進や男性の育児・介護休業取得促進における主な課題は、「休業中の代替要員の確保」(問14、15)

両立支援制度の利用促進や男性の育児・介護休業取得促進にあたっての課題は、「休業中の代替要員の確保」が過半数を占め、他の項目に比べ特に高くなっています。

3. 働きやすい職場環境について

①様々なハラスメント防止のために、何らかの取り組みを実施しているのは 6 割(問 16)

職場におけるハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント)防止のために、「防止策が必要となっているが、特に何もしていない」「問題がないので、防止策はしていない」、「無回答」を除いた何らかの取り組みを行っている割合は 64.5%となっています。行っている取り組み内容は、「就業規則にハラスメントを禁止する条項を記載している」が 54.4%と最も高く、次いで「事業所内にハラスメントの相談・苦情窓口を設置している」が 45.6%となっています。

②LGBT(性的少数者)への配慮、差別防止の取り組みは、「事業所内に相談・苦情窓口を設置している」が多い(問 17)

LGBT への配慮、差別防止の取り組みについて、「事業所内に相談・苦情窓口を設置している」は「実施している」が 28.9%、「今後の実施を検討している」が 15.6%となっています。

③性別にかかわらず、いきいきと働ける職場づくりに必要なことは、「結婚などにかかわらず働き続けられる環境」と「休暇・休業を取りやすい環境・制度の充実」(問 18)

いきいきと働ける職場をつくるために必要なことは、「結婚や出産、介護にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」「有給休暇が取得しやすい職場の雰囲気をつくる」「育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる」「育児休業や介護休業の制度を整備・充実する」がそれぞれ 3 割を占めています。

④行政に期待することは、「事業所への経済的支援」と「子育て支援」(問 19、20)

女性の活躍やワーク・ライフ・バランスの推進にあたり長岡京市に望むことは、「積極的に取り組む事業所に対する奨励金・助成金などの支給」が 45.6%と最も高く、次いで「保育施設や放課後児童クラブなど子育て環境の充実」が 44.4%、「子育て家庭に対する経済的支援や相談体制」が 31.1%となっています。

行政の情報発信として望ましい情報媒体は「市広報紙」(50.0%)、「市ホームページ」(45.6%)が高くなっています。

Ⅲ 調査結果からみえる課題

◆男女共同参画に関する意識について

- 男女の平等感について、5年間で『男性優遇』は概ね減少傾向がみられるものの、男性より女性で男性優遇意識が強い傾向にあり、性別間で認識の差が見受けられます。(市民問 33)
- この5年間の意識の変化として、「男女平等の考え方」に対して『前進』と回答した割合は前回調査時で男女ともに5割を超えていましたが、今回調査では6割を超える結果となっています。一方で、社会における平等感で「平等になっている」が男女ともに5割を超えているのは「学校教育の場では」のみとなっており、その他の分野では男女平等につながる社会の変化が実感されていない状態です。(市民問 33、37)
- 男女平等・男女共同参画意識には、性別や年齢による意識差も大きいことから、固定的性別役割分担意識の解消への取り組みをはじめ、性別や年齢に応じた、より効果的な啓発活動を継続的に進めていく必要があります。

◆家庭・地域・教育の場における男女平等意識について

- 学校などでは、「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」、「幼少の頃から自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」などが求められています。(市民問 18)
- 子どもにとっての男女共同参画の推進には、家庭や地域、学校など様々な場において、固定的性別役割分担意識の解消への取り組みや、男女平等・男女共同参画意識の醸成に向けた、更なる啓発が必要です。

◆働き方と暮らしの調和について

- 「仕事と生活のバランスの実現」は『前進』が、男女ともに4～5割と「男女平等の考え方」や「職場や地域などでの女性の活躍」に比べて低いものの、前回調査よりも増加しています。依然としてワーク・ライフ・バランスの実現が難しい職場環境の現実が見られるものの、5年間で改善の兆しが見られます。(市民問 37)
- 男性が家事・子育て・介護や地域活動などに積極的に参加することへの理解を促進する取り組みとして、休暇制度の普及や上司や周囲の理解を進めること等、制度面や環境面の整備が求められています。(市民問 16)
- 市の施策として、特に女性のニーズが高い「子育て支援や高齢者・障がい者施設やサービスの充実」に今後とも積極的に取り組むことが必要です。(市民問 38)
- 男女がともに育児休業や介護休業を取得しやすい環境整備や、労働時間短縮に向けた事業所への働きかけ等、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた様々な施策が必要です。

◆生活や職場における女性の活躍推進について

- 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定は、約2割に留まっており、関連法等の周知・啓発や、性別にかかわらず誰もが働きやすい職場づくりに向け、市内事業所等への更なる発信が必要です。(事業所問 9-2)
- 女性活躍推進や仕事と家庭生活の両立支援に対し、積極的に女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む事業所に対する奨励金・助成金の支給等の取り組みが求められています。(事業所問 19)
- あらゆる意思決定の場への女性の参画拡大に向け、関係機関や団体への働きかけとともに、積極的格差是正措置の強化や女性の登用、女性リーダーの育成が求められています。
- 女性の継続就労や起業・創業、市民活動への支援など、関係機関や団体と連携した継続的な取り組みが求められています。

◆人権の尊重とあらゆる暴力防止について

- 女性の人権侵害に対する意識は、全体的に男女ともに高くなっている一方で、今回新たに追加した男性の人権侵害に対する意識は男女ともに高くても約5割程度に留まっています。(市民問 22)
- セクシュアル・ハラスメントやマタニティ(パタニティ)・ハラスメント、配偶者等からの暴力やストーカー行為など、現実として女性が被害を受ける場合が圧倒的に多い実態を周知し、女性に対する暴力を人権問題としてとらえ、暴力根絶に向けた意識の醸成に引き続き取り組むことが重要です。
- ハラスメントや暴力など、あらゆる暴力の防止については、男性が被害者になることも念頭に置き、家庭や地域・事業所・学校などで広報や啓発を行うとともに、学習機会や情報提供の充実・強化が求められています。
- ドメスティック・バイオレンスと児童虐待には密接な関係があることから、市の施策として、「DV や児童虐待の根絶」への対応強化が求められています。DV 等による被害者が安心して相談でき、適切に支援ができる体制づくりを関係機関と連携して構築することが重要です。
- 女性が困難な状況から回復するために必要なこととして、安心できる場所や困難な状況に気づいてくれる人の存在等が求められています。(市民問 31)
- LGBT(性的少数者)という言葉の認知は進んでいるものの、性の多様性を認め合う共生社会の実現には、更なる理解促進と差別や不利益のない社会への環境整備が必要であり、市としての積極的な発信が求められています。

◆安心して暮らせる環境づくりについて

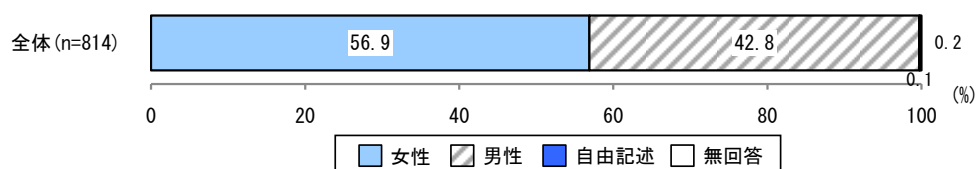
- 防災における性別に配慮した取り組みについては、乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握や支給時の配慮、男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行うことが求められています。(市民問 21)
- 防災施策へ男女共同参画の視点を反映させるため、女性の参画をより一層促進する必要があります。
- 困難な問題を抱える女性の相談機関で知っているものについて、男性は女性よりも知っている相談機関が少ない傾向がみられます。(市民問 30)
- 困難な問題を抱える女性本人だけでなく、周囲の人が困難な問題を抱える女性から相談を受けた際に相談機関に繋げられるように、女性が抱える困難の実態や相談機関等に関する啓発に取り組むことが必要です。

IV 市民意識調査結果

1. 回答者の属性

(1)性別

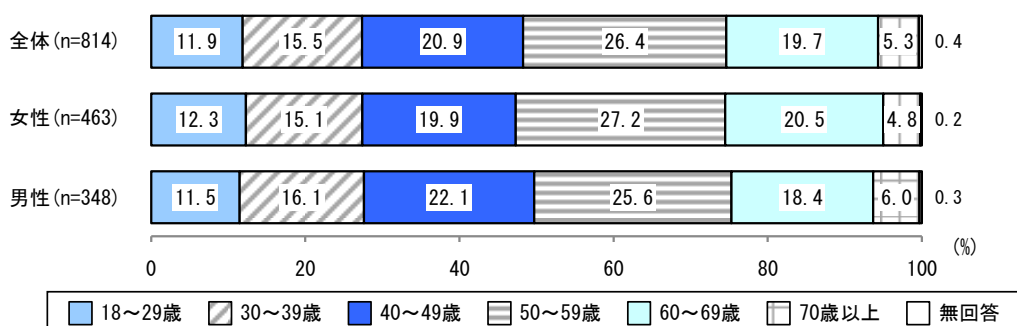
問 1 あなたの性別は。(○は1つ) ※あなたが認識されている性別でお答えください。



回答者の性別は、「女性」が56.9%、「男性」が42.8%となっています。

(2)年齢

問 2 あなたの年齢は。(○は1つ)

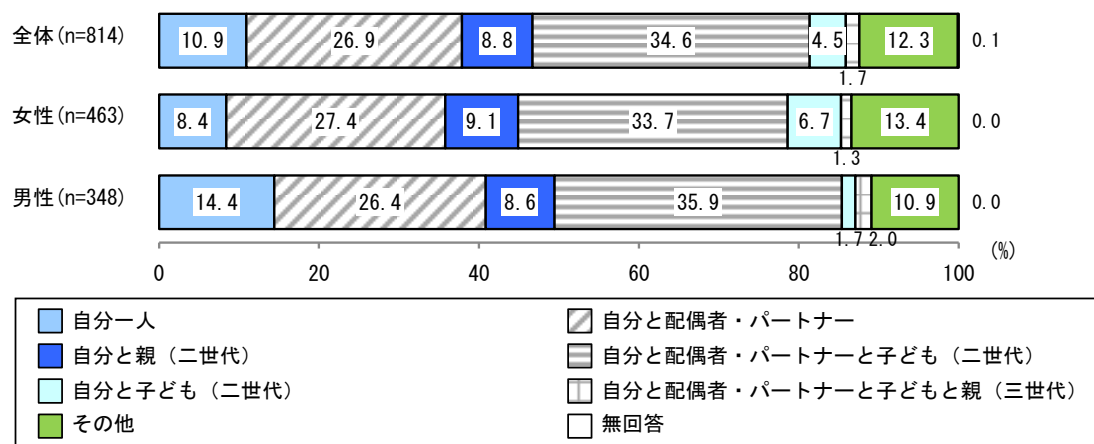


回答者の年齢は、「50～59 歳」が 26.4%と最も高く、次いで「40～49 歳」が 20.9%、「60～69 歳」が 19.7%となっています。

(3) 家族構成

問 3 現在、あなたはどなたと一緒に住んでいますか。(〇はいくつでも)

※あなたからみた続柄(義理関係を含む)



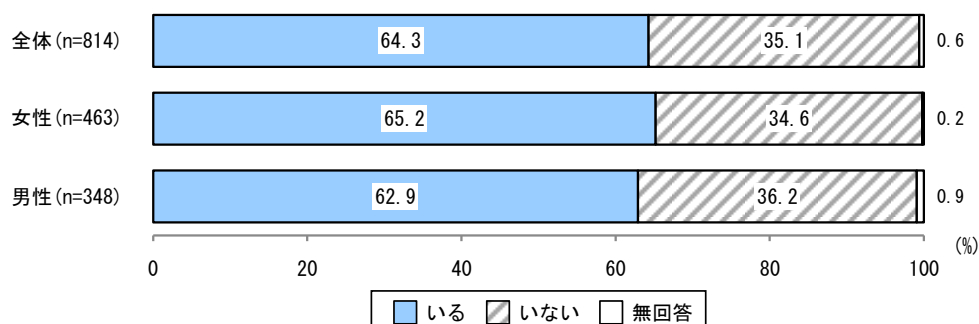
※設問では、「配偶者(パートナー)」「父、母」「子ども(子の配偶者を含む)」「孫(孫の配偶者を含む)」「祖父、祖母」「兄弟姉妹」「その他」「同居者はいない(1人暮らし)」を選択肢とし、その回答状況から家族構成を割り出しています。

回答者の家族構成は、「自分と配偶者・パートナーと子ども(二世)」が 34.6%と最も高く、次いで「自分と配偶者・パートナー」が 26.9%となっています。「その他」に分類された中で最も多い組み合わせは、「自分」と「父、母」と「兄弟姉妹」となっています。

性別にみると、男性で「自分一人」が 14.4%と女性より 6.0 ポイント高くなっています。また、女性で「自分と子ども(二世)」が 6.7%と男性より 5.0 ポイント高くなっています。

(4) 子どもの有無

問 4 あなたにお子さんはいますか。(別居・同居は問いません)(〇は1つ)

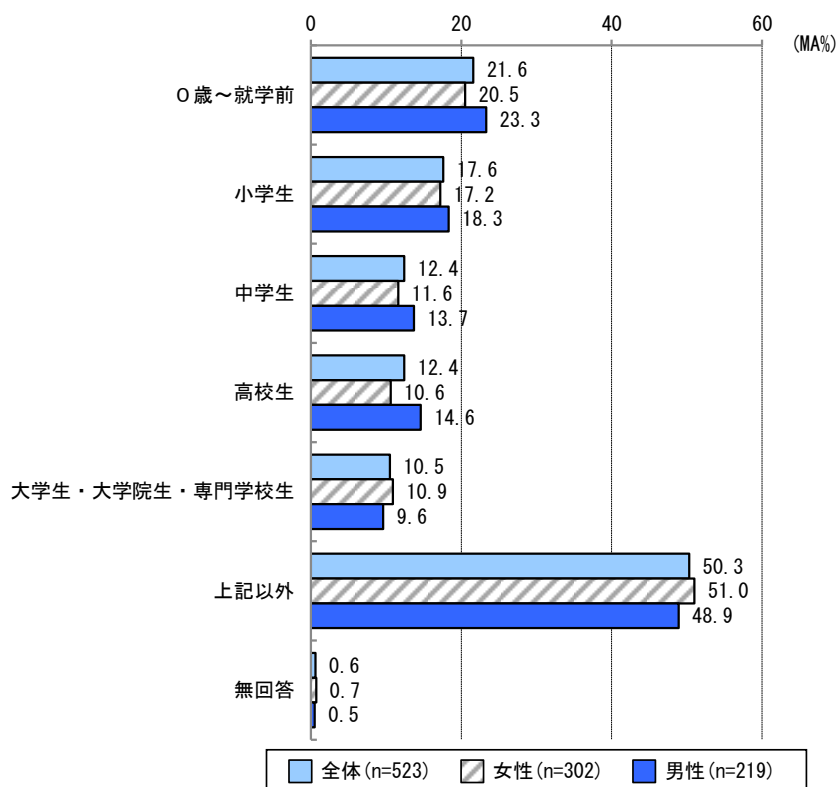


子どもの有無は、「いる」が 64.3%、「いない」が 35.1%となっています。

(5)子どもの年代

【問 4 で、「いる」と回答された方におたずねします。】

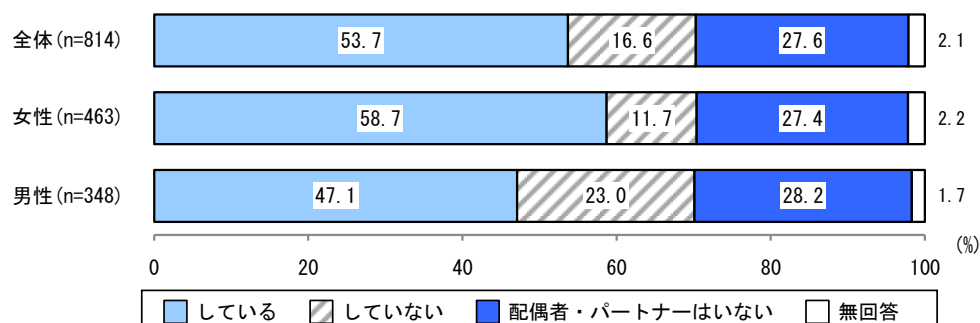
問 4-1 お子さんの年代は。(〇はいくつでも)



子どもがいると回答した人に子どもの年代をたずねたところ、「上記以外」が 50.3%と最も高く、次いで「0歳～就学前」が 21.6%、「小学生」が 17.6%となっています。

(6)配偶者またはパートナーの就業状況

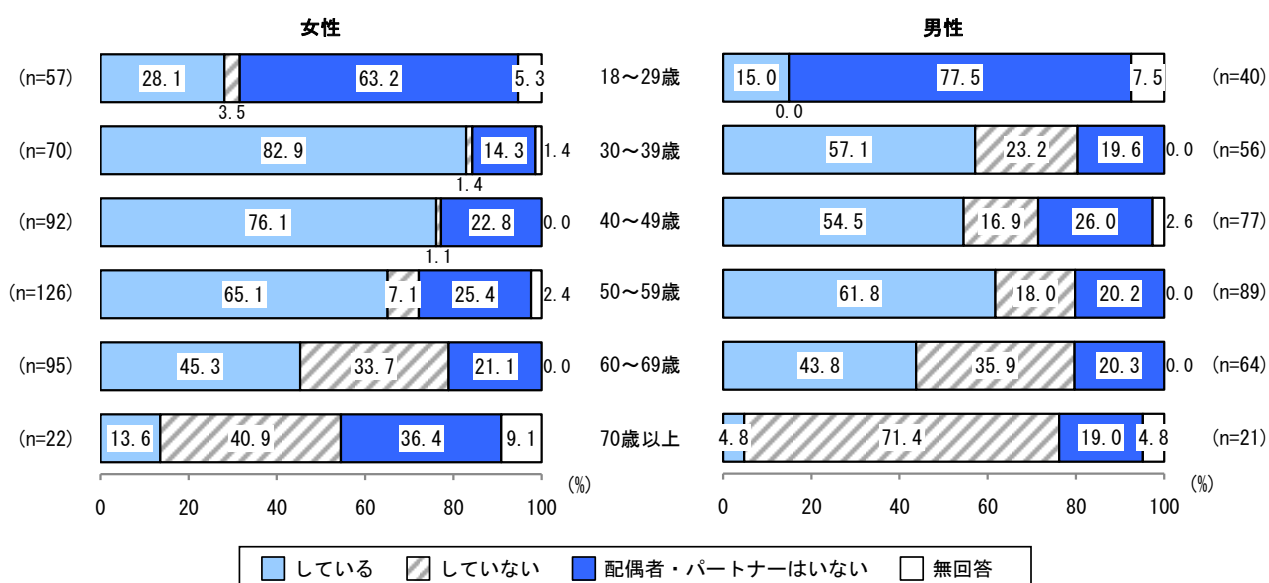
問 5 あなたの配偶者またはパートナーは、現在収入を得る仕事をしていますか。(〇は1つ)



配偶者またはパートナーの就業状況は、「している」が 53.7%、「配偶者・パートナーはいない」が 27.6%、「していない」が 16.6%となっています。

性別にみると、男性で「していない」が 23.0%と女性より 11.3 ポイント高くなっています。

【年齢別 配偶者またはパートナーの就業状況】

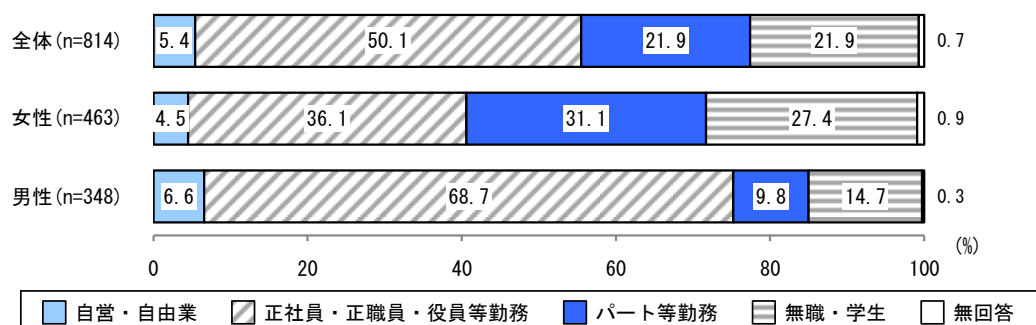


年齢別にみると、男性・女性ともに 30～59 歳の各年齢層で「している」が過半数を占めています。

2. 仕事について

(1) 回答者の職業

問 6 あなたの現在の職業は。(○は1つ)



回答者の職業は、「正社員・正職員・役員等勤務」が 50.1%、「パート等勤務」「無職・学生」がともに 21.9%、「自営・自由業」が 5.4%となっています。

性別にみると、『就業している』は男性で 85.1%、女性で 71.7%となっています。

※『就業している』とは、「自営・自由業」「正社員・正職員・役員等勤務」「パート等勤務」の合計

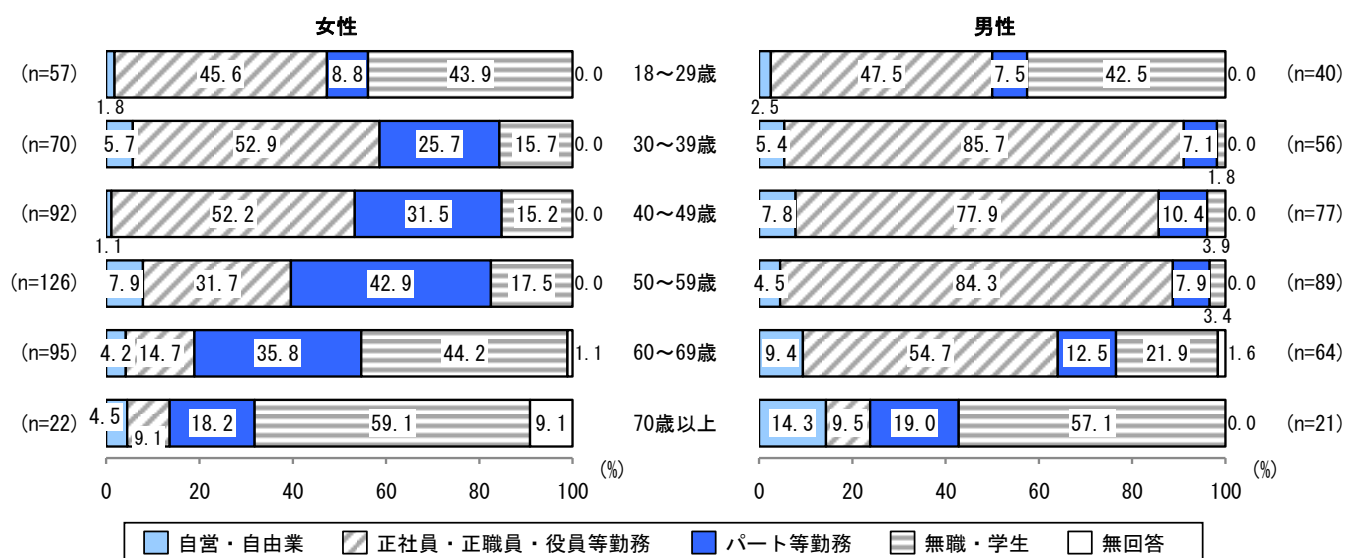
【性別 回答者の職業の内訳】

(%)															
	回答者数 (n)	自営・自由業				会社・組織へ勤務						無職・学生			無回答
		農林業者	の商業・工業・サービス業などの自営業主	自由業（開業医、芸術家、宗教家、弁護士など）	左記の家族従業者	会社・団体役員	正社員・正職員	パート等勤務			その他	専業主婦（主夫）（収入を得る仕事をしていない）	学生（専門学校生、大学生など）	その他の無職（年金生活者、失業中など）	
								パート・アルバイト	派遣社員	内職・在宅就業					
全 体	814	-	2.0	2.2	1.2	6.0	40.4	18.6	2.9	0.4	3.7	9.3	4.9	7.6	0.7
女性	463	-	0.9	2.2	1.5	3.9	29.6	27.9	2.6	0.6	2.6	16.2	5.0	6.3	0.9
男性	348	-	3.4	2.3	0.9	8.6	54.9	6.3	3.4	-	5.2	0.3	4.9	9.5	0.3

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

性別に職業の内訳をみると、男女とも「正社員・正職員」(女性:29.6% 男性:54.9%)が最も高くなっています。次いで、女性では「パート・アルバイト」が 27.9%、「専業主婦(主夫)(収入を得る仕事をしていない)」が 16.2%となっています。

【年齢別 回答者の職業】

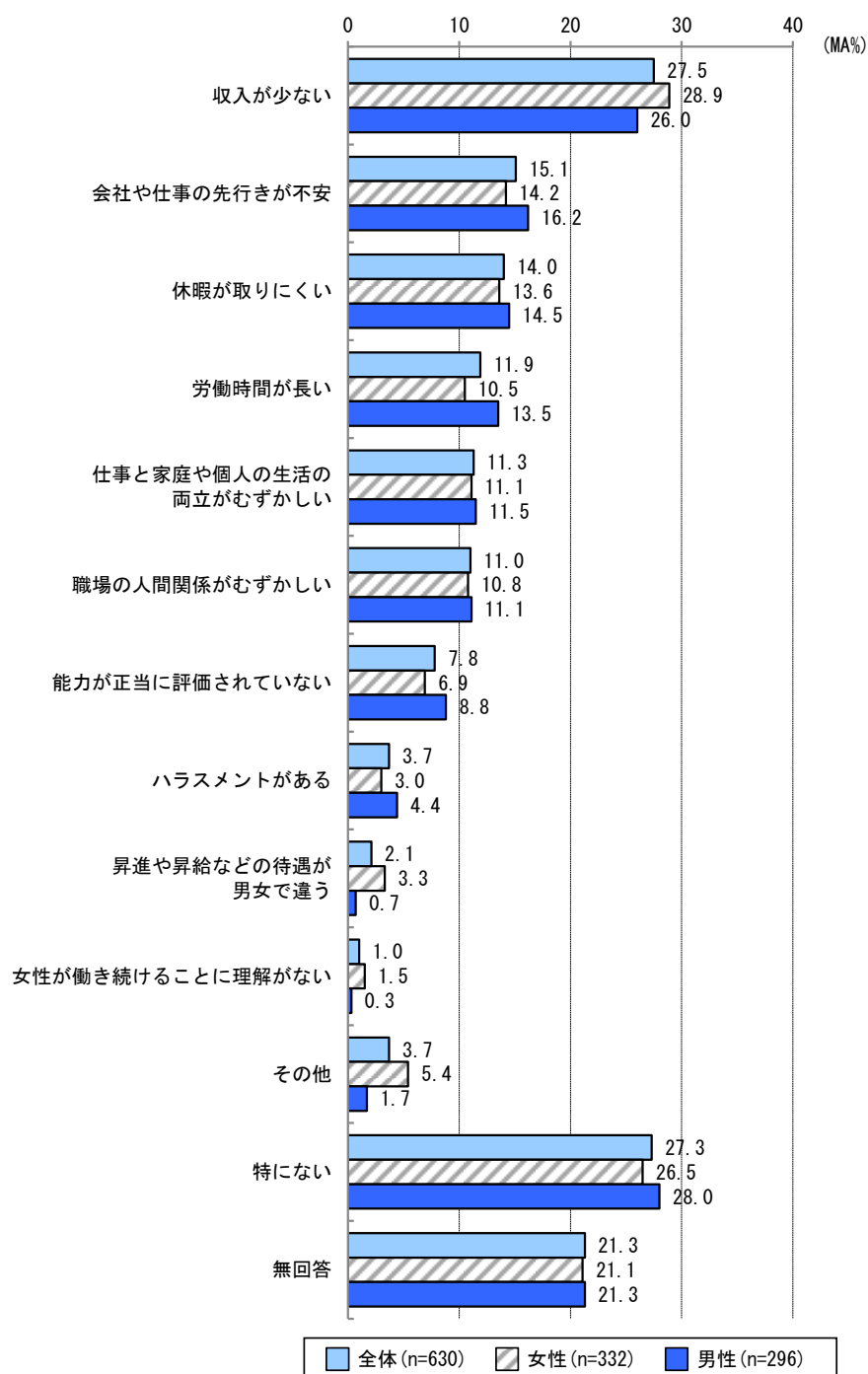


年齢別にみると、男性の 30～59 歳の各年齢層で「正社員・正職員・役員等勤務」が 8 割前後を占めています。一方、女性の 30～39 歳と 40～49 歳で「正社員・正職員・役員等勤務」が過半数を占めています。また、「パート等勤務」は女性の 50～59 歳で 42.9%と最も高くなっています。

(2)現在の職場・仕事に対する不満や悩み

【問 7～問 9 は、問 6 で、「農林業者～その他」に回答された仕事をしている方におたずねします。】

問 7 あなたは、今の職場・仕事に不満や悩みがありますか。(○はいくつでも)



現在働いている人に職場・仕事に対する不満や悩みについてたずねたところ、「収入が少ない」が 27.5%と最も高く、次いで「会社や仕事の先行きが不安」が 15.1%、「休暇が取りにくい」が 14.0%となっています。また、「特にない」は 27.3%となっています。

【年齢別、職業別 現在の職場・仕事に対する不満や悩み】

(%)

		回答者数 (n)	収入が 少ない	会社や 仕事の 先行きが 不安	休暇が 取りにくい	労働時間 が長い	仕事と家庭 や個人の生活 の両立が むずかしい	職場の 人間関係が むずかしい	能力が 正 当に評価 されて いない	ハラス メントが ある	昇進や 昇給など の待遇が 男女で 違う	女性 が働きの 続けるこ とに理解 がない	その他	特 に ない	無 回 答
全 体		630	27.5	15.1	14.0	11.9	11.3	11.0	7.8	3.7	2.1	1.0	3.7	27.3	21.3
年 齢 別	18～29歳	32	40.6	25.0	15.6	18.8	9.4	6.3	6.3	-	-	-	6.3	18.8	25.0
	30～39歳	59	32.2	16.9	10.2	10.2	16.9	8.5	8.5	1.7	5.1	3.4	1.7	23.7	23.7
	40～49歳	78	26.9	16.7	14.1	14.1	17.9	19.2	9.0	9.0	9.0	1.3	3.8	19.2	24.4
	50～59歳	104	26.9	12.5	18.3	10.6	9.6	10.6	6.7	1.9	1.0	1.0	4.8	25.0	19.2
	60～69歳	52	28.8	5.8	7.7	1.9	-	5.8	3.8	-	-	1.9	13.5	40.4	15.4
	70歳以上	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	85.7	14.3
	18～29歳	23	30.4	13.0	4.3	4.3	4.3	-	4.3	-	-	-	8.7	30.4	21.7
	30～39歳	55	29.1	14.5	10.9	14.5	14.5	16.4	5.5	5.5	-	-	1.8	21.8	23.6
	40～49歳	74	29.7	28.4	21.6	18.9	16.2	16.2	8.1	6.8	1.4	1.4	-	20.3	18.9
	50～59歳	86	23.3	14.0	14.0	12.8	11.6	8.1	11.6	4.7	1.2	-	2.3	26.7	24.4
	60～69歳	49	22.4	8.2	16.3	12.2	6.1	10.2	10.2	2.0	-	-	-	42.9	14.3
	70歳以上	9	11.1	-	-	-	-	-	11.1	-	-	-	-	55.6	33.3
職 業 別	女性 自営・自由業	21	38.1	19.0	14.3	4.8	-	-	-	4.8	-	4.8	4.8	23.8	28.6
	女性 正規雇用者※1	167	28.7	18.6	18.6	18.0	17.4	10.8	7.8	3.0	6.6	1.8	4.2	16.8	26.3
	女性 非正規雇用者※2	144	27.8	8.3	7.6	2.8	5.6	12.5	6.9	2.8	-	0.7	6.9	38.2	13.9
	男性 自営・自由業	23	17.4	4.3	17.4	8.7	17.4	-	-	4.3	-	-	-	43.5	17.4
	男性 正規雇用者	239	24.7	18.4	13.8	13.8	11.7	11.7	8.8	3.3	0.8	0.4	2.1	25.9	21.8
	男性 非正規雇用者	34	41.2	8.8	17.6	14.7	5.9	14.7	14.7	11.8	-	-	-	32.4	20.6

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、女性の 18～29 歳で「収入が少ない」が 40.6%と他の年齢層より 5 ポイント以上高くなっています。男女ともに 60～69 歳は「特にない」が 4 割を占め、最も高くなっています。また、「会社や仕事の先行きが不安」は女性の 18～29 歳、男性の 40～49 歳で 2 割を占めています。

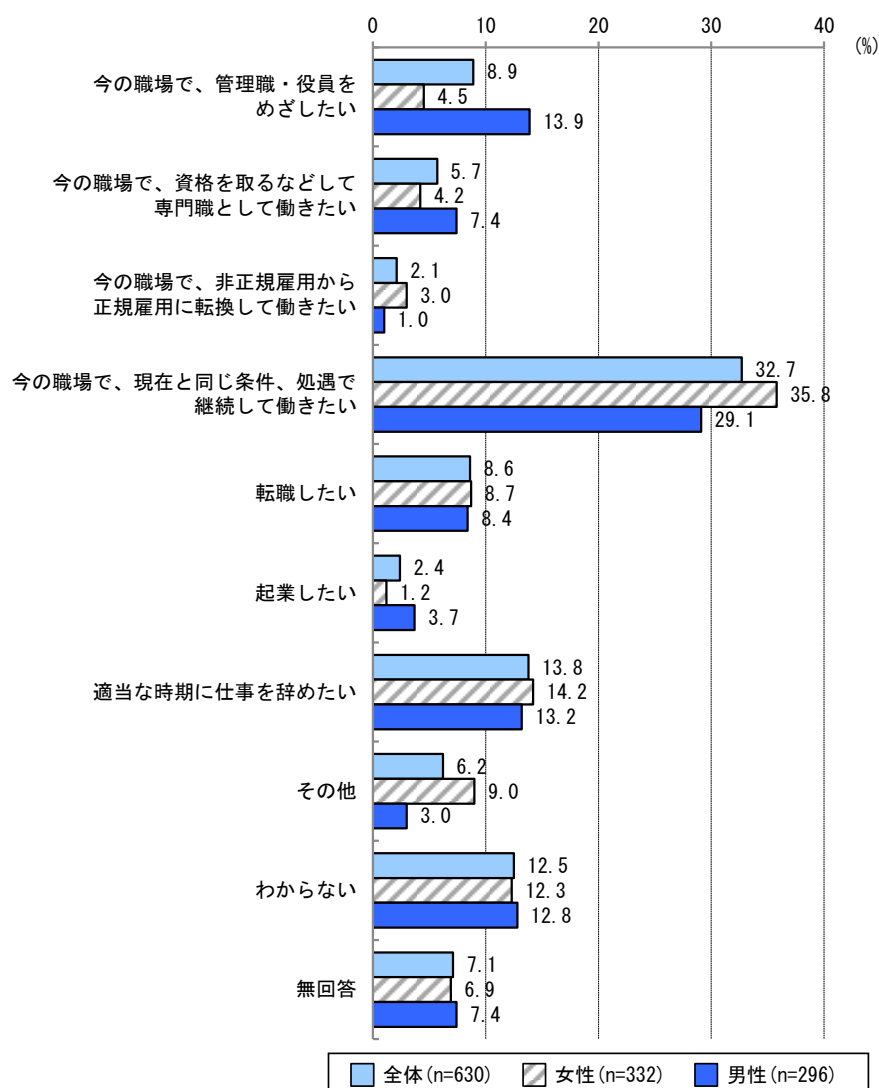
職業別にみると、女性の正規雇用者で「収入が少ない」が 28.7%と最も高く、次いで「会社や仕事の先行きが不安」「休暇が取りにくい」が 18.6%、「労働時間が長い」が 18.0%となっています。女性の非正規雇用者、男性の正規雇用者では、「特にない」が最も高く、次いで「収入が少ない」が 2 割を占めています。

※1 正規雇用者…会社・団体役員、正社員・正職員

※2 非正規雇用者…パート・アルバイト、派遣社員、内職・在宅就業

(3)今後の働き方(現在働いている人)

問 8 働くことについて、今後どのようにしていきたいと考えていますか。(○は1つ)



現在働いている人に今後の働き方をたずねたところ、「今の職場で、現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が32.7%と最も高く、次いで「適当な時期に仕事を辞めたい」が13.8%、「わからない」が12.5%となっています。

性別にみると、男性で「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」が13.9%と女性より9.4ポイント高くなっています。

【年齢別、職業別 今後の働き方(現在働いている人)】

(%)

		回答者数 (n)	今の職場で、 めざしたい 管理職・役員を	今の職場で、 専門職として 働きたいなど	今の職場で、 正規雇用で、 正社員として 働きたい	今の職場で、 件、処遇で、 継続して働きたい	転職したい	起業したい	適当な時期に 仕事を辞めたい	その他	わからない	無回答
全 体		630	8.9	5.7	2.1	32.7	8.6	2.4	13.8	6.2	12.5	7.1
年 齢 別	18～29歳	32	12.5	3.1	3.1	25.0	21.9	6.3	18.8	-	3.1	6.3
	30～39歳	59	3.4	1.7	3.4	42.4	15.3	1.7	5.1	6.8	13.6	6.8
	40～49歳	78	6.4	10.3	3.8	32.1	7.7	-	9.0	11.5	11.5	7.7
	50～59歳	104	3.8	3.8	3.8	38.5	4.8	-	15.4	8.7	16.3	4.8
	60～69歳	52	-	-	-	36.5	3.8	1.9	21.2	15.4	11.5	9.6
	70歳以上	7	-	-	-	28.6	-	-	57.1	-	-	14.3
	18～29歳	23	13.0	-	-	8.7	26.1	4.3	8.7	4.3	26.1	8.7
	30～39歳	55	16.4	10.9	1.8	32.7	12.7	5.5	3.6	1.8	7.3	7.3
	40～49歳	74	21.6	16.2	1.4	25.7	6.8	4.1	5.4	-	12.2	6.8
	50～59歳	86	14.0	1.2	1.2	34.9	4.7	1.2	19.8	1.2	15.1	7.0
	60～69歳	49	2.0	4.1	-	30.6	4.1	6.1	22.4	10.2	12.2	8.2
	70歳以上	9	-	11.1	-	22.2	11.1	-	33.3	11.1	-	11.1
職 業 別	女性 自営・自由業	21	-	-	4.8	23.8	-	-	4.8	14.3	33.3	19.0
	女性 正規雇用者	167	7.8	6.0	-	34.1	12.6	1.2	14.4	7.2	9.6	7.2
	女性 非正規雇用者	144	1.4	2.8	6.3	39.6	5.6	1.4	15.3	10.4	12.5	4.9
	男性 自営・自由業	23	4.3	4.3	-	21.7	-	4.3	17.4	4.3	34.8	8.7
	男性 正規雇用者	239	16.7	7.5	0.8	30.5	7.1	4.2	11.7	2.9	10.0	8.4
	男性 非正規雇用者	34	-	8.8	2.9	23.5	23.5	-	20.6	2.9	17.6	-

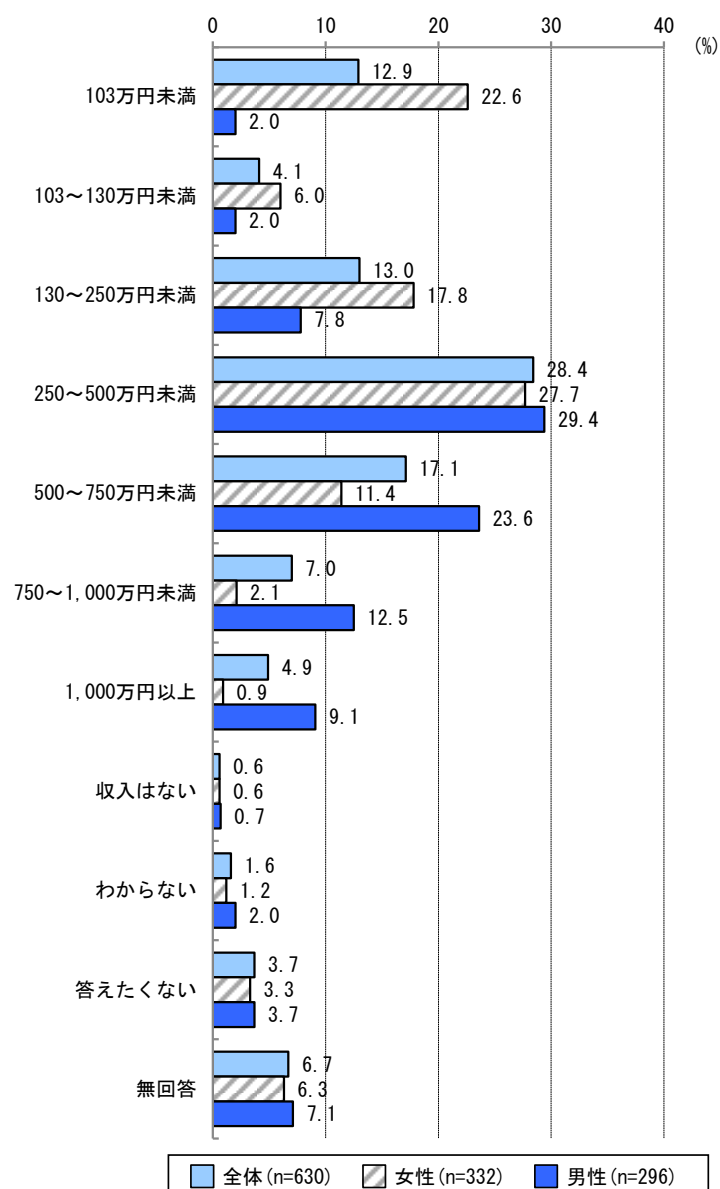
※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、男性の 40～49 歳で「今の職場で、管理職・役員を目指したい」(21.6%)、「今の職場で、資格を取るなどして専門職として働きたい」(16.2%)が他の年齢層より 5 ポイント以上高くなっています。

職業別にみると、男女とも正規雇用者で「今の職場で、現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が 3 割を占め、最も高くなっています。次いで、女性では「適当な時期に仕事を辞めたい」(14.4%)、「転職したい」(12.6%)、男性では「今の職場で、管理職・役員を目指したい」(16.7%)、「適当な時期に仕事を辞めたい」(11.7%)となっています。また、女性の非正規雇用者で「今の職場で、現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が 39.6%と全体より 6.9 ポイント高くなっています。

(4)年間収入

問 9 あなたご自身の令和5年中の年間収入(税込)はどのくらいですか。年金や資産収入などすべての収入を含めた額をお答えください。(〇は1つ)



現在働いている人に令和5年中の年間収入(税込)をたずねたところ、「250~500 万円未満」が 28.4%と最も高く、次いで「500~750 万円未満」が 17.1%、「130~250 万円未満」が 13.0%、「103 万円未満」が 12.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「250~500 万円未満」が最も高く、次いで女性では「103 万円未満」が 22.6%、男性では「500~750 万円未満」が 23.6%となっています。『500 万円以上』は、女性で 14.4%と男性より 30.8 ポイント低くなっています。

【年齢別、職業別 年間収入】

(%)

													(%)	
		回答者数 (n)	1 0 3 万円未満	1 0 3 5 1 3 0 万円未満	1 3 0 5 2 5 0 0 万円未満	2 5 0 5 5 0 0 万円未満	5 0 5 7 5 0 0 万円未満	7 5 0 5 1 0 0 0 万円	1 0 0 0 万円以上	収入はない	わからない	答えたくない	無回答	
全 体		630	12.9	4.1	13.0	28.4	17.1	7.0	4.9	0.6	1.6	3.7	6.7	
年 齢 別	女 性	18～29歳	32	-	9.4	25.0	50.0	6.3	-	-	3.1	3.1	-	3.1
		30～39歳	59	18.6	5.1	10.2	27.1	20.3	-	3.4	-	1.7	5.1	8.5
		40～49歳	78	19.2	3.8	16.7	25.6	19.2	3.8	-	-	-	3.8	7.7
		50～59歳	104	34.6	5.8	15.4	23.1	6.7	3.8	-	1.0	1.0	3.8	4.8
		60～69歳	52	23.1	5.8	26.9	26.9	3.8	-	1.9	-	1.9	1.9	7.7
		70歳以上	7	14.3	28.6	28.6	28.6	-	-	-	-	-	-	-
	男 性	18～29歳	23	-	-	21.7	34.8	13.0	4.3	-	-	8.7	8.7	8.7
		30～39歳	55	-	3.6	7.3	21.8	45.5	9.1	-	-	-	5.5	7.3
		40～49歳	74	1.4	1.4	4.1	24.3	25.7	17.6	14.9	1.4	1.4	2.7	5.4
		50～59歳	86	2.3	2.3	5.8	24.4	16.3	19.8	15.1	1.2	1.2	3.5	8.1
		60～69歳	49	6.1	2.0	6.1	46.9	18.4	2.0	6.1	-	4.1	2.0	6.1
		70歳以上	9	-	-	33.3	55.6	-	-	-	-	-	-	11.1
職 業 別	女 性	自営・自由業	21	23.8	4.8	33.3	9.5	-	-	4.8	4.8	9.5	-	9.5
		正規雇用者	167	1.8	1.2	10.8	46.7	22.2	4.2	0.6	0.6	1.2	3.6	7.2
		非正規雇用者	144	46.5	11.8	23.6	8.3	0.7	-	0.7	-	-	3.5	4.9
	男 性	自営・自由業	23	17.4	8.7	13.0	21.7	8.7	13.0	-	-	4.3	4.3	8.7
		正規雇用者	239	-	0.8	2.9	27.2	28.5	14.2	11.3	0.8	2.1	4.2	7.9
									</					

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

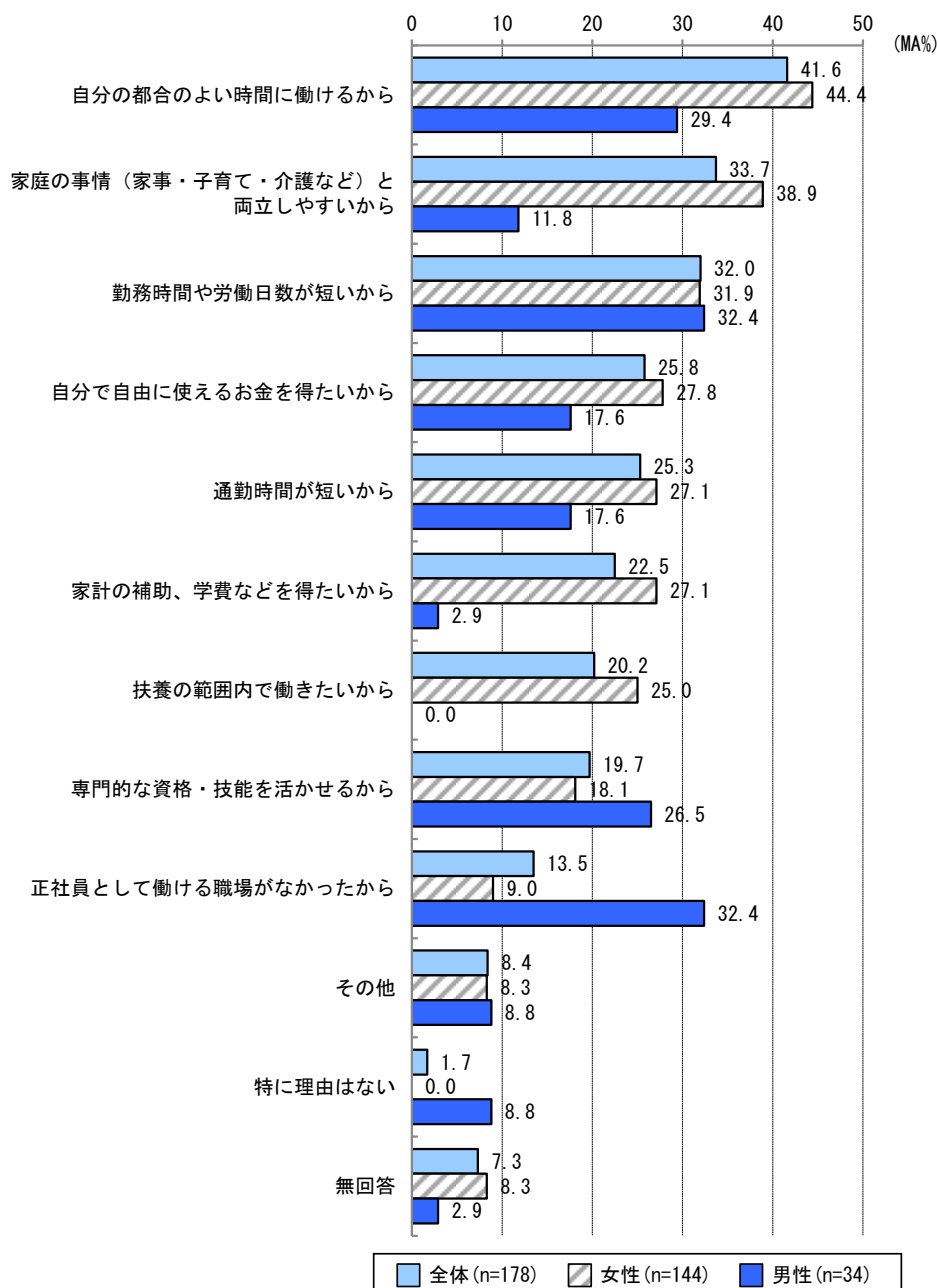
年齢別にみると、男性の30～39歳と40～49歳で「500～750万円未満」が最も高くなっています。また、男性の40～49歳と50～59歳で「750～1,000万円未満」「1,000万円以上」が1割を占め、他の年齢層より高くなっています。

職業別にみると、女性の正規雇用者では「250～500万円未満」、女性の非正規雇用者では「103万円未満」がそれぞれ4割を占め、最も高くなっています。また、男女ともに正規雇用者で「500～750万円未満」が2割を占めています。

(5)パート・アルバイト等で働いている理由

【問 6 で、「パート・アルバイト」、「派遣社員」、「内職・在宅就業」と回答された方におたずねします。】

問10 現在の就労形態を選んでいる理由は何ですか。(〇はいくつでも)



パート・アルバイト、派遣社員、内職・在宅就業で働いている人に、その就業形態で働いている理由をたずねたところ、「自分の都合のよい時間に働けるから」が 41.6%と最も高く、次いで「家庭の事情(家事・子育て・介護など)と両立しやすいから」が 33.7%、「勤務時間や労働日数が短いから」が 32.0%となっています。

性別にみると、女性で「家庭の事情(家事・子育て・介護など)と両立しやすいから」「家計の補助、学費などを得たいから」「扶養の範囲内で働きたいから」が男性より 20 ポイント以上高くなっています。一方、男性で「正社員として働ける場所がなかったから」が 32.4%と女性より 23.4 ポイント高くなっています。

【年齢別 パート・アルバイト等で働いている理由】

(%)

		回答者数 (n)	自分の都合のよい時間に働けるから	家庭の事情(家事・子育て・介護など)と両立しやすいから	勤務時間や労働日数が短いから	自分で自由に使えるお金を得たいから	通勤時間が短いから	家計の補助、学費などを得たいから	扶養の範囲内で働きたいから	専門的な資格・技能を活かせるから	正社員として働ける職場がなかったから	その他	特に理由はない	無回答
全 体		178	41.6	33.7	32.0	25.8	25.3	22.5	20.2	19.7	13.5	8.4	1.7	7.3
年 齢 別	18～29歳	5	60.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	20.0	-	-	-	-
	30～39歳	18	55.6	66.7	38.9	27.8	22.2	44.4	22.2	38.9	16.7	11.1	-	5.6
	40～49歳	29	58.6	44.8	34.5	13.8	20.7	37.9	34.5	17.2	-	10.3	-	6.9
	50～59歳	54	42.6	37.0	25.9	29.6	33.3	22.2	35.2	11.1	11.1	1.9	-	7.4
	60～69歳	34	26.5	26.5	38.2	35.3	29.4	20.6	8.8	20.6	11.8	17.6	-	11.8
	70歳以上	4	50.0	25.0	25.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0
	18～29歳	3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-	100.0	-	-	-
	30～39歳	4	75.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-
	40～49歳	8	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	-	-	25.0	25.0	25.0	25.0	12.5
	50～59歳	7	14.3	14.3	-	14.3	-	-	-	-	57.1	-	14.3	-
	60～69歳	8	50.0	12.5	75.0	37.5	37.5	-	-	50.0	12.5	-	-	-
	70歳以上	4	25.0	-	50.0	-	25.0	25.0	-	50.0	-	25.0	-	-

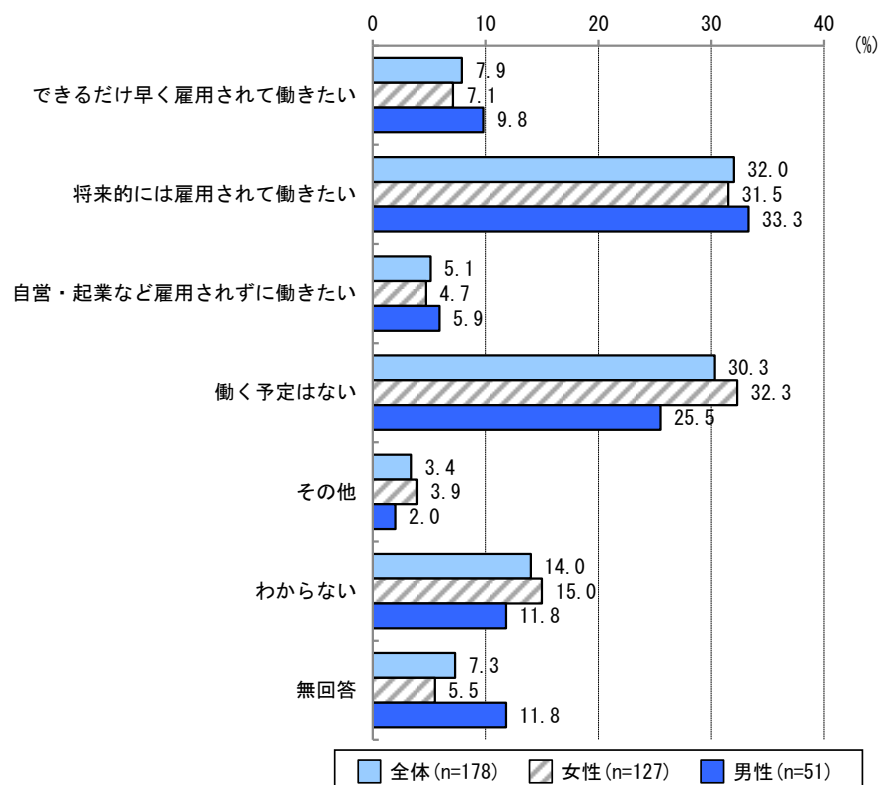
※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、女性の 50～59 歳で「自分の都合のよい時間に働けるから」が 42.6%と最も高く、次いで「家庭の事情(家事・子育て・介護など)と両立しやすいから」が 37.0%、「扶養の範囲内で働きたいから」が 35.2%となっています。また、女性の 60～69 歳で「勤務時間や労働日数が短いから」が 38.2%と最も高く、次いで「自分で自由に使えるお金を得たいから」が 35.3%、「通勤時間が短いから」が 29.4%となっています。

(6)今後の働き方(現在働いていない人)

【問 6 で、「専業主婦(主夫)」、「学生」、「その他の無職」と回答された方におたずねします。】

問11 働くことについて、今後どのようにしていきたいと考えていますか。(○は1つ)



現在働いていない人に今後の働き方をたずねたところ、「将来的には雇用されて働きたい」が 32.0%と最も高く、次いで「働く予定はない」が 30.3%となっています。

【年齢別 今後の働き方(現在働いていない人)】

(%)

		回答者数 (n)	できるだけ早く雇用 される	将来的には雇用され たい	自営・起業など雇用 されずに働きたい	働く予定はない	その他	わからない	無回答
全 体		178	7.9	32.0	5.1	30.3	3.4	14.0	7.3
年 齢 別	18～29歳	25	12.0	64.0	8.0	—	4.0	12.0	—
	30～39歳	11	9.1	45.5	9.1	—	—	36.4	—
	40～49歳	14	14.3	57.1	—	—	—	21.4	7.1
	女 性 50～59歳	22	9.1	27.3	4.5	31.8	4.5	18.2	4.5
	60～69歳	42	2.4	11.9	4.8	59.5	7.1	11.9	2.4
	70歳以上	13	—	—	—	69.2	—	—	30.8
	18～29歳	17	17.6	70.6	5.9	—	—	—	5.9
	30～39歳	1	—	—	—	—	—	100.0	—
	男 性 40～49歳	3	33.3	33.3	—	—	—	33.3	—
	50～59歳	3	—	33.3	—	—	—	66.7	—
	60～69歳	14	7.1	14.3	14.3	42.9	—	14.3	7.1
	70歳以上	12	—	—	—	58.3	8.3	—	33.3

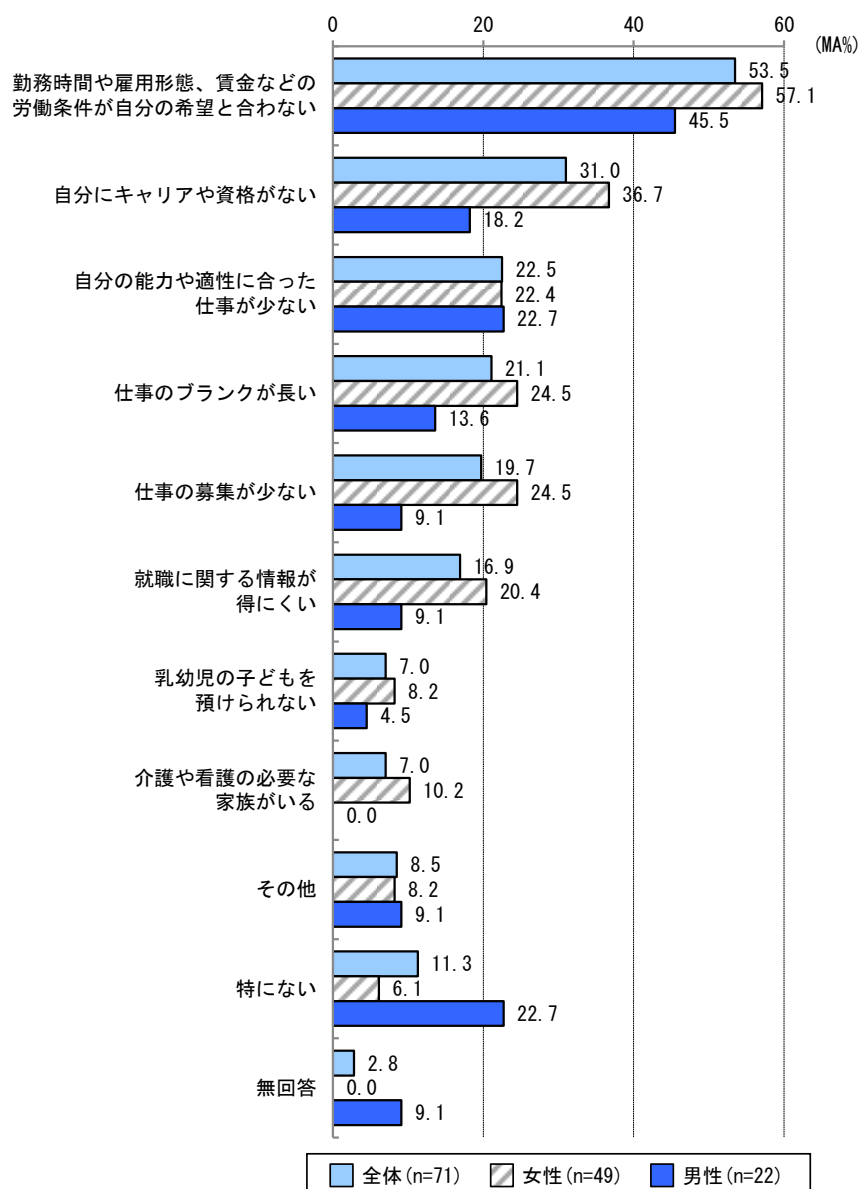
※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、女性の 60～69 歳で「働く予定はない」が 59.5%と最も高くなっています。

(7)仕事につきたいと思う上で困ったことや不安

【問11で、「できるだけ早く雇用されて働きたい」、「将来的には雇用されて働きたい」と回答された方におたずねします。】

問12 あなたが、仕事につきたいと思う上で困ったことや不安がありますか。(〇はいくつでも)



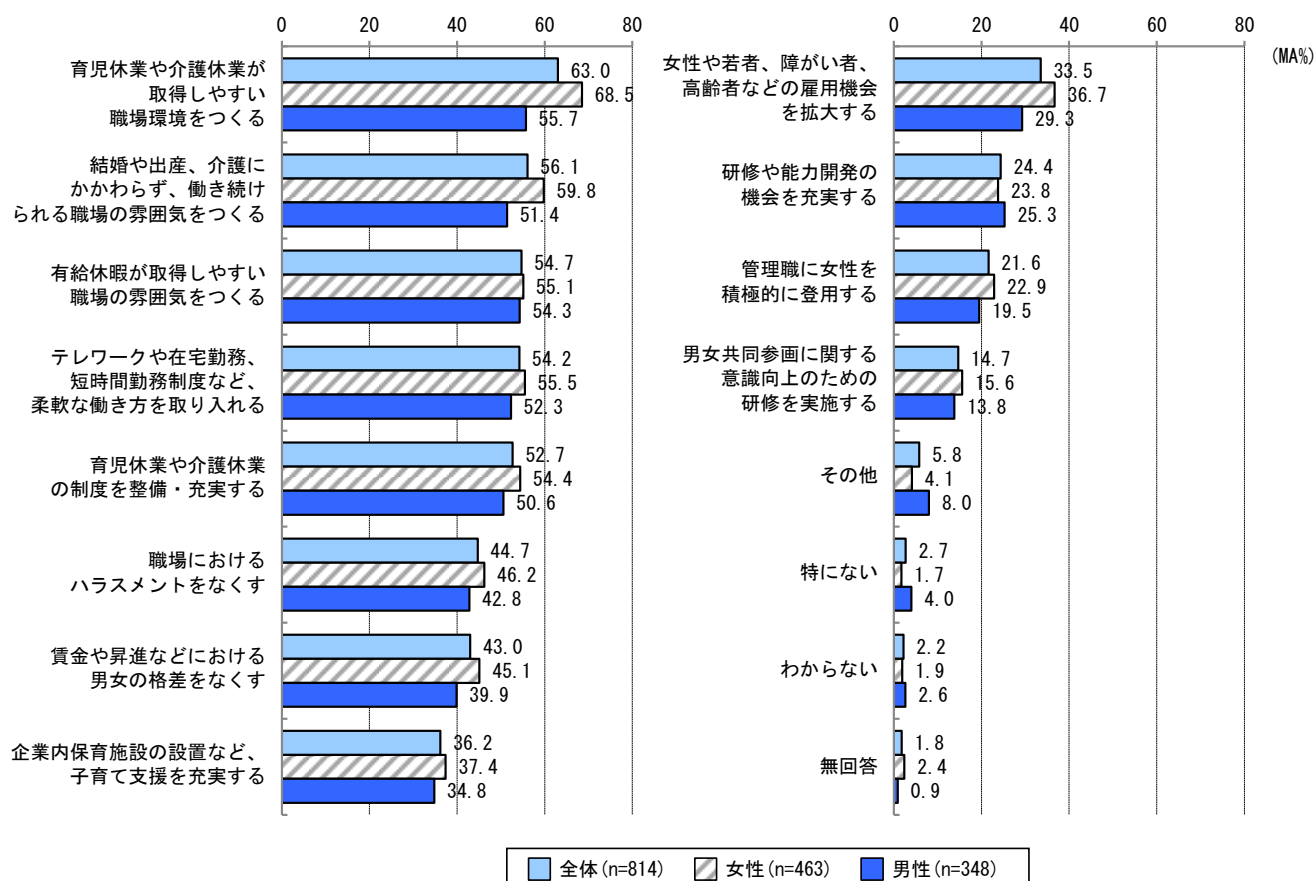
現在働いていない人で、雇用されて働きたいと回答した人に仕事につきたいと思う上での困ったことや不安をたずねたところ、「勤務時間や雇用形態、賃金などの労働条件が自分の希望と合わない」が 53.5%と最も高く、次いで「自分にキャリアや資格がない」が 31.0%、「自分の能力や適性に合った仕事が少ない」が 22.5%、「仕事のブランクが長い」が 21.1%となっています。

性別にみると、女性で「自分にキャリアや資格がない」「仕事の募集が少ない」が男性より 15 ポイント以上高くなっています。

(8)いきいきと働ける職場をつくるために企業が力を入れるべきこと

【全員におたずねします。】

問13 あなたは、すべての人が性別にかかわらず、いきいきと働ける職場をつくるために、企業などは今後どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。(〇はいくつでも)



いきいきと働ける職場をつくるために企業が力を入れるべきことは、「育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる」が63.0%と最も高く、次いで「結婚や出産、介護にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」が56.1%、「有給休暇が取得しやすい職場の雰囲気をつくる」が54.7%、「テレワークや在宅勤務、短時間勤務制度など、柔軟な働き方を取り入れる」が54.2%、「育児休業や介護休業の制度を整備・充実する」が52.7%となっています。

性別にみると、女性で「育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる」が68.5%と男性より12.8ポイント高くなっています。

【年齢別 いきいきと働ける職場をつくるために企業が力を入れるべきこと】

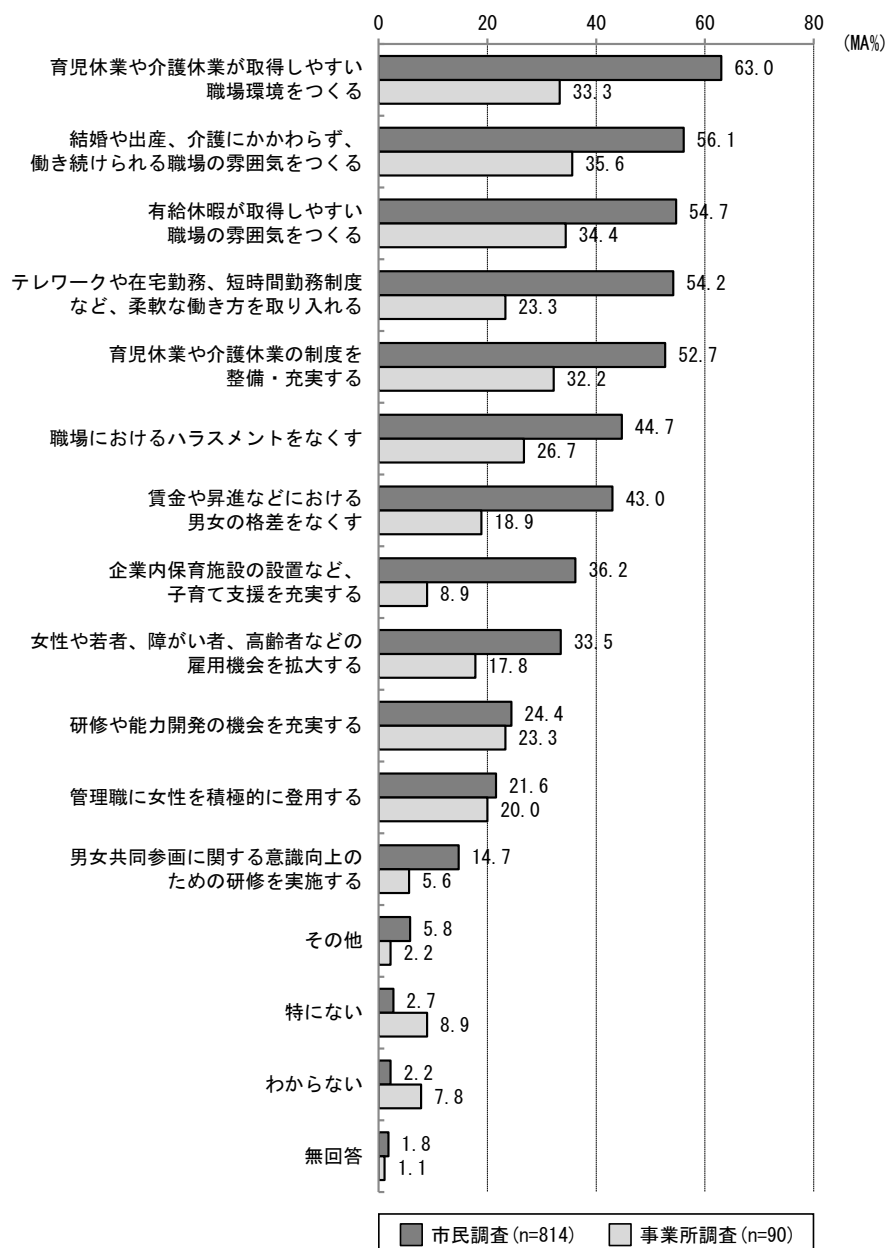
(%)

		回答者数 (n)	育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる	結婚や出産、介護にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる	有給休暇が取得しやすい職場の雰囲気を	テレワークや在宅勤務、短時間勤務制度など、柔軟な働き方を取り入れる	育児休業や介護休業の制度を整備・充実する	職場におけるハラスメントをなくす	賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす	企業内保育施設の設置など、子育て支援を充実する	女性や若者、障がい者、高齢者などの雇用機会を拡大する	研修や能力開発の機会を充実する	管理職に女性を積極的に登用する	男女共同参画に関する意識向上のため	その他	特にな	わからない	無回答
全 体		814	63.0	56.1	54.7	54.2	52.7	44.7	43.0	36.2	33.5	24.4	21.6	14.7	5.8	2.7	2.2	1.8
年 齢 別	18～29歳	57	86.0	68.4	68.4	64.9	70.2	68.4	52.6	42.1	31.6	29.8	28.1	15.8	1.8	-	-	-
	30～39歳	70	75.7	62.9	64.3	64.3	62.9	44.3	47.1	47.1	22.9	17.1	20.0	11.4	2.9	1.4	2.9	1.4
	40～49歳	92	58.7	56.5	48.9	54.3	41.3	44.6	39.1	34.8	30.4	19.6	19.6	14.1	5.4	2.2	2.2	2.2
	50～59歳	126	64.3	54.0	52.4	50.0	46.0	38.9	41.3	25.4	32.5	22.2	22.2	15.1	4.8	1.6	2.4	2.4
	60～69歳	95	67.4	64.2	50.5	53.7	62.1	45.3	51.6	44.2	57.9	30.5	24.2	18.9	5.3	3.2	1.1	2.1
	70歳以上	22	72.7	59.1	54.5	50.0	59.1	50.0	40.9	45.5	54.5	27.3	31.8	22.7	-	-	4.5	9.1
	18～29歳	40	47.5	50.0	57.5	50.0	40.0	42.5	37.5	30.0	15.0	25.0	7.5	7.5	7.5	12.5	5.0	-
	30～39歳	56	62.5	53.6	62.5	60.7	60.7	37.5	46.4	53.6	21.4	30.4	16.1	12.5	14.3	1.8	1.8	1.8
	40～49歳	77	55.8	44.2	50.6	53.2	51.9	37.7	27.3	27.3	20.8	22.1	14.3	10.4	9.1	3.9	2.6	1.3
	50～59歳	89	49.4	53.9	51.7	50.6	41.6	43.8	38.2	27.0	33.7	23.6	22.5	13.5	5.6	2.2	2.2	1.1
男 性	60～69歳	64	67.2	57.8	56.3	48.4	56.3	56.3	51.6	39.1	46.9	28.1	28.1	20.3	4.7	1.6	3.1	-
	70歳以上	21	47.6	42.9	47.6	52.4	57.1	33.3	42.9	42.9	38.1	23.8	33.3	23.8	9.5	9.5	-	-

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、女性の18～29歳で「育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる」が86.0%と他の年齢層より10ポイント以上高くなっています。男女とも30～39歳で「企業内保育施設の設置など、子育て支援を充実する」が4割以上を占め、全体より10ポイント以上高くなっています。

【参考 事業所調査 [問18]いきいきと働ける職場をつくるために企業が力を入れるべきこと】

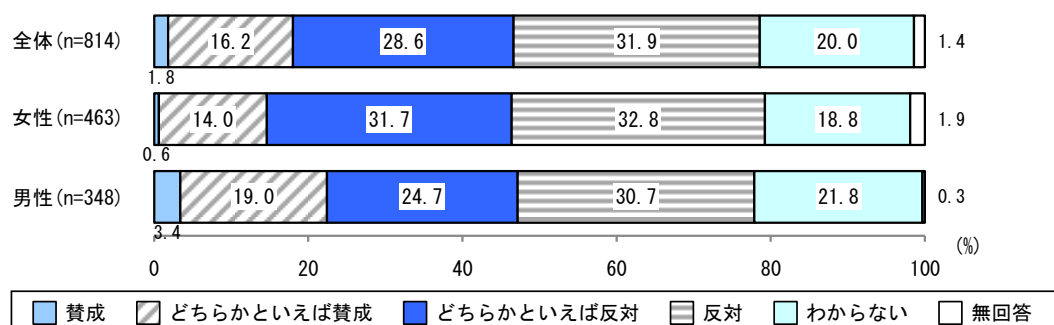


事業所調査と比較すると、市民調査では「育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる」(63.0%)、事業所調査では「結婚や出産、介護にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」(35.6%)が最も高くなっています。

3. 子育てや暮らしなどについて

(1) 性別役割分担意識

問14 あなたは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えをどのように思いますか。
(○は1つ)



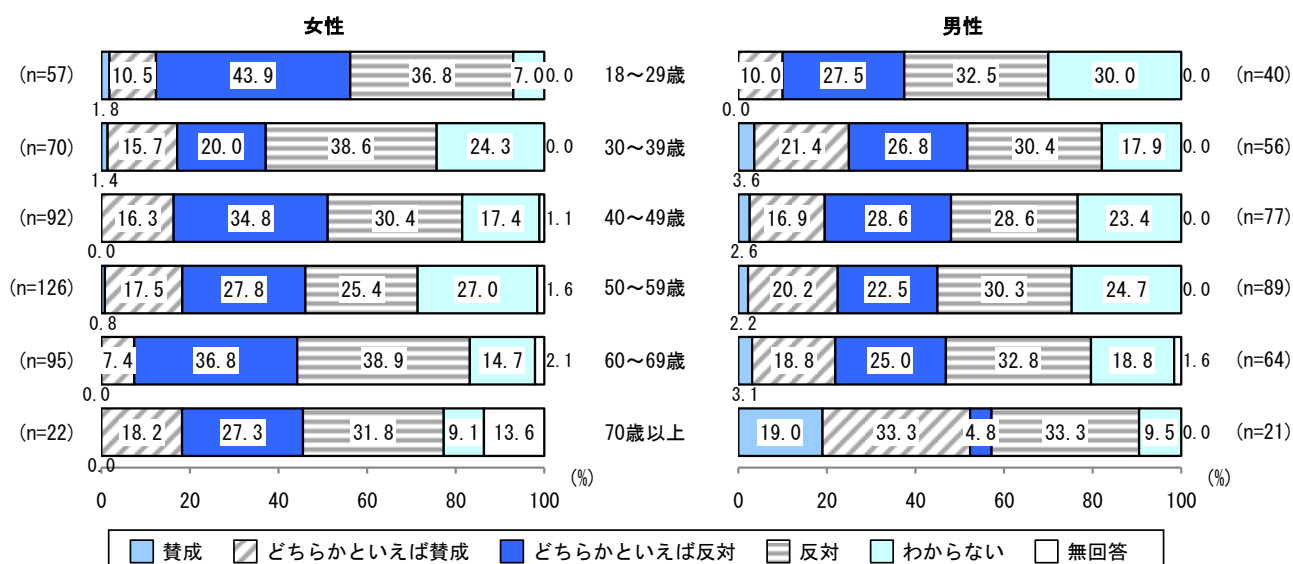
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うかたずねたところ、「反対」が31.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」が28.6%、「わからない」が20.0%となっています。

性別にみると、『反対』※は女性で64.5%、男性で55.4%となっています。一方、『賛成』※は女性で14.6%、男性で22.4%となっています。

※『反対』とは、「反対」「どちらかといえば反対」の合計

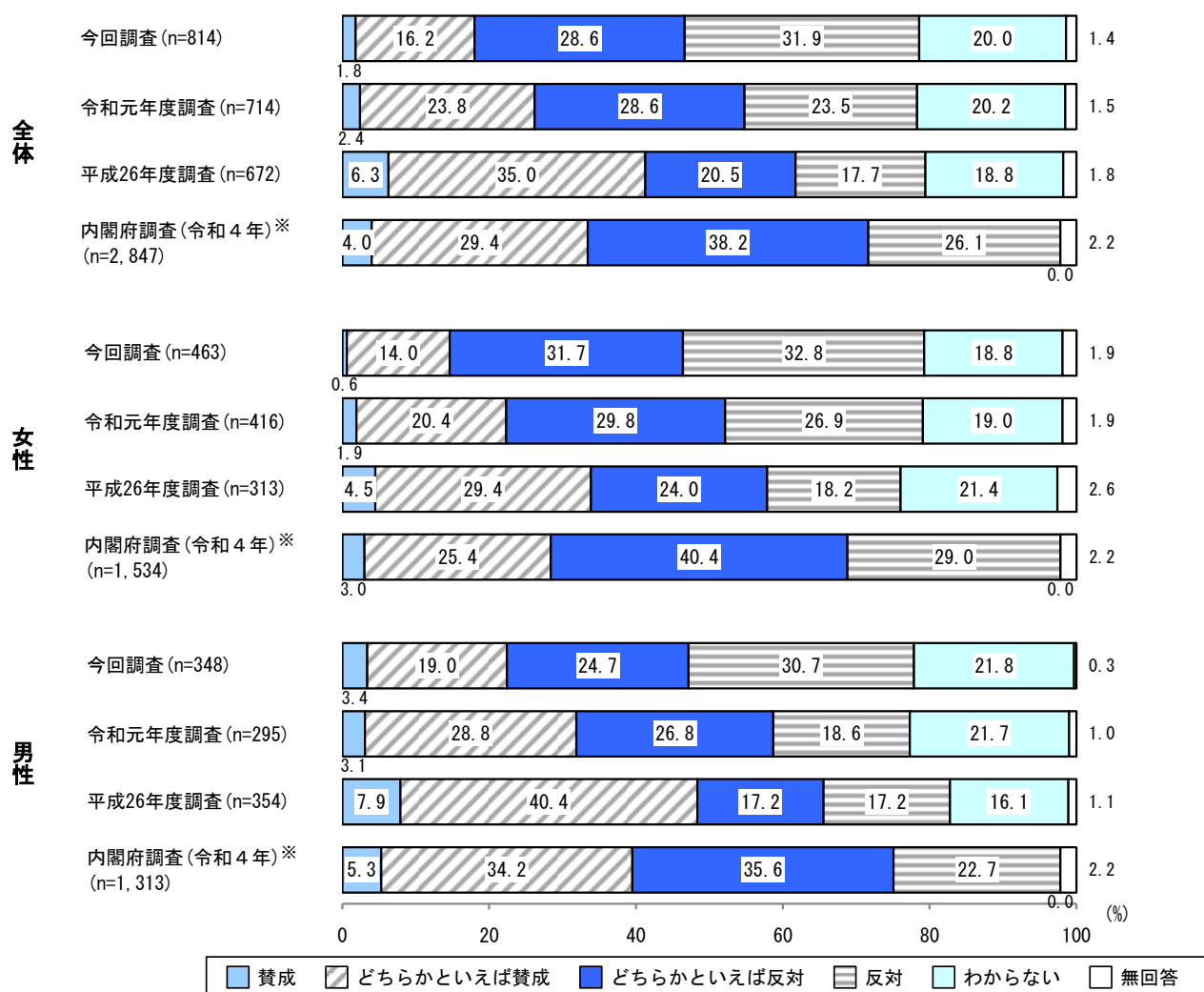
※『賛成』とは、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計

【年齢別 性別役割分担意識】



年齢別にみると、女性の18～29歳で『反対』が80.7%と他の年齢層より5ポイント以上高くなっています。一方、男性の70歳未満の各年齢層で『反対』は過半数を占めているものの、18～29歳を除いた各年齢層で『賛成』が女性を上回っています。

【参考 過去調査・国調査 性別役割分担意識】



※内閣府調査は、「わからない」の選択肢なし

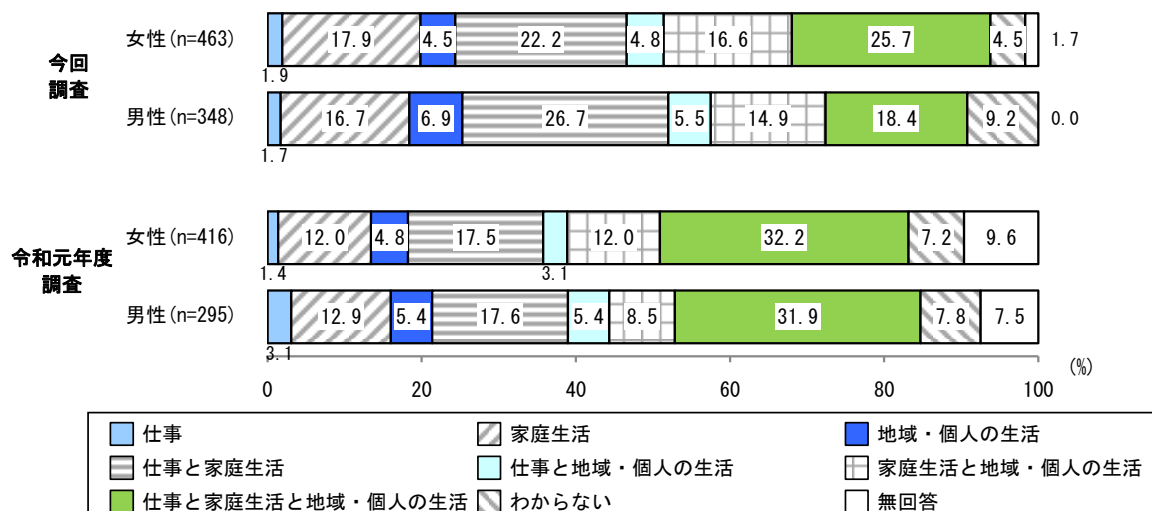
過去調査と比較すると、調査を行うごとに男女とも『賛成』が低くなっており、今回調査と平成26年度実施の前々回調査で20ポイント前後の差があります。

内閣府調査と比較すると、男女ともに『賛成』が低くなっており、男性で17.1ポイントの差があります。

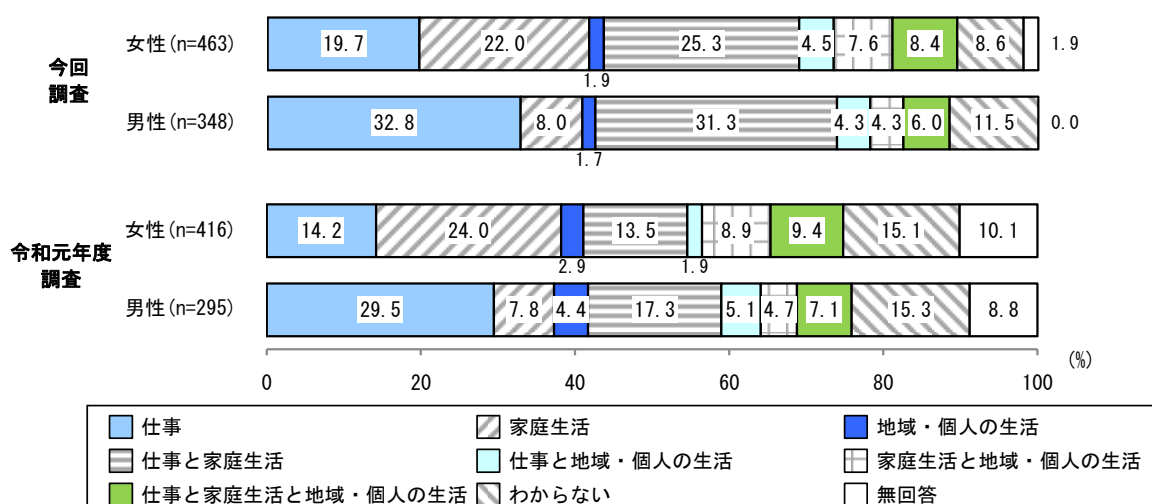
(2)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問15 生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味など)」の優先度について、あなたの希望と現実(現状)に最も近いものはどれですか。(○はそれぞれ1つ)

■希望



■現実



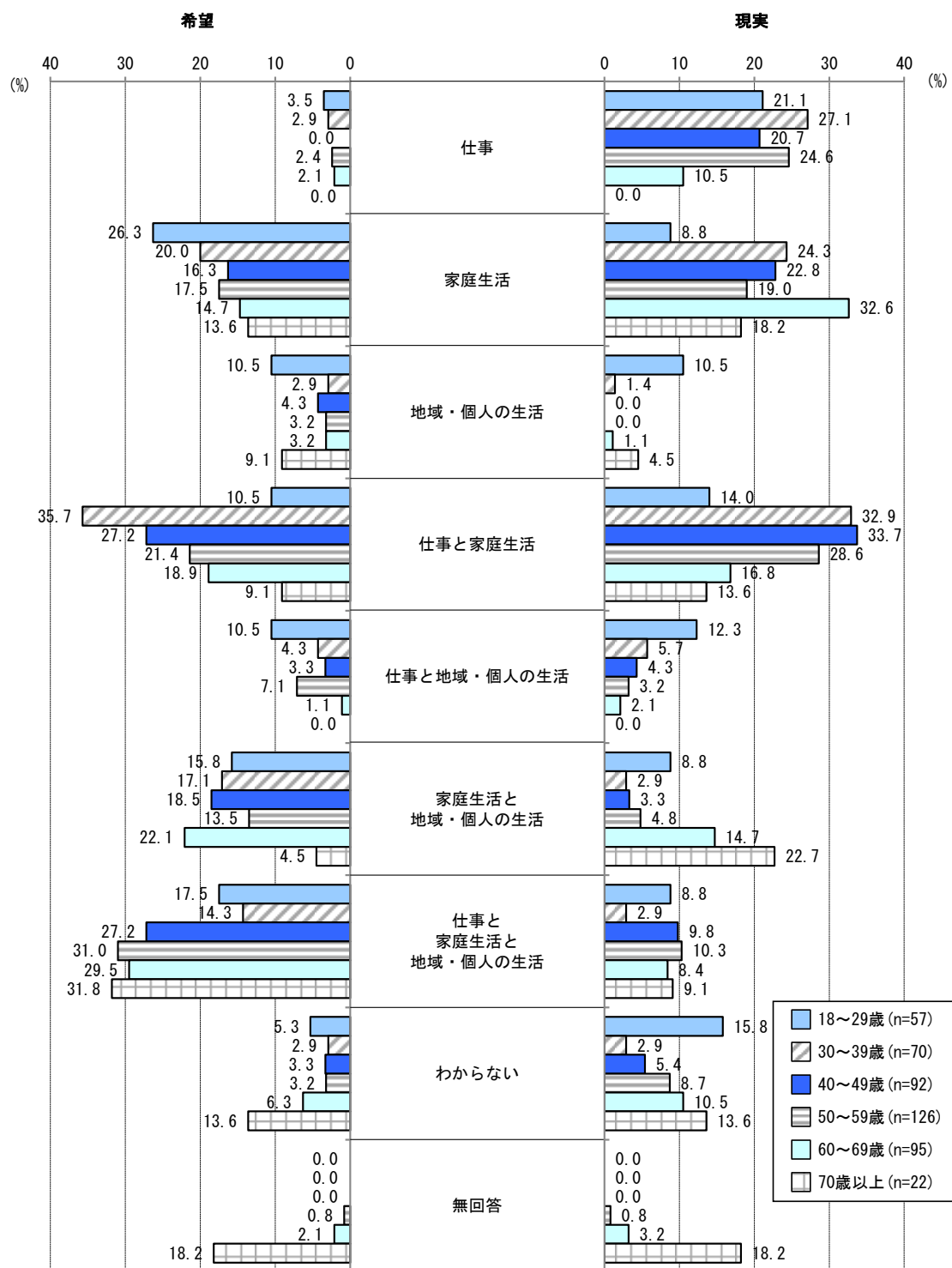
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の希望は、女性で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」が25.7%、男性で「仕事と家庭生活」が26.7%と最も高くなっています。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の現実、女性で「仕事と家庭生活」が25.3%、男性で「仕事」が32.8%と最も高くなっています。また、「仕事」は男性で32.8%と女性より13.1ポイント、「家庭生活」は女性で22.0%と男性より14.0ポイント高くなっています。

令和元年度実施の前回調査と比較すると、希望は女性で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」が6.5ポイント低く、「家庭生活」が5.9ポイント高くなっています。男性では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」が13.5ポイント低く、「仕事と家庭生活」が9.1ポイント、「家庭生活と地域・個人の生活」が6.4ポイント高くなっています。一方、現実、女性で「仕事と家庭生活」が11.8ポイント、「仕事」が5.5ポイント高くなっています。男性では「仕事と家庭生活」が14.0ポイント高くなっています。

【年齢別「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度】

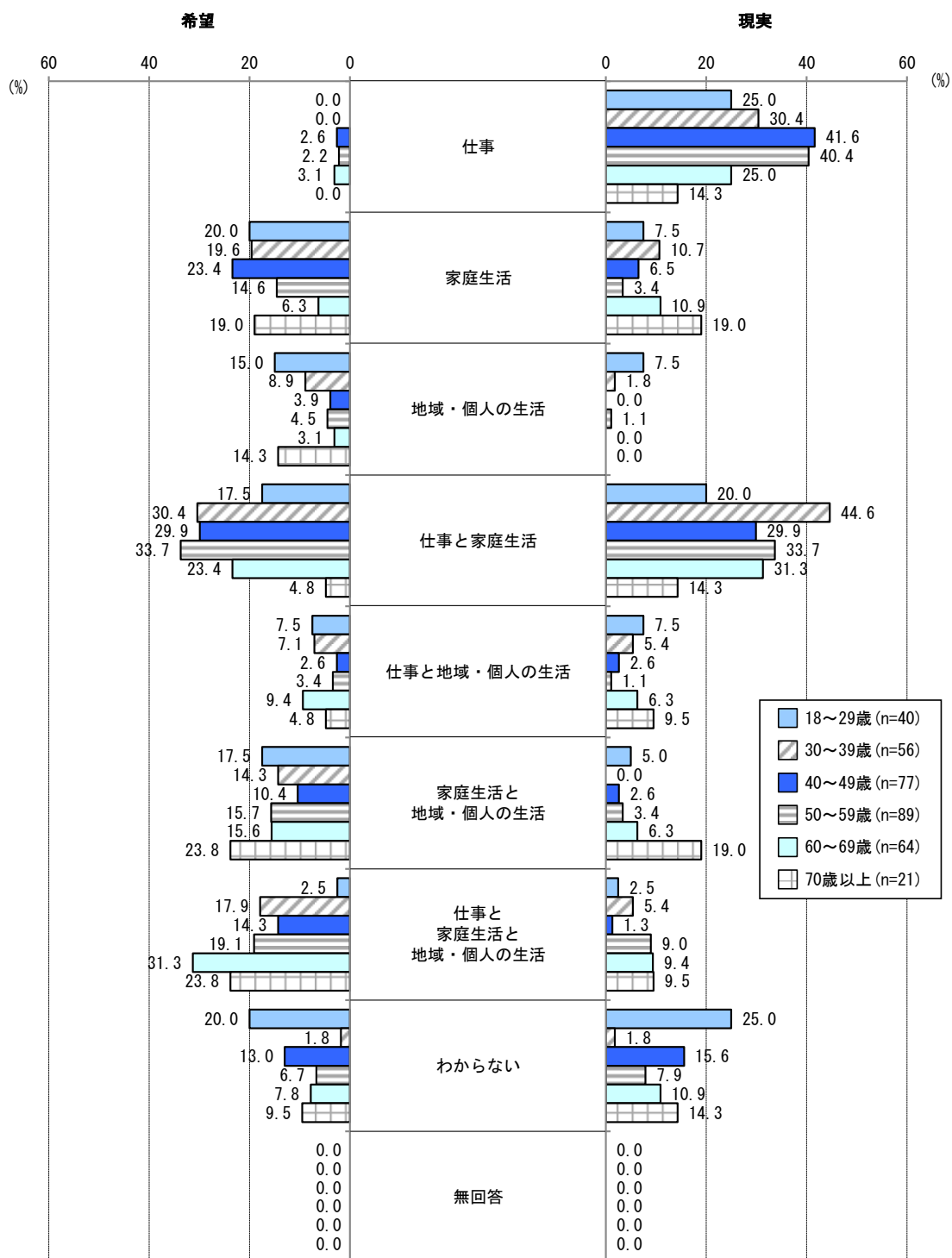
■女性



女性の希望の生活を年齢別にみると、18～29歳で「家庭生活」(26.3%)、30～39歳で「仕事と家庭生活」(35.7%)が最も高くなっています。

現実の生活を年齢別にみると、30～59歳の各年齢層で「仕事と家庭生活」が3割前後を占め最も高いものの、「仕事」も2割を占め高くなっています。

■男性



男性の希望の生活を年齢別にみると、30～59歳の各年齢層で「仕事と家庭生活」が3割前後を占め、最も高くなっています。

現実の生活を年齢別にみると、30～39歳では「仕事と家庭生活」、40～49歳と50～59歳では「仕事」が4割を占め、最も高くなっています。

【「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の希望と現実】

■女性

(上段：件、下段：%)

		全 体	希望								無 回 答
			仕 事	家 庭 生 活	地 域・ 個 人 の 生 活	仕 事 と 家 庭 生 活	仕 事 と 地 域・ 個 人 の 生 活	生 活 家 庭 生 活 と 地 域・ 個 人 の	個 人 の 生 活 と 地 域・	わ か ら な い	
全 体		463 100.0	9 1.9	83 17.9	21 4.5	103 22.2	22 4.8	77 16.6	119 25.7	21 4.5	8 1.7
現 実	仕事	91 19.7	6 1.3	25 5.4	4 0.9	23 5.0	6 1.3	11 2.4	16 3.5	- -	- -
	家庭生活	102 22.0	2 0.4	35 7.6	2 0.4	25 5.4	1 0.2	17 3.7	19 4.1	1 0.2	- -
	地域・個人の生活	9 1.9	- -	- -	7 1.5	- -	- -	1 0.2	1 0.2	- -	- -
	仕事と家庭生活	117 25.3	1 0.2	17 3.7	1 0.2	47 10.2	4 0.9	15 3.2	32 6.9	- -	- -
	仕事と地域・個人の生活	21 4.5	- -	- -	2 0.4	1 0.2	7 1.5	6 1.3	5 1.1	- -	- -
	家庭生活と地域・個人の生活	35 7.6	- -	4 0.9	1 0.2	1 0.2	- -	19 4.1	10 2.2	- -	- -
	仕事と家庭生活と地域・個人の生活	39 8.4	- -	- -	2 0.4	3 0.6	1 0.2	6 1.3	27 5.8	- -	- -
	わからない	40 8.6	- -	2 0.4	2 0.4	3 0.6	3 0.6	2 0.4	8 1.7	20 4.3	- -
	無回答	9 1.9	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 0.2	- -	8 1.7

※割合は全体(n=463)を100%とする値

女性の希望と現実を組み合わせると、現実で「仕事」を優先している人は、「家庭生活」を優先したいと考えている人が91人中25人となっています。「家庭生活」を優先している人、「仕事と家庭生活」を優先している人は、希望でもそれぞれ同様に考えている人が最も多くなっています。

■男性

(上段：件、下段：%)

（上段：件、下段：％）

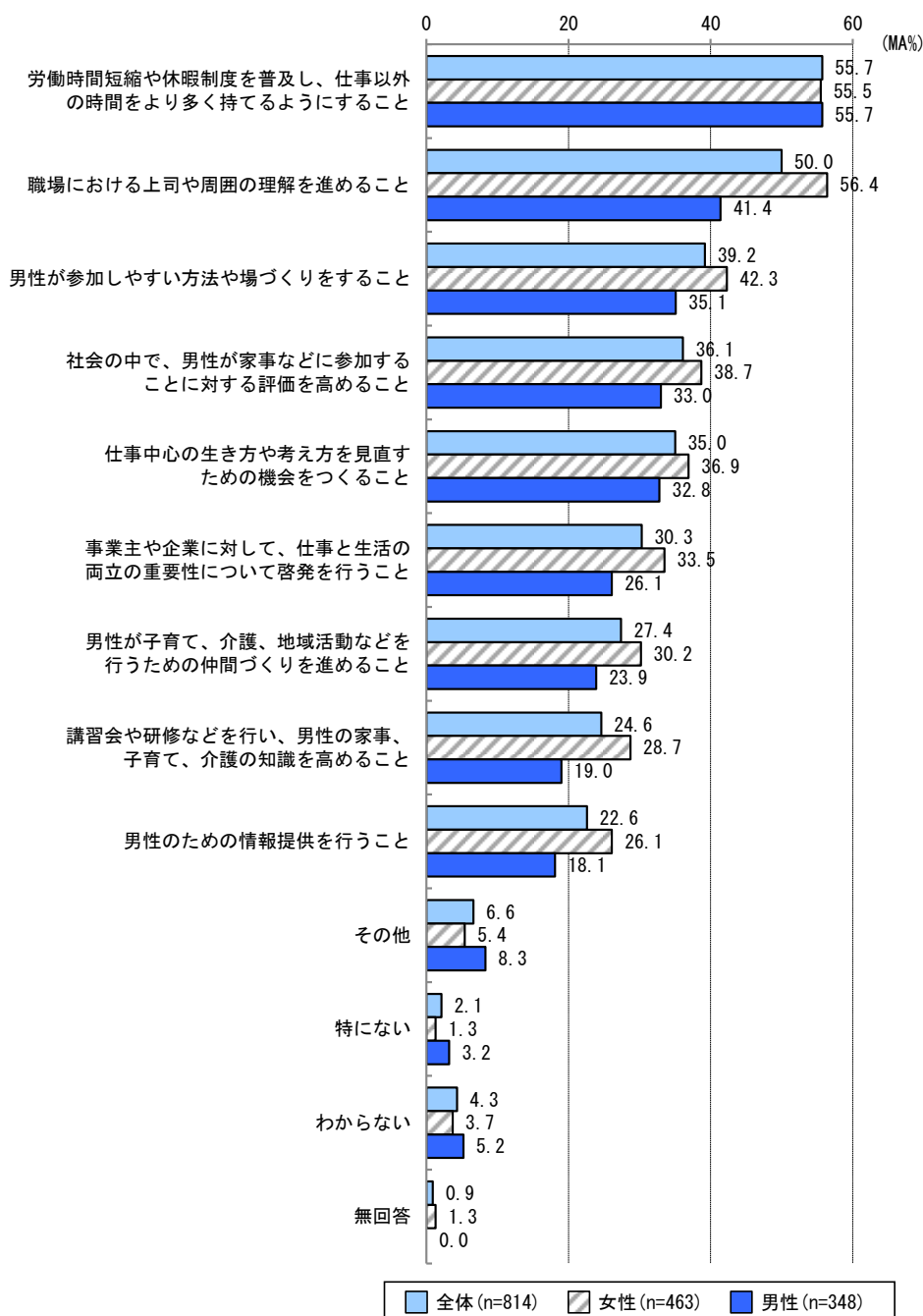
		全 体	希望								無 回 答
			仕 事	家 庭 生 活	地 域 ・ 個 人 の 生 活	仕 事 と 家 庭 生 活	仕 事 と 地 域 ・ 個 人 の 生 活	生 活 家 庭 生 活 と 地 域 ・ 個 人 の	個 人 の 生 活 と 家 庭 生 活 と 地 域 ・	わ か ら な い	
全 体		348 100.0	6 1.7	58 16.7	24 6.9	93 26.7	19 5.5	52 14.9	64 18.4	32 9.2	- -
現 実	仕事	114 32.8	5 1.4	25 7.2	8 2.3	35 10.1	5 1.4	17 4.9	17 4.9	2 0.6	- -
	家庭生活	28 8.0	- -	12 3.4	4 1.1	2 0.6	1 0.3	4 1.1	3 0.9	2 0.6	- -
	地域・個人の生活	6 1.7	- -	- -	5 1.4	- -	- -	1 0.3	- -	- -	- -
	仕事と家庭生活	109 31.3	1 0.3	14 4.0	1 0.3	51 14.7	5 1.4	15 4.3	22 6.3	- -	- -
	仕事と地域・個人の生活	15 4.3	- -	1 0.3	4 1.1	1 0.3	7 2.0	- -	1 0.3	1 0.3	- -
	家庭生活と地域・個人の生活	15 4.3	- -	1 0.3	- -	1 0.3	- -	12 3.4	1 0.3	- -	- -
	仕事と家庭生活と地域・個人の生活	21 6.0	- -	1 0.3	- -	- -	1 0.3	1 0.3	18 5.2	- -	- -
	わからない	40 11.5	- -	4 1.1	2 0.6	3 0.9	- -	2 0.6	2 0.6	27 7.8	- -
	無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

※割合は全体(n=348)を100%とする値

男性の希望と現実を組み合わせると、現実で「仕事」を優先している人は、「仕事と家庭生活」を優先したいと考えている人が114人中35人となっています。「仕事と家庭生活」を優先している人は、希望でも同様に考えている人が最も多くなっています。

(3)男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと

問 16 あなたは、今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために必要だと思うことは、「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 55.7%と最も高く、次いで「職場における上司や周囲の理解を進めること」が 50.0%、「男性が参加しやすい方法や場づくりをすること」が 39.2%、「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること」が 36.1%となっています。

性別にみると、「職場における上司や周囲の理解を進めること」は女性で 56.4%と男性より 15.0 ポイント高くなっています。

【年齢別 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと】

(%)

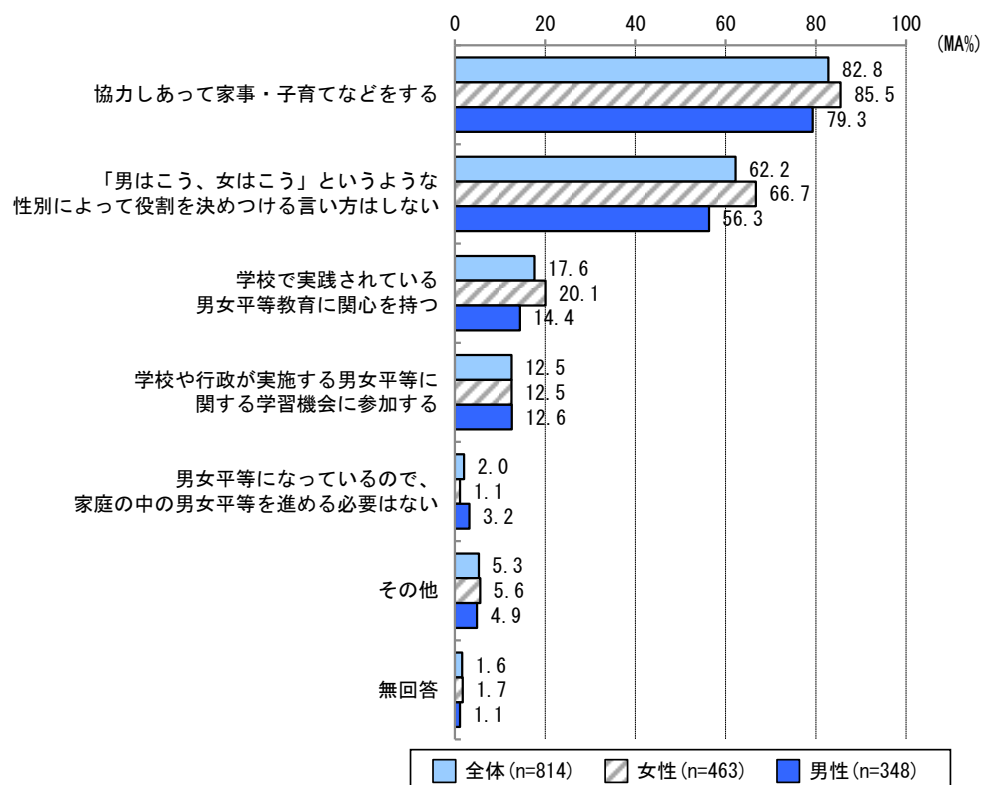
																(%)	
		回答者数（n）	労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	職場における上司や周囲の理解を進めること	男性が参加しやすい方法や場づくりをすること	社会の中で、男性が家事などに参加することに 対する評価を高めること	仕事中心の生き方や考え方を 見直すための機会をつくること	事業主や企業に対して、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行うこと	男性が子育て、介護、地域活動などを行うための仲間づくりを進めること	講習会や研修などを行い、男性の家事、子育て、介護の知識を高めること	男性のための情報提供を行うこと	その他	特にない	わからない	無回答		
全 体		814	55.7	50.0	39.2	36.1	35.0	30.3	27.4	24.6	22.6	6.6	2.1	4.3	0.9		
年 齢 別	女 性	18～29歳	57	71.9	66.7	56.1	35.1	35.1	29.8	42.1	36.8	47.4	1.8	-	1.8	-	
		30～39歳	70	60.0	62.9	42.9	35.7	48.6	35.7	28.6	21.4	27.1	5.7	-	7.1	-	
		40～49歳	92	55.4	55.4	37.0	44.6	41.3	27.2	25.0	28.3	27.2	6.5	2.2	4.3	-	
		50～59歳	126	48.4	52.4	42.1	31.7	30.2	31.7	28.6	25.4	22.2	7.1	0.8	4.8	-	
		60～69歳	95	52.6	53.7	37.9	48.4	33.7	40.0	31.6	31.6	18.9	5.3	1.1	1.1	3.2	
		70歳以上	22	54.5	50.0	50.0	31.8	40.9	45.5	31.8	40.9	18.2	-	9.1	-	9.1	
	男 性	18～29歳	40	45.0	37.5	25.0	22.5	32.5	22.5	7.5	12.5	17.5	7.5	2.5	15.0	-	
		30～39歳	56	67.9	51.8	35.7	35.7	41.1	28.6	25.0	10.7	21.4	8.9	-	3.6	-	
		40～49歳	77	57.1	41.6	35.1	32.5	40.3	13.0	22.1	13.0	19.5	9.1	3.9	5.2	-	
		50～59歳	89	53.9	36.0	37.1	27.0	24.7	29.2	28.1	21.3	19.1	11.2	2.2	3.4	-	
		60～69歳	64	54.7	43.8	37.5	48.4	31.3	35.9	28.1	32.8	12.5	3.1	1.6	3.1	-	
		70歳以上	21	47.6	38.1	38.1	28.6	23.8	33.3	28.6	19.0	19.0	9.5	19.0	4.8	-	

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、男性では、いずれの年齢層も「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が最も高く、30～39 歳で 67.9%となっています。女性では、30～69 歳の各年齢層で「職場における上司や周囲の理解を進めること」が最も高く、40～49 歳では「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」も同率となっています。また、「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること」は女性の 40～49 歳、60～69 歳、男性の 60～69 歳で 4 割を占め、他の年齢層より 5 ポイント以上高くなっています。

(4)家庭教育の中で男女平等の考え方を育むために必要だと思うこと

問17 あなたは、家庭教育の中で男女平等の考え方を育むためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)



家庭教育の中で男女平等の考え方を育むために必要だと思うことは、「協力しあって家事・子育てなどをする」が 82.8%と最も高く、次いで「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」が 62.2%、「学校で実践されている男女平等教育に関心を持つ」が 17.6%となっています。

性別にみると、「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」は女性で 66.7%と男性より 10.4 ポイント高くなっています。

【年齢別 家庭教育の中で男女平等の考え方を育むために必要だと思うこと】

(%)

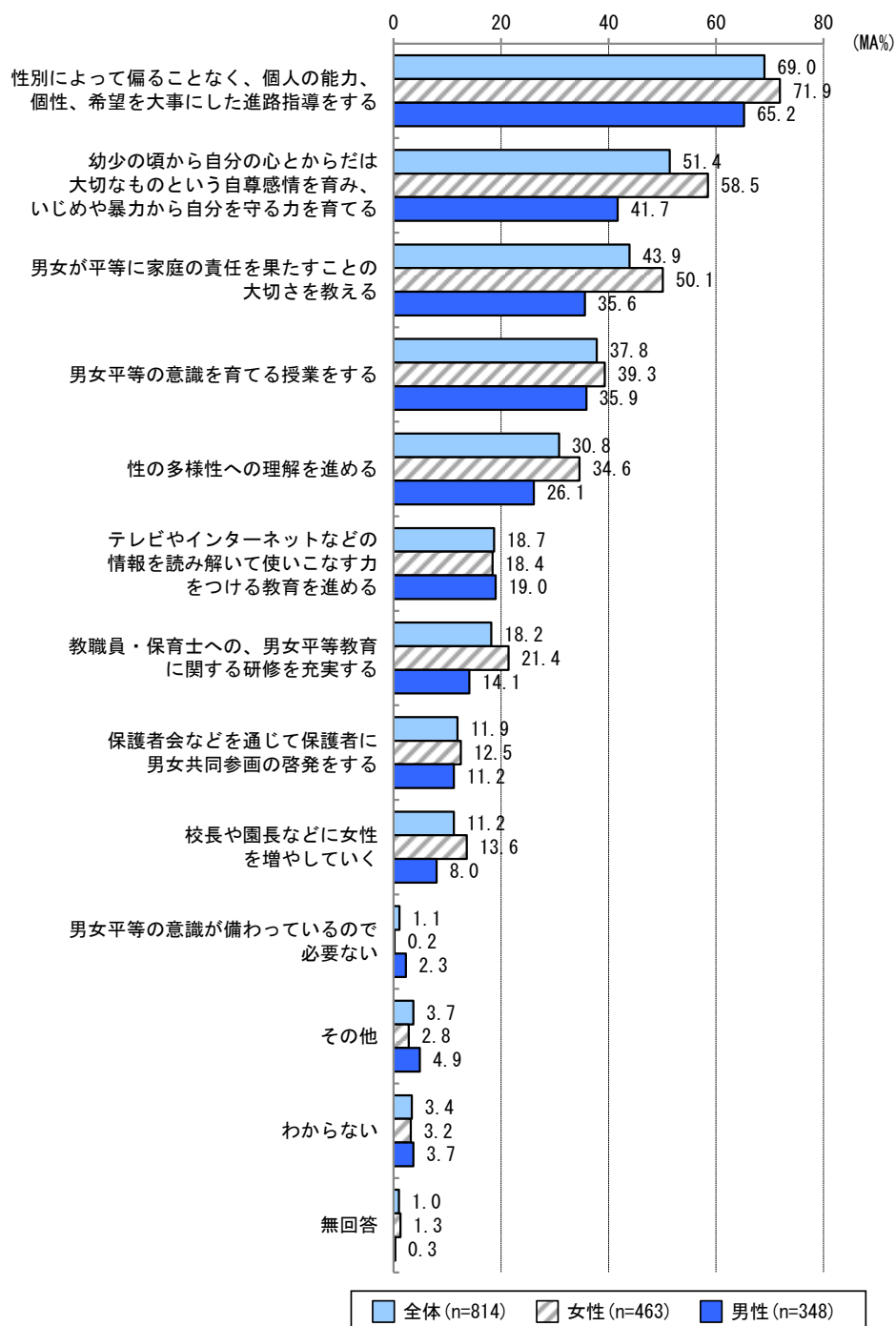
		回答者数 (n)	協力しあつて家事・子育てなどをする	「男はこう、女はこう」という言い方はしない性別によつて役割を決めつける	学校で実践されている男女平等教育に関心を持つ	学校や行政が実施する男女平等に関する学習機会に参加する	男女平等を進める必要はないので、家庭の中の男女平等を進める必要はない	その他	無回答
全 体		814	82.8	62.2	17.6	12.5	2.0	5.3	1.6
年 齢 別	18～29歳	57	96.5	75.4	28.1	19.3	1.8	3.5	—
	30～39歳	70	84.3	70.0	20.0	12.9	1.4	7.1	1.4
	40～49歳	92	84.8	68.5	20.7	7.6	—	6.5	—
	50～59歳	126	81.7	61.1	18.3	10.3	1.6	4.8	0.8
	60～69歳	95	88.4	67.4	17.9	15.8	—	7.4	2.1
	70歳以上	22	77.3	59.1	18.2	13.6	4.5	—	13.6
	18～29歳	40	72.5	52.5	15.0	5.0	2.5	5.0	2.5
	30～39歳	56	83.9	55.4	10.7	7.1	1.8	8.9	3.6
	40～49歳	77	76.6	57.1	11.7	6.5	—	9.1	—
	50～59歳	89	78.7	49.4	16.9	18.0	6.7	2.2	—
	60～69歳	64	81.3	70.3	17.2	20.3	3.1	1.6	1.6
	70歳以上	21	85.7	47.6	14.3	14.3	4.8	—	—

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、男女とも「協力しあつて家事・子育てなどをする」が最も高く、女性の 18～29 歳で 96.5% と他の年齢層より 5 ポイント以上高くなっています。また、女性の 18～29 歳では、「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」「学校で実践されている男女平等教育に関心を持つ」が全体より 10 ポイント以上高くなっています。

(5)男女平等を進めるために学校、保育所、幼稚園などで重要だと思う取り組み

問18 あなたは、男女平等を進めるために、学校、保育所、幼稚園などでどのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)



男女平等を進めるために学校、保育所、幼稚園などで重要だと思う取り組みは、「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」が 69.0%と最も高く、次いで「幼少の頃から自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」が51.4%、「男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が43.9%、「男女平等の意識を育てる授業をする」が37.8%、「性の多様性への理解を進める」が30.8%となっています。

性別にみると、「幼少の頃から自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」「男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」は女性で5割を占め、男性より10ポイント以上高くなっています。

【年齢別 男女平等を進めるために学校、保育所、幼稚園などで重要だと思う取り組み】

(%)															
		回答者数（n）	性 別 に よ っ て 進 路 指 導 を す る	幼 少 の 頃 か ら 自 分 の 心 と か ら だ は 大 切 な も の と い う 自 尊 感 情 を 育 み 、 い じ め や 暴 力 か ら 自 分 を 守 る 力 を 育 て る	男 女 が 平 等 に 家 庭 の 責 任 を 果 た す こ の 大 切 さ を 教 え る	男 女 平 等 の 意 識 を 育 て る 授 業 を す る	性 の 多 様 性 へ の 理 解 を 進 め る	テ レ ビ や イ ン タ ー ネ ッ ト な ど の 情 報 を 読 み 解 い て 使 い こ な す 力 を つ け る 教 育 を 進 め る	教 職 員 ・ 保 育 士 へ の 、 男 女 平 等 教 育 に 関 す る 研 修 を 充 実 す る	保 護 者 会 な ど を 通 じ て 保 護 者 に 男 女 共 同 参 画 の 啓 発 を す る	校 長 や 園 長 な ど に 女 性 を 増 や し て い く	男 女 平 等 の 意 識 が 備 わ つ て い る の で 必 要 な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		814	69.0	51.4	43.9	37.8	30.8	18.7	18.2	11.9	11.2	1.1	3.7	3.4	1.0
年 齢 別	18～29歳	57	78.9	57.9	45.6	45.6	45.6	33.3	24.6	12.3	22.8	—	1.8	—	—
	30～39歳	70	68.6	65.7	51.4	45.7	35.7	22.9	18.6	14.3	14.3	—	2.9	4.3	—
	40～49歳	92	77.2	62.0	48.9	39.1	41.3	25.0	13.0	9.8	9.8	1.1	3.3	3.3	—
	50～59歳	126	62.7	54.8	54.0	35.7	24.6	12.7	15.9	11.1	9.5	—	4.0	5.6	—
	60～69歳	95	81.1	58.9	45.3	35.8	35.8	8.4	34.7	14.7	14.7	—	2.1	2.1	2.1
	70歳以上	22	59.1	45.5	63.6	40.9	27.3	13.6	31.8	18.2	22.7	—	—	—	13.6
	18～29歳	40	65.0	27.5	22.5	35.0	22.5	20.0	10.0	5.0	7.5	5.0	—	10.0	—
	30～39歳	56	69.6	48.2	35.7	17.9	25.0	21.4	10.7	7.1	7.1	3.6	8.9	3.6	—
	40～49歳	77	63.6	35.1	26.0	33.8	26.0	18.2	9.1	6.5	6.5	—	5.2	3.9	1.3
	50～59歳	89	66.3	37.1	42.7	41.6	23.6	20.2	15.7	14.6	6.7	2.2	4.5	1.1	—
60～69歳	64	68.8	56.3	39.1	40.6	34.4	18.8	20.3	17.2	9.4	1.6	4.7	3.1	—	
70歳以上	21	47.6	52.4	52.4	52.4	23.8	9.5	23.8	19.0	19.0	4.8	4.8	4.8	—	

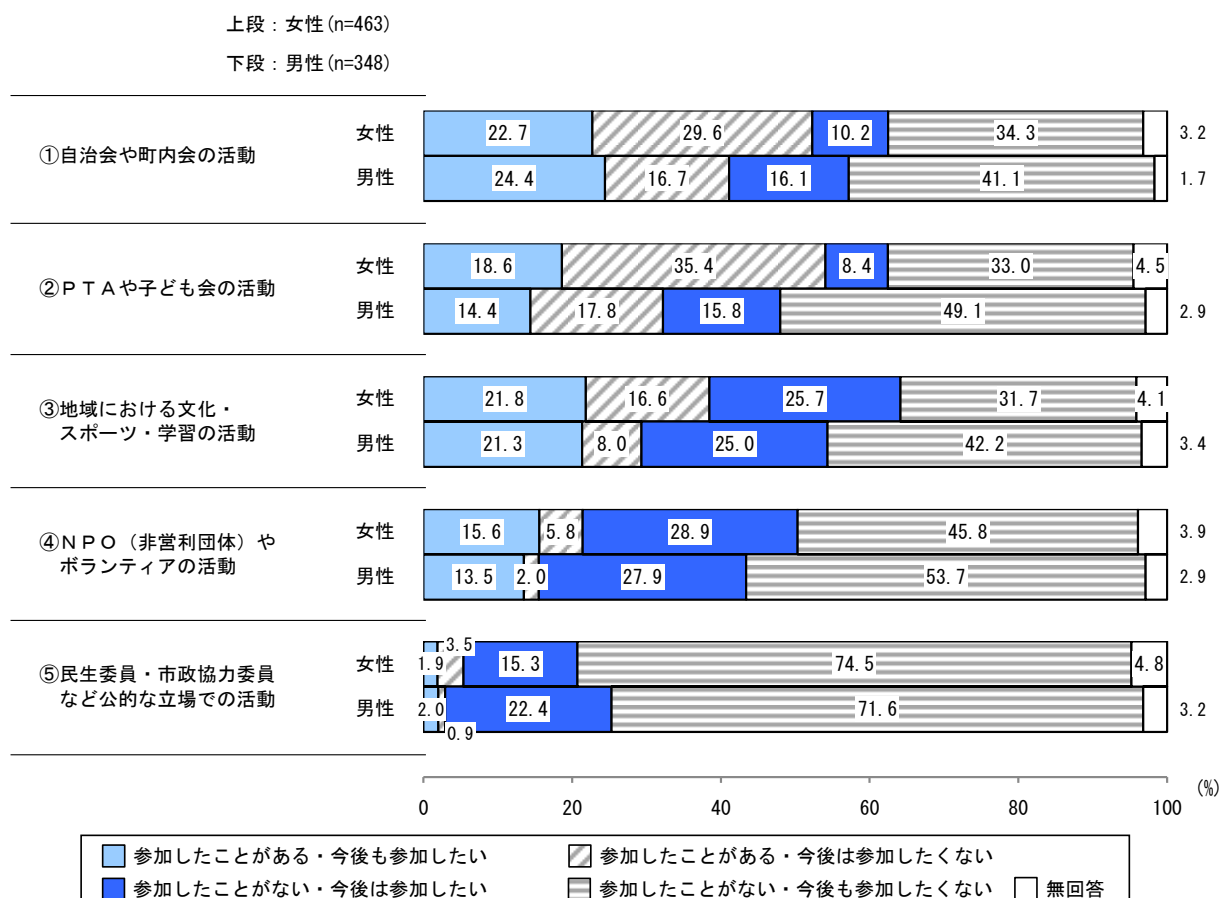
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、男女とも70歳未満の各年齢層で「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」が6割を超え、最も高くなっています。女性の30～39歳と40～49歳で「幼少の頃から自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」も6割を占め、他の年齢層より高くなっています。

(6)地域活動の参加状況

問19 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○印をつけてください。

(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)



地域活動の参加状況をたずねたところ、『参加したことがある』※は、女性で「②PTAや子ども会の活動」が54.0%と最も高く、次いで「①自治会や町内会の活動」が52.3%、「③地域における文化・スポーツ・学習の活動」が38.4%となっています。一方、男性は「①自治会や町内会の活動」が41.1%と最も高く、次いで「②PTAや子ども会の活動」が32.2%、「③地域における文化・スポーツ・学習の活動」が29.3%となっており、いずれも女性より『参加したことがある』の割合が低く、特に「②PTAや子ども会の活動」でその差が21.8ポイントあります。

『今後は(も)参加したい』※は、「③地域における文化・スポーツ・学習の活動」「④NPO(非営利団体)やボランティアの活動」で男女ともに4割を超え他の項目より高くなっています。また、男性で「①自治会や町内会の活動」「⑤民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」が女性より5ポイント以上高くなっています。

※『参加したことがある』とは、「参加したことがある・今後も参加したい」「参加したことがある・今後は参加したくない」の合計

※『今後は(も)参加したい』とは、「参加したことがある・今後も参加したい」「参加したことがない・今後は参加したい」の合計

【年齢別 地域活動の参加状況】

(%)

		回答者数 (人)	①自治会や町内会の活動						②PTAや子ども会の活動					
			今参加もした 参加したい がある・	今参加はした ことがない・	今参加はした ことがない・	今参加もした ことがない・	『参加した ことがある』	し『今後は (も) 参加 したい』	今参加もした 参加したい がある・	今参加はした ことがない・	今参加はした ことがない・	今参加もした ことがない・	『参加した ことがある』	し『今後は (も) 参加 したい』
全 体		814	23.5	24.0	12.7	37.2	47.5	36.2	16.8	27.9	11.5	39.8	44.7	28.3
年 齢 別	18～29歳	57	21.1	8.8	12.3	56.1	29.9	33.4	19.3	7.0	21.1	50.9	26.3	40.4
	30～39歳	70	11.4	10.0	21.4	55.7	21.4	32.8	8.6	10.0	21.4	57.1	18.6	30.0
	女性 40～49歳	92	26.1	28.3	10.9	33.7	54.4	37.0	32.6	34.8	4.3	27.2	67.4	36.9
	50～59歳	126	17.5	45.2	5.6	29.4	62.7	23.1	11.9	50.8	4.0	29.4	62.7	15.9
	60～69歳	95	29.5	40.0	8.4	16.8	69.5	37.9	20.0	52.6	3.2	18.9	72.6	23.2
	70歳以上	22	50.0	18.2	-	18.2	68.2	50.0	22.7	31.8	-	18.2	54.5	22.7
	18～29歳	40	22.5	15.0	7.5	55.0	37.5	30.0	17.5	15.0	10.0	57.5	32.5	27.5
	30～39歳	56	17.9	8.9	19.6	53.6	26.8	37.5	5.4	12.5	30.4	51.8	17.9	35.8
	男性 40～49歳	77	23.4	15.6	18.2	40.3	39.0	41.6	16.9	16.9	19.5	44.2	33.8	36.4
	50～59歳	89	16.9	21.3	16.9	44.9	38.2	33.8	12.4	18.0	11.2	58.4	30.4	23.6
	60～69歳	64	37.5	20.3	15.6	23.4	57.8	53.1	20.3	25.0	7.8	39.1	45.3	28.1
	70歳以上	21	38.1	14.3	14.3	23.8	52.4	52.4	9.5	19.0	19.0	38.1	28.5	28.5

		回答者数 (人)	③地域における文化・スポーツ・学習の活動						④NPO（非営利団体）や ボランティアの活動					
			今参加もした 参加したい がある・	今参加はした ことがない・	今参加はした ことがない・	今参加もした ことがない・	『参加した ことがある』	し『今後は (も) 参加 したい』	今参加もした 参加したい がある・	今参加はした ことがない・	今参加はした ことがない・	今参加もした ことがない・	『参加した ことがある』	し『今後は (も) 参加 したい』
全 体		814	21.6	13.0	25.3	36.1	34.6	46.9	14.7	4.2	28.4	49.1	18.9	43.1
年 齢 別	18～29歳	57	19.3	8.8	24.6	45.6	28.1	43.9	19.3	7.0	31.6	40.4	26.3	50.9
	30～39歳	70	12.9	4.3	25.7	55.7	17.2	38.6	11.4	2.9	20.0	65.7	14.3	31.4
	女性 40～49歳	92	23.9	13.0	33.7	28.3	36.9	57.6	14.1	3.3	37.0	43.5	17.4	51.1
	50～59歳	126	19.8	23.0	24.6	29.4	42.8	44.4	15.9	5.6	27.8	48.4	21.5	43.7
	60～69歳	95	28.4	26.3	21.1	17.9	54.7	49.5	15.8	8.4	29.5	40.0	24.2	45.3
	70歳以上	22	31.8	13.6	22.7	9.1	45.4	54.5	22.7	13.6	22.7	18.2	36.3	45.4
	18～29歳	40	20.0	10.0	15.0	52.5	30.0	35.0	17.5	2.5	37.5	40.0	20.0	55.0
	30～39歳	56	10.7	1.8	41.1	46.4	12.5	51.8	5.4	1.8	25.0	67.9	7.2	30.4
	男性 40～49歳	77	20.8	7.8	29.9	39.0	28.6	50.7	11.7	-	24.7	61.0	11.7	36.4
	50～59歳	89	19.1	11.2	22.5	47.2	30.3	41.6	12.4	4.5	23.6	59.6	16.9	36.0
	60～69歳	64	32.8	9.4	17.2	31.3	42.2	50.0	20.3	1.6	35.9	37.5	21.9	56.2
	70歳以上	21	23.8	4.8	19.0	38.1	28.6	42.8	14.3	-	23.8	42.9	14.3	38.1

(%)

		回答者数 (n)	⑤民生委員・市政協力委員など 公的な立場での活動					
			今参加 後もした 参加した ことがあ る・	今参加 後はした 参加した ことがあ る・	今参加 後はした 参加した ことがあ る・	今参加 後もした 参加した ことがあ る・	『参加 したこ とがあ る』	し『今 後は (も) 参加 したい 』
全 体			814	2.1	2.3	18.4	73.0	4.4
年 齢 別	18～29歳	57	1.8	5.3	21.1	68.4	7.1	22.9
	30～39歳	70	-	1.4	11.4	84.3	1.4	11.4
	40～49歳	92	2.2	-	14.1	80.4	2.2	16.3
	50～59歳	126	1.6	4.8	11.1	79.4	6.4	12.7
	60～69歳	95	4.2	5.3	21.1	65.3	9.5	25.3
	70歳以上	22	-	4.5	18.2	50.0	4.5	18.2
	18～29歳	40	-	-	27.5	70.0	0.0	27.5
	30～39歳	56	-	-	14.3	85.7	0.0	14.3
	40～49歳	77	1.3	2.6	23.4	70.1	3.9	24.7
	50～59歳	89	2.2	-	20.2	77.5	2.2	22.4
60～69歳	64	4.7	1.6	28.1	59.4	6.3	32.8	
70歳以上	21	-	-	23.8	57.1	-	23.8	

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

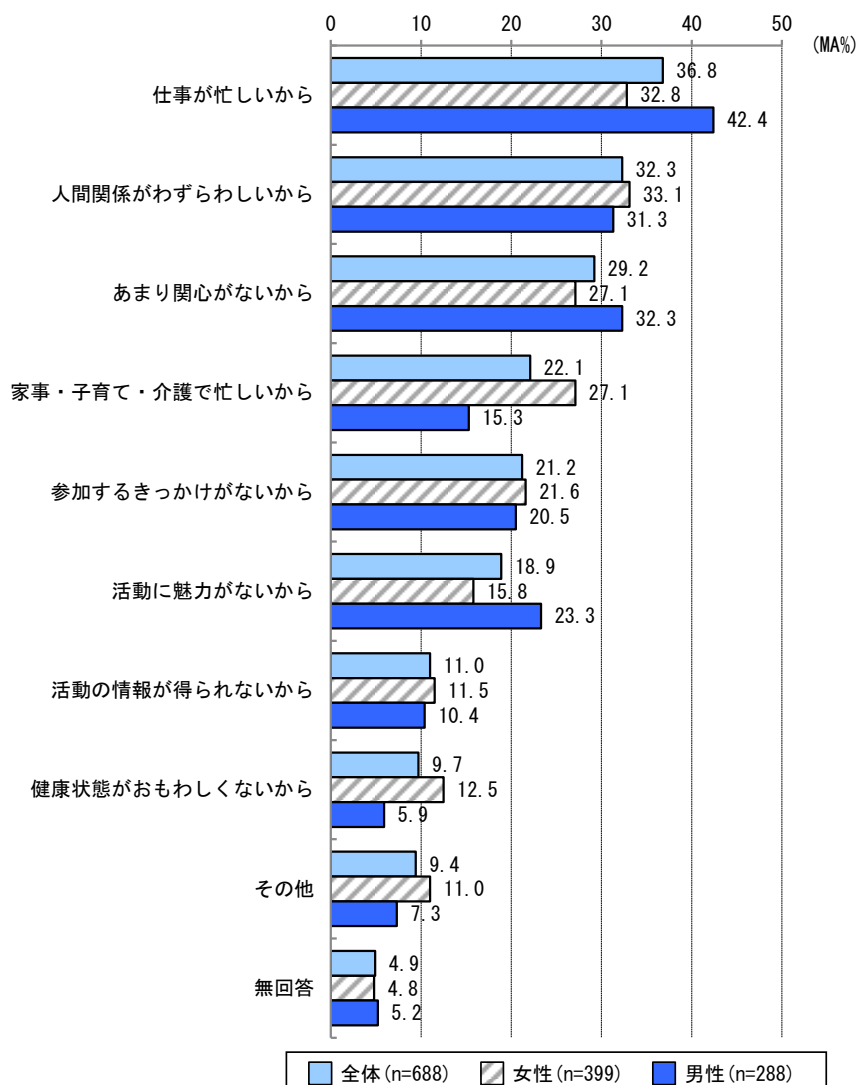
年齢別にみると、『参加したことがある』は、「①自治会や町内会の活動」が女性の 50～59 歳、60～69 歳の男女、「②PTAや子ども会の活動」が女性の 40～69 歳の各年齢層、「③地域における文化・スポーツ・学習の活動」が女性の 60～69 歳で高くなっています。

『今後は(も)参加したい』は、男性の 60～69 歳で「①自治会や町内会の活動」「④NPO(非営利団体)やボランティアの活動」で過半数を占めています。また、女性の 40～49 歳で「③地域における文化・スポーツ・学習の活動」、男性の 18～29 歳で「④NPO(非営利団体)やボランティアの活動」も過半数を占め、他の年齢層より高くなっています。

(7)地域活動に参加したくない理由

【問19で、「今後は(も)参加したくない」と回答された方におたずねします。】

問19-1 それはどうしてですか。(〇はいくつでも)



地域活動に今後は(も)参加したくないと回答した人にその理由をたずねたところ、「仕事忙しいから」が36.8%と最も高く、次いで「人間関係がわずらわしいから」が32.3%、「あまり関心がないから」が29.2%となっています。

性別にみると、女性では「人間関係がわずらわしいから」(33.1%)、男性では「仕事忙しいから」(42.4%)が最も高くなっています。また、「家事・子育て・介護で忙しいから」は女性で27.1%と男性より11.8ポイント高くなっています。

【年齢別 地域活動に参加したくない理由】

(%)

		回答者数 (n)	仕事 が忙 しい から	人 間 関 係 が わ ず ら わ し い か ら	あ ま り 関 心 が な い か ら	家 事 ・ 子 育 て ・ 介 護 で 忙 し い か ら	参 加 す る き つ か け が な い か ら	活 動 に 魅 力 が な い か ら	活 動 の 情 報 が 得 ら れ な い か ら	健 康 状 態 が お も わ し く な い か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		688	36.8	32.3	29.2	22.1	21.2	18.9	11.0	9.7	9.4	4.9
年 齢 別	18～29歳	47	25.5	31.9	48.9	12.8	34.0	10.6	19.1	2.1	6.4	12.8
	30～39歳	65	44.6	47.7	29.2	47.7	27.7	15.4	13.8	7.7	9.2	3.1
	40～49歳	81	39.5	32.1	28.4	28.4	21.0	16.0	16.0	8.6	9.9	2.5
	50～59歳	114	42.1	29.8	21.9	26.3	18.4	21.1	7.0	13.2	10.5	3.5
	60～69歳	77	13.0	31.2	20.8	20.8	18.2	11.7	6.5	26.0	14.3	3.9
	70歳以上	15	-	13.3	13.3	13.3	-	13.3	13.3	13.3	26.7	13.3
	18～29歳	34	38.2	41.2	41.2	-	26.5	20.6	8.8	2.9	5.9	5.9
	30～39歳	53	54.7	34.0	24.5	41.5	13.2	26.4	7.5	5.7	7.5	5.7
	40～49歳	64	54.7	18.8	31.3	21.9	20.3	17.2	7.8	3.1	7.8	1.6
	50～59歳	78	39.7	33.3	34.6	7.7	21.8	30.8	15.4	6.4	3.8	6.4
	60～69歳	46	28.3	34.8	34.8	2.2	19.6	21.7	8.7	10.9	10.9	8.7
	70歳以上	13	7.7	30.8	23.1	7.7	30.8	7.7	15.4	7.7	15.4	-

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、女性の 18～29 歳で「あまり関心がないから」、30～39 歳で「人間関係がわずらわしいから」「家事・子育て・介護で忙しいから」、40～49 歳と 50～59 歳で「仕事忙しいから」、60～69 歳で「人間関係がわずらわしいから」が最も高くなっています。また、女性の 60～69 歳で「健康状態がおもわしくないから」が 2 割を占めています。一方、男性の 30～39 歳と 40～49 歳で「仕事忙しいから」が過半数を占め、他の年齢層より10ポイント以上高くなっています。

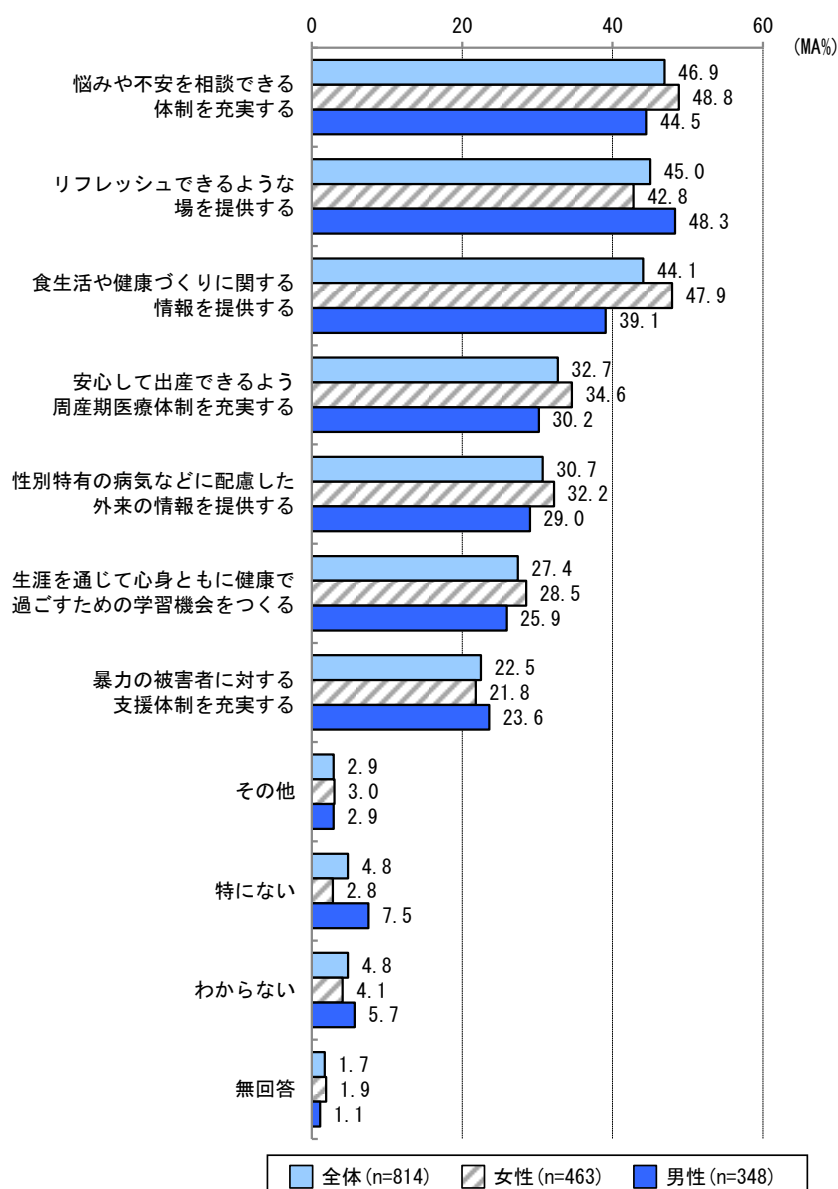
(8)心とからだの健康を保つために必要な取り組み

【全員におたずねします。】

問20 女性と男性では、健康課題の内容も抱えやすい時期も異なっています。

あなたは、心とからだの健康を保つために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)



心とからだの健康を保つために必要な取り組みは、「悩みや不安を相談できる体制を充実する」が 46.9%と最も高く、次いで「リフレッシュできるような場を提供する」が 45.0%、「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」が 44.1%となっています。

性別にみると、女性で「悩みや不安を相談できる体制を充実する」が 48.8%と最も高く、次いで「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」が 47.9%となっています。一方、男性で「リフレッシュできるような場を提供する」が 48.3%と最も高く、次いで「悩みや不安を相談できる体制を充実する」が 44.5%となっています。

【年齢別 心とからだの健康を保つために必要な取り組み】

(%)

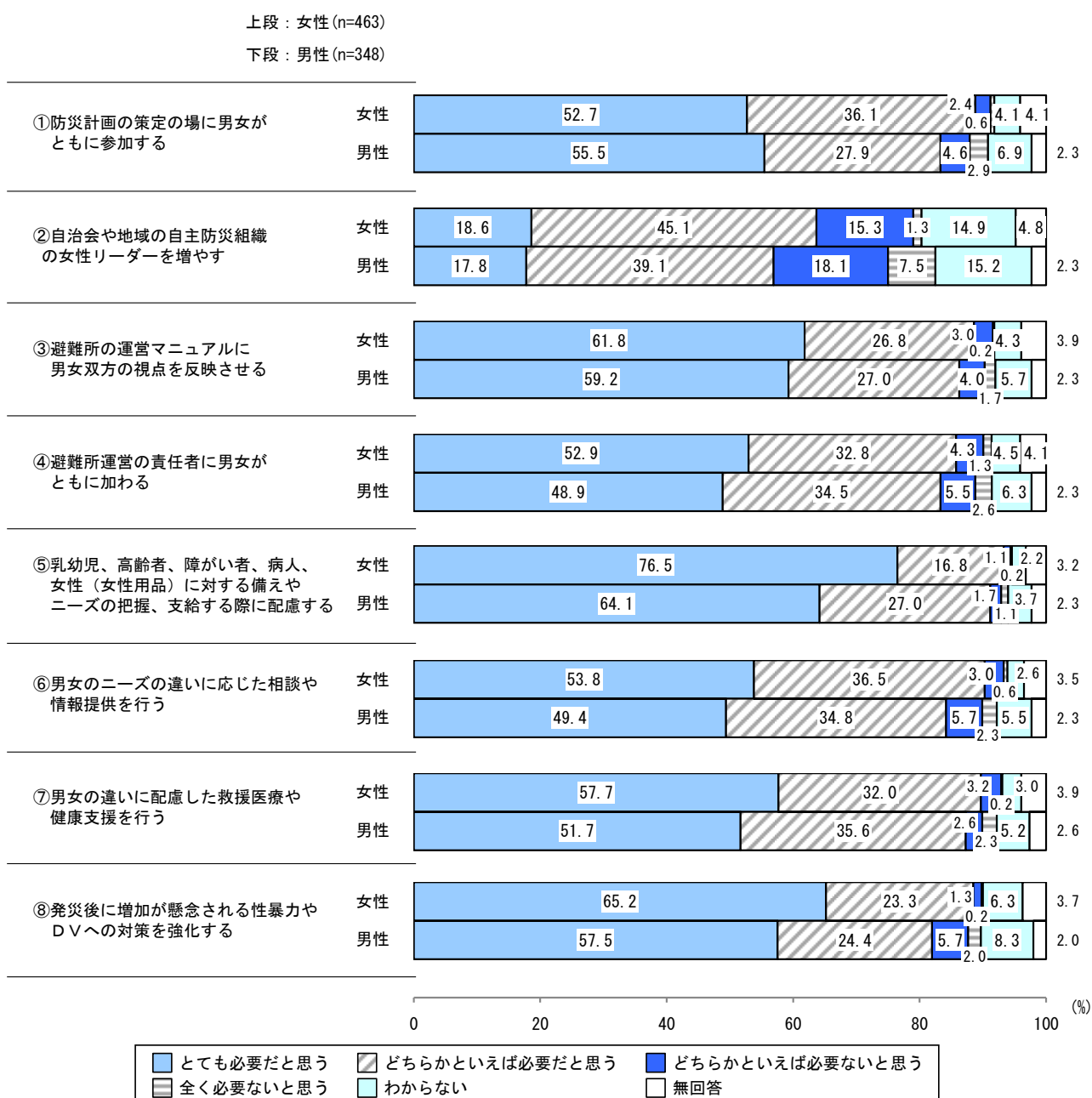
		回答者数 (n)	悩みや不安を相談できる体制を充実する	リフレッシュできるような場を提供する	食生活や健康づくりに関する情報を提供する	安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する	性別特有の病気などに配慮した外来の情報提供	生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる	暴力の被害者に対する支援体制を充実する	その他	特にな	わからない	無回答
全 体		814	46.9	45.0	44.1	32.7	30.7	27.4	22.5	2.9	4.8	4.8	1.7
年 齢 別	18～29歳	57	63.2	42.1	54.4	68.4	42.1	15.8	40.4	3.5	1.8	—	—
	30～39歳	70	51.4	58.6	38.6	50.0	31.4	30.0	22.9	2.9	1.4	1.4	—
	女 40～49歳	92	45.7	41.3	42.4	26.1	40.2	25.0	17.4	3.3	3.3	4.3	1.1
	性 50～59歳	126	47.6	42.9	50.8	23.8	25.4	29.4	19.0	3.2	3.2	7.1	2.4
	60～69歳	95	46.3	33.7	49.5	24.2	29.5	33.7	17.9	3.2	3.2	5.3	1.1
	70歳以上	22	36.4	40.9	63.6	40.9	27.3	45.5	22.7	—	4.5	—	13.6
	18～29歳	40	30.0	57.5	52.5	35.0	32.5	20.0	22.5	2.5	7.5	5.0	2.5
	30～39歳	56	46.4	64.3	37.5	41.1	41.1	26.8	21.4	1.8	3.6	7.1	—
	男 40～49歳	77	33.8	49.4	31.2	31.2	26.0	23.4	16.9	3.9	9.1	3.9	2.6
	性 50～59歳	89	47.2	39.3	37.1	25.8	30.3	21.3	28.1	2.2	6.7	6.7	—
	60～69歳	64	57.8	42.2	46.9	23.4	23.4	34.4	26.6	1.6	6.3	7.8	—
	70歳以上	21	52.4	38.1	28.6	28.6	14.3	38.1	28.6	9.5	19.0	—	4.8

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、女性の18～29歳で「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」が 68.4%と最も高くなっています。女性の 30～39 歳、男性の 18～49 歳の各年齢層で「リフレッシュできるような場を提供する」が最も高くなっています。

(9)性別に配慮した防災対策の取り組みの必要度

問21 今後の大規模災害に備え、「性別による違い」に配慮した取り組みはどの程度必要だと思いますか。
(①～⑧の項目ごとに○は1つずつ)



性別に配慮した防災対策の取り組みの必要度をたずねたところ、『必要だと思う』※は、男女ともに「⑤乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際に配慮する」が 9 割を超え最も高くなっています。また、女性で「⑥男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う」も 9 割を超えています。「②自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」は、「とても必要だと思う」が男女ともに 2 割未満と他に比べ低く、『必要だと思う』が男性で 56.9%と女性より 6.8 ポイント低くなっています。

※『必要だと思う』とは、「とても必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」の合計

【年齢別 性別に配慮した防災対策の取り組みの必要度】

(%)

		回答者数（n）	①防災計画の策定の場に男女がともに参加する							②自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす							
			とても必要だ と思う	どちらか かといえ ば必要	どちらか かといえ ば必要	全く必要 ないと思 う	わから ない	『必要 だと思 う』	『必要 ないと思 う』	とても必要 だと思 う	どちらか かといえ ば必要	どちらか かといえ ば必要	全く必要 ないと思 う	わから ない	『必要 だと思 う』	『必要 ないと思 う』	
全 体		814	53.9	32.4	3.3	1.6	5.3	86.3	4.9	18.3	42.5	16.5	3.9	15.0	60.8	20.4	
年 齢 別	女 性	18～29歳	57	66.7	29.8	1.8	-	-	96.5	1.8	35.1	42.1	15.8	-	3.5	77.2	15.8
		30～39歳	70	54.3	30.0	4.3	1.4	8.6	84.3	5.7	18.6	42.9	17.1	4.3	15.7	61.5	21.4
		40～49歳	92	53.3	41.3	2.2	-	2.2	94.6	2.2	15.2	48.9	18.5	-	16.3	64.1	18.5
		50～59歳	126	40.5	44.4	2.4	0.8	6.3	84.9	3.2	12.7	38.1	19.8	1.6	22.2	50.8	21.4
		60～69歳	95	57.9	32.6	2.1	1.1	2.1	90.5	3.2	18.9	55.8	8.4	1.1	11.6	74.7	9.5
		70歳以上	22	59.1	18.2	-	-	4.5	77.3	0.0	22.7	40.9	-	-	9.1	63.6	0.0
		男 性	18～29歳	40	62.5	22.5	5.0	2.5	7.5	85.0	7.5	20.0	32.5	20.0	12.5	15.0	52.5
	30～39歳		56	51.8	33.9	8.9	1.8	3.6	85.7	10.7	12.5	41.1	23.2	8.9	14.3	53.6	32.1
	40～49歳		77	51.9	29.9	2.6	3.9	7.8	81.8	6.5	23.4	39.0	14.3	9.1	10.4	62.4	23.4
	50～59歳		89	56.2	23.6	6.7	2.2	10.1	79.8	8.9	11.2	40.4	21.3	6.7	19.1	51.6	28.0
60～69歳	64		57.8	28.1	1.6	3.1	4.7	85.9	4.7	18.8	37.5	17.2	3.1	18.8	56.3	20.3	
	70歳以上	21	52.4	33.3	-	4.8	4.8	85.7	4.8	33.3	42.9	4.8	4.8	9.5	76.2	9.5	

		回答者数 (n)	③避難所の運営マニュアルに男女双方の 視点を反映させる							④避難所運営の責任者に男女がともに加わる							
			とても必要 だと思 う	どちらか かといえ ば必要	どちらか かといえ ば必要	全く必要 ないと思 う	わから ない	『必要 だと思 う』	『必要 ないと思 う』	とても必要 だと思 う	どちらか かといえ ば必要	どちらか かといえ ば必要	全く必要 ないと思 う	わから ない	『必要 だと思 う』	『必要 ないと思 う』	
全 体		814	60.7	26.8	3.4	0.9	4.9	87.5	4.3	51.2	33.4	4.8	1.8	5.3	84.6	6.6	
年 齢 別	女 性	18～29歳	57	77.2	17.5	3.5	-	1.8	94.7	3.5	64.9	29.8	3.5	-	1.8	94.7	3.5
		30～39歳	70	65.7	22.9	5.7	-	2.9	88.6	5.7	47.1	31.4	10.0	4.3	5.7	78.5	14.3
		40～49歳	92	65.2	28.3	2.2	-	3.3	93.5	2.2	54.3	38.0	4.3	-	2.2	92.3	4.3
		50～59歳	126	53.2	34.1	2.4	0.8	5.6	87.3	3.2	46.0	33.3	4.0	1.6	8.7	79.3	5.6
		60～69歳	95	63.2	25.3	2.1	-	5.3	88.5	2.1	56.8	33.7	2.1	1.1	2.1	90.5	3.2
		70歳以上	22	40.9	22.7	4.5	-	9.1	63.6	4.5	59.1	18.2	-	-	4.5	77.3	0.0
	男 性	18～29歳	40	65.0	25.0	2.5	2.5	5.0	90.0	5.0	50.0	30.0	5.0	5.0	10.0	80.0	10.0
		30～39歳	56	66.1	28.6	1.8	-	3.6	94.7	1.8	46.4	30.4	16.1	1.8	5.4	76.8	17.9
		40～49歳	77	46.8	33.8	5.2	1.3	9.1	80.6	6.5	42.9	40.3	3.9	1.3	7.8	83.2	5.2
		50～59歳	89	57.3	25.8	7.9	2.2	5.6	83.1	10.1	50.6	34.8	4.5	3.4	5.6	85.4	7.9
60～69歳		64	67.2	20.3	1.6	1.6	4.7	87.5	3.2	53.1	32.8	1.6	1.6	6.3	85.9	3.2	
70歳以上		21	57.1	28.6	-	4.8	4.8	85.7	4.8	52.4	38.1	-	4.8	-	90.5	4.8	

(96)

		回答者数 (n)	⑤乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際に配慮する							⑥男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う						
			とても必要だと思う	どちらかといえば必要	どちらかといえば必要	全く必要ないと思う	わからない	『必要だと思う』	『必要ないと思う』	とても必要だと思う	どちらかといえば必要	どちらかといえば必要	全く必要ないと思う	わからない	『必要だと思う』	『必要ないと思う』
全 体		814	71.1	21.1	1.4	0.6	2.8	92.2	2.0	51.8	35.7	4.2	1.4	3.8	87.5	5.6
年 齢 別	18～29歳	57	78.9	19.3	1.8	-	-	98.2	1.8	66.7	29.8	3.5	-	-	96.5	3.5
	30～39歳	70	80.0	12.9	2.9	-	2.9	92.9	2.9	58.6	27.1	8.6	1.4	2.9	85.7	10.0
	40～49歳	92	79.3	17.4	-	-	2.2	96.7	0.0	55.4	40.2	-	-	3.3	95.6	0.0
	50～59歳	126	73.0	19.8	0.8	0.8	2.4	92.8	1.6	51.6	39.7	1.6	1.6	2.4	91.3	3.2
	60～69歳	95	76.8	16.8	1.1	-	2.1	93.6	1.1	47.4	41.1	4.2	-	3.2	88.5	4.2
	70歳以上	22	68.2	4.5	-	-	4.5	72.7	0.0	40.9	31.8	-	-	4.5	72.7	0.0
	18～29歳	40	60.0	27.5	2.5	2.5	7.5	87.5	5.0	52.5	30.0	7.5	5.0	5.0	82.5	12.5
	30～39歳	56	73.2	21.4	3.6	-	1.8	94.6	3.6	51.8	33.9	10.7	-	3.6	85.7	10.7
	40～49歳	77	51.9	39.0	-	-	6.5	90.9	0.0	37.7	41.6	5.2	2.6	9.1	79.3	7.8
	50～59歳	89	68.5	22.5	3.4	2.2	1.1	91.0	5.6	49.4	34.8	5.6	3.4	4.5	84.2	9.0
	60～69歳	64	68.8	21.9	-	1.6	3.1	90.7	1.6	60.9	28.1	1.6	-	6.3	89.0	1.6
	70歳以上	21	57.1	33.3	-	-	4.8	90.4	0.0	42.9	42.9	4.8	4.8	-	85.8	9.6

		回答者数 (n)	⑦男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う							⑧発災後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する						
			とても必要だと思う	どちらかといえば必要	どちらかといえば必要	全く必要ないと思う	わからない	『必要だと思う』	『必要ないと思う』	とても必要だと思う	どちらかといえば必要	どちらかといえば必要	全く必要ないと思う	わからない	『必要だと思う』	『必要ないと思う』
全 体		814	55.2	33.4	2.9	1.1	3.9	88.6	4.0	61.9	23.7	3.2	1.0	7.1	85.6	4.2
年 齢 別	18～29歳	57	73.7	24.6	1.8	-	-	98.3	1.8	82.5	15.8	1.8	-	-	98.3	1.8
	30～39歳	70	62.9	28.6	4.3	-	2.9	91.5	4.3	72.9	18.6	1.4	-	5.7	91.5	1.4
	40～49歳	92	54.3	37.0	3.3	-	3.3	91.3	3.3	63.0	29.3	1.1	-	5.4	92.3	1.1
	50～59歳	126	53.2	35.7	3.2	0.8	3.2	88.9	4.0	57.9	29.4	1.6	-	6.3	87.3	1.6
	60～69歳	95	54.7	34.7	3.2	-	4.2	89.4	3.2	65.3	20.0	1.1	-	10.5	85.3	1.1
	70歳以上	22	54.5	9.1	4.5	-	4.5	63.6	4.5	50.0	13.6	-	4.5	9.1	63.6	4.5
	18～29歳	40	55.0	27.5	5.0	5.0	7.5	82.5	10.0	65.0	20.0	2.5	5.0	7.5	85.0	7.5
	30～39歳	56	62.5	32.1	3.6	-	1.8	94.6	3.6	62.5	25.0	7.1	-	5.4	87.5	7.1
	40～49歳	77	36.4	45.5	3.9	1.3	9.1	81.9	5.2	51.9	29.9	5.2	-	10.4	81.8	5.2
	50～59歳	89	52.8	36.0	2.2	3.4	4.5	88.8	5.6	55.1	24.7	7.9	2.2	9.0	79.8	10.1
	60～69歳	64	59.4	28.1	-	1.6	4.7	87.5	1.6	57.8	20.3	3.1	3.1	10.9	78.1	6.2
	70歳以上	21	42.9	47.6	-	4.8	-	90.5	4.8	57.1	23.8	9.5	4.8	-	80.9	14.3

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

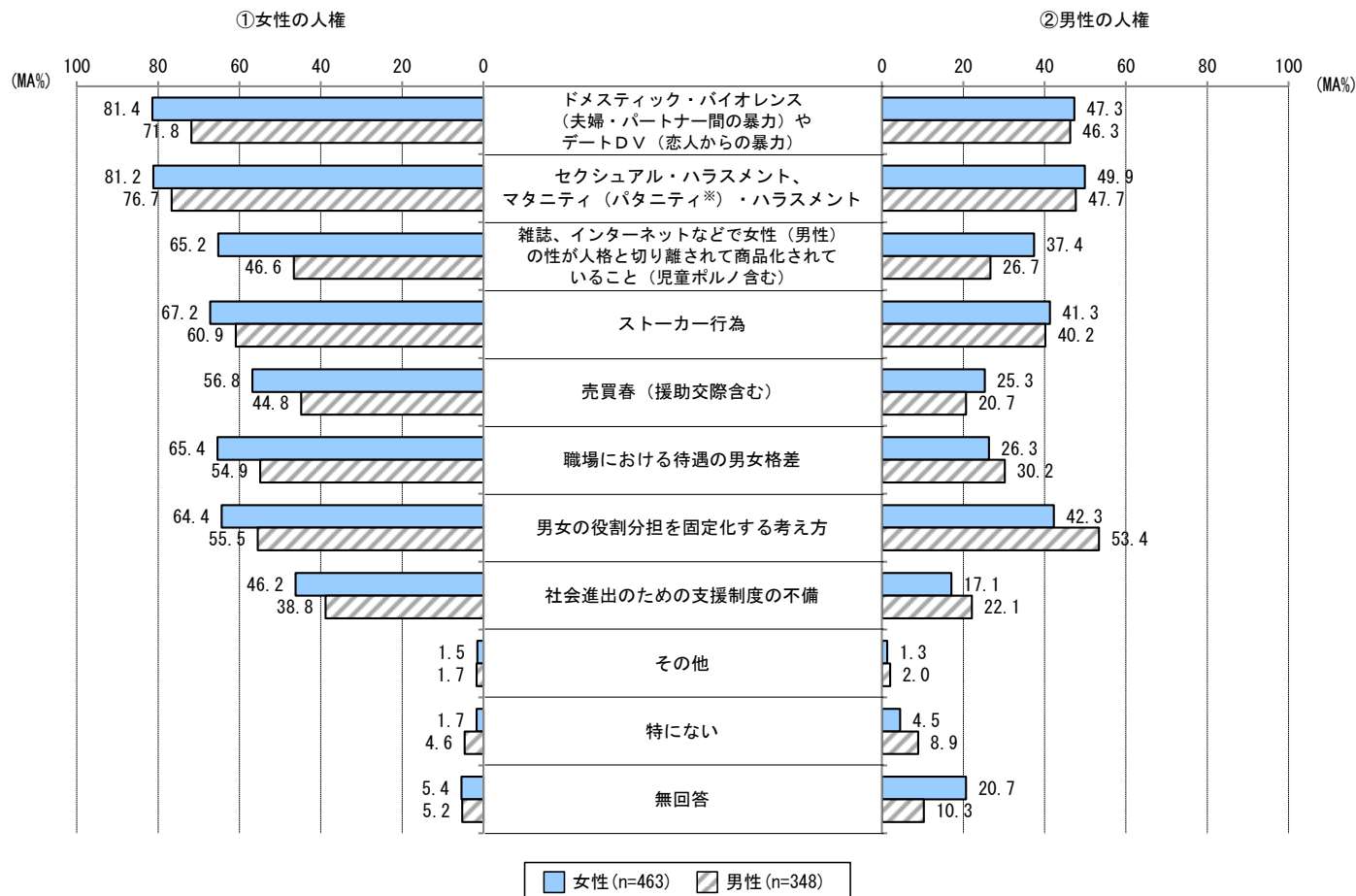
年齢別にみると、女性の18～29歳ですべての項目において「とても必要だと思う」が全体より5ポイント以上高くなっています。一方、男性の18～29歳と30～39歳で「②自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」、30～39歳で「④避難所運営の責任者に男女がともに加わる」の『必要ないと思う』※が他の年齢層より高くなっています。

※『必要ないと思う』とは、「全く必要ないと思う」「どちらかといえば必要ないと思う」の合計

4. 人権の尊重について

(1) 人権が侵害されていると思うこと

問22 人権が侵害されていると思うことはどのようなことですか。(①、②それぞれに○はいくつでも)



①女性の人権において、侵害されていると思うことは、女性では「ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力)やデートDV(恋人からの暴力)」(81.4%)、男性では「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」(76.7%)が最も高くなっています。「雑誌、インターネットなどで女性(男性)の性が人格と切り離されて商品化されていること(児童ポルノ含む)」は、女性で65.2%と男性より18.6ポイント高くなっています。

②男性の人権において、侵害されていると思うことは、女性では「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」(49.9%)が最も高くなっています。男性では「男女の役割分担を固定化する考え方」(53.4%)が最も高くなっており、女性より11.1ポイント高くなっています。

※パタニティ・ハラスメント…育児制度などを利用しようとする男性社員への嫌がらせ・不当な扱いのこと。

【年齢別 ①女性の人権が侵害されていると思うこと】

(%)

		回答者数 (n)	セクシュアル・ハラスメント、マタニティ (パタニティ)	ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力)やデートDV(恋人からの暴力)	ストーカー行為	職場における待遇の男女格差	男女の役割分担を固定化する考え方	雑誌、インターネットなどで女性(男性)の性が人格と切り離されて商品化されていること(児童ポルノ含む)	売買春(援助交際含む)	社会進出のための支援制度の不備	その他	特 に な い	無 回 答
全 体		814	79.2	77.3	64.5	60.9	60.6	57.2	51.7	43.0	1.6	2.9	5.4
年 齢 別	18～29歳	57	94.7	91.2	73.7	75.4	66.7	66.7	63.2	50.9	—	1.8	—
	30～39歳	70	92.9	82.9	70.0	65.7	64.3	71.4	60.0	50.0	1.4	—	1.4
	40～49歳	92	85.9	83.7	65.2	65.2	65.2	66.3	55.4	42.4	—	1.1	3.3
	50～59歳	126	71.4	77.8	65.9	60.3	61.1	63.5	50.0	44.4	1.6	3.2	6.3
	60～69歳	95	81.1	81.1	69.5	66.3	70.5	66.3	61.1	47.4	4.2	1.1	7.4
	70歳以上	22	50.0	68.2	50.0	68.2	50.0	45.5	59.1	45.5	—	4.5	22.7
	18～29歳	40	80.0	82.5	70.0	50.0	52.5	37.5	37.5	40.0	2.5	12.5	—
	30～39歳	56	75.0	73.2	60.7	55.4	57.1	42.9	48.2	33.9	3.6	3.6	8.9
	40～49歳	77	81.8	66.2	51.9	46.8	42.9	37.7	33.8	29.9	1.3	3.9	2.6
	50～59歳	89	71.9	75.3	58.4	49.4	57.3	42.7	40.4	33.7	1.1	2.2	2.2
	60～69歳	64	81.3	68.8	65.6	68.8	62.5	64.1	57.8	50.0	1.6	3.1	7.8
	70歳以上	21	61.9	61.9	71.4	71.4	71.4	66.7	66.7	66.7	—	9.5	19.0

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、女性の18～29歳と30～39歳で「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」が9割を占め、最も高くなっています。一方、男性の18～29歳と50～59歳で「ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力)やデートDV(恋人からの暴力)」、30～39歳と40～49歳、60～69歳で「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」が8割前後を占め、最も高くなっています。また、「雑誌、インターネットなどで女性(男性)の性が人格と切り離されて商品化されていること(児童ポルノ含む)」は、女性の18～69歳の各年齢層で6割を超えているのに対し、男性の18～59歳の各年齢層では4割前後と大きな差がみられます。

【年齢別 ②男性の人権が侵害されていると思うこと】

(%)

		回答者数 (n)	セクシュアル・ハラスメント、マタニティ (パタニティ)・ハラスメント	男女の役割分担を固定化する考え方	暴力) やデートDV (恋人からの暴力)	ドメスティック・バイオレンス (夫婦・パートナー間の暴力)	ストーカー行為	雑誌、インターネットなどで女性 (男性) の性が人格と切り離されて商品化されていること (児童ポルノ含む)	職場における待遇の男女格差	売買春 (援助交際含む)	社会進出のための支援制度の不備	その他	特にない	無回答
全 体		814	49.0	47.1	46.9	40.9	32.9	28.0	23.5	19.2	1.6	6.4	16.3	
年 齢 別	18～29歳	57	70.2	59.6	71.9	49.1	42.1	47.4	36.8	24.6	1.8	8.8	5.3	
	30～39歳	70	57.1	52.9	55.7	42.9	37.1	32.9	30.0	15.7	—	4.3	10.0	
	40～49歳	92	56.5	50.0	48.9	41.3	38.0	30.4	26.1	21.7	1.1	4.3	12.0	
	50～59歳	126	42.1	37.3	42.1	45.2	38.1	23.8	23.8	15.9	1.6	5.6	25.4	
	60～69歳	95	41.1	30.5	37.9	36.8	37.9	13.7	20.0	11.6	2.1	2.1	33.7	
	70歳以上	22	31.8	13.6	22.7	13.6	18.2	4.5	9.1	13.6	—	—	45.5	
	18～29歳	40	72.5	50.0	67.5	50.0	37.5	40.0	30.0	32.5	5.0	15.0	2.5	
	30～39歳	56	53.6	58.9	53.6	44.6	25.0	30.4	23.2	23.2	3.6	10.7	5.4	
	40～49歳	77	51.9	50.6	54.5	40.3	26.0	29.9	15.6	22.1	1.3	6.5	5.2	
	50～59歳	89	44.9	58.4	42.7	38.2	27.0	27.0	21.3	20.2	1.1	4.5	12.4	
	60～69歳	64	29.7	54.7	31.3	32.8	21.9	31.3	18.8	20.3	1.6	10.9	18.8	
	70歳以上	21	38.1	33.3	19.0	42.9	28.6	23.8	19.0	14.3	—	14.3	19.0	

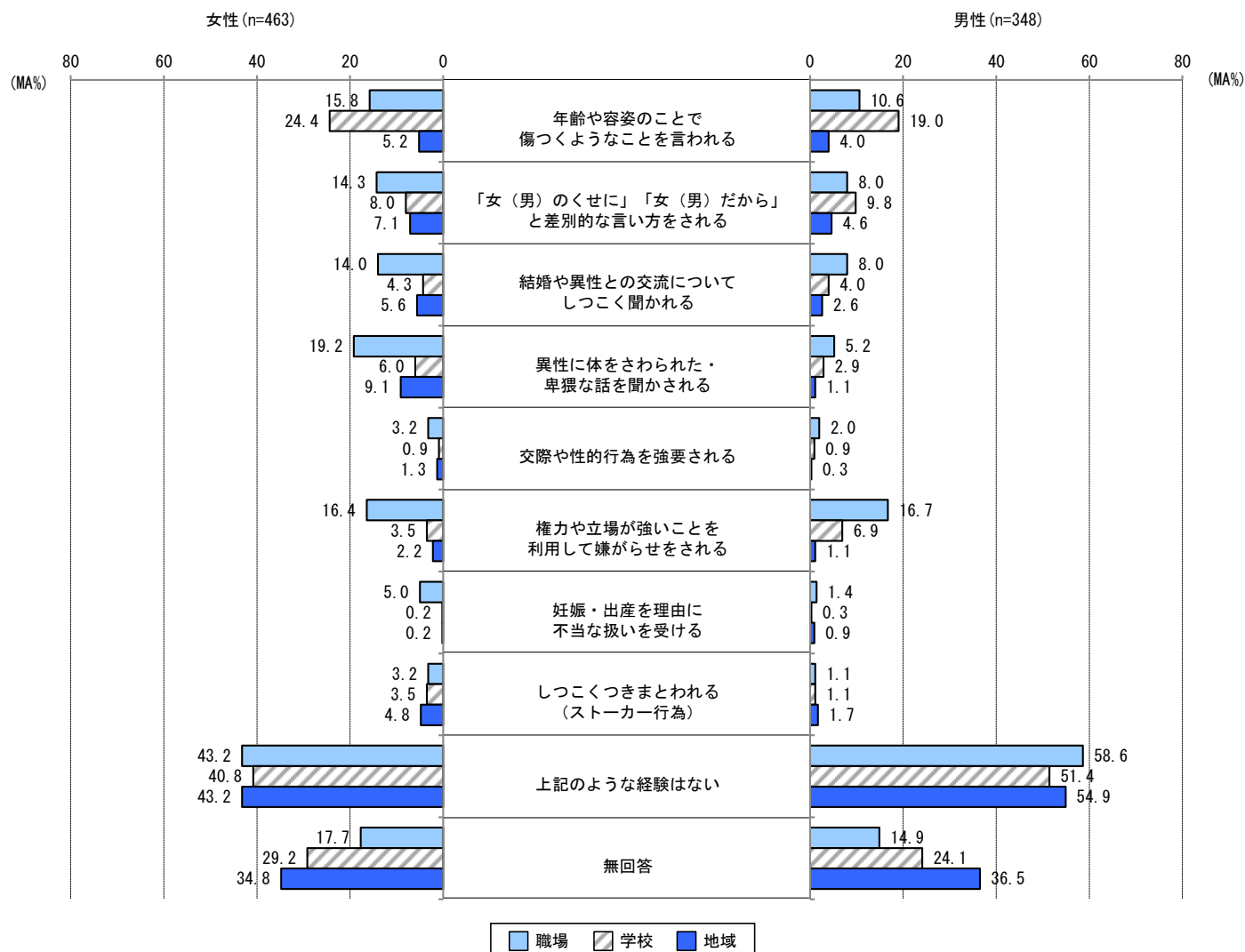
※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、男女とも年齢が下がるほど「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ)・ハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力)やデートDV(恋人からの暴力)」が高くなる傾向にあり、18～29 歳で 7 割前後を占めています。また、男性の 30～39 歳、50～59 歳と 60～69 歳で「男女の役割分担を固定化する考え方」が最も高くなっています。

(2)職場や学校、地域などにおいて性差別的な行為を受けた経験

問23 あなたは、職場や学校、地域などにおいて次のような行為を受けたことがありますか。

(○はそれぞれいくつでも)



職場において性差別的な行為を受けた経験についてたずねたところ、女性では「異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる」が19.2%と最も高くなっており、男性より14.0ポイント高くなっています。一方、男性では「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる」(16.7%)が最も高くなっています。

学校において、男女ともに「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が2割前後を占め最も高くなっています。

地域において、女性では「異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる」が9.1%と最も高くなっており、男性より8.0ポイント高くなっています。一方、男性では「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる」が4.6%と最も高くなっています。

職場・学校・地域いずれにおいても、男性で「上記のような経験はない」が女性より10ポイント以上高くなっています。

【年齢別 職場において性差別的な行為を受けた経験】

(%)

		回答者数 (n)	年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる	「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる	結婚や異性との交流についてしつこく聞かれる	異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる	交際や性的行為を強要される	権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる	妊娠・出産を理由に不当な扱いを受ける	しつこくつきまとわれる(ストーーカー行為)	左記のような経験はない	無回答
全 体		814	13.5	11.5	11.4	13.1	2.7	16.5	3.4	2.3	49.9	16.6
年 齢 別	18～29歳	57	10.5	8.8	14.0	10.5	1.8	12.3	3.5	7.0	45.6	31.6
	30～39歳	70	17.1	21.4	22.9	18.6	2.9	20.0	5.7	1.4	38.6	5.7
	40～49歳	92	18.5	14.1	18.5	26.1	3.3	23.9	9.8	2.2	37.0	13.0
	50～59歳	126	19.8	14.3	12.7	20.6	4.0	15.1	4.0	2.4	42.9	19.8
	60～69歳	95	13.7	14.7	8.4	20.0	4.2	14.7	3.2	5.3	50.5	13.7
	70歳以上	22	-	4.5	-	4.5	-	-	-	-	50.0	40.9
	18～29歳	40	12.5	10.0	10.0	5.0	2.5	10.0	-	2.5	52.5	30.0
	30～39歳	56	12.5	8.9	8.9	7.1	3.6	17.9	-	-	57.1	16.1
	40～49歳	77	15.6	13.0	11.7	5.2	2.6	18.2	5.2	2.6	59.7	5.2
	50～59歳	89	7.9	6.7	7.9	3.4	2.2	21.3	1.1	1.1	65.2	9.0
男 性	60～69歳	64	9.4	4.7	4.7	7.8	-	15.6	-	-	54.7	15.6
	70歳以上	21	-	-	-	-	-	4.8	-	-	52.4	42.9

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

職場における状況を年齢別にみると、女性の30～39歳と40～49歳で「結婚や異性との交流についてしつこく聞かれる」が他の年齢層より高くなっています。また、女性の30～69歳の各年齢層で「異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる」も2割前後を占め、他の年齢層より高くなっています。

【年齢別 学校において性差別的な行為を受けた経験】

(%)

		回答者数 (n)	年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる	「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる	結婚や異性との交流についてしつこく聞かれる	異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる	交際や性的行為を強要される	権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる	妊娠・出産を理由に不当な扱いを受ける	しつこくつきまとわれる(ストーーカー行為)	左記のような経験はない	無回答
全 体		814	22.0	8.7	4.2	4.7	0.9	4.9	0.2	2.5	45.5	27.0
年 齢 別	18～29歳	57	29.8	12.3	10.5	10.5	1.8	8.8	-	10.5	43.9	14.0
	30～39歳	70	37.1	5.7	8.6	4.3	1.4	5.7	1.4	2.9	40.0	18.6
	40～49歳	92	28.3	9.8	4.3	7.6	1.1	-	-	3.3	32.6	31.5
	50～59歳	126	21.4	7.9	1.6	6.3	0.8	3.2	-	3.2	39.7	35.7
	60～69歳	95	17.9	6.3	2.1	4.2	-	3.2	-	1.1	47.4	30.5
	70歳以上	22	-	4.5	-	-	-	-	-	-	50.0	45.5
	18～29歳	40	30.0	27.5	10.0	15.0	-	22.5	-	2.5	45.0	10.0
	30～39歳	56	32.1	5.4	7.1	-	-	5.4	-	-	50.0	14.3
	40～49歳	77	15.6	11.7	3.9	2.6	2.6	5.2	1.3	3.9	54.5	24.7
	50～59歳	89	15.7	5.6	1.1	1.1	1.1	5.6	-	-	53.9	27.0
	60～69歳	64	12.5	7.8	3.1	1.6	-	1.6	-	-	48.4	34.4
	70歳以上	21	9.5	4.8	-	-	-	9.5	-	-	52.4	33.3

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

学校における状況を年齢別にみると、女性の 18～49 歳、男性の 18～39 歳の各年齢層で「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が 3 割前後を占めています。また、男性の 18～29 歳で「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる」「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる」が 2 割を占め、他の年齢層より 10 ポイント以上高くなっています。

【年齢別 地域において性差別的な行為を受けた経験】

(%)

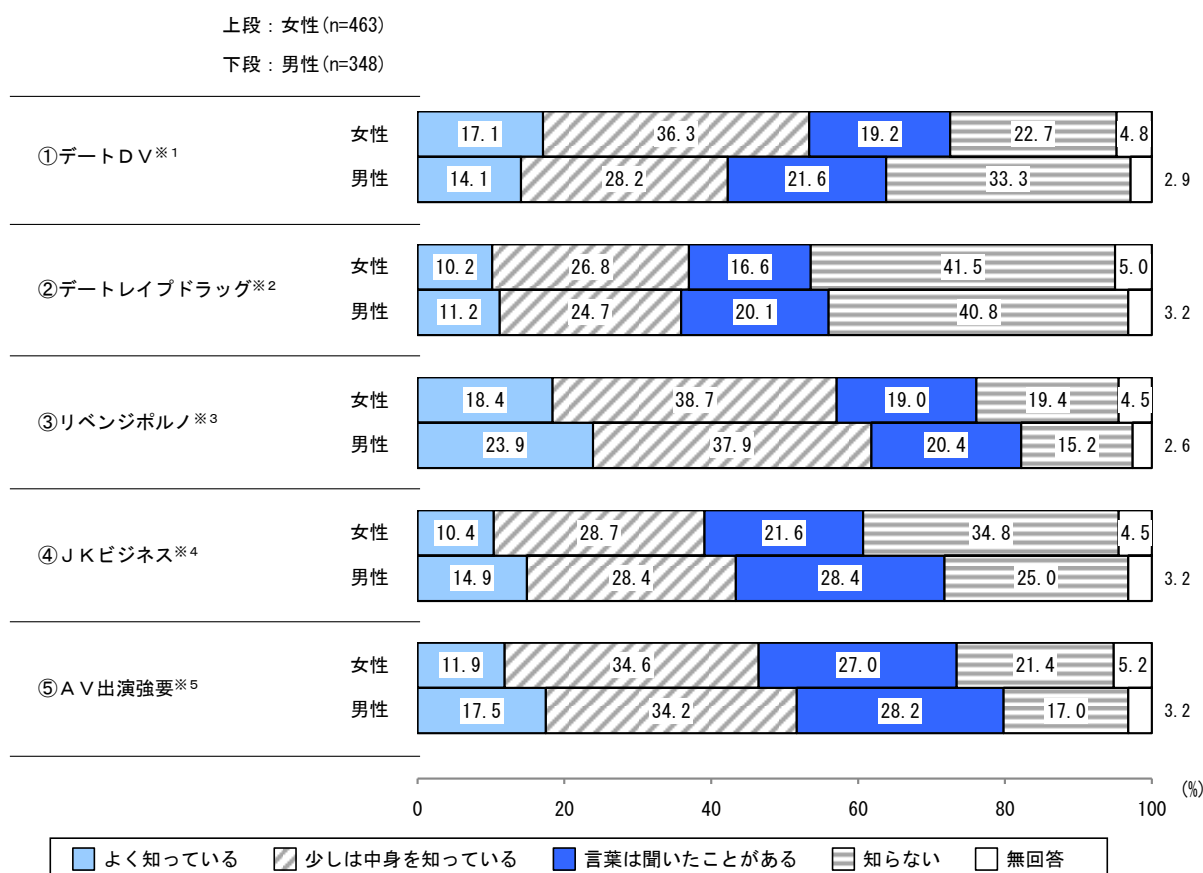
		回答者数 (n)	年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる	「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる	結婚や異性との交流についてしつこく聞かれる	異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる	交際や性的行為を強要される	権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる	妊娠・出産を理由に不当な扱いを受ける	しつこくつきまとわれる(ストーーカー行為)	左記のような経験はない	無回答
全 体		814	4.7	6.0	4.3	5.7	0.9	1.7	0.5	3.4	48.3	35.5
年 齢 別	18～29歳	57	7.0	7.0	3.5	7.0	1.8	-	-	5.3	47.4	36.8
	30～39歳	70	8.6	5.7	8.6	11.4	1.4	-	1.4	8.6	45.7	28.6
	40～49歳	92	3.3	5.4	3.3	12.0	1.1	3.3	-	6.5	37.0	37.0
	50～59歳	126	5.6	7.9	8.7	5.6	1.6	3.2	-	2.4	38.9	39.7
	60～69歳	95	4.2	8.4	3.2	10.5	1.1	3.2	-	4.2	50.5	27.4
	70歳以上	22	-	9.1	4.5	9.1	-	-	-	-	45.5	40.9
	18～29歳	40	5.0	17.5	10.0	5.0	-	2.5	-	5.0	45.0	35.0
	30～39歳	56	3.6	1.8	1.8	-	-	-	-	-	57.1	39.3
	40～49歳	77	2.6	1.3	1.3	-	-	1.3	1.3	1.3	54.5	37.7
	50～59歳	89	3.4	-	-	1.1	-	-	-	1.1	59.6	34.8
男 性	60～69歳	64	7.8	9.4	4.7	1.6	1.6	3.1	3.1	3.1	51.6	35.9
	70歳以上	21	-	4.8	-	-	-	-	-	-	57.1	38.1

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

地域における状況を年齢別にみると、男性の18～29歳で「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる」が17.5%と他の年齢層より高くなっています。

(3)性的な被害に関する問題の認知状況

問24 あなたは、次の問題について知っていますか。(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)



性的な被害に関する問題の認知状況をたずねたところ、『知っている』※が高い順に、「③リベンジポルノ」(女性：76.1% 男性：82.2%)、「⑤AV出演強要」(女性：73.5% 男性：79.9%)となっています。次いで、女性では「①デートDV」が72.6%と男性より8.7ポイント、男性では「④JKビジネス」が71.7%と女性より11.0ポイント高くなっています。

※『知っている』とは、「よく知っている」「少しは中身を知っている」「言葉は聞いたことがある」の合計

※1 デートDV…交際中のカップル間で起こる暴力のこと。相手を自分の思いどおりにコントロールしようとする態度や行動。殴る、蹴るだけでなく、ひどい言葉で傷つける、監視する、友達との交際を制限するなど「暴力」の種類は、様々です。

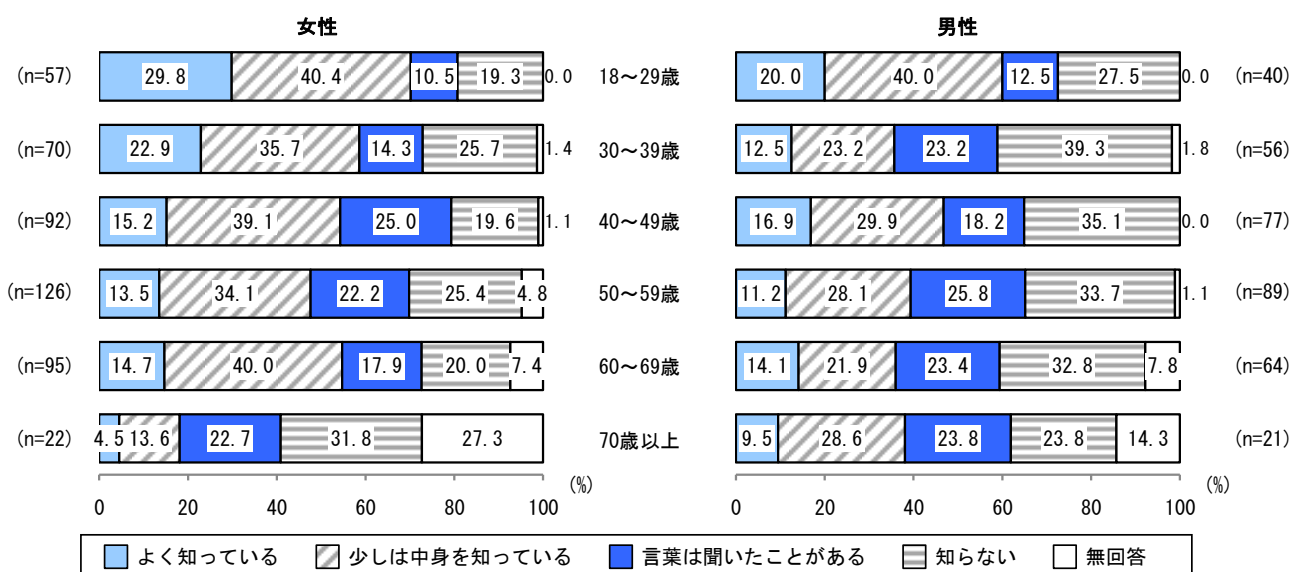
※2 デートレイプドラッグ…デートや飲み会ですすめられた飲食物に睡眠導入剤などが混入されており、意識を失ったところで性暴力にあう被害のこと。

※3 リベンジポルノ…交際に撮影した画像や動画が、元交際相手によって同意なくインターネット上に公表されること。

※4 JKビジネス…甘い言葉で誘われ、高収入アルバイトに応募すると、性的サービスを要求されたり、性暴力・ストーカー行為などの被害にあう危険性の高いアルバイトのこと。

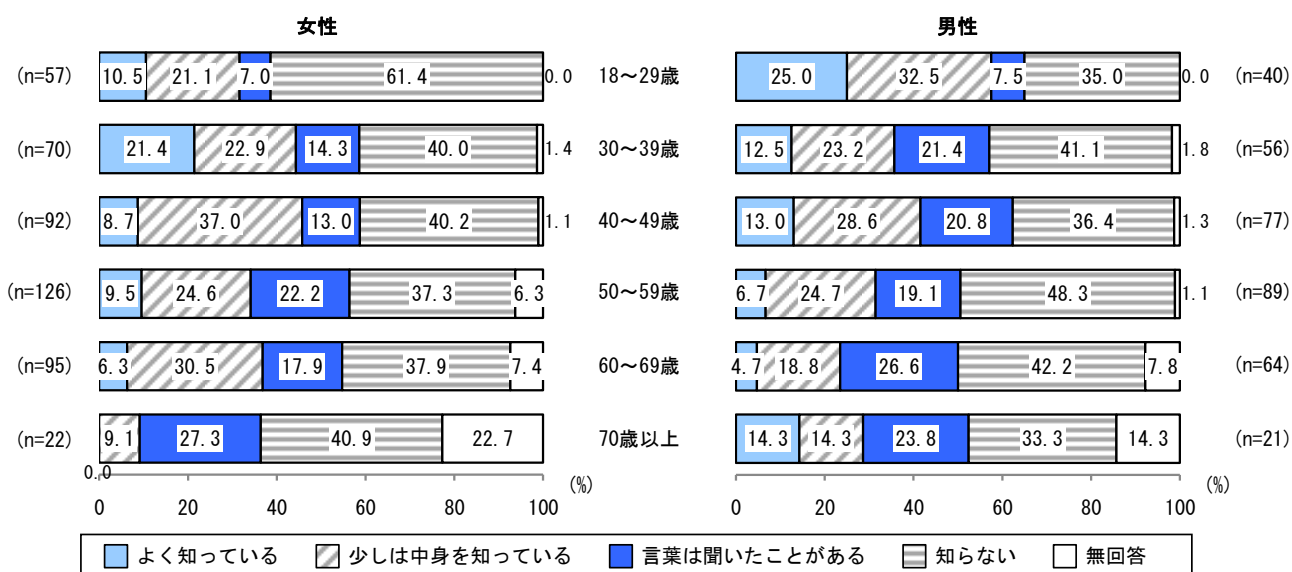
※5 AV出演強要…モデル契約などと偽ってスカウトされ、半ば強引にアダルトビデオ(AV)への出演強要や、出演を拒否すると多額の違約金を請求されること。

【年齢別 性的な被害に関する問題の認知状況 ①デートDV】



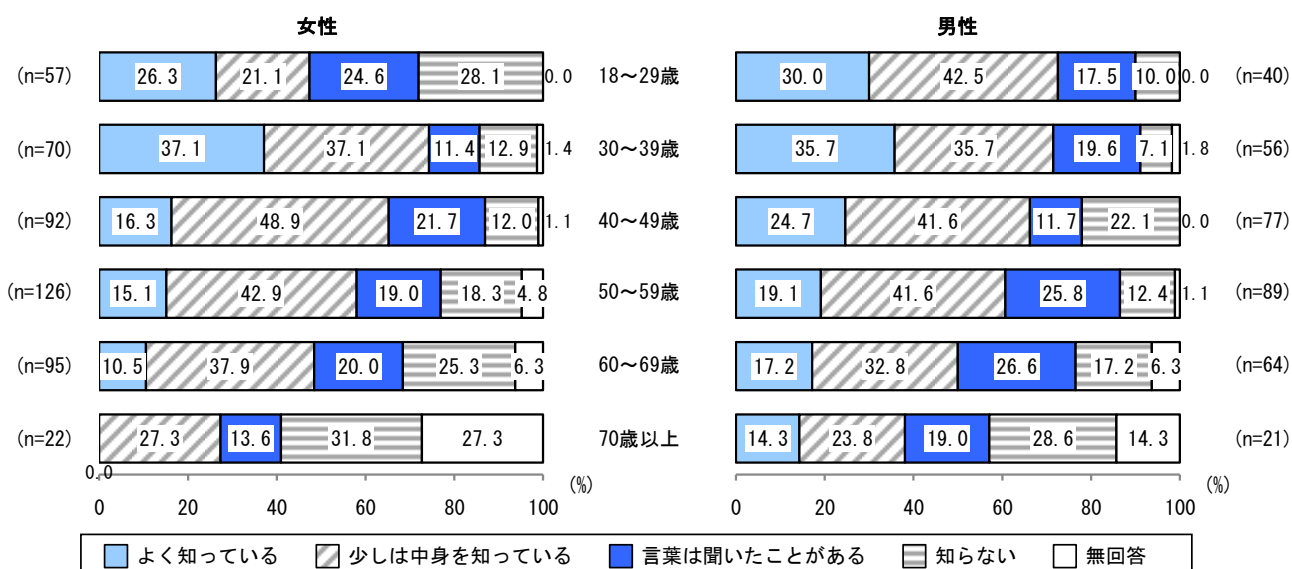
年齢別にみると、女性の18～29歳と30～39歳、男性の18～29歳で「よく知っている」が2割を占め、他の年齢層より高くなっています。

【年齢別 性的な被害に関する問題の認知状況 ②デートレイプドラッグ】



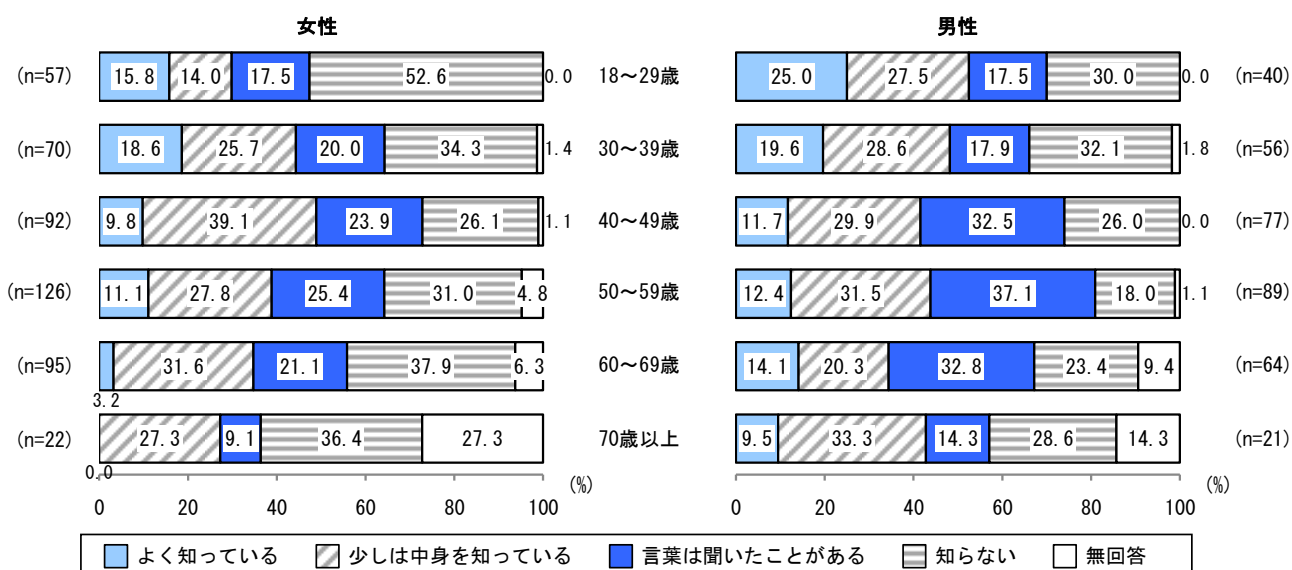
年齢別にみると、女性の18～29歳で「知らない」が61.4%と他の年齢層より10ポイント以上高くなっています。女性の30～39歳、男性の18～29歳で「よく知っている」が2割を占めています。

【年齢別 性的な被害に関する問題の認知状況 ③リベンジポルノ】



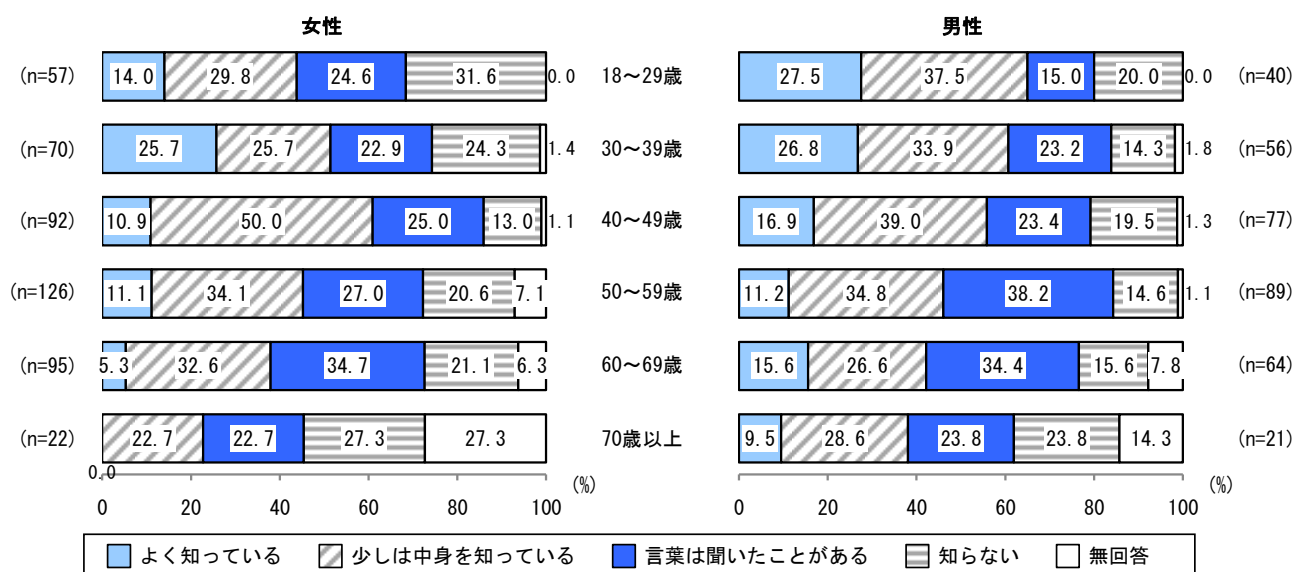
年齢別にみると、女性の30～39歳、男性の18～29歳と30～39歳で「よく知っている」が3割を占めています。また、『知っている』は女性より男性の方が比較的高くなっています。

【年齢別 性的な被害に関する問題の認知状況 ④JKビジネス】



年齢別にみると、女性の18～29歳で「知らない」が52.6%と他の年齢層より10ポイント以上高くなっています。

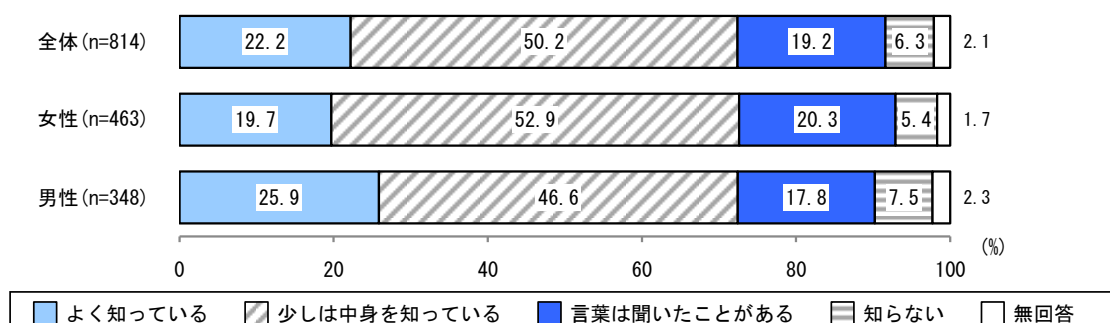
【年齢別 性的な被害に関する問題の認知状況 ⑤AV出演強要】



年齢別にみると、女性の 30～39 歳、男性の 18～29 歳と 30～39 歳で「よく知っている」が 2 割を占め、他の年齢層より高くなっています。

(4)LGBT の言葉の認知状況

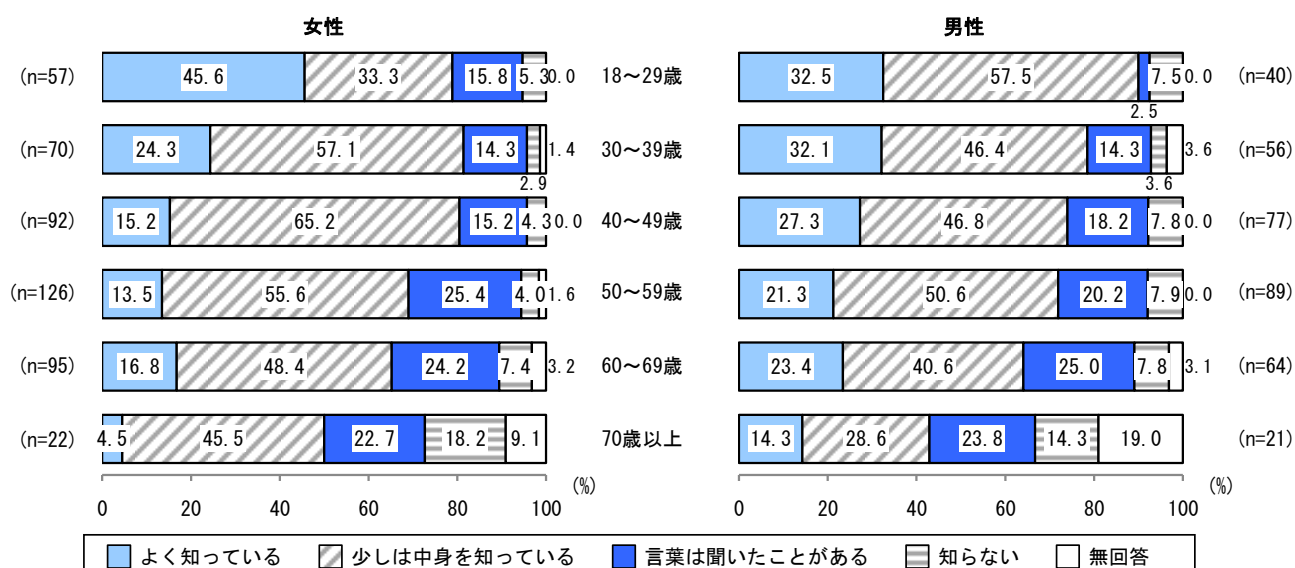
問25 あなたは、LGBT※1などセクシュアルマイノリティ(性的少数者)全般を指す言葉を知っていますか。
(○は1つ)



LGBT などセクシュアルマイノリティ(性的少数者)全般を指す言葉の認知状況をたずねたところ、『知っている』※は、女性で 92.9%、男性で 90.3%となっています。

※『知っている』とは、「よく知っている」「少しは中身を知っている」「言葉は聞いたことがある」の合計

【年齢別 LGBT の言葉の認知状況】

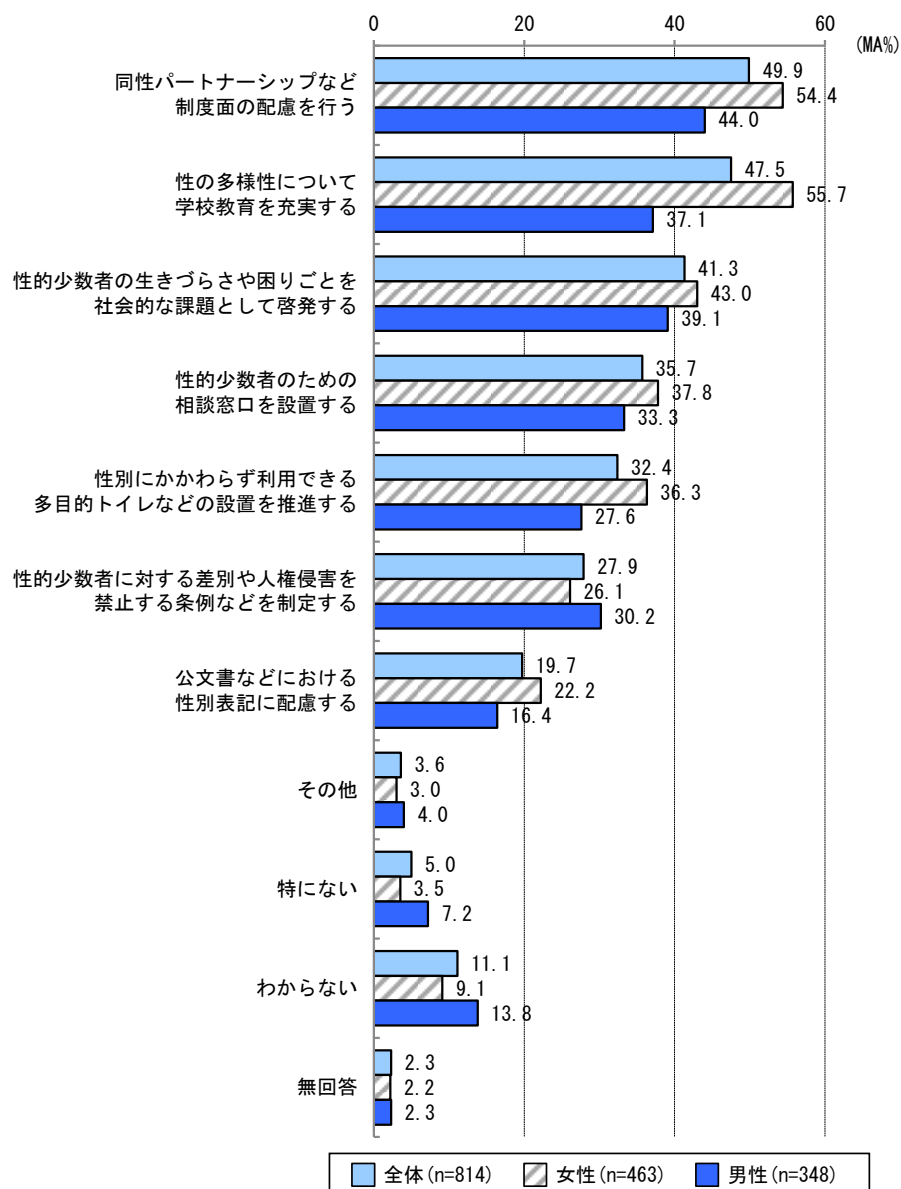


年齢別にみると、男女とも 70 歳未満の各年齢層で『知っている』が 9 割前後を占めています。概ね年齢が下がるほど「よく知っている」が高くなる傾向にあり、女性の 18～29 歳では 45.6%、男性の 18～29 歳と 30～39 歳では 3 割を占めています。

※1 LGBT…L=レズビアン(女性同性愛者)、G=ゲイ(男性同性愛者)、B=バイセクシュアル(両性愛者)、T=トランスジェンダー(身体的な性別と生きようとする性別が異なる人)の頭文字を組み合わせたもので、セクシュアルマイノリティ(性的少数者)全般を指す言葉として広く使われています。

(5)性的少数者の人権を守るために必要なこと

問26 性的少数者の人権を守り、性の多様性を認める社会を実現するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



性的少数者の人権を守るために必要なことは、「同性パートナーシップなど制度面の配慮を行う」が 49.9%と最も高く、次いで「性の多様性について学校教育を充実する」が 47.5%、「性的少数者の生きづらさや困りごとを社会的な課題として啓発する」が 41.3%、「性的少数者のための相談窓口を設置する」が 35.7%、「性別にかかわらず利用できる多目的トイレなどの設置を推進する」が 32.4%となっています。

性別にみると、女性では「性の多様性について学校教育を充実する」が 55.7%と最も高く、男性より 18.6 ポイント高くなっています。また、「同性パートナーシップなど制度面の配慮を行う」も 54.4%と過半数を占め男性より 10.4 ポイント高くなっています。

【年齢別 性的少数者の人権を守るために必要なこと】

(%)

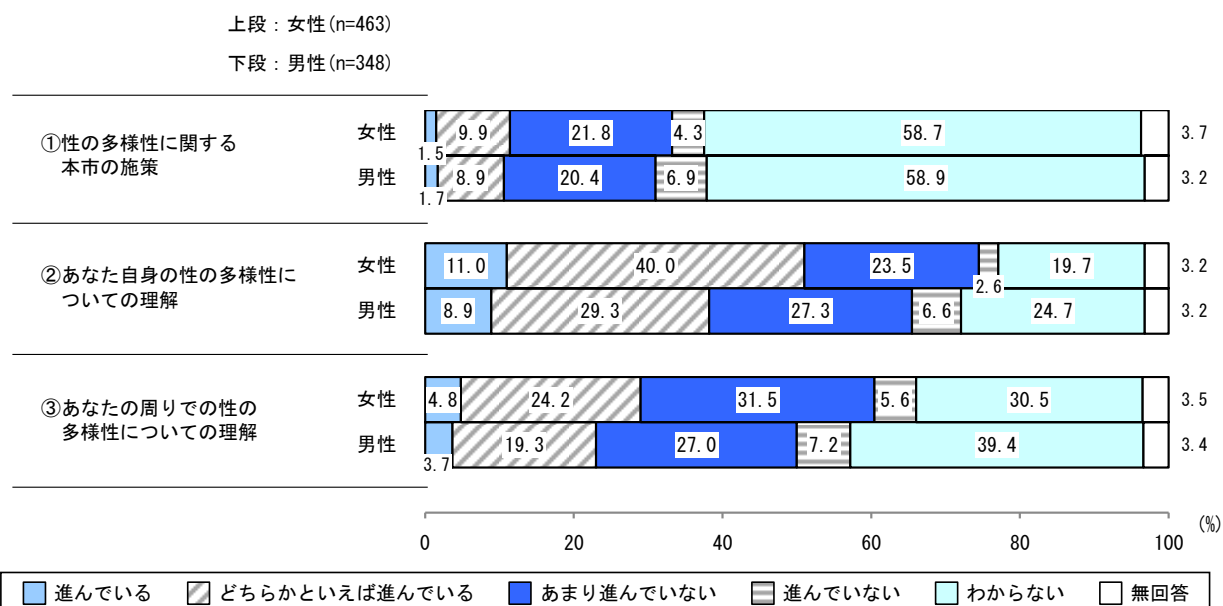
		回答者数 (n)	同性 パート ナーシ ップな ど制度 面の配 慮	性の多 様性につ いて学校 教育を充 実する	性的少 数者の生 きづらさ や困りご とを社 会的な課 題として 啓発する	性的少 数者のた めの相談 窓口を設 置する	性別にか かわらず 利用できる 多目的ト イ	性的少 数者に対 する差別 や人権侵 害を禁 止する条 例などを 制定する	公文書な どにおける 性別表記に 配慮する	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		814	49.9	47.5	41.3	35.7	32.4	27.9	19.7	3.6	5.0	11.1	2.3
年 齢 別	18～29歳	57	57.9	61.4	33.3	45.6	47.4	22.8	19.3	3.5	5.3	7.0	-
	30～39歳	70	64.3	62.9	47.1	40.0	40.0	25.7	24.3	2.9	1.4	7.1	1.4
	女 40～49歳	92	65.2	64.1	48.9	40.2	38.0	34.8	23.9	2.2	1.1	7.6	-
	性 50～59歳	126	48.4	54.0	40.5	36.5	27.8	19.0	19.8	4.0	3.2	8.7	1.6
	60～69歳	95	47.4	44.2	42.1	32.6	37.9	29.5	22.1	3.2	5.3	12.6	4.2
	70歳以上	22	36.4	45.5	50.0	31.8	31.8	27.3	31.8	-	9.1	13.6	9.1
	18～29歳	40	42.5	35.0	30.0	22.5	25.0	17.5	10.0	-	5.0	27.5	-
	30～39歳	56	48.2	39.3	33.9	42.9	25.0	25.0	8.9	8.9	8.9	5.4	3.6
	男 40～49歳	77	46.8	37.7	40.3	39.0	22.1	35.1	14.3	6.5	7.8	11.7	-
	性 50～59歳	89	37.1	34.8	39.3	32.6	32.6	31.5	22.5	-	6.7	15.7	-
	60～69歳	64	51.6	35.9	48.4	28.1	32.8	35.9	18.8	4.7	4.7	14.1	3.1
	70歳以上	21	28.6	42.9	33.3	28.6	23.8	28.6	23.8	4.8	14.3	9.5	19.0

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、女性の 18～49 歳の各年齢層で「同性パートナーシップなど制度面の配慮を行う」「性の多様性について学校教育を充実する」が 6 割前後を占め、他の年齢層より 5 ポイント以上高くなっています。一方、男性の 18～29 歳で「わからない」が 27.5%と他の年齢層より 10 ポイント以上高くなっています。

(6)性の多様性についての理解

問27 本市の性の多様性に関する施策(啓発事業や制度)や、あなたやあなたの周りで性の多様性についての理解が進んでいると思いますか。(①～③の項目ごとに○は1つずつ)

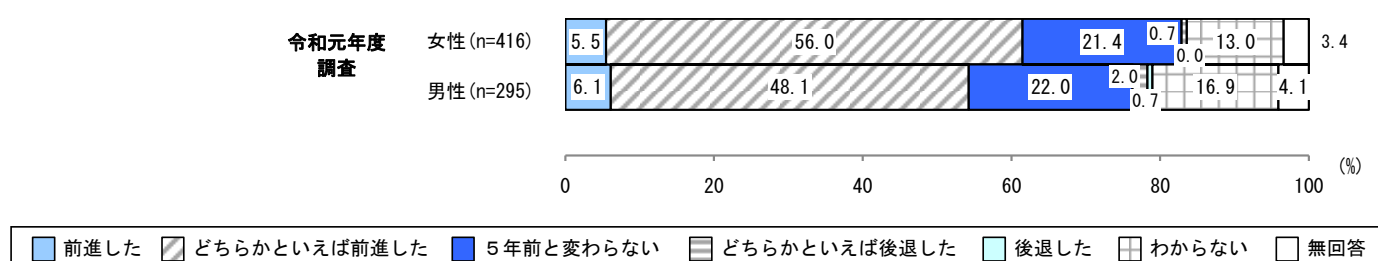


性の多様性の理解についてたずねたところ、『進んでいる』※は、男女ともに「②あなた自身の性の多様性についての理解」が最も高くなっていますが、女性で 51.0%と男性より 12.8 ポイント高くなっています。「①性の多様性に関する本市の施策」は、「わからない」が男女ともに過半数を占めています。一方、『進んでいない』※は、男女ともに「③あなたの周りでの性の多様性についての理解」(女性:37.1% 男性:34.2%)が最も高くなっています。

※『進んでいる』とは、「進んでいる」「どちらかといえば進んでいる」の合計

※『進んでいない』とは、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計

【参考 過去調査 性の多様性についての理解】



※令和元年度調査では、「性の多様性への理解」の5年間の変化についての設問となっています。

【年齢別 性の多様性についての理解】

(%)

		回答者数 (n)	①性の多様性に関する本市の施策							②あなた自身の性の多様性についての理解							
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	『進んでいる』	『進んでいない』	進んでいる	どちらかといえば進んでいる	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	『進んでいる』	『進んでいない』	
全 体		814	1.6	9.5	21.3	5.4	58.7	11.1	26.7	10.1	35.3	25.2	4.4	21.7	45.4	29.6	
年 齢 別	女 性	18～29歳	57	5.3	14.0	21.1	3.5	56.1	19.3	24.6	22.8	47.4	17.5	1.8	10.5	70.2	19.3
		30～39歳	70	-	11.4	24.3	5.7	55.7	11.4	30.0	10.0	50.0	22.9	-	15.7	60.0	22.9
		40～49歳	92	1.1	12.0	26.1	5.4	55.4	13.1	31.5	13.0	46.7	17.4	4.3	18.5	59.7	21.7
		50～59歳	126	1.6	8.7	22.2	5.6	57.1	10.3	27.8	8.7	34.1	28.6	2.4	23.0	42.8	31.0
		60～69歳	95	1.1	8.4	18.9	2.1	64.2	9.5	21.0	8.4	33.7	26.3	4.2	21.1	42.1	30.5
		70歳以上	22	-	-	9.1	-	77.3	-	9.1	-	22.7	27.3	-	36.4	22.7	27.3
	男 性	18～29歳	40	5.0	15.0	20.0	5.0	55.0	20.0	25.0	15.0	37.5	15.0	2.5	30.0	52.5	17.5
		30～39歳	56	1.8	8.9	17.9	5.4	64.3	10.7	23.3	14.3	25.0	30.4	5.4	23.2	39.3	35.8
		40～49歳	77	-	13.0	16.9	5.2	63.6	13.0	22.1	6.5	31.2	27.3	5.2	28.6	37.7	32.5
		50～59歳	89	2.2	9.0	22.5	12.4	52.8	11.2	34.9	9.0	28.1	25.8	11.2	24.7	37.1	37.0
60～69歳		64	1.6	3.1	21.9	3.1	64.1	4.7	25.0	6.3	28.1	34.4	6.3	20.3	34.4	40.7	
70歳以上	21	-	-	28.6	9.5	42.9	-	38.1	-	23.8	28.6	4.8	19.0	23.8	33.4		

		回答者数 (n)	③あなたの周りでの性の多様性についての理解							
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	『進んでいる』	『進んでいない』	
全 体		814	4.3	22.0	29.6	6.4	34.2	26.3	36.0	
年 齢 別	女 性	18～29歳	57	12.3	42.1	26.3	3.5	15.8	54.4	29.8
		30～39歳	70	5.7	24.3	35.7	2.9	30.0	30.0	38.6
		40～49歳	92	6.5	30.4	32.6	3.3	27.2	36.9	35.9
		50～59歳	126	2.4	19.0	34.9	6.3	33.3	21.4	41.2
		60～69歳	95	2.1	17.9	29.5	9.5	34.7	20.0	39.0
		70歳以上	22	－	9.1	18.2	9.1	50.0	9.1	27.3
	男 性	18～29歳	40	7.5	35.0	20.0	2.5	35.0	42.5	22.5
		30～39歳	56	7.1	19.6	33.9	5.4	32.1	26.7	39.3
		40～49歳	77	2.6	20.8	23.4	7.8	44.2	23.4	31.2
		50～59歳	89	1.1	15.7	30.3	10.1	40.4	16.8	40.4
		60～69歳	64	4.7	17.2	23.4	4.7	45.3	21.9	28.1
		70歳以上	21	－	4.8	33.3	14.3	23.8	4.8	47.6

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

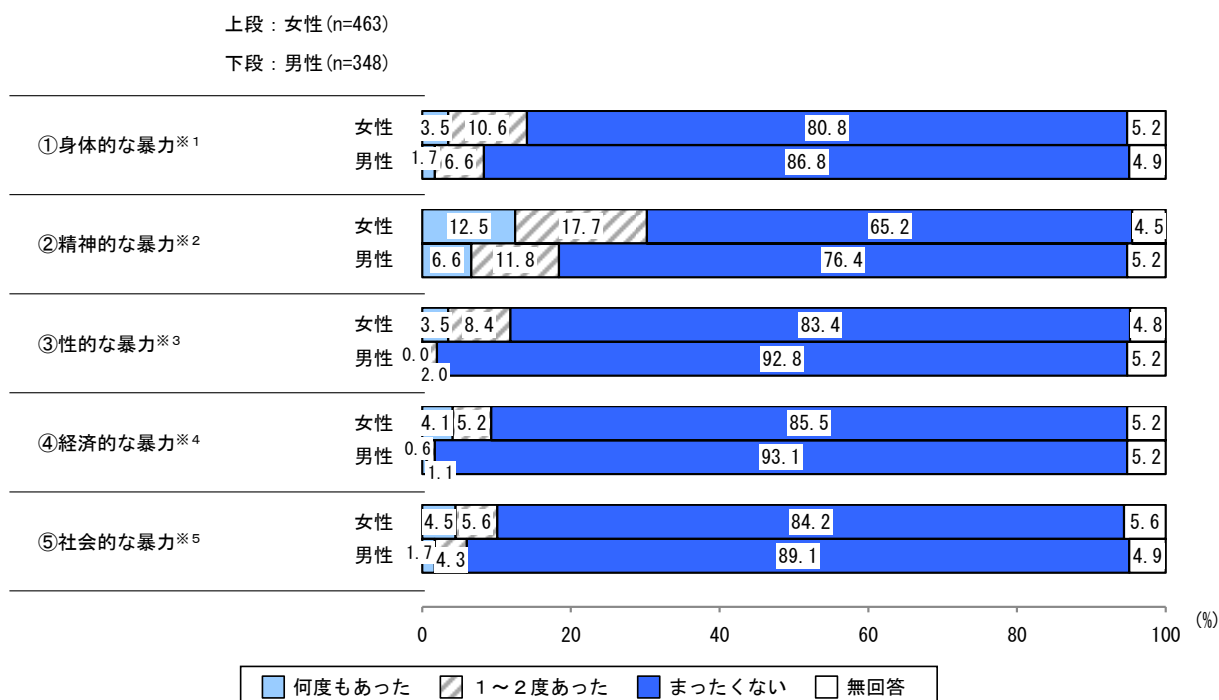
年齢別にみると、「②あなた自身の性の多様性についての理解」において、男女とも年齢が下がるほど『進んでいる』が高くなっており、女性の18～49歳の各年齢層では全体より10ポイント以上高くなっています。一方、男性の60～69歳で『進んでいない』が40.7%と『進んでいる』を上回っています。

(7)配偶者等から暴力にあたる行為を受けたまたは相手に行った経験

問28 あなたはこれまでに、あなたの配偶者やパートナー、恋人から次のようなことをされたこと、あなたの配偶者やパートナー、恋人にしたことがありますか。

(「されたこと」「したこと」について、①～⑤の項目ごとに○は1つつつ)

■暴力にあたる行為を受けた経験



配偶者やパートナー、恋人から暴力にあたる行為を受けた経験をたずねたところ、『あった』※は、男女ともに「②精神的な暴力」(女性:30.2% 男性:18.4%)が最も高く、次いで「①身体的な暴力」(女性:14.1% 男性:8.3%)となっています。

性別にみると、『あった』はすべての項目で女性が男性より高くなっています。特に「②精神的な暴力」は女性で30.2%と男性より11.8ポイント高くなっています。

※『あった』とは、「何度もあった」「1～2度あった」の合計

※1 身体的な暴力…殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど

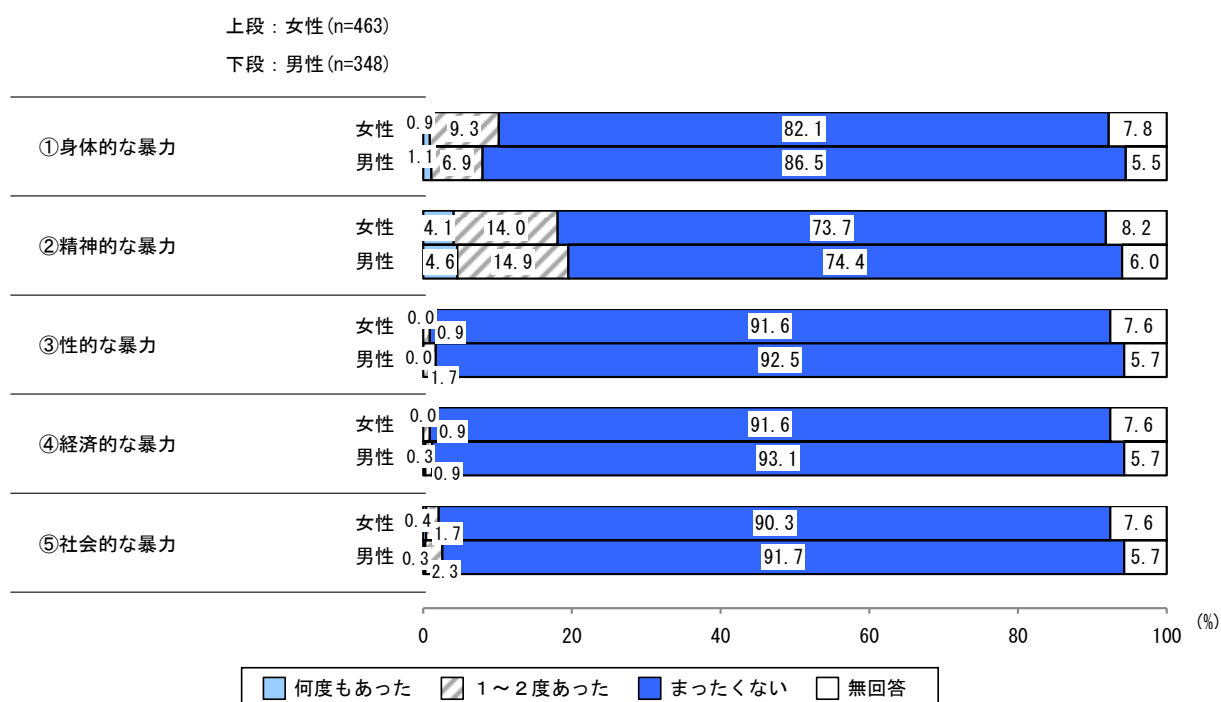
※2 精神的な暴力…大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫するなど

※3 性的な暴力…性行為を強要する、嫌がっているのにポルノ雑誌や動画などを見せる、避妊に協力しない、中絶を強要するなど

※4 経済的な暴力…生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、相談なく無計画な借金をさせるなど

※5 社会的な暴力…外出や親友・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックするなど

■暴力にあたる行為を行った経験



配偶者やパートナー、恋人に暴力にあたる行為を行った経験をたずねたところ、『あった』は、男女ともに「②精神的な暴力」(女性：18.1% 男性：19.5%)が最も高く、次いで「①身体的な暴力」(女性：10.2% 男性：8.0%)となっています。

【年齢別 暴力にあたる行為を受けた経験】

(%)

		回答者数 (n)	①身体的な暴力			②精神的な暴力			③性的な暴力			④経済的な暴力			⑤社会的な暴力		
			何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い
全 体		814	2.7	8.8	83.3	10.0	15.1	70.0	2.0	5.8	87.2	2.6	3.4	88.7	3.3	5.0	86.2
年 齢 別	18～29歳	57	-	-	96.5	3.5	3.5	89.5	-	5.3	91.2	-	-	96.5	3.5	3.5	89.5
	30～39歳	70	1.4	4.3	91.4	4.3	14.3	78.6	4.3	7.1	85.7	-	2.9	94.3	2.9	4.3	88.6
	女 40～49歳	92	1.1	17.4	79.3	17.4	18.5	63.0	7.6	6.5	84.8	4.3	6.5	88.0	7.6	5.4	85.9
	50～59歳	126	4.8	12.7	77.0	14.3	20.6	60.3	3.2	11.1	81.0	6.3	4.0	84.9	3.2	7.1	84.1
	60～69歳	95	8.4	11.6	75.8	17.9	24.2	55.8	2.1	10.5	84.2	6.3	10.5	77.9	5.3	5.3	84.2
	70歳以上	22	-	13.6	59.1	9.1	18.2	40.9	-	4.5	63.6	4.5	4.5	59.1	4.5	9.1	54.5
	18～29歳	40	-	2.5	95.0	2.5	5.0	90.0	-	2.5	95.0	-	-	97.5	2.5	2.5	92.5
	30～39歳	56	-	3.6	92.9	3.6	7.1	85.7	-	-	96.4	-	-	96.4	-	3.6	92.9
	男 40～49歳	77	1.3	7.8	88.3	9.1	14.3	74.0	-	-	97.4	-	1.3	96.1	1.3	2.6	93.5
	50～59歳	89	4.5	9.0	84.3	9.0	11.2	77.5	-	4.5	93.3	2.2	3.4	92.1	3.4	6.7	87.6
	60～69歳	64	1.6	6.3	84.4	6.3	17.2	68.8	-	3.1	87.5	-	-	90.6	1.6	6.3	84.4
	70歳以上	21	-	9.5	66.7	4.8	14.3	52.4	-	-	76.2	-	-	76.2	-	-	76.2

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、配偶者やパートナー、恋人から暴力にあたる行為を受けた経験について「②精神的な暴力」は女性の 40～69 歳の各年齢層で『あった』が 3 割を超え、「①身体的な暴力」は 2 割前後を占めています。

【年齢別 暴力にあたる行為を行った経験】

(%)

		回答者数 (n)	①身体的な暴力			②精神的な暴力			③性的な暴力			④経済的な暴力			⑤社会的な暴力		
			何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	ま っ た く な い
全 体		814	1.0	8.2	83.9	4.3	14.4	74.0	-	1.4	91.8	0.1	0.9	92.1	0.4	2.0	90.8
年 齢 別	18～29歳	57	-	1.8	96.5	-	12.3	86.0	-	-	98.2	-	-	98.2	-	5.3	91.2
	30～39歳	70	-	7.1	88.6	-	14.3	80.0	-	-	95.7	-	-	95.7	-	2.9	92.9
	女 40～49歳	92	-	16.3	80.4	6.5	15.2	73.9	-	1.1	95.7	-	-	95.7	1.1	1.1	94.6
	50～59歳	126	1.6	7.9	80.2	6.3	14.3	69.8	-	2.4	88.9	-	2.4	88.9	0.8	0.8	89.7
	60～69歳	95	2.1	11.6	78.9	5.3	16.8	70.5	-	-	93.7	-	1.1	92.6	-	-	93.7
	70歳以上	22	-	4.5	59.1	-	-	59.1	-	-	54.5	-	-	59.1	-	4.5	54.5
	18～29歳	40	-	-	95.0	2.5	2.5	90.0	-	-	95.0	-	-	95.0	-	2.5	92.5
	30～39歳	56	-	3.6	92.9	1.8	8.9	82.1	-	1.8	92.9	-	1.8	94.6	-	1.8	94.6
	男 40～49歳	77	-	3.9	90.9	1.3	14.3	79.2	-	-	94.8	-	-	94.8	-	1.3	92.2
	50～59歳	89	2.2	12.4	82.0	5.6	18.0	73.0	-	1.1	94.4	-	1.1	93.3	-	2.2	93.3
	60～69歳	64	1.6	7.8	84.4	9.4	18.8	64.1	-	6.3	87.5	1.6	-	92.2	1.6	4.7	87.5
	70歳以上	21	4.8	14.3	61.9	9.5	33.3	42.9	-	-	85.7	-	4.8	81.0	-	-	85.7

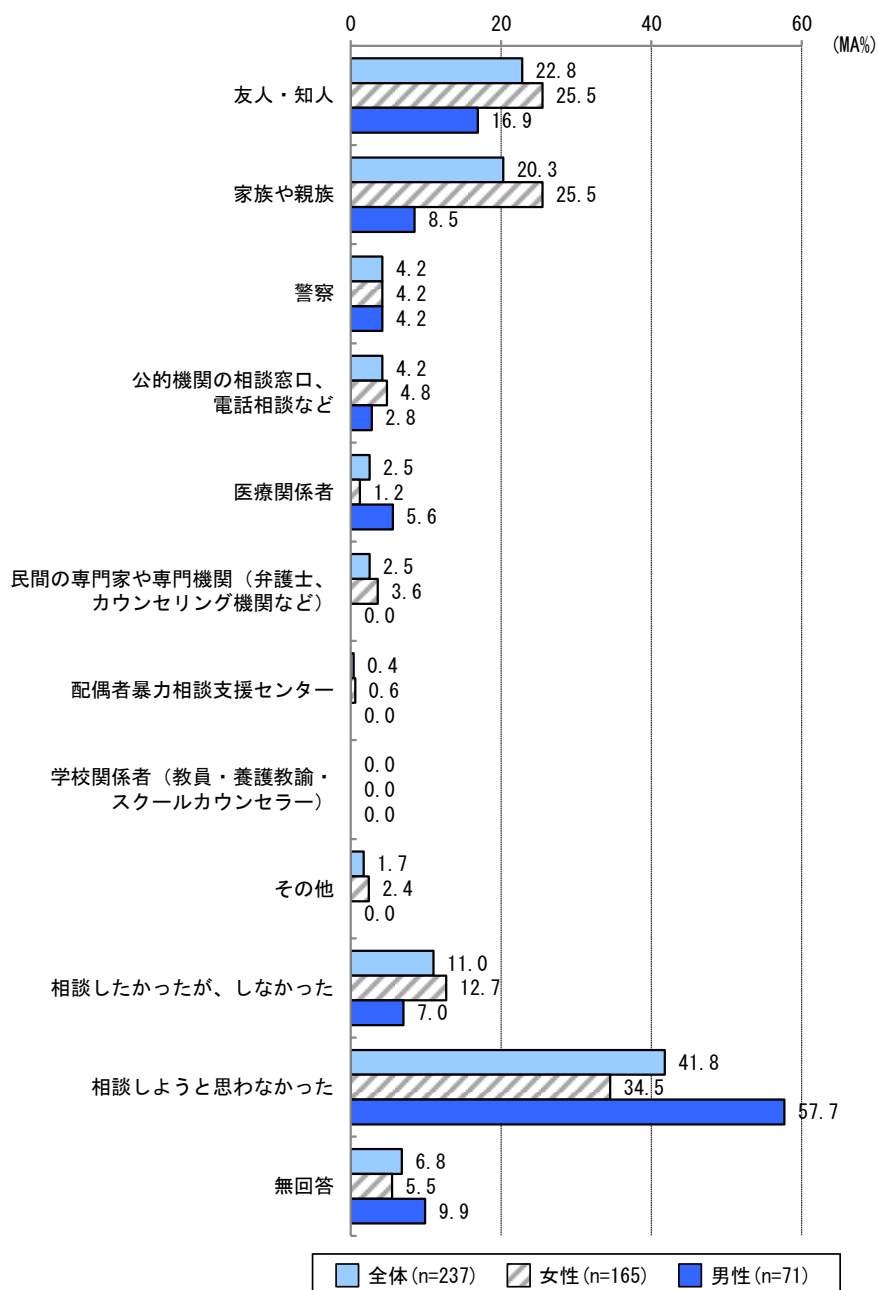
※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、配偶者やパートナー、恋人から暴力にあたる行為を行った経験について「②精神的な暴力」は女性の 40～69 歳の各年齢層、男性の 50～59 歳と 60～69 歳で『あった』が 2 割を占めています。

(8)暴力にあたる行為を受けたことを相談した相手

【問28で「何度もあった」、「1～2度あった」と回答された方におたずねします。】

問28-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(〇はいくつでも)



暴力にあたる行為を受けたことがあると回答した人に相談した相手をたずねたところ、「友人・知人」が22.8%と最も高く、次いで「家族や親族」が20.3%となっています。また、「相談しようと思わなかった」は41.8%、「相談したかったが、しなかった」は11.0%となっています。

性別にみると、「相談しようと思わなかった」は男性で57.7%と女性より23.2ポイント高くなっています。

【年齢別 暴力にあたる行為を受けたことを相談した相手】

(%)

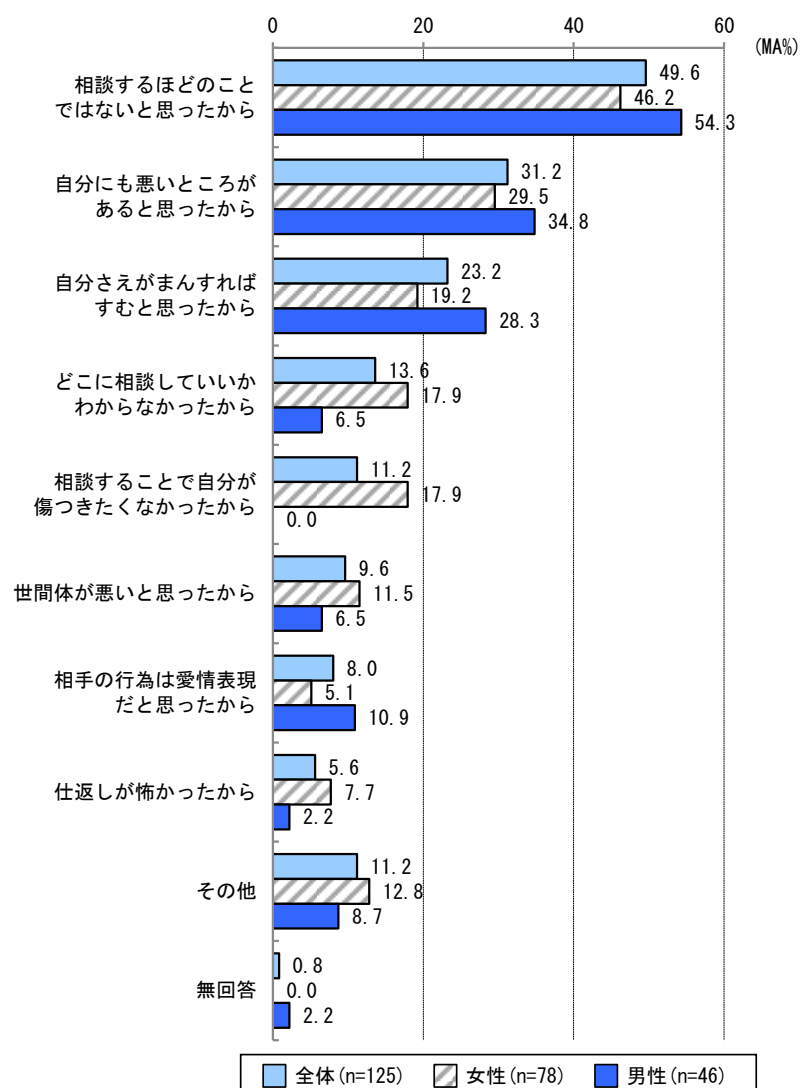
		回答者数 (n)	友人・知人	家族や親族	警察	公的機関の相談窓口、電話相談など	医療関係者	民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、専門機関など）	配偶者暴力相談支援センター	学校関係者（教員・養護教諭・スクールカウンセラー）	その他	相談したが、しなかった	相談しようと思わなかった	無回答
	全 体	237	22.8	20.3	4.2	4.2	2.5	2.5	0.4	-	1.7	11.0	41.8	6.8
年 齢 別	18～29歳	10	30.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	-	-	-	10.0	40.0	-
	30～39歳	26	34.6	15.4	3.8	-	3.8	3.8	-	-	-	15.4	30.8	7.7
	40～49歳	57	17.5	21.1	5.3	7.0	-	3.5	-	-	-	5.3	50.9	10.5
	50～59歳	71	22.5	19.7	2.8	4.2	2.8	1.4	1.4	-	1.4	15.5	42.3	2.8
	60～69歳	60	23.3	25.0	5.0	3.3	3.3	1.7	-	-	5.0	10.0	36.7	6.7
	70歳以上	13	15.4	15.4	-	-	-	-	-	-	-	7.7	46.2	15.4

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
（回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし）

年齢別にみると、40～49 歳で「相談しようと思わなかった」が 50.9%と全体より 5 ポイント以上高くなっています。

(9)相談しなかった、しようと思わなかった理由

【問28-1で「相談したかったが、しなかった」「相談しようと思わなかった」と回答された方におたずねします。】
問28-2 あなたが、相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)



相談しなかった、しようと思わなかったと回答した人にその理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が 49.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 31.2%、「自分さえがまんすればすむと思ったから」が 23.2%となっています。

【年齢別 相談しなかった、しよと思わなかった理由】

(%)

		回答者数 (n)	相談するほどのことではない と思つたから	自分にも悪いところがあると思つたから	自分さえがまんすればすむと思つたから	なかに相談していいかわからなかつたから	相談すること自分傷つき たくなかつたから	世間体が悪いと思つたから	相手の行為は愛情表現だと思つたから	仕返しが怖かつたから	その他	無回答
全 体		125	49.6	31.2	23.2	13.6	11.2	9.6	8.0	5.6	11.2	0.8
年 齢 別	18～29歳	5	40.0	-	-	-	-	-	-	-	60.0	-
	30～39歳	12	50.0	25.0	8.3	25.0	33.3	25.0	8.3	-	16.7	-
	40～49歳	32	53.1	46.9	21.9	6.3	6.3	3.1	9.4	9.4	12.5	-
	50～59歳	41	56.1	17.1	29.3	22.0	14.6	14.6	4.9	4.9	7.3	2.4
	60～69歳	28	32.1	35.7	21.4	10.7	7.1	3.6	7.1	3.6	7.1	-
	70歳以上	7	71.4	57.1	42.9	-	-	14.3	28.6	14.3	-	-

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

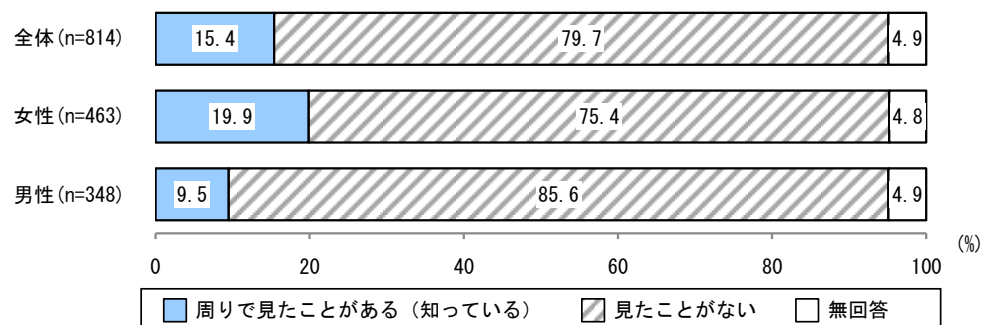
年齢別にみると、40～49 歳で「自分にも悪いところがあると思つたから」が 46.9%と全体より 10 ポイント以上高くなっています。

5. 困難な問題を抱える女性に関することについて

(1) 困難な問題を抱えている女性を見たり聞いたりしたこと

【全員におたずねします。】

問29 令和6年4月1日から「困難な問題を抱える女性※1への支援に関する法律」が施行されました。あなたの周りで困難な問題を抱えている女性を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)



周りに困難な問題を抱えている女性を、「見たことがない」が 79.7%、「周りで見たことがある(知っている)」が 15.4%となっています。

性別にみると、「周りで見たことがある(知っている)」は女性で 19.9%と男性より 10.4 ポイント高くなっています。

【年齢別 困難な問題を抱えている女性を見たり聞いたりしたこと】

		(%)			
		回答者数 (n)	周りで見たことがある (%)	見たことがない (%)	無回答 (%)
全 体		814	15.4	79.7	4.9
年 齢 別	18～29歳	57	15.8	82.5	1.8
	30～39歳	70	21.4	75.7	2.9
	40～49歳	92	25.0	72.8	2.2
	50～59歳	126	18.3	75.4	6.3
	60～69歳	95	21.1	76.8	2.1
	70歳以上	22	9.1	63.6	27.3
	18～29歳	40	5.0	92.5	2.5
	30～39歳	56	14.3	82.1	3.6
	40～49歳	77	6.5	92.2	1.3
	50～59歳	89	7.9	87.6	4.5
	60～69歳	64	14.1	81.3	4.7
	70歳以上	21	9.5	66.7	23.8

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

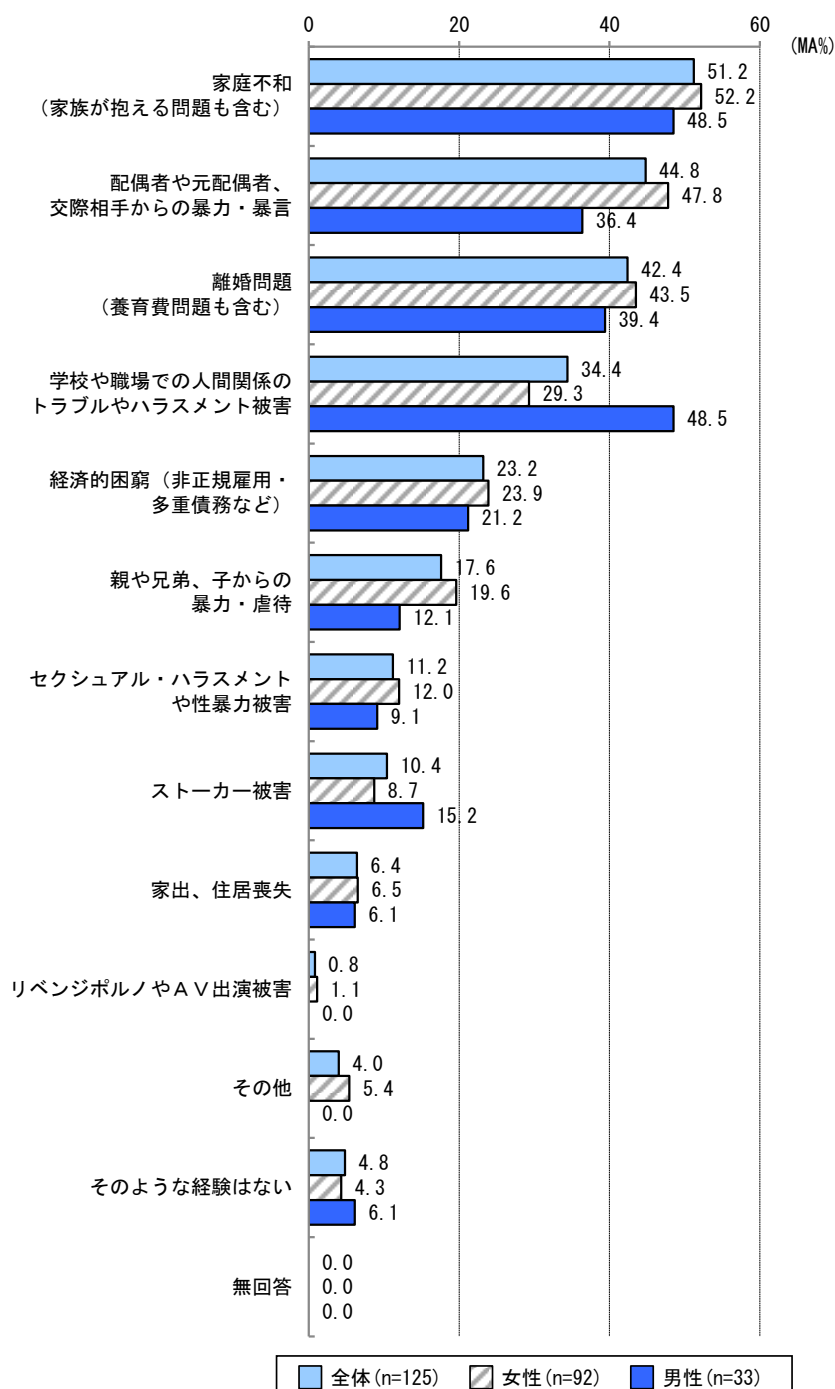
年齢別にみると、女性の 30～39 歳と 40～49 歳、60～69 歳で「周りで見たことがある(知っている)」が 2 割を占めています。

※1 困難な問題を抱える女性…「性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活に営む上で困難な問題を抱える女性(そのおそれのある女性を含む)」

(2) 困難な問題の内容

【問29で、「周りで見たことがある(知っている)」と回答された方におたずねします。】

問29-1 あなたの周囲にいる女性が以下のような困難な問題を経験していることを、見聞きしたことがありますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。(○はいくつでも)



困難な問題を抱えている女性を周りで見たことがあると回答した人にその問題の内容をたずねたところ、「家庭不和(家族が抱える問題も含む)」が 51.2%と最も高く、次いで「配偶者や元配偶者、交際相手からの暴力・暴言」が 44.8%、「離婚問題(養育費問題も含む)」が 42.4%となっています。

【年齢別 困難な問題の内容】

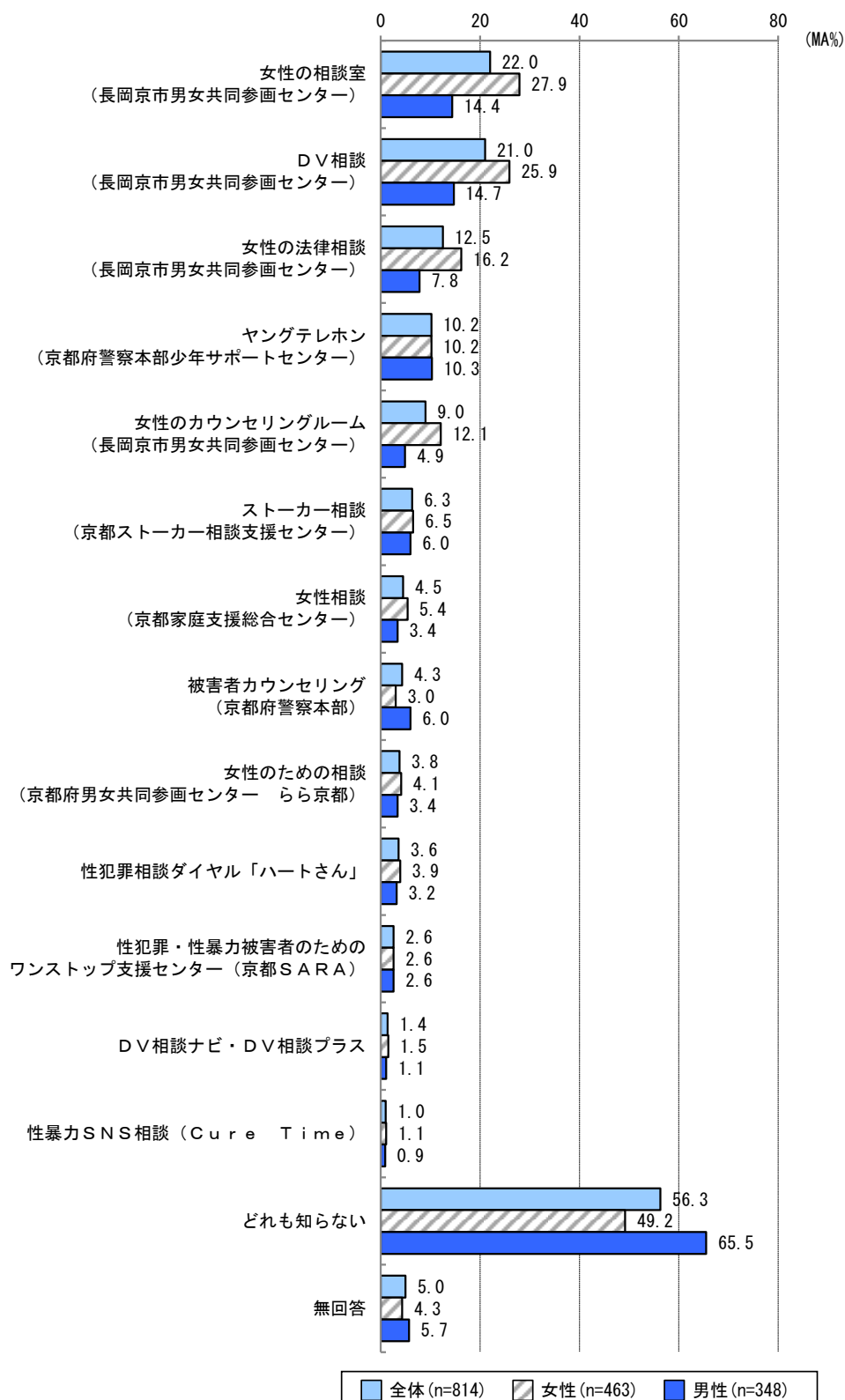
(%)															
		回答者数（n）	家庭不和（家族が抱える問題も含む）	配偶者や元配偶者、交際相手からの暴力・暴言	離婚問題（養育費問題も含む）	学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害	経済的困窮（非正規雇用・多重債務など）	親や兄弟、子からの暴力・虐待	セクシユアル・ハラスメントや性暴力被害	ストーカー被害	家出、住居喪失	リベンジポルノやＡＶ出演被害	その他	そのような経験はない	無回答
全 体		125	51.2	44.8	42.4	34.4	23.2	17.6	11.2	10.4	6.4	0.8	4.0	4.8	-
年 齢 別	18～29歳	11	72.7	45.5	27.3	54.5	45.5	36.4	36.4	27.3	9.1	-	9.1	18.2	-
	30～39歳	23	52.2	56.5	43.5	43.5	21.7	34.8	13.0	17.4	4.3	-	-	-	-
	40～49歳	28	46.4	46.4	35.7	32.1	14.3	3.6	7.1	3.6	3.6	-	7.1	3.6	-
	50～59歳	30	46.7	33.3	50.0	33.3	23.3	10.0	6.7	3.3	6.7	3.3	-	6.7	-
	60～69歳	29	55.2	51.7	44.8	27.6	24.1	20.7	10.3	13.8	10.3	-	6.9	-	-
	70歳以上	4	25.0	-	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

(3) 困難な問題を抱える女性が相談できる相談機関の認知状況

【全員におたずねします。】

問30 問29-1のような困難な問題を抱える女性が相談できる以下のような相談機関(窓口)があります。次の中から知っているものを選んでください。(〇はいくつでも)



困難な問題を抱える女性が相談できる相談機関の認知状況は、「女性の相談室（長岡京市男女共同参画センター）」が 22.0%と最も高く、次いで「DV相談（長岡京市男女共同参画センター）」が 21.0%、「女性の法律相談（長岡京市男女共同参画センター）」が 12.5%となっています。

性別にみると、「どれも知らない」は男性で 65.5%と女性より 16.3 ポイント高くなっています。一方、「女性の相談室（長岡京市男女共同参画センター）」「DV相談（長岡京市男女共同参画センター）」は女性で男性より 10 ポイント以上高くなっています。

【年齢別 困難な問題を抱える女性が相談できる相談機関の認知状況】

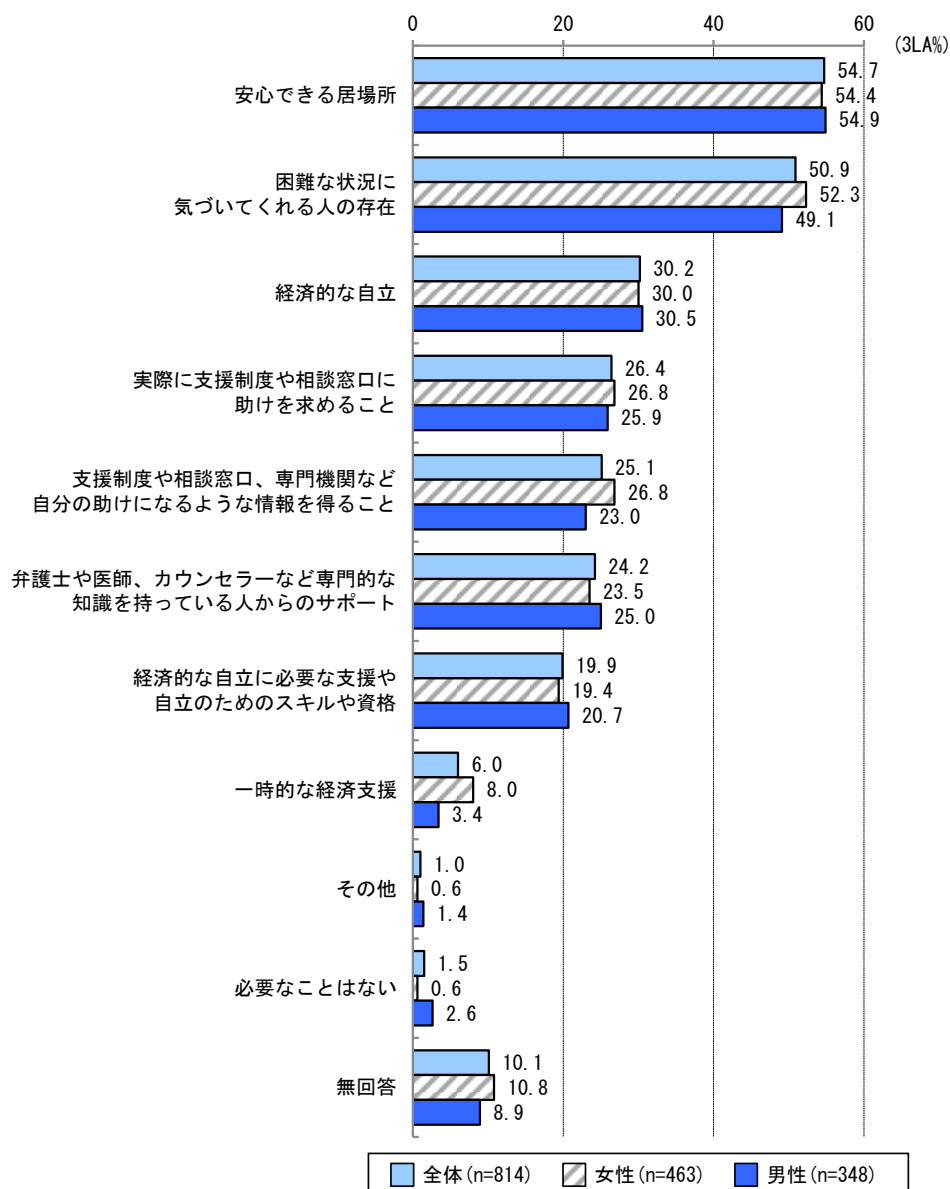
		(%)															
		回答者数（n）	女性の相談室 （長岡京市男女共同参画センター）	DV相談 （長岡京市男女共同参画センター）	女性の法律相談 （長岡京市男女共同参画センター）	ヤングテレホン （京都府警察本部少年サポートセンター）	女性のカウンセリングルーム （長岡京市男女共同参画センター）	ストーカー相談 （京都ストーカー相談支援センター）	女性相談 （京都家庭支援総合センター）	被害者カウンセリング （京都府警察本部）	女性のための相談 （京都府男女共同参画センター なら京都）	性犯罪相談ダイヤル「ハートさん」	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ 支援センター（京都SARA）	DV相談ナビ・DV相談プラス	性暴力SNS相談（Cure Time）	どれも知らない	無回答
全 体		814	22.0	21.0	12.5	10.2	9.0	6.3	4.5	4.3	3.8	3.6	2.6	1.4	1.0	56.3	5.0
年 齢 別	18～29歳	57	10.5	21.1	5.3	17.5	7.0	8.8	5.3	5.3	5.3	14.0	3.5	1.8	3.5	54.4	1.8
	30～39歳	70	21.4	22.9	11.4	7.1	8.6	5.7	4.3	4.3	1.4	4.3	5.7	2.9	-	51.4	5.7
	40～49歳	92	29.3	29.3	13.0	6.5	12.0	2.2	5.4	1.1	3.3	3.3	3.3	-	2.2	48.9	2.2
	50～59歳	126	28.6	25.4	21.4	12.7	12.7	7.9	6.3	2.4	5.6	1.6	1.6	1.6	0.8	48.4	3.2
	60～69歳	95	40.0	30.5	24.2	9.5	18.9	7.4	6.3	4.2	4.2	1.1	1.1	1.1	-	49.5	2.1
	70歳以上	22	31.8	18.2	9.1	4.5	4.5	9.1	-	-	4.5	4.5	-	4.5	-	36.4	27.3
	18～29歳	40	17.5	7.5	5.0	20.0	7.5	7.5	2.5	7.5	-	5.0	-	2.5	2.5	57.5	2.5
	30～39歳	56	10.7	14.3	7.1	7.1	8.9	3.6	3.6	3.6	5.4	5.4	5.4	3.6	1.8	66.1	8.9
	40～49歳	77	9.1	16.9	6.5	2.6	1.3	6.5	1.3	1.3	2.6	2.6	-	1.3	-	74.0	1.3
	50～59歳	89	16.9	12.4	5.6	7.9	2.2	2.2	3.4	6.7	2.2	1.1	2.2	-	-	71.9	5.6
性 別	60～69歳	64	20.3	20.3	15.6	21.9	9.4	12.5	7.8	10.9	7.8	4.7	6.3	-	1.6	53.1	7.8
	70歳以上	21	9.5	14.3	4.8	4.8	-	4.8	-	9.5	-	-	-	-	-	57.1	14.3

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
（回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし）

年齢別にみると、女性の 18～29 歳で「性犯罪相談ダイヤル「ハートさん」」（14.0%）、60～69 歳で「女性の相談室（長岡京市男女共同参画センター）」（40.0%）、「女性の法律相談（長岡京市男女共同参画センター）」（24.2%）が他の年齢層より高くなっています。一方、男性の 40～49 歳と 50～59 歳で「どれも知らない」が 7 割を占めています。

(4)女性が困難な状況から回復するために必要なこと

問31 女性が困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(特に必要だと思うものを3つまで○)



女性が困難な状況から回復するために必要なことは、「安心できる居場所」が 54.7%と最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」が 50.9%、「経済的な自立」が 30.2%となっています。

【年齢別 女性が困難な状況から回復するために必要なこと】

(%)

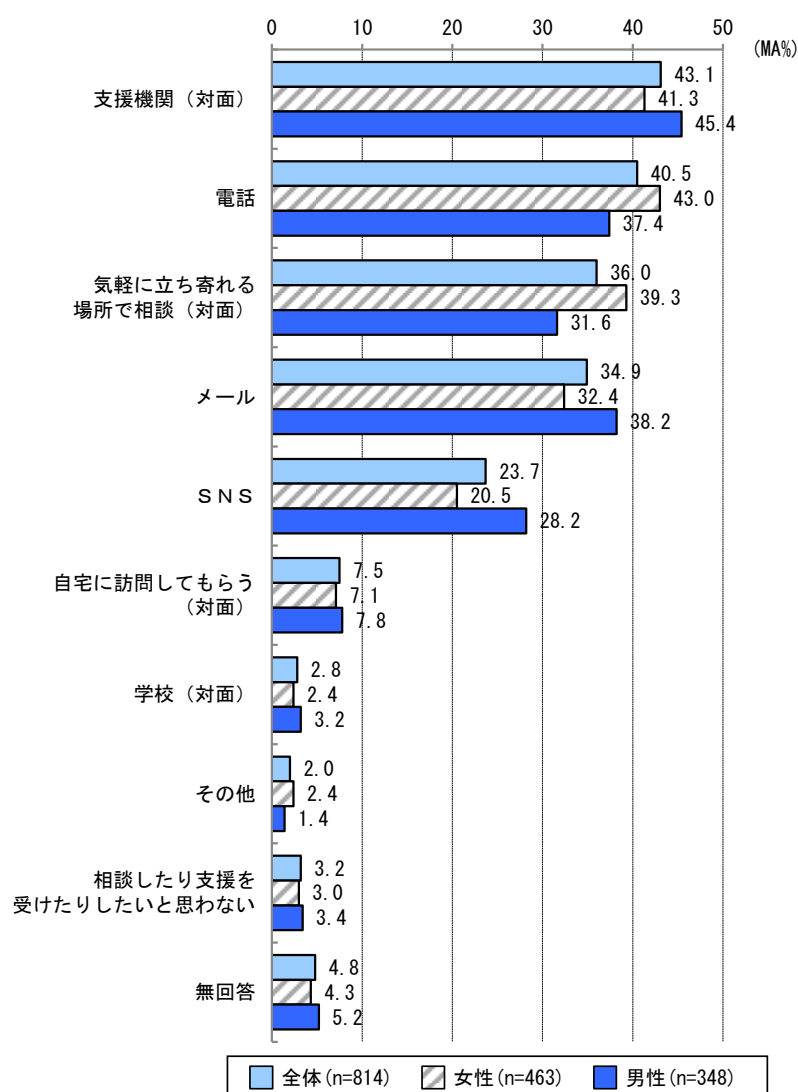
		回答者数 (n)	安心できる居場所	困難な状況に気づいてくれる人の存在	経済的な自立	実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること	支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること	弁護士や医師、カウンセラーなどの専門的な知識を持っている人からのサポート	経済的な自立に必要な支援や自立のためスキルや資格	一時的な経済支援	その他	必要なことはない	無回答
全 体		814	54.7	50.9	30.2	26.4	25.1	24.2	19.9	6.0	1.0	1.5	10.1
年 齢 別	18～29歳	57	56.1	71.9	36.8	22.8	31.6	19.3	10.5	5.3	1.8	-	5.3
	30～39歳	70	50.0	57.1	38.6	25.7	20.0	24.3	20.0	8.6	1.4	-	11.4
	40～49歳	92	57.6	56.5	23.9	30.4	29.3	27.2	23.9	12.0	-	1.1	4.3
	50～59歳	126	55.6	49.2	31.0	27.8	32.5	21.4	13.5	6.3	-	0.8	10.3
	60～69歳	95	50.5	40.0	27.4	22.1	20.0	25.3	22.1	9.5	1.1	-	20.0
	70歳以上	22	63.6	40.9	18.2	40.9	22.7	22.7	45.5	-	-	4.5	9.1
	18～29歳	40	50.0	67.5	27.5	25.0	20.0	25.0	12.5	2.5	2.5	15.0	-
	30～39歳	56	66.1	67.9	44.6	28.6	17.9	16.1	23.2	3.6	3.6	-	-
	40～49歳	77	49.4	46.8	29.9	27.3	24.7	29.9	23.4	3.9	-	2.6	9.1
	50～59歳	89	59.6	48.3	30.3	24.7	27.0	20.2	19.1	3.4	1.1	-	7.9
男 性	60～69歳	64	50.0	35.9	25.0	26.6	21.9	32.8	23.4	3.1	1.6	1.6	17.2
	70歳以上	21	52.4	19.0	19.0	19.0	23.8	28.6	19.0	4.8	-	-	23.8

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、男女とも 18～29 歳と 30～39 歳では「困難な状況に気づいてくれる人の存在」、40～69 歳の各年齢層では「安心できる居場所」が最も高くなっています。また、男性の 30～39 歳で「経済的な自立」が 44.6%と他の年齢層より 5 ポイント以上高くなっています。

(5)相談する場合の方法や場所

問32 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。(〇はいくつでも)



相談する場合の方法や場所は、「支援機関(対面)」が43.1%と最も高く、次いで「電話」が40.5%、「気軽に立ち寄れる場所で相談(対面)」が36.0%、「メール」が34.9%となっています。

性別にみると、女性では「電話」が43.0%と最も高く、次いで「支援機関(対面)」が41.3%、「気軽に立ち寄れる場所で相談(対面)」が39.3%となっています。一方、男性では「支援機関(対面)」が45.4%と最も高く、次いで「メール」が38.2%、「電話」が37.4%となっています。

【年齢別 相談する場合の方法や場所】

(%)

		回答者数 (n)	支援機関 (対面)	電話	気軽に立ち寄れる 相談(対面)場所	メール	SNS	自宅に訪問してもらう (対面)	学校(対面)	その他	相談したり支援を受け たいと思わない	無回答
全 体		814	43.1	40.5	36.0	34.9	23.7	7.5	2.8	2.0	3.2	4.8
年 齢 別	18～29歳	57	35.1	38.6	40.4	42.1	45.6	10.5	10.5	5.3	5.3	1.8
	30～39歳	70	38.6	38.6	41.4	47.1	35.7	8.6	2.9	2.9	1.4	2.9
	女 40～49歳	92	37.0	40.2	40.2	41.3	21.7	4.3	1.1	3.3	3.3	2.2
	50～59歳	126	48.4	42.1	36.5	25.4	12.7	7.1	0.8	1.6	3.2	3.2
	60～69歳	95	45.3	48.4	40.0	23.2	8.4	7.4	1.1	1.1	2.1	9.5
	70歳以上	22	27.3	63.6	40.9	4.5	-	4.5	-	-	4.5	4.5
	18～29歳	40	37.5	27.5	25.0	42.5	37.5	5.0	5.0	-	5.0	2.5
	30～39歳	56	51.8	50.0	28.6	37.5	41.1	7.1	5.4	3.6	1.8	-
	男 40～49歳	77	48.1	37.7	44.2	37.7	28.6	11.7	5.2	1.3	3.9	3.9
	50～59歳	89	41.6	36.0	23.6	46.1	27.0	6.7	-	1.1	-	3.4
	60～69歳	64	46.9	37.5	35.9	32.8	18.8	7.8	3.1	-	7.8	7.8
	70歳以上	21	47.6	28.6	23.8	19.0	9.5	4.8	-	-	4.8	28.6

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が30件未満の場合は網掛けなし)

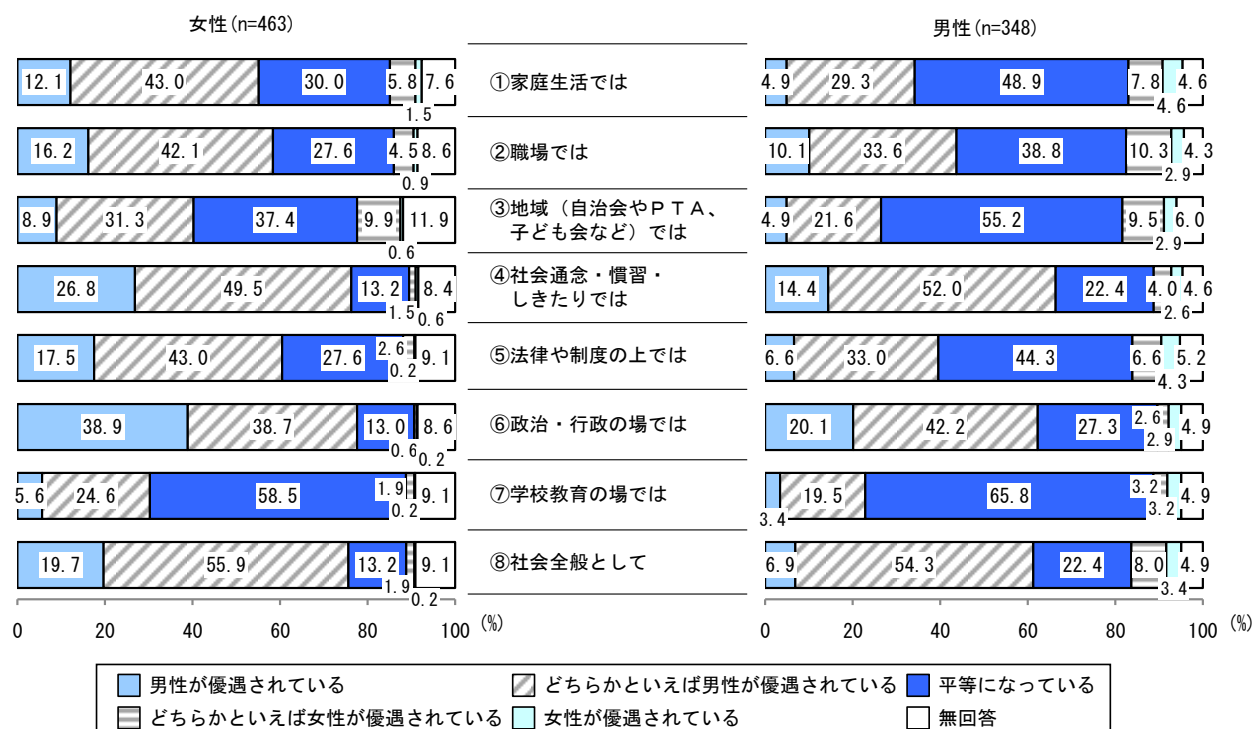
年齢別にみると、年齢が下がるほど「SNS」が高くなる傾向にあり、男女とも18～29歳と30～39歳で4割前後を占めています。また、「メール」は女性の18～49歳の各年齢層、男性の18～29歳と50～59歳で4割を占めています。

6. 男女共同参画社会について

(1) 社会における男女の平等感

問33 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。

(①～⑧の項目ごとに○は1つずつ)



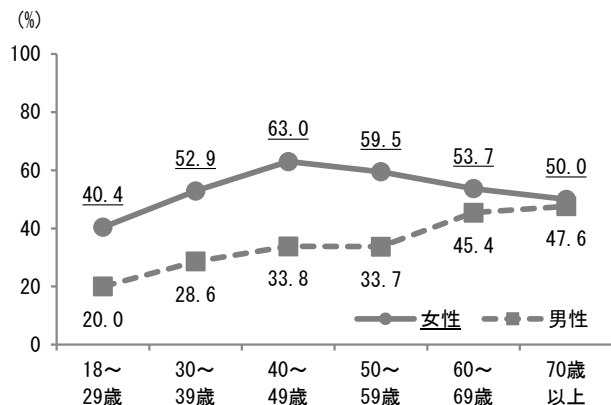
社会における男女の平等感をたずねたところ、『男性優遇』※は男女ともに「④社会通念・慣習・しきたりでは」「⑥政治・行政の場では」「⑧社会全般として」が上位3項目となっており、女性で7割、男性で6割を超えています。また、「①家庭生活では」「⑤法律や制度の上では」の『男性優遇』は、女性で男性より 20 ポイント以上高くなっています。

「平等になっている」は、男女ともに「⑦学校教育の場では」(女性:58.5% 男性:65.8%)が最も高く、次いで「③地域(自治会やPTA、子ども会など)では」(女性:37.4% 男性:55.2%)となっています。

※『男性優遇』とは、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計

【年齢別 男女の平等感—『男性優遇』の割合】

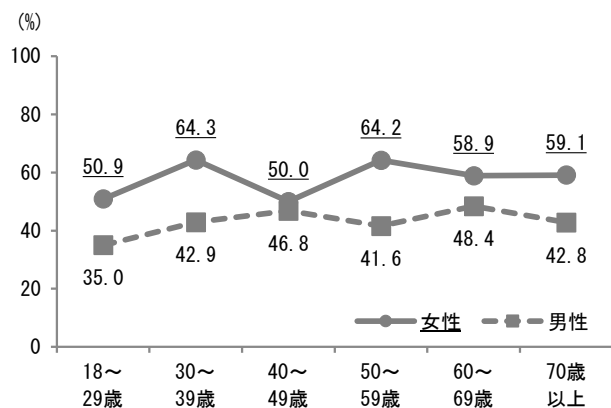
■①家庭生活では



女性では、すべての年齢層で4割を超えており、40～49歳で63.0%と最も高くなっています。

男性では、30～59歳の各年齢層で3割前後を占め、女性との差が20ポイント以上あります。

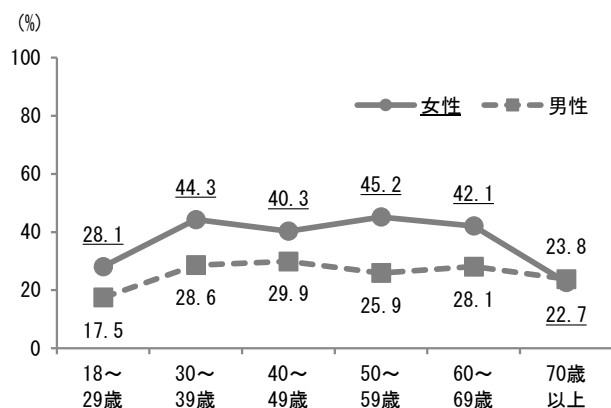
■②職場では



女性では、30～39歳と50～59歳で6割を占めています。

男性では、年齢による大きな差はみられないものの、女性よりも低くなっています。

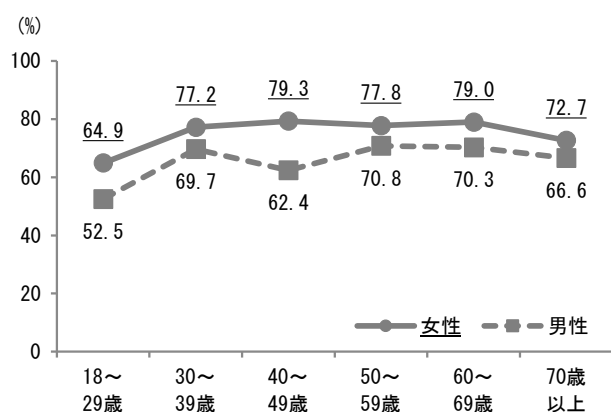
■③地域(自治会やPTA、子ども会など)では



女性では、30～69歳の各年齢層で4割を占めています。

男性では、すべての年齢層で2割前後を占めています。

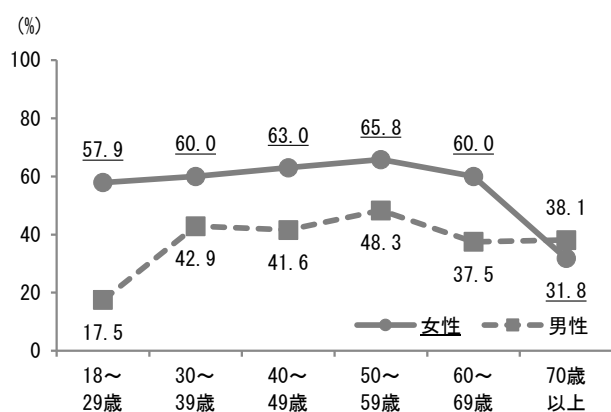
■④社会通念・慣習・しきたりでは



女性では、すべての年齢層で 6 割を超えています。

男性でも、18~29 歳を除いた各年齢層で 6 割を超えています。女性よりも低くなっています。

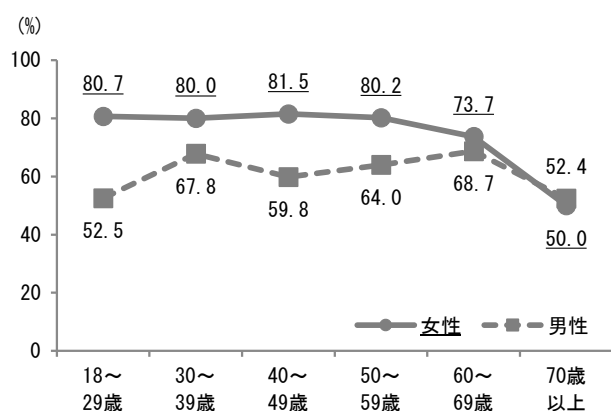
■⑤法律や制度の上では



女性では、70 歳未満の各年齢層で 6 割前後を占めています。

男性では、18~29 歳で 17.5%と、女性との差が 40.4 ポイントあります。

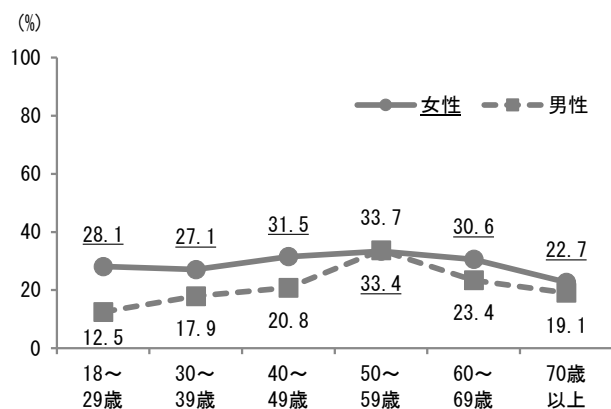
■⑥政治・行政の場では



女性では、18~59 歳の各年齢層で 8 割を占めています。

男性では、18~29 歳と 40~49 歳で 5 割台となっており、女性との差が 20 ポイント以上あります。

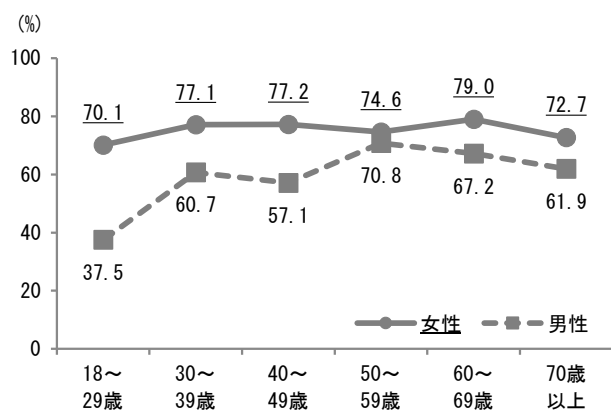
■⑦学校教育の場では



女性では、40～69歳の各年齢層で3割を占めています。

男性では、50～59歳で33.7%とすべての年齢層の中で最も高くなっています。

■⑧社会全般として

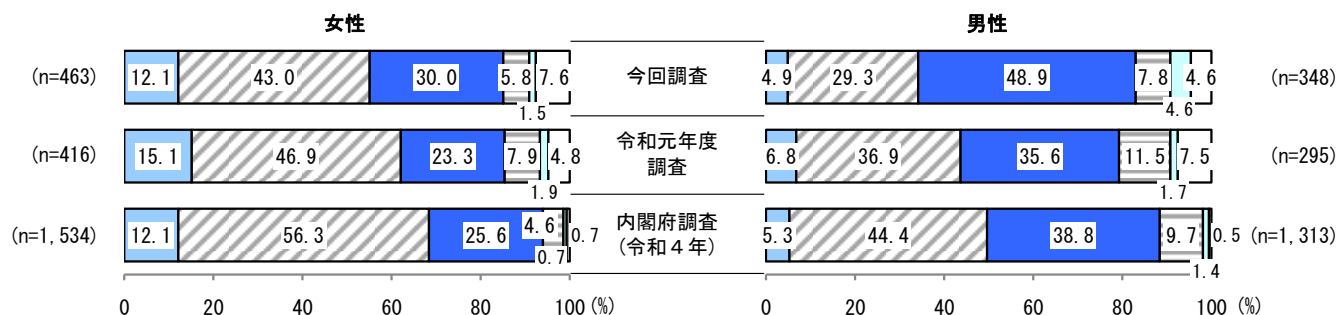


女性では、すべての年齢層で7割を超えています。

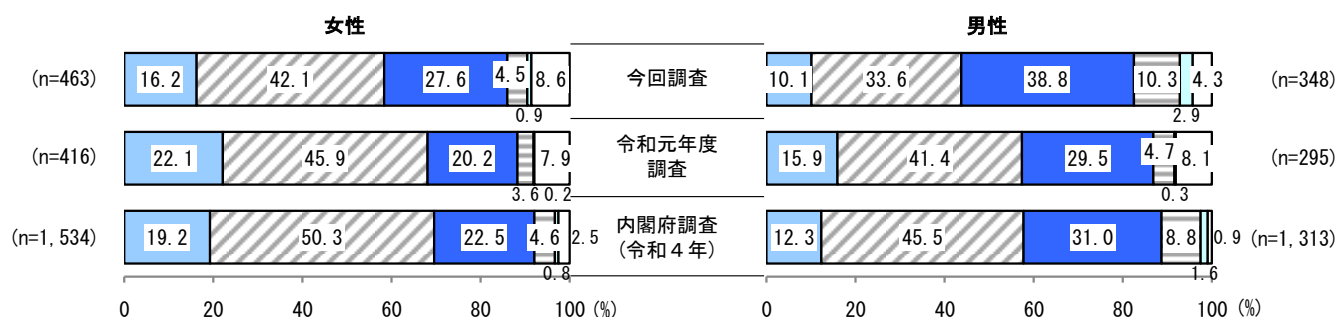
男性では、18～49歳の各年齢層で女性との差が大きく、18～29歳で差が32.6ポイントとなっています。

【参考 過去調査・国調査 男女の平等感】

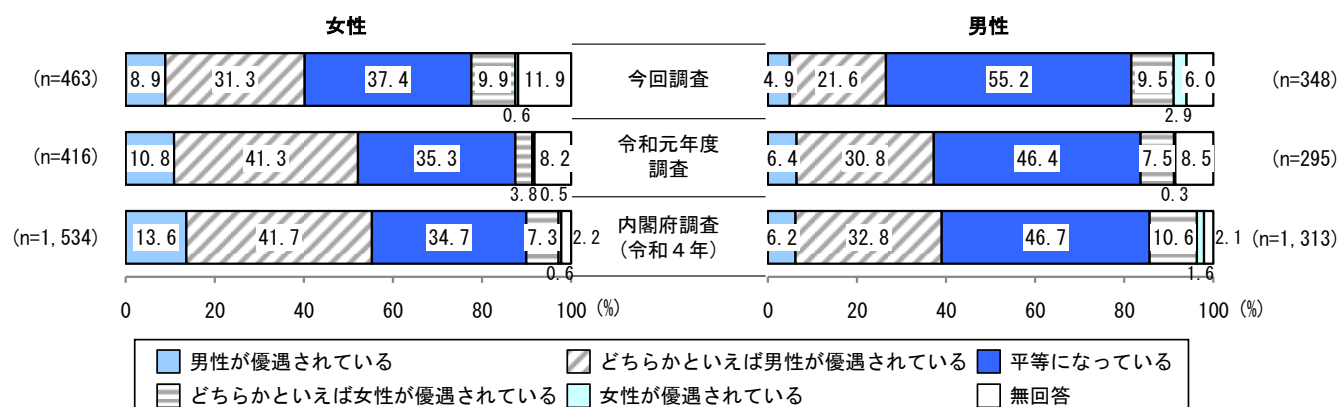
■①家庭生活では



■②職場では

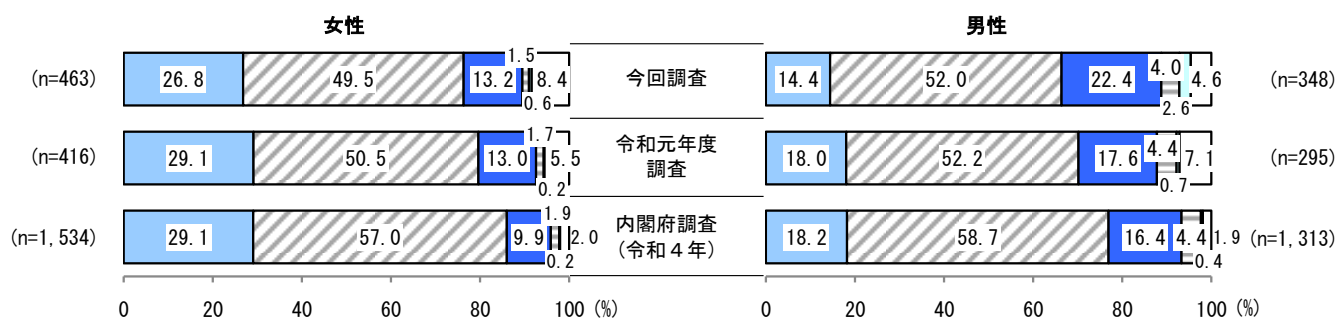


■③地域(自治会やPTA、子ども会など)では

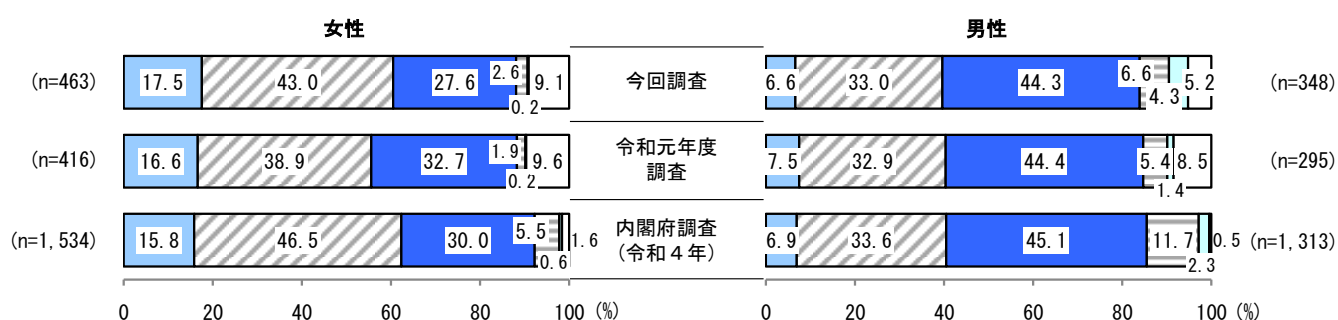


※内閣府調査では、「自治会やPTAなどの地域活動の場」

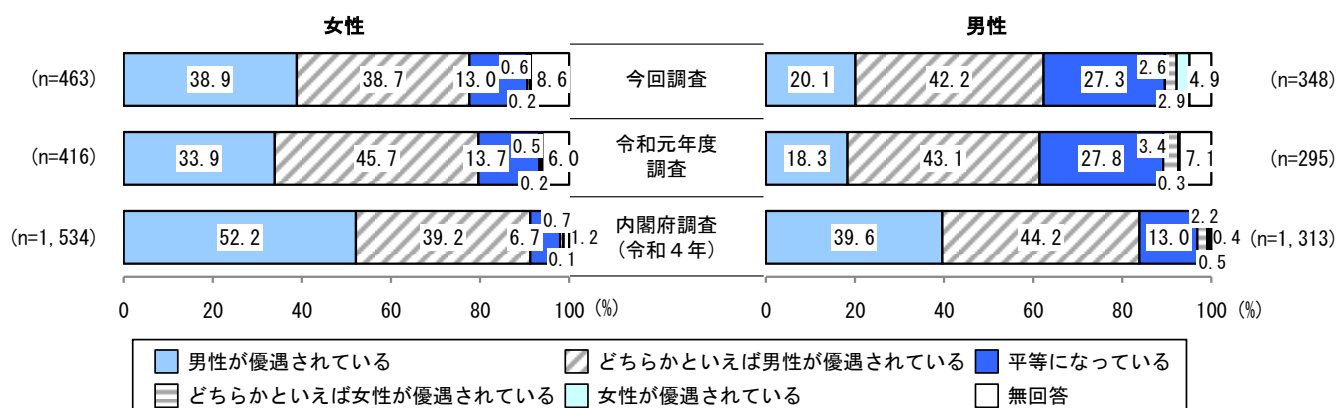
■④社会通念・慣習・しきたりでは



■⑤法律や制度の上では

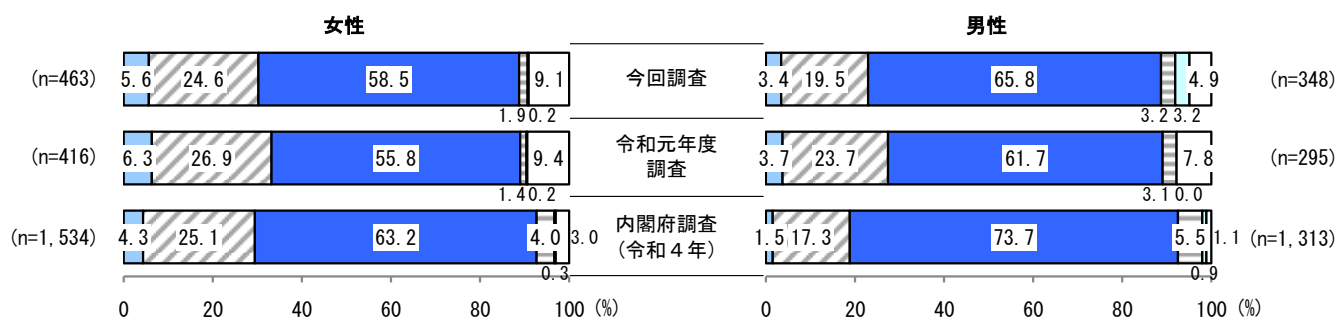


■⑥政治・行政の場では

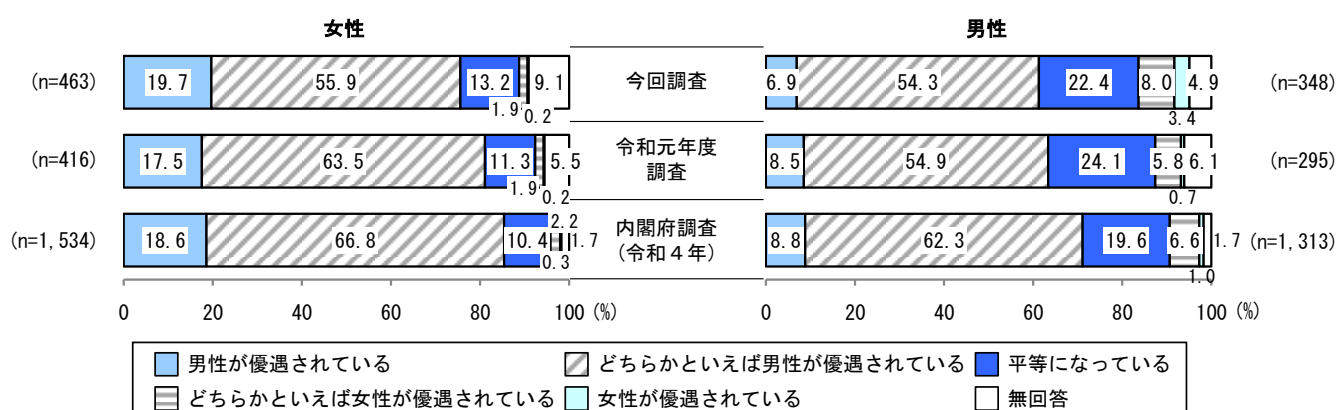


※内閣府調査では、「政治の場」

■⑦学校教育の場では



■⑧社会全般として



※内閣府調査では、「社会全体」

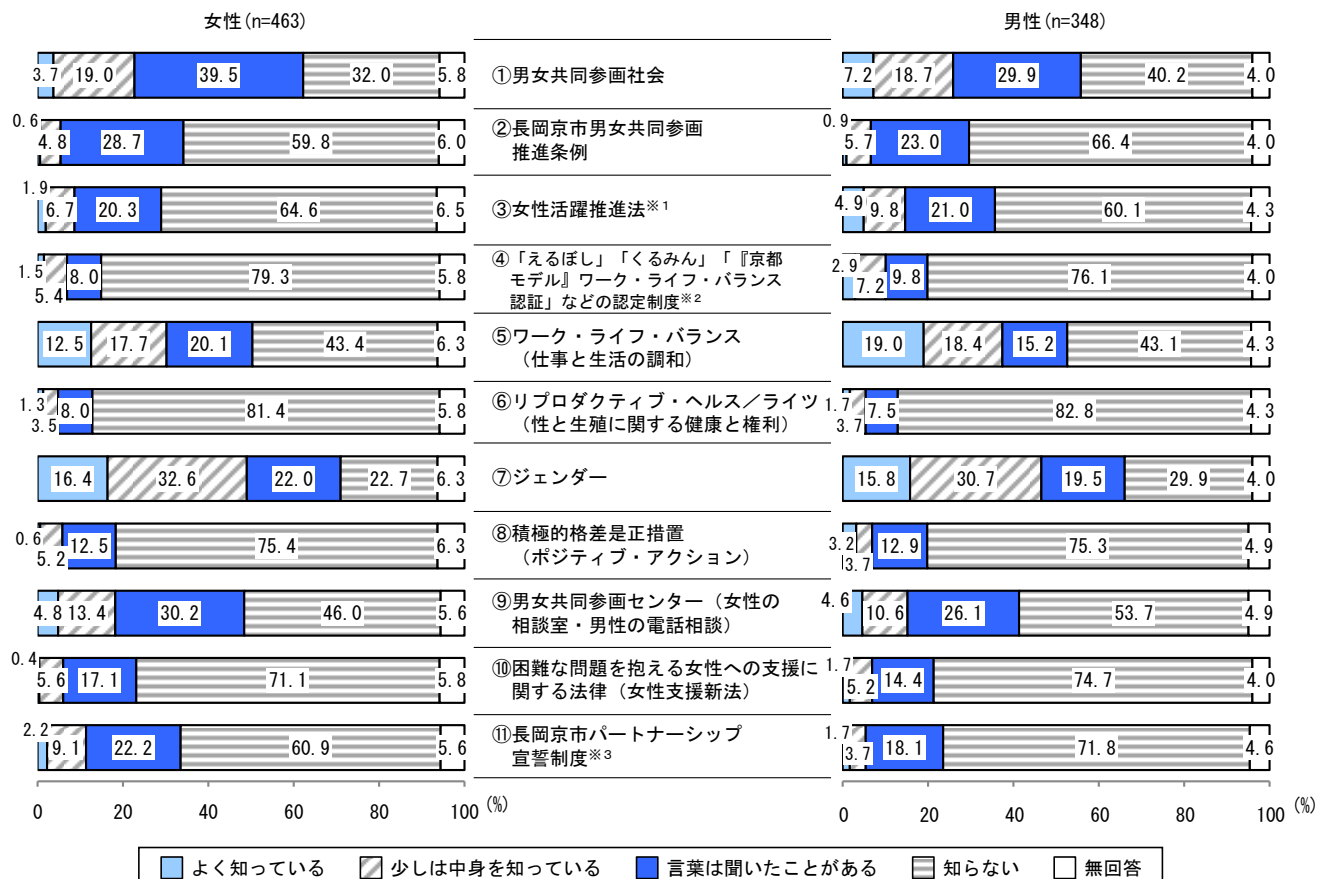
令和元年度実施の前回調査と比較すると、女性は「⑤法律や制度の上では」を除く項目の『男性優遇』が今回調査で低くなっています。特に、「③地域(自治会やPTA、子ども会など)では」は11.9ポイント低くなっています。一方、男性は「⑥政治・行政の場では」を除く項目の『男性優遇』が今回調査で低くなっています。特に、「②職場では」は13.6ポイント、「③地域(自治会やPTA、子ども会など)では」は10.7ポイント低くなっています。

内閣府調査と比較すると、男女とも「⑦学校教育の場では」の『男性優遇』が今回調査で高くなっており、その他の項目では低くなっています。

(2) 法律や言葉、長岡京市の取り組みの認知状況

問34 あなたは、次の法律や言葉、長岡京市の取り組みを知っていますか。

(①～⑪の項目ごとに○は1つずつ)



法律や言葉、長岡京市の取り組みの認知状況をたずねたところ、『知っている』※は男女ともに「⑦ジェンダー」(女性:71.0% 男性 66.0%)が最も高く、次いで「①男女共同参画社会」(女性:62.2% 男性 55.8%)、「⑤ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(女性:50.3% 男性 52.6%)となっています。また、「知らない」は男女ともに「⑥リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」が8割を超えて最も高くなっており、「⑪長岡京市パートナーシップ宣誓制度」は男性で 71.8%と女性より 10.9 ポイント高くなっています。

※『知っている』とは、「よく知っている」「少しは中身を知っている」「言葉は聞いたことがある」の合計

※1 女性活躍推進法

…働く場面で活躍したいという希望を持つ女性が活躍できるよう、一定規模以上の企業などに取り組みを義務づけた法律。

※2 「えるぼし」「くるみん」「『京都モデル』ワーク・ライフ・バランス認証」などの認定制度

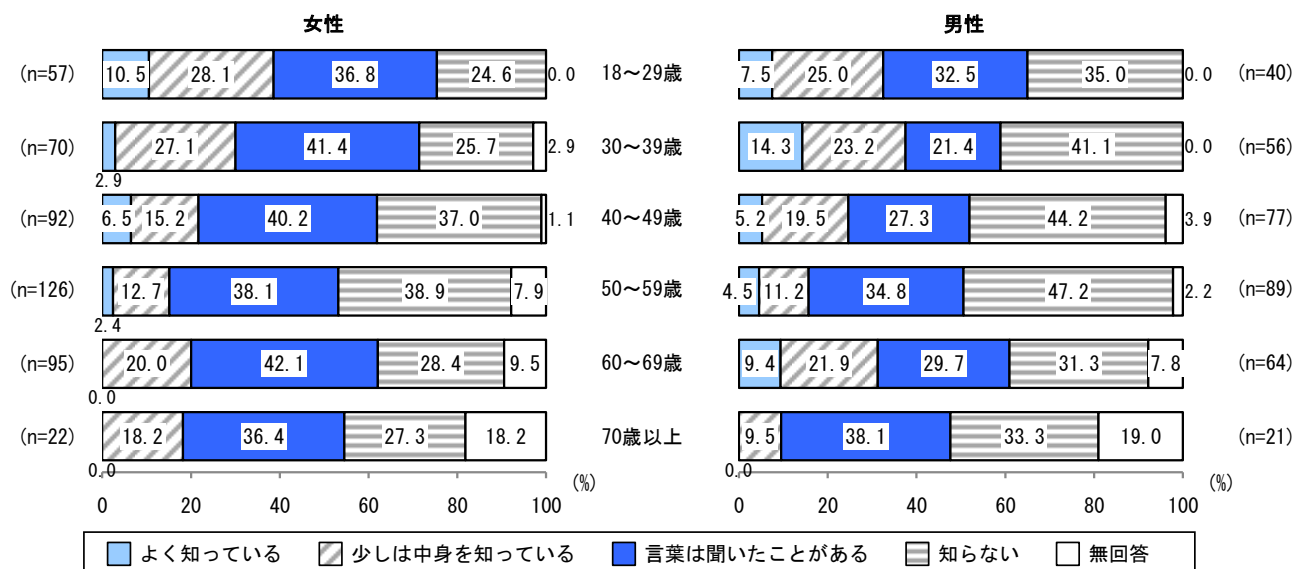
…女性の活躍推進や仕事と子育ての両立支援について一定の要件を満たした企業を国や京都府が認定する制度。

※3 長岡京市パートナーシップ宣誓制度

…一方又は双方が、性的少数者であるお二人が、互いを人生のパートナーとして、日常生活において、相互に協力し合うことを宣誓し、市がその宣誓書の受領を証明する制度。

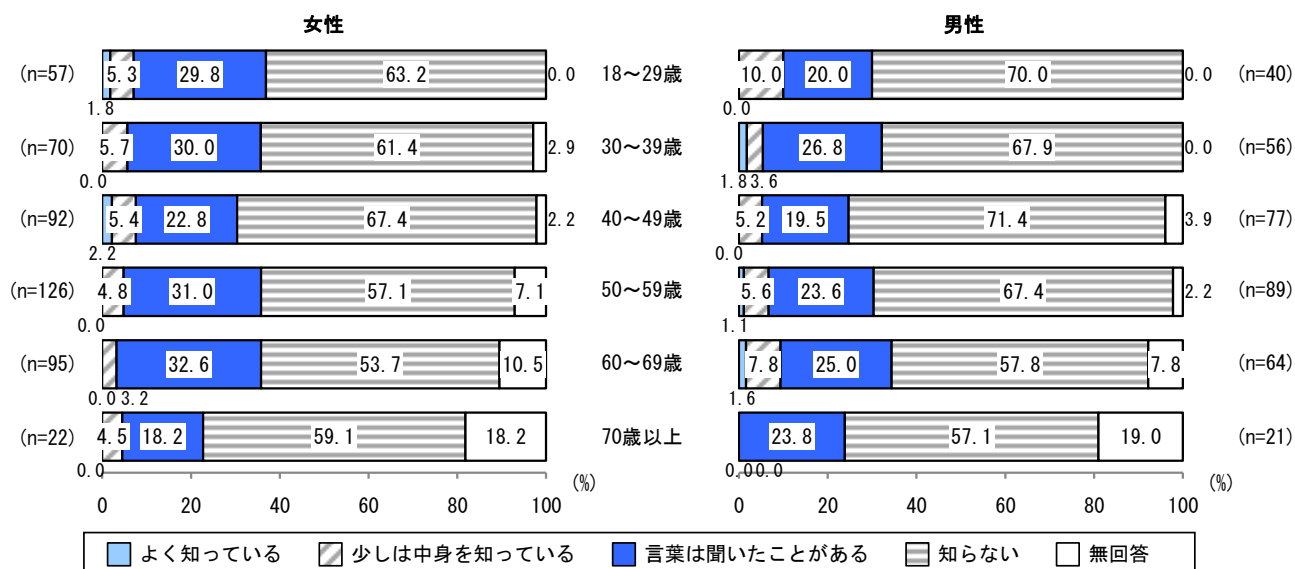
【年齢別 法律や言葉、長岡京市の取り組みの認知状況】

■①男女共同参画社会



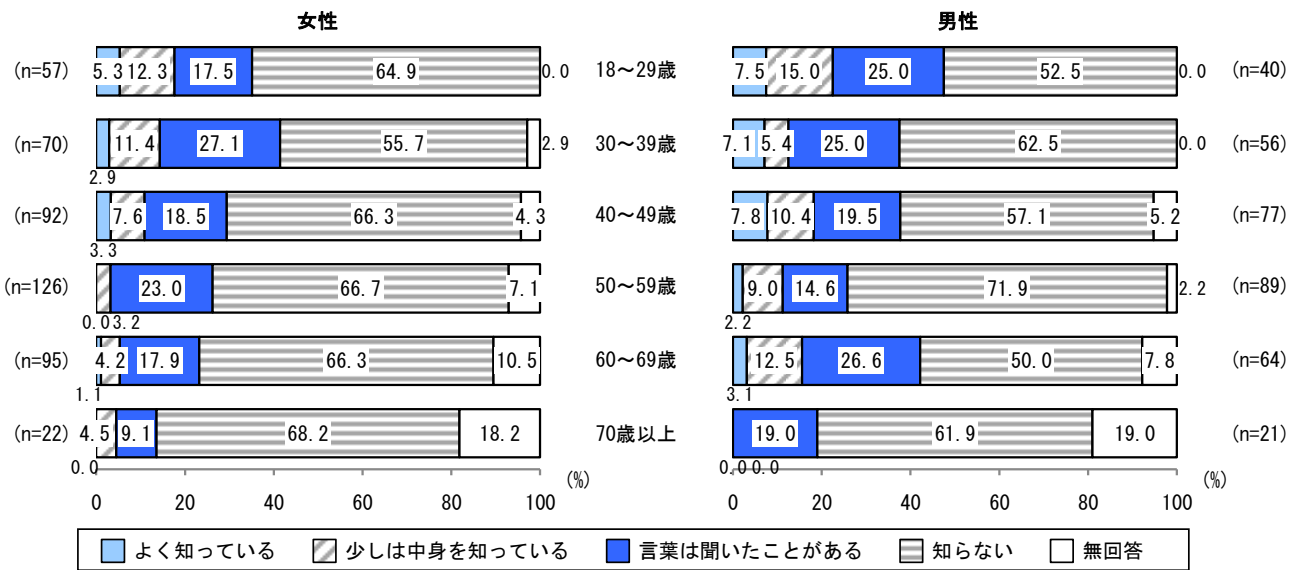
年齢別にみると、女性の18～29歳と30～39歳で『知っている』が7割を占め、他の年齢層より5ポイント以上高くなっています。一方、男性の30～59歳の各年齢層で「知らない」が4割を占めています。

■②長岡京市男女共同参画推進条例



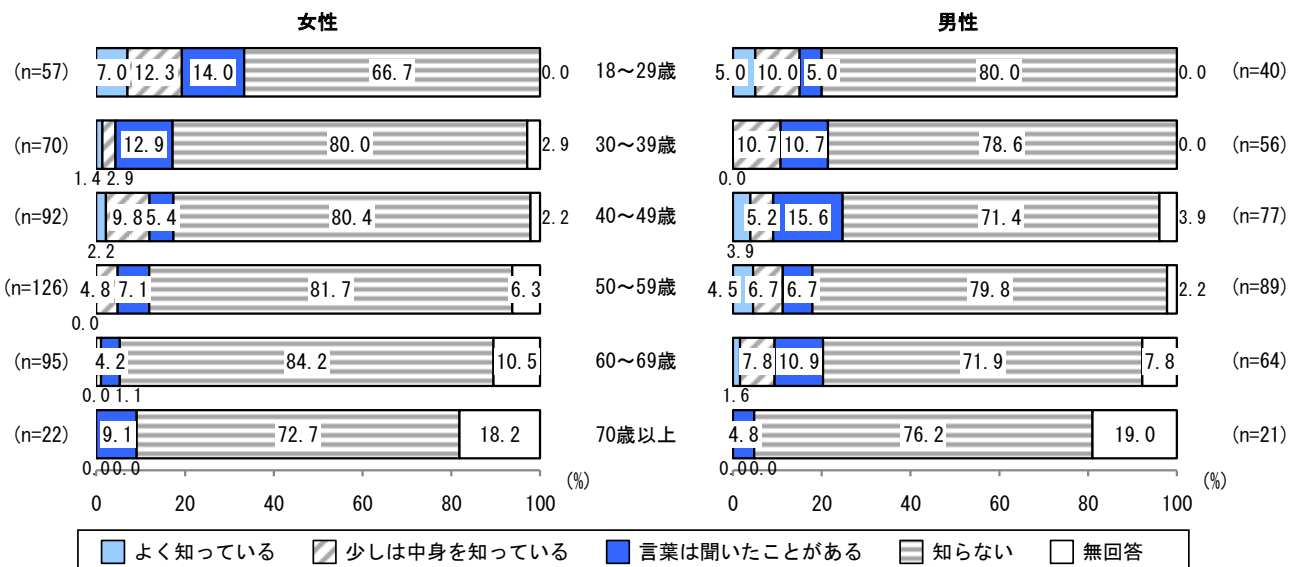
年齢別にみると、いずれの年齢層も「知らない」が過半数を占め、男性の18～29歳と40～49歳では7割と高くなっています。

■③女性活躍推進法



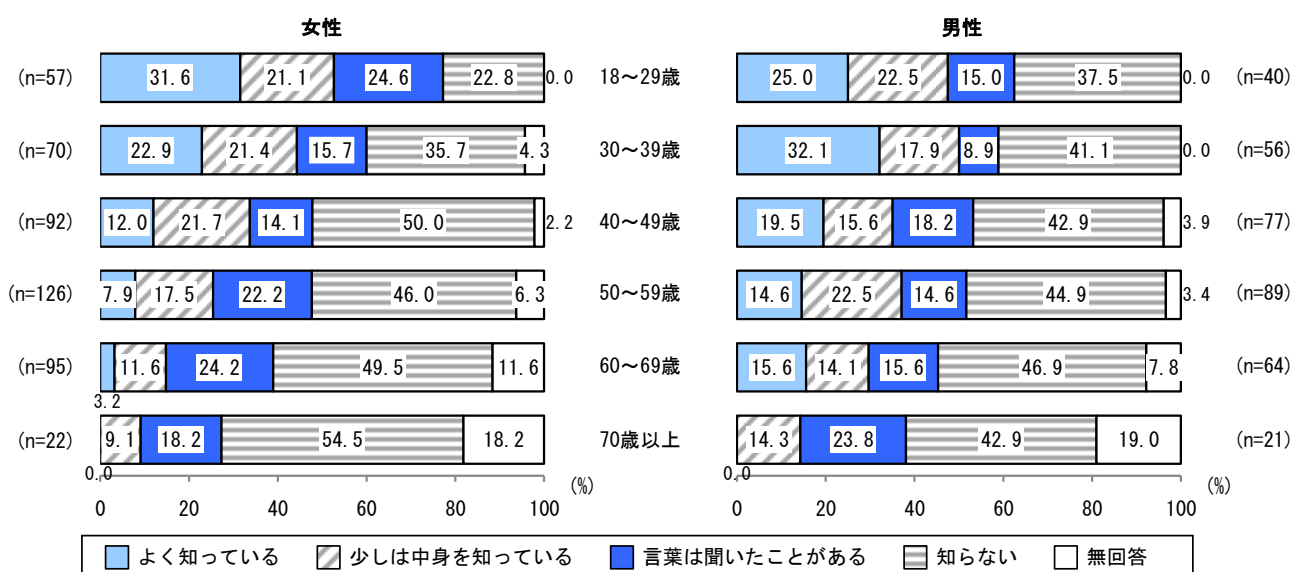
年齢別にみると、女性の30~39歳、男性の18~29歳と60~69歳で『知っている』が4割を占めています。

■④「えるぼし」「くるみん」「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証などの認定制度



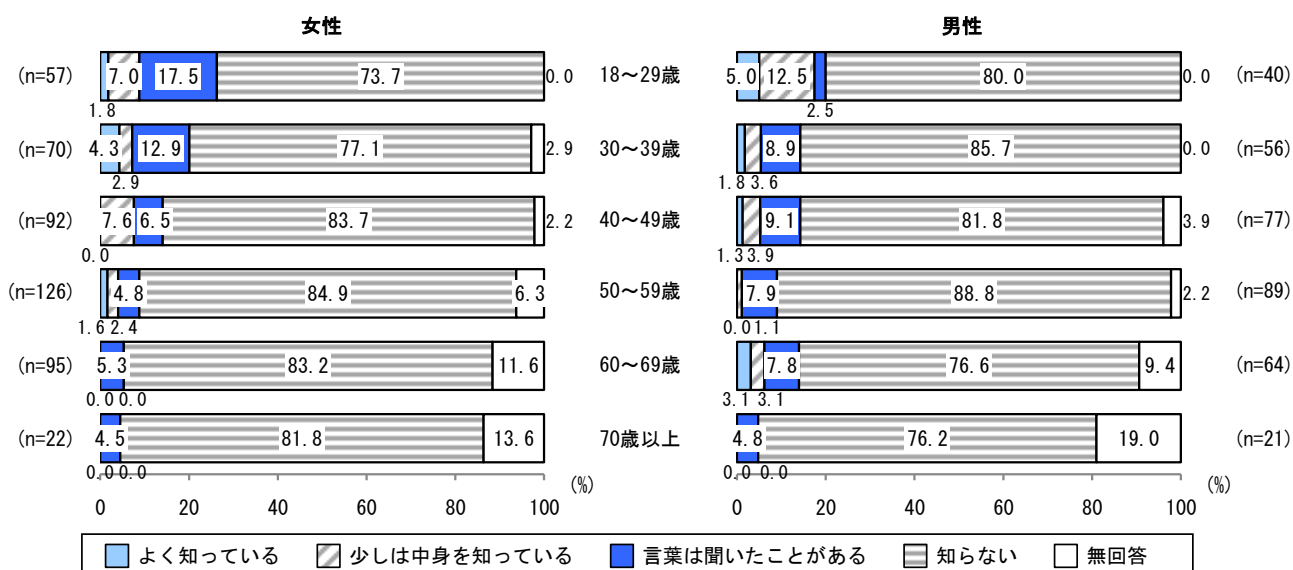
年齢別にみると、女性の18~29歳で『知っている』が33.3%と他の年齢層より高くなっています。

■⑤ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)



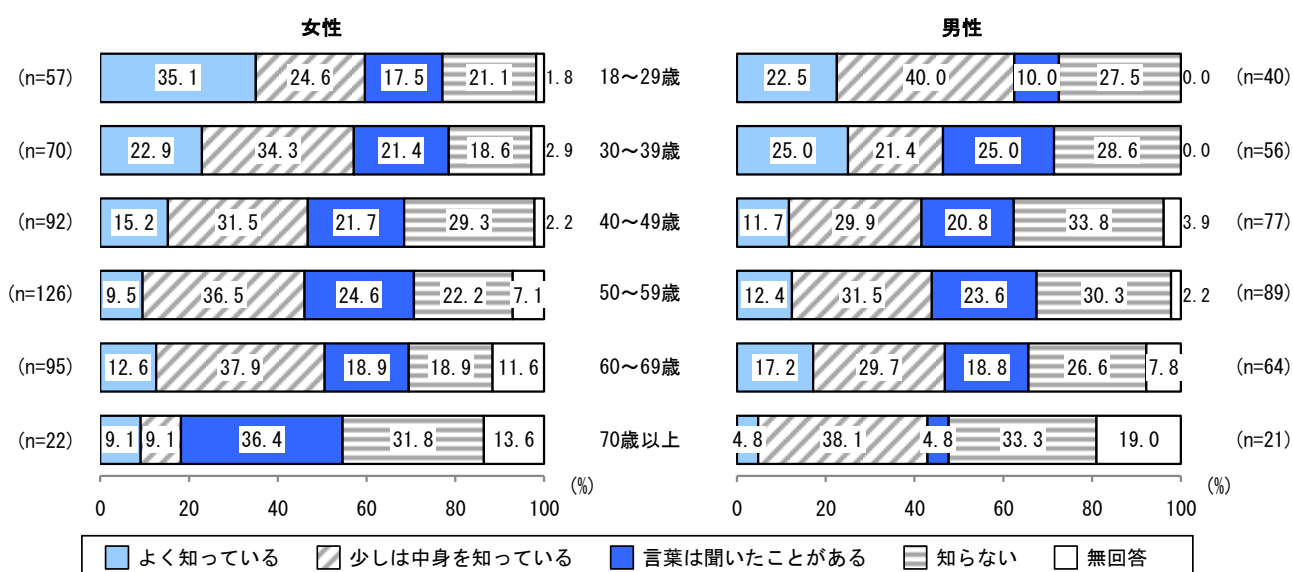
年齢別にみると、年齢が下がるほど『知っている』が高くなる傾向にあります。

■⑥リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康と権利)



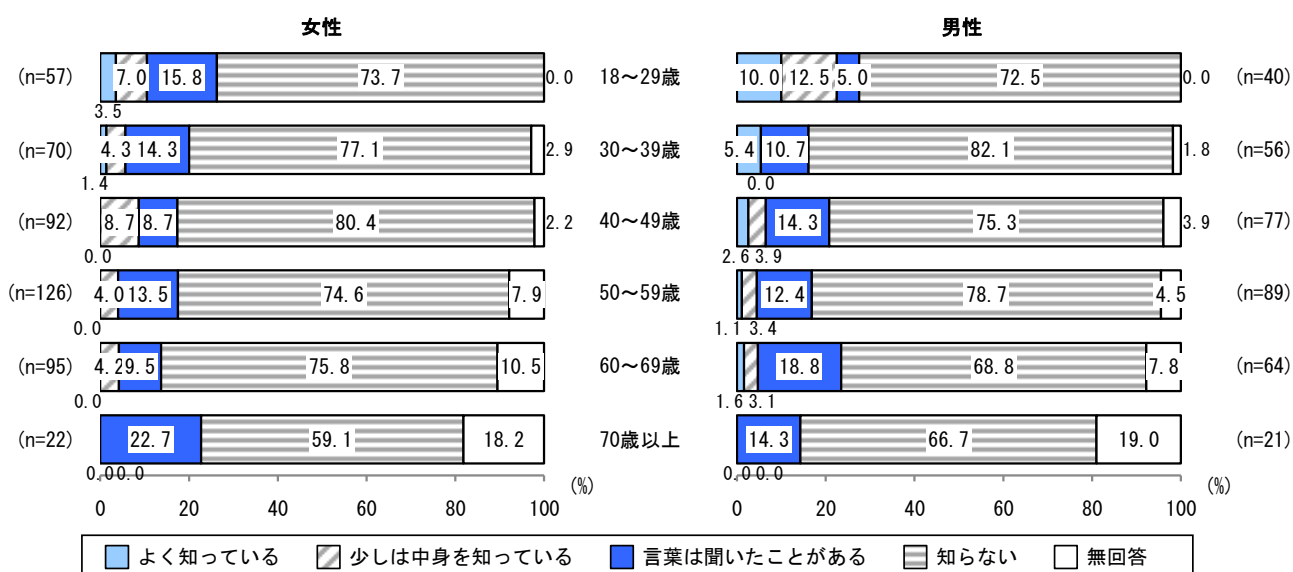
年齢別にみると、女性の18~29歳と30~39歳、男性の18~29歳で『知っている』が2割を占めています。

■⑦ジェンダー



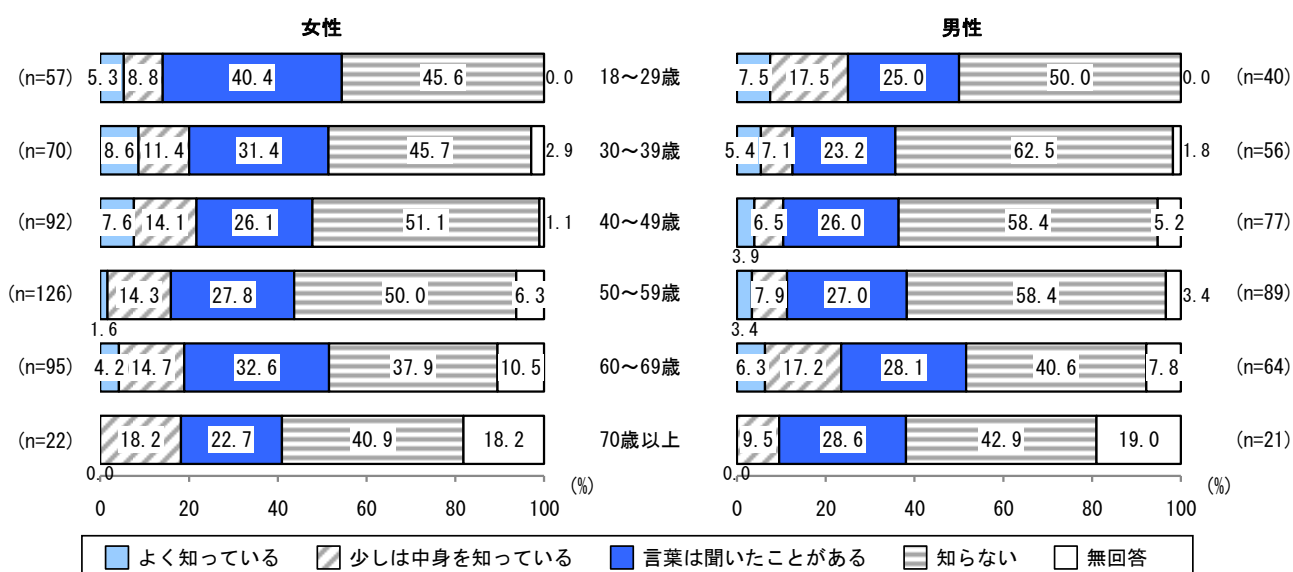
年齢別にみると、女性の18~29歳で「よく知っている」が35.1%と他の年齢層より10ポイント以上高くなっています。

■⑧積極的格差是正措置(ポジティブ・アクション)



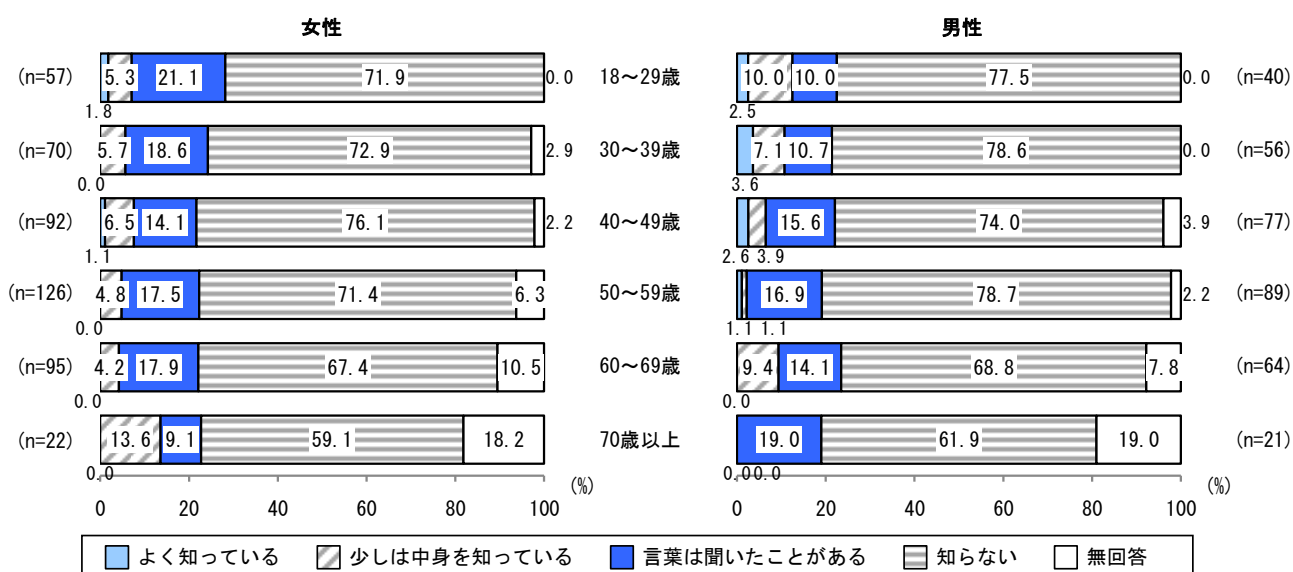
年齢別にみると、女性の40~49歳、男性の30~39歳で「知らない」が8割を占めています。

■⑨男女共同参画センター(女性の相談室・男性の電話相談)



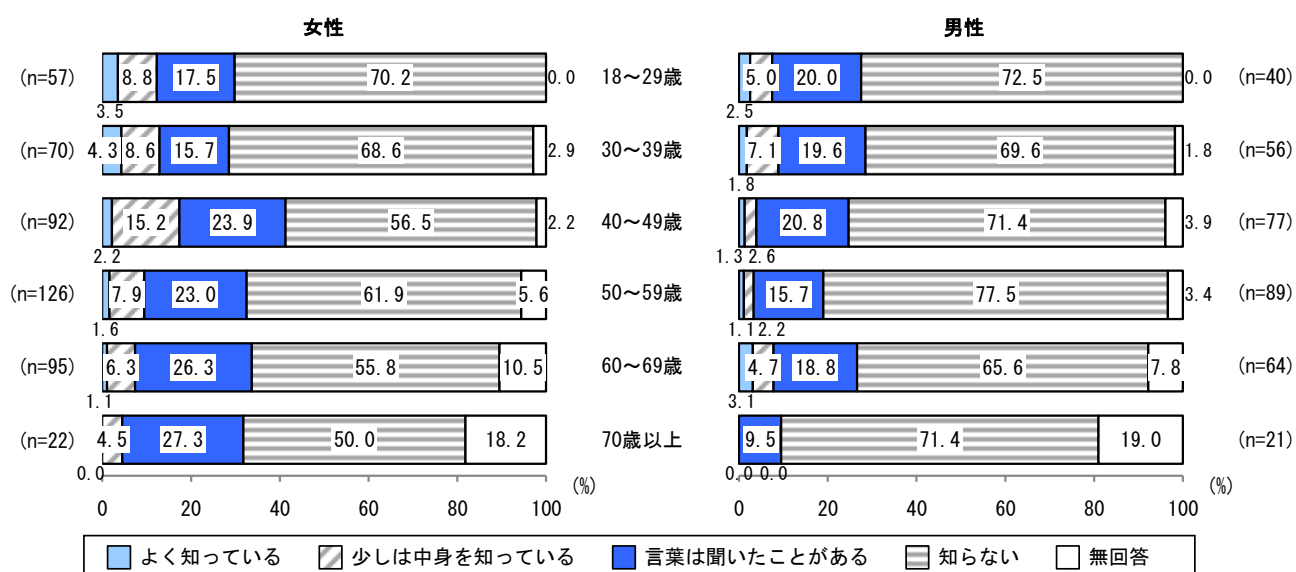
年齢別にみると、女性の18～29歳で「言葉は聞いたことがある」が40.4%と他の年齢層より5ポイント以上高くなっています。一方、「知らない」は男性の30～39歳で62.5%と最も高くなっています。

■⑩困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(女性支援新法)



年齢別にみると、いずれの年齢層も『知っている』は2割前後を占めています。

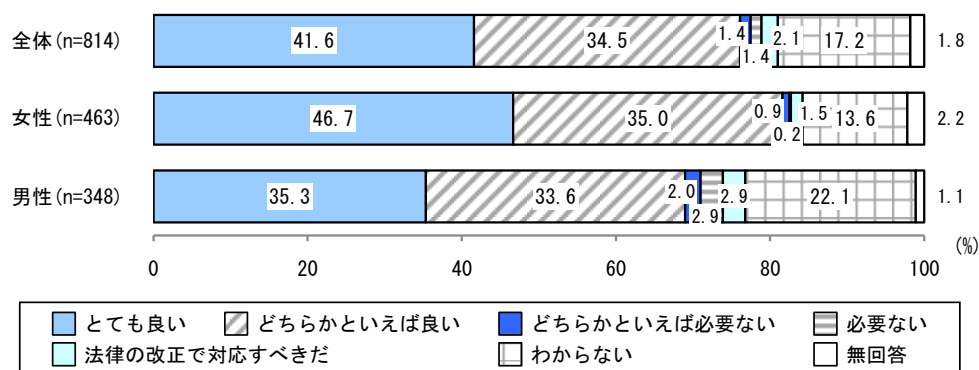
■⑪長岡京市パートナーシップ宣誓制度



年齢別にみると、女性の40～49歳で『知っている』が41.3%と他の年齢層より5ポイント以上高くなっています。

(3)長岡京市パートナーシップ宣誓制度についての考え

問35 長岡京市では、令和3年6月より「長岡京市パートナーシップ宣誓制度」を導入しています。この制度は、一人ひとりの人権が尊重され、多様な生き方や価値観を認め合い、誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目的としています。あなたは、この制度についてどう思われますか。(〇は1つ)



長岡京市パートナーシップ宣誓制度についての考えをたずねたところ、「とても良い」が 41.6%、「どちらかといえば良い」が 34.5%、「わからない」が 17.2%となっています。

性別にみると、『良い』※は女性で 81.7%、男性で 68.9%となっています。

※『良い』とは、「とても良い」「どちらかといえば良い」の合計

【年齢別 長岡京市パートナーシップ宣誓制度についての考え】

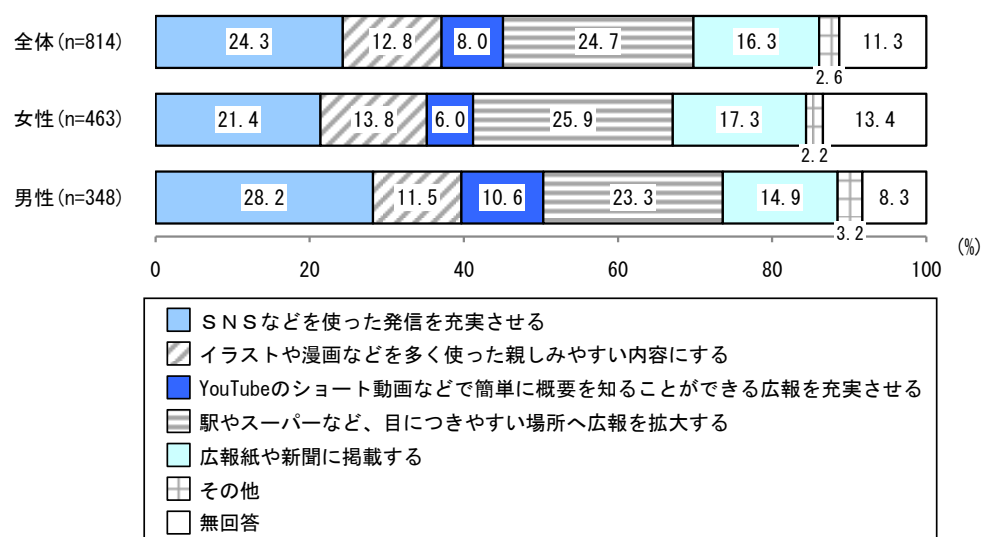
		回答者数 (n)	とても 良い	良 ど い ち ら か と い え ば	必 ど ち ら か と い え ば	必 要 な い	す 法 律 の 改 正 で 対 応	わ か ら な い	無 回 答	『 良 い 』
全 体		814	41.6	34.5	1.4	1.4	2.1	17.2	1.8	76.1
年 齢 別	18～29歳	57	47.4	29.8	1.8	1.8	3.5	12.3	3.5	77.2
	30～39歳	70	45.7	35.7	2.9	—	1.4	11.4	2.9	81.4
	40～49歳	92	52.2	33.7	1.1	—	—	12.0	1.1	85.9
	50～59歳	126	42.9	39.7	—	—	1.6	15.9	—	82.6
	60～69歳	95	48.4	30.5	—	—	2.1	15.8	3.2	78.9
	70歳以上	22	40.9	45.5	—	—	—	9.1	4.5	86.4
	18～29歳	40	30.0	25.0	2.5	7.5	2.5	32.5	—	55.0
	30～39歳	56	39.3	33.9	1.8	1.8	1.8	21.4	—	73.2
	40～49歳	77	39.0	39.0	1.3	2.6	—	18.2	—	78.0
	50～59歳	89	32.6	37.1	2.2	—	3.4	24.7	—	69.7
男 性	60～69歳	64	29.7	32.8	3.1	3.1	6.3	21.9	3.1	62.5
	70歳以上	21	47.6	19.0	—	9.5	4.8	9.5	9.5	66.6

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、「とても良い」は女性の 40～49 歳で 52.2%と最も高くなっています。また、いずれの年齢層も『良い』は女性が男性より高くなっています。

(4)効果的だと思う広報活動

問36 問34で挙げたような制度や言葉、長岡京市の取り組みについて、よりたくさんの方に知ってもらうためには、どの広報活動が一番効果的だと思いますか。(○は1つ)



効果的だと思う広報活動は、「駅やスーパーなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する」が 24.7%と最も高く、次いで「SNSなどを使った発信を充実させる」が 24.3%、「広報紙や新聞に掲載する」が 16.3%となっています。

性別にみると、女性では「駅やスーパーなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する」が 25.9%、男性では「SNSなどを使った発信を充実させる」が 28.2%と最も高くなっています。

【年齢別 効果的だと思う広報活動】

(%)

		回答者数 (n)	SNS などを使った 発信を充実させる	イラストや漫画 などを多く使った 親しみやすい 内容にする	YouTubeのショート 動画などで簡単に 概要を知ることが できる広報を充 実させる	駅やスーパーなど、 目につきやすい場 所へ広報を拡大す る	広報紙や新聞に掲 載する	その他	無回答
全 体		814	24.3	12.8	8.0	24.7	16.3	2.6	11.3
年 齢 別	18～29歳	57	26.3	12.3	12.3	33.3	3.5	5.3	7.0
	30～39歳	70	32.9	11.4	2.9	25.7	8.6	1.4	17.1
	女性 40～49歳	92	28.3	16.3	6.5	22.8	14.1	3.3	8.7
	50～59歳	126	19.8	9.5	4.0	29.4	20.6	0.8	15.9
	60～69歳	95	9.5	18.9	7.4	22.1	25.3	2.1	14.7
	70歳以上	22	4.5	18.2	4.5	18.2	40.9	-	13.6
	18～29歳	40	37.5	7.5	15.0	25.0	10.0	5.0	-
	30～39歳	56	28.6	10.7	16.1	26.8	8.9	5.4	3.6
	男性 40～49歳	77	26.0	13.0	11.7	28.6	10.4	3.9	6.5
	50～59歳	89	33.7	9.0	6.7	25.8	18.0	-	6.7
	60～69歳	64	23.4	18.8	6.3	7.8	23.4	4.7	15.6
	70歳以上	21	9.5	4.8	14.3	28.6	19.0	-	23.8

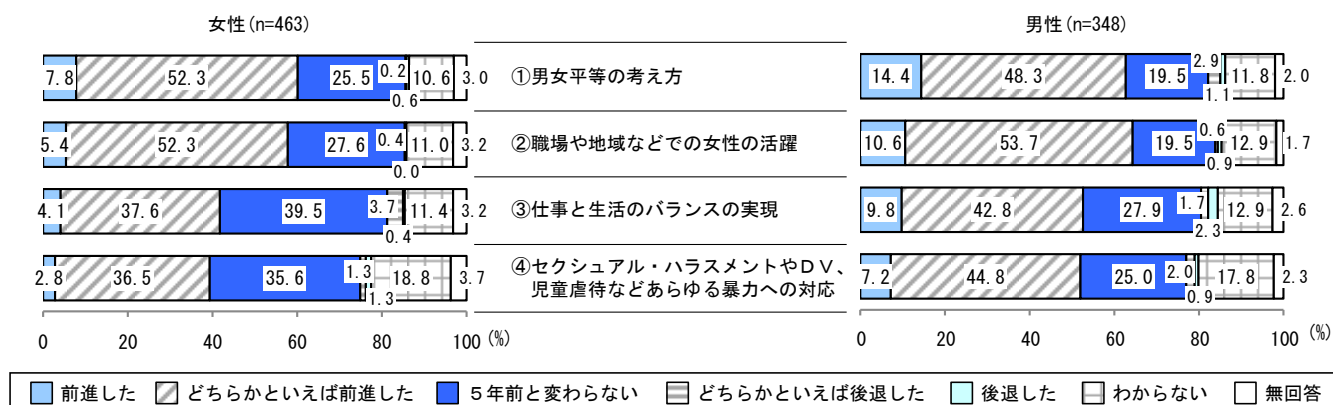
※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

年齢別にみると、男性の 18～29 歳で「SNSなどを使った発信を充実させる」が 37.5%と他の年齢層より高くなっています。また、概ね年齢が上がるほど「広報紙や新聞に掲載する」は高くなる傾向にあります。

(5)男女共同参画の5年間の変化

問37 あなたは、この5年間で次のようなことが、どの程度進んだと思いますか。

(①～④の項目ごとに○は1つずつ)

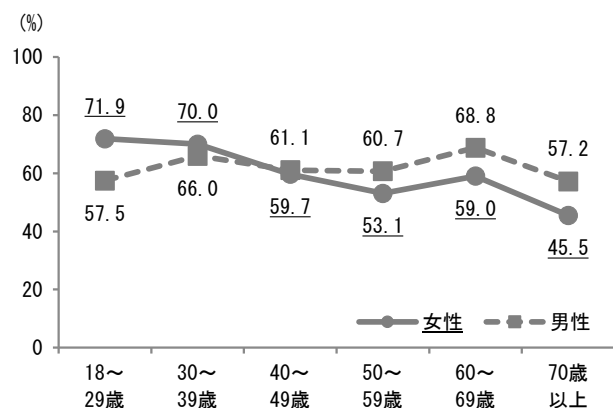


男女共同参画の5年間の変化をたずねたところ、『前進』※は、男性でいずれの項目も過半数を占めています。一方、女性で「③仕事と生活のバランスの実現」「④セクシュアル・ハラスメントやDV、児童虐待などあらゆる暴力への対応」の『前進』は男性より10ポイント以上低くなっています。また、「5年前と変わらない」は女性の「③仕事と生活のバランスの実現」が39.5%と最も高くなっています。

※『前進』とは、「前進した」「どちらかといえば前進した」の合計

【年齢別 男女共同参画の5年間の変化－『前進』の割合】

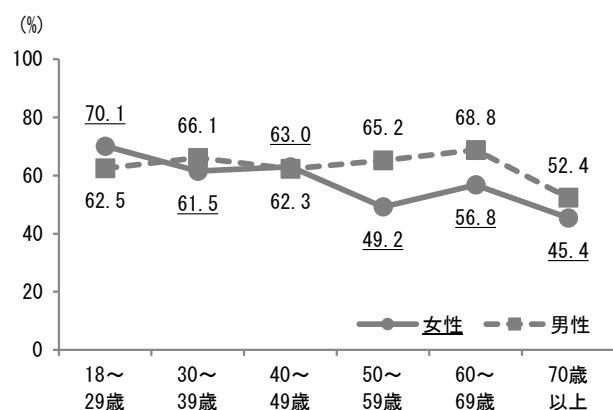
■①男女平等の考え方



女性では、18～29歳と30～39歳で7割を占め、他の年齢層より10ポイント以上高くなっています。

男性では、30～69歳の各年齢層で6割を占めています。

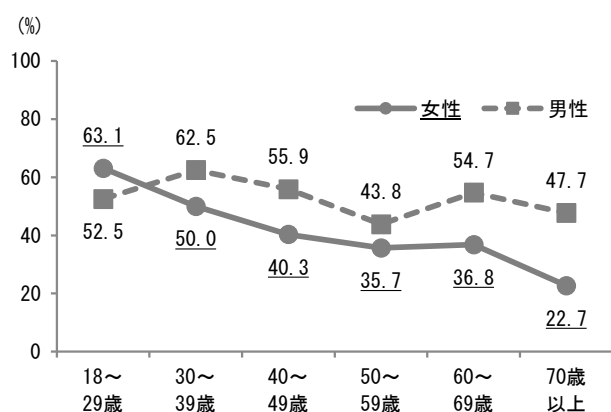
■②職場や地域などでの女性の活躍



女性では、18～29歳で70.1%と最も高くなっています。

男性では、70歳未満の各年齢層で6割を占め、50～59歳と60～69歳では女性との差が10ポイント以上あります。

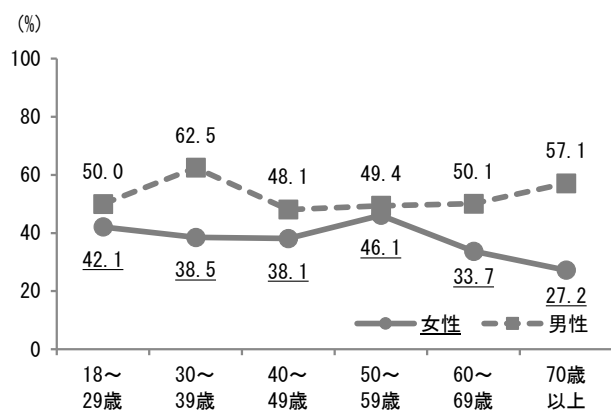
■③仕事と生活のバランスの実現



女性では、年齢が下がるほど割合が高くなる傾向にあり、18～29歳で63.1%となっています。

男性では、18～29歳を除いた年齢層で女性を上回っています。

■④セクシュアル・ハラスメントやDV、児童虐待などあらゆる暴力への対応

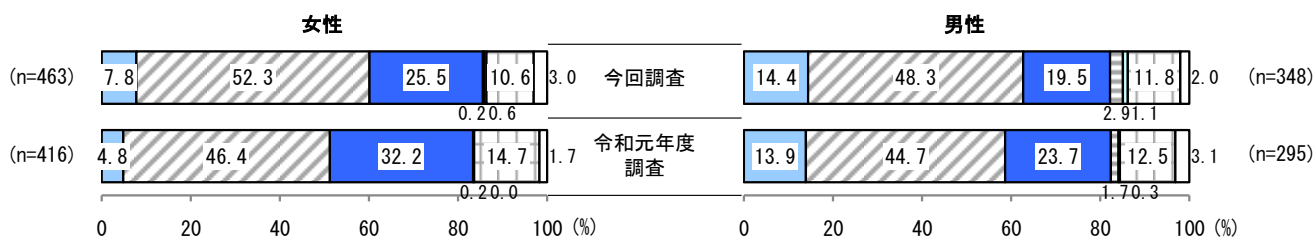


女性では、18～29歳と50～59歳で4割を占めています。

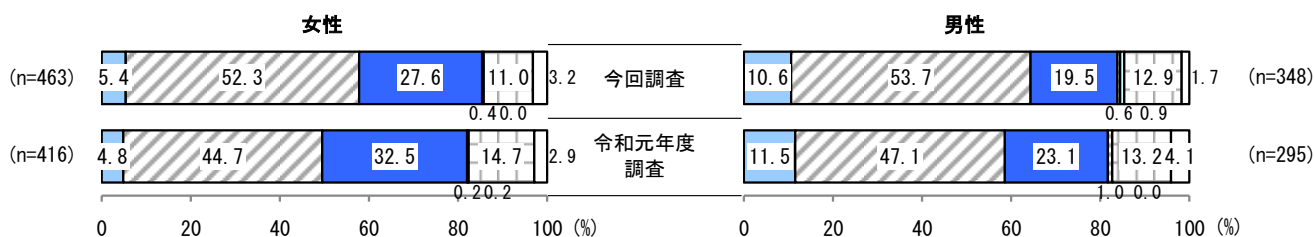
男性では、30～39歳で62.5%とすべての年齢層の中で最も高くなっています。

【参考 過去調査 男女共同参画の5年間の変化】

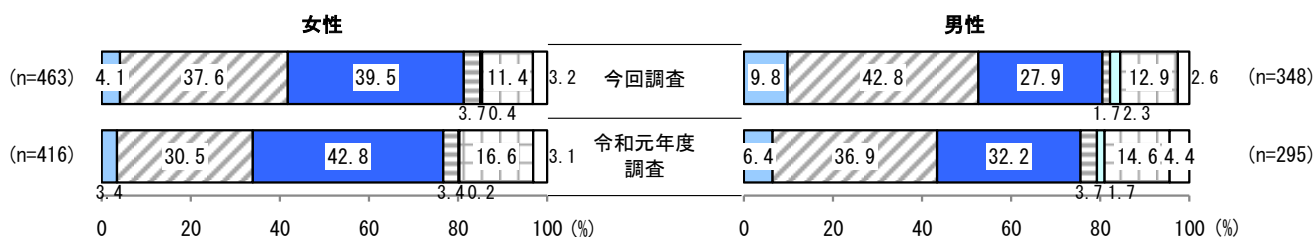
■①男女平等の考え方



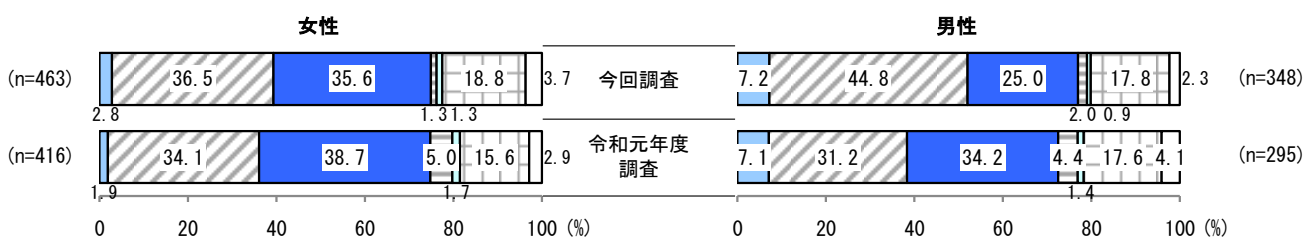
■②職場や地域などでの女性の活躍



■③仕事と生活のバランスの実現



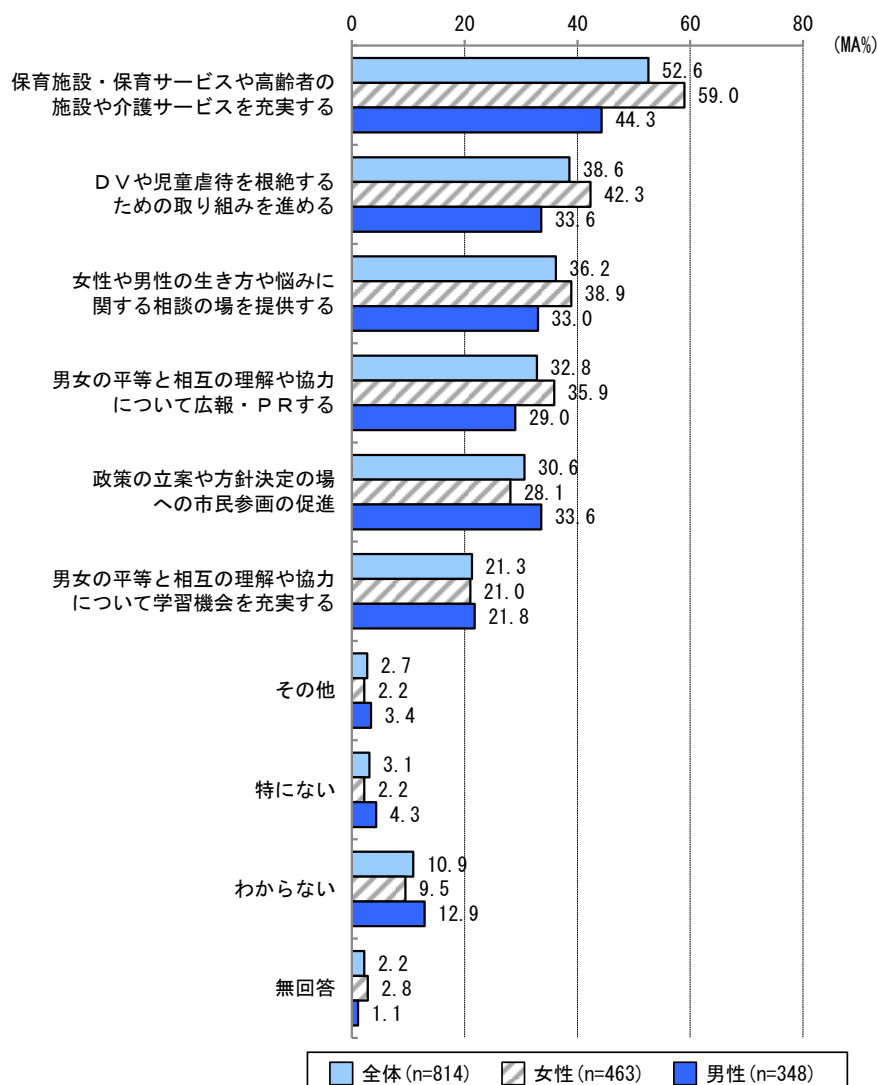
■④セクシュアル・ハラスメントやDV、児童虐待などあらゆる暴力への対応



令和元年度実施の前回調査と比較すると、男女とも全項目の『前進』が今回調査で高くなっています。特に、「④セクシュアル・ハラスメントやDV、児童虐待などあらゆる暴力への対応」は男性で13.7ポイント高くなっています。

(6)「男女共同参画社会」の実現のために長岡京市が取り組むべきこと

問38 あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、長岡京市はどのようなことに取り組むことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



「男女共同参画社会」の実現のために長岡京市が取り組むべきことは、「保育施設・保育サービスや高齢者の施設や介護サービスを充実する」が 52.6%と最も高く、次いで「DVや児童虐待を根絶するための取り組みを進める」が 38.6%、「女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する」が 36.2%となっています。

性別にみると、「保育施設・保育サービスや高齢者の施設や介護サービスを充実する」が女性で 59.0%と男性より 14.7 ポイント高くなっています。

【年齢別「男女共同参画社会」の実現のために長岡京市が取り組むべきこと】

(%)

		回答者数 (n)	の保育施設や 施設や介護サ ービスを充実 する高齢者	取り組や児童 虐待を根絶す るための	る女性や男性 の生き方や悩 みに関する	つ男女の平等 と相互の理解 や協力に	民参画の立案 や方針決定の 場への市	つ男女の平等 と相互の理解 や協力に	その他	特 に ない	わ か ら な い	無 回 答
全 体		814	52.6	38.6	36.2	32.8	30.6	21.3	2.7	3.1	10.9	2.2
年 齢 別	18～29歳	57	56.1	56.1	52.6	43.9	29.8	36.8	-	1.8	7.0	-
	30～39歳	70	60.0	38.6	35.7	31.4	25.7	22.9	4.3	2.9	5.7	4.3
	女 40～49歳	92	55.4	45.7	35.9	34.8	31.5	22.8	4.3	1.1	10.9	2.2
	性 50～59歳	126	57.9	34.9	38.9	35.7	23.8	15.1	0.8	1.6	11.1	2.4
	60～69歳	95	65.3	44.2	35.8	35.8	32.6	15.8	2.1	3.2	9.5	2.1
	70歳以上	22	59.1	40.9	40.9	36.4	22.7	22.7	-	4.5	13.6	9.1
	18～29歳	40	22.5	37.5	30.0	22.5	27.5	17.5	2.5	5.0	25.0	-
	30～39歳	56	46.4	32.1	32.1	21.4	32.1	25.0	7.1	-	16.1	-
	男 40～49歳	77	42.9	37.7	32.5	28.6	28.6	20.8	1.3	5.2	11.7	1.3
	性 50～59歳	89	44.9	29.2	32.6	25.8	32.6	16.9	3.4	4.5	13.5	-
	60～69歳	64	59.4	31.3	39.1	45.3	43.8	28.1	3.1	1.6	6.3	1.6
	70歳以上	21	33.3	38.1	28.6	23.8	38.1	28.6	4.8	19.0	4.8	9.5

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 30 件未満の場合は網掛けなし)

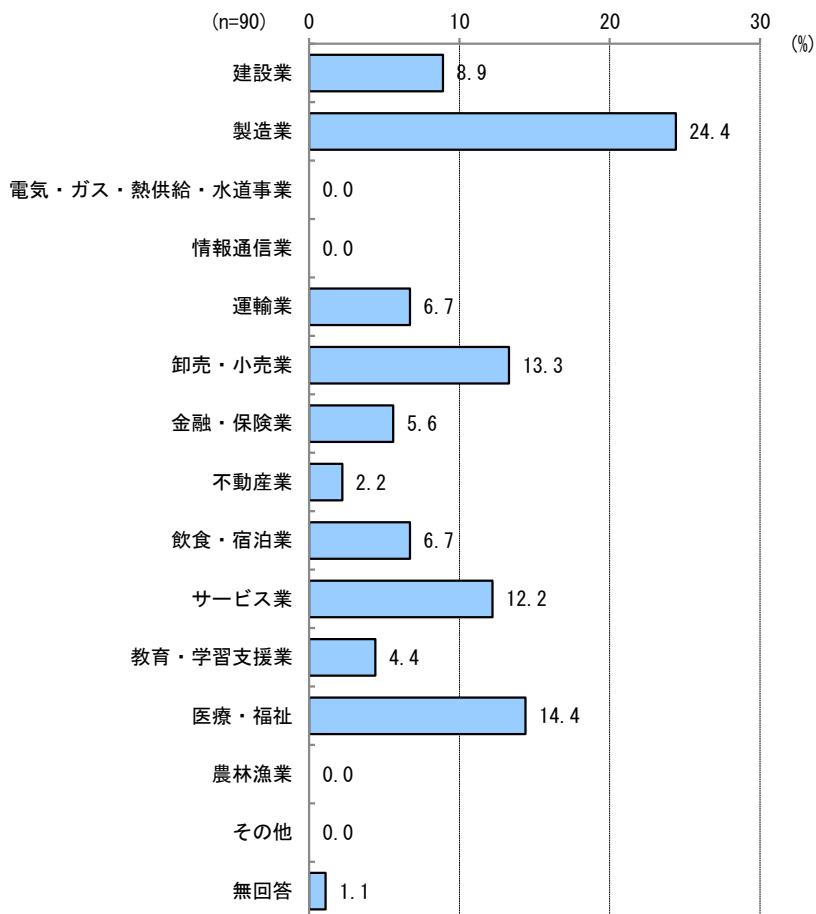
年齢別にみると、女性の 60～69 歳で「保育施設・保育サービスや高齢者の施設や介護サービスを充実する」が 65.3%と最も高くなっています。また、女性の 18～29 歳で「DVや児童虐待を根絶するための取り組みを進める」「女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する」が他の年齢層より 10 ポイント以上高くなっています。一方、男性の 60～69 歳で「男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする」「政策の立案や方針決定の場への市民参画の促進」が 4 割を占め、高くなっています。

V 事業所意識調査結果

1. 事業所の属性

(1)業種

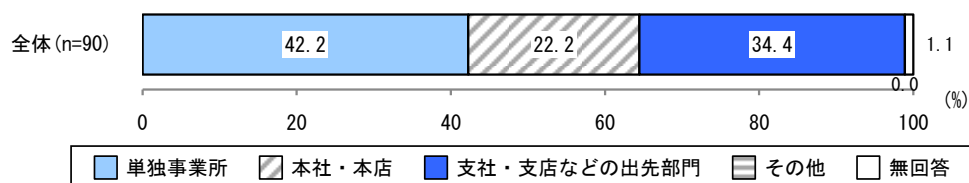
問1 貴事業所の業種についてお答えください。(○は1つ)



事業所の業種は、「製造業」が24.4%と最も高く、次いで「医療・福祉」が14.4%、「卸売・小売業」が13.3%、「サービス業」が12.2%となっています。

(2)事業所区分

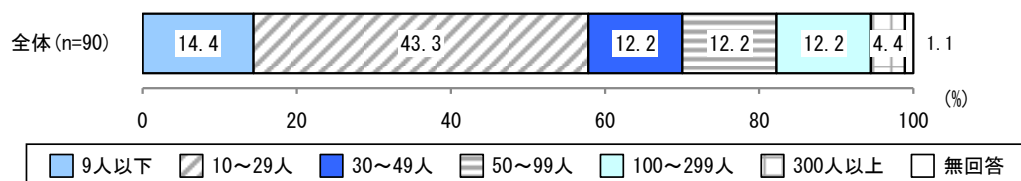
問 2 貴事業所の区分についてお答えください。(〇は1つ)



事業所区分は、「単独事業所」が 42.2%、「支社・支店などの出先部門」が 34.4%、「本社・本店」が 22.2% となっています。

(3)従業者数

問 3 貴事業所の従業者数についてお答えください。(○は1つ)



事業所の従業者数は、「10～29人」が43.3%と最も高く、次いで「9人以下」が14.4%、「30～49人」「50～99人」「100～299人」がいずれも12.2%となっています。

(4)従業者数・役員・管理職等の内訳

問 4 貴事業所の従業者数・管理職及び役員数についてお答えください。

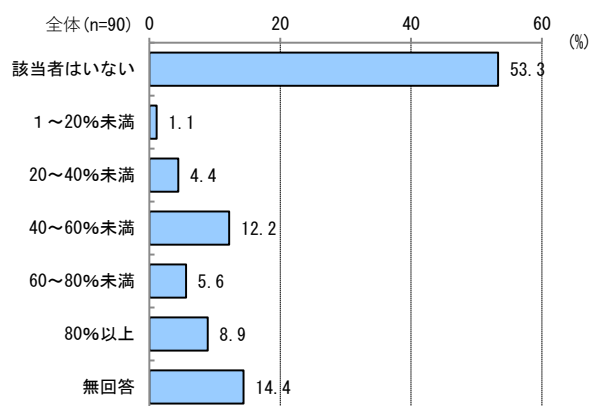
(下記枠内に数字でご記入ください)

	女性	男性
A. 役員の数	47 人	104 人
B. 管理職の数	296 人	1,142 人
C. 正規社員・職員の数	1,902 人	4,354 人
D. 非正規社員・職員の数	1,933 人	1,049 人

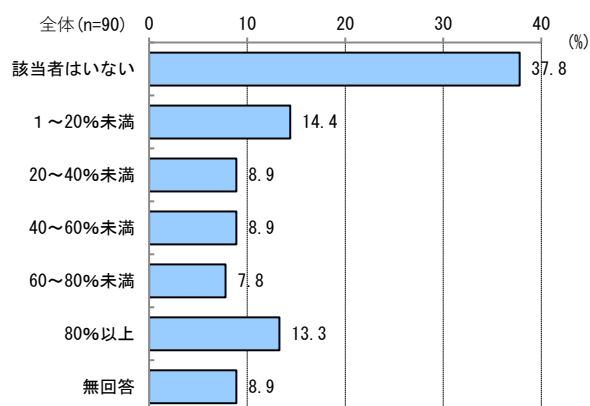
回答事業所(90件)に勤めている役員の数女性47人・男性104人で女性の割合は31.1%、管理職の数は、女性296人・男性1,142人で女性の割合は20.6%、正規社員・職員の数女性1,902人・男性4,354人で、女性の割合は30.4%、非正規社員・職員の数女性1,933人・男性1,049人で女性の割合は64.8%となっています。

<回答事業所ごとの女性割合>

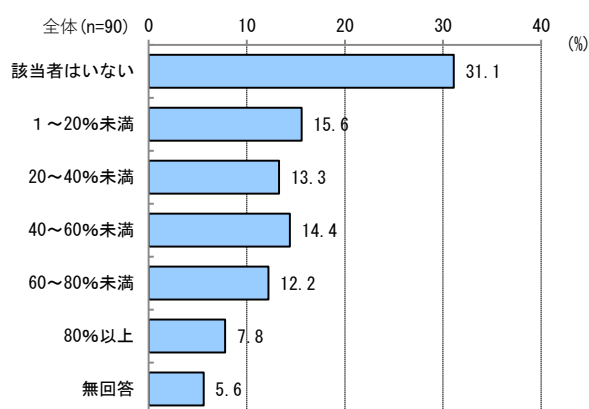
■A. 役員の女性割合



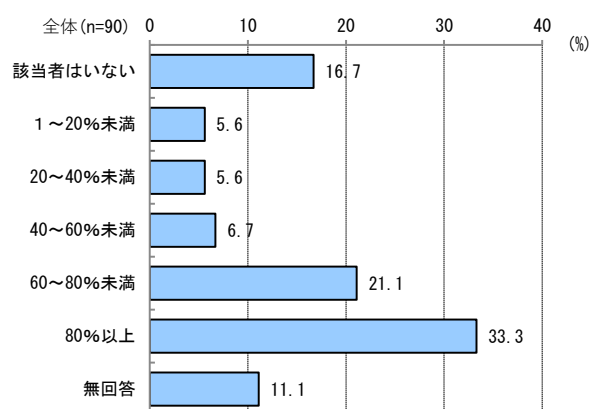
■B. 管理職の女性割合



■C. 正規社員・職員の女性割合



■D. 非正規社員・職員の女性割合

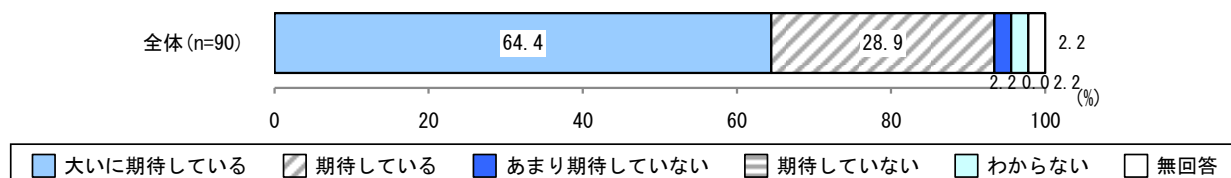


回答事業所(90件)ごとの女性割合は、役員、管理職、正規社員・職員で「該当者はいない」が3～5割を超え最も高くなっています。一方で、非正規社員・職員の女性割合は「80%以上」が33.3%と最も高く、次いで「60～80%未満」が21.1%、「該当者がいない」が16.7%となっています。

2. 女性の活躍について

(1) 女性従業員の活躍についての考え方

問 5 貴事業所では、女性従業員の活躍をどのように考えておられますか。(○は1つ)

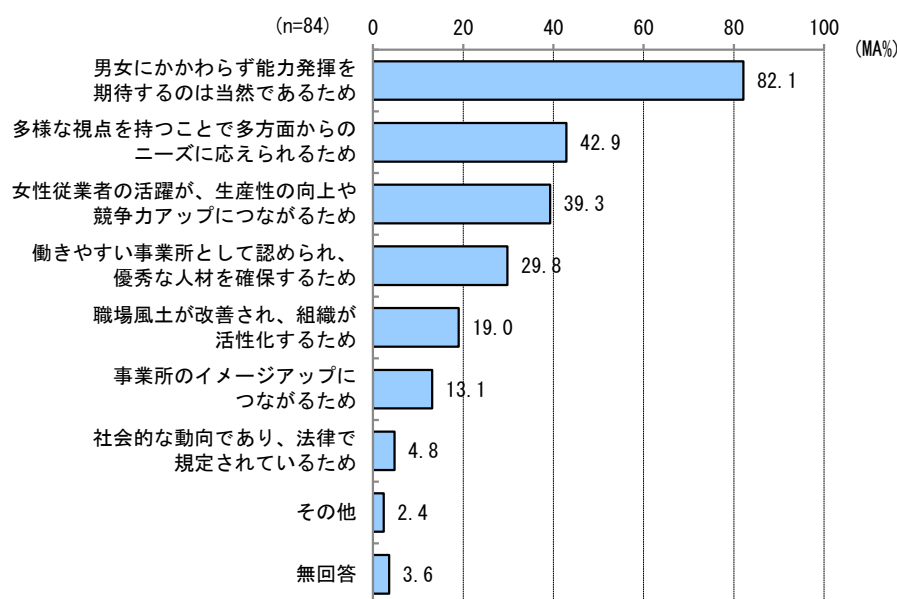


女性従業員の活躍についての考え方は、「大いに期待している」が 64.4%と最も高く、「期待している」(28.9%)と合わせた『期待している』が 93.3%となっています。

(2) 女性従業員の活躍を期待する理由

【問 5 で、「大いに期待している」、「期待している」と回答された方におたずねします。】

問 5-1 それは、どうしてですか。(○はいくつでも)



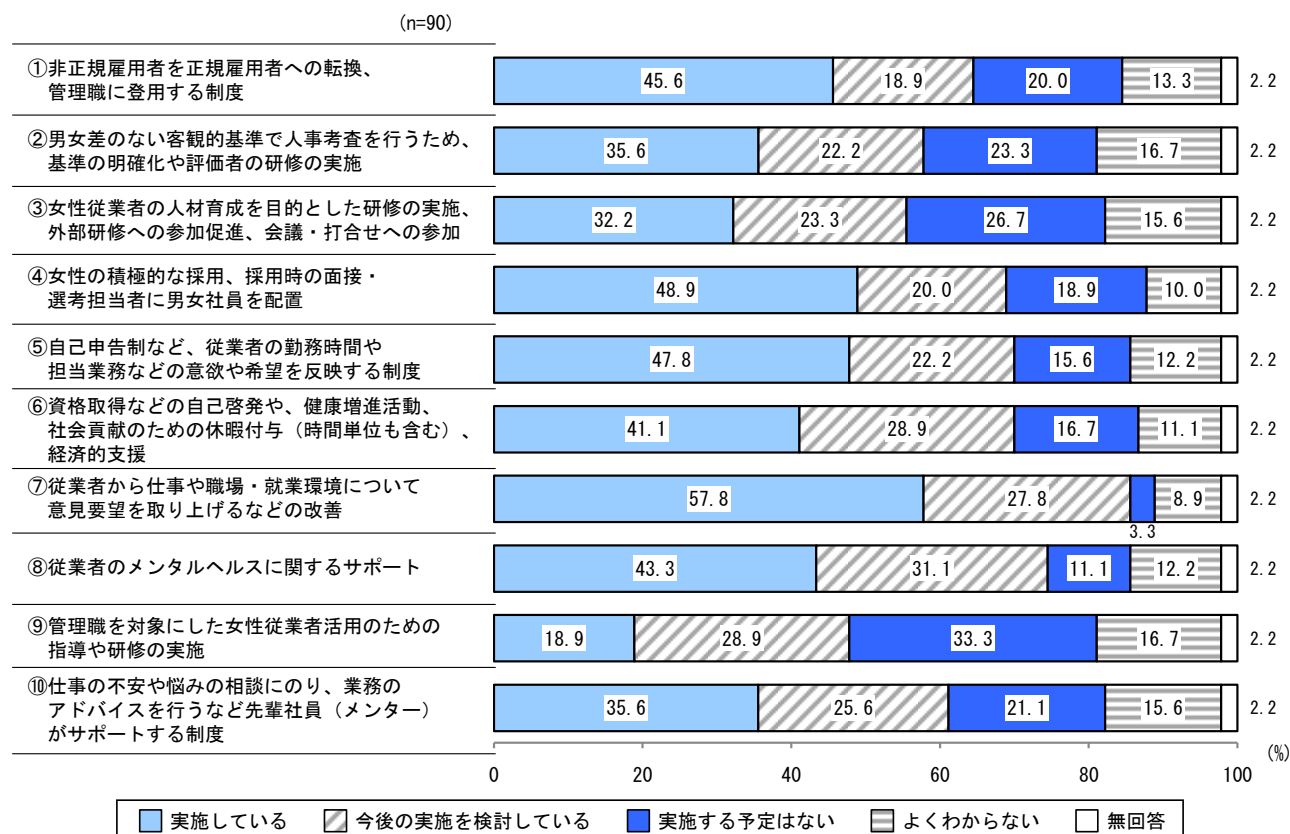
女性従業員の活躍を期待する理由は、「男女にかかわらず能力発揮を期待するのは当然であるため」が 82.1%と最も高く、次いで「多様な視点を持つことで多方面からのニーズに応えられるため」が 42.9%、「女性従業員の活躍が、生産性の向上や競争力アップにつながるため」が 39.3%、「働きやすい事業所として認められ、優秀な人材を確保するため」が 29.8%となっています。

(3)女性活躍推進のための取り組み

【全員におたずねします。】

問 6 貴事業所では、女性活躍推進のために、どのような取り組みを行っておられますか。

(①～⑩の項目ごとに○は1つつつ)



女性活躍推進のための取り組みの実施状況をたずねたところ、「実施している」は「⑦従業者から仕事や職場・就業環境について意見要望を取り上げるなどの改善」が 57.8%と最も高く、次いで「④女性の積極的な採用、採用時の面接・選考担当者に男女社員を配置」が 48.9%、「⑤自己申告制など、従業者の勤務時間や担当業務などの意欲や希望を反映する制度」が 47.8%、「①非正規雇用者を正規雇用者への転換、管理職に登用する制度」が 45.6%となっています。

「今後の実施を検討している」は、「⑧従業者のメンタルヘルスに関するサポート」が 31.1%と最も高くなっています。

「⑨管理職を対象にした女性従業者活用のための指導や研修の実施」は、「実施している」が 18.9%と 2 割未満にとどまり、「実施する予定はない」が 33.3%と 10 項目の中で最も高くなっています。

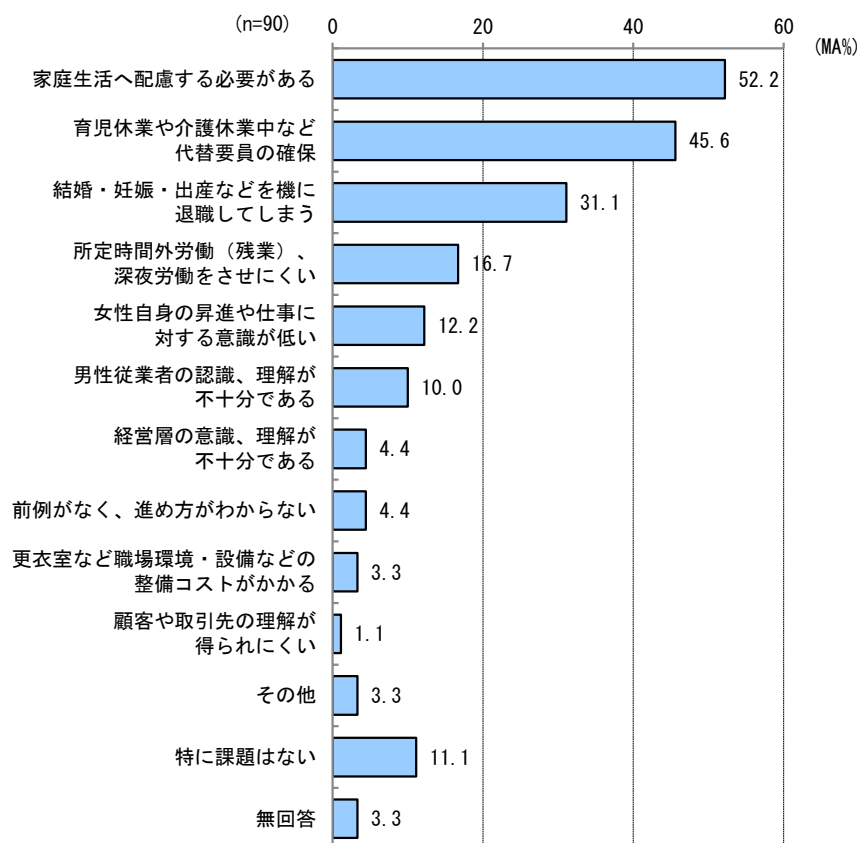
問 6-1 女性活躍推進の取組について、問 6 の①～⑩以外に実施されていることがあればご自由にお書きください。

女性活躍推進の取組で問 6 に挙げられたもの以外に実施されている場合、その内容をたずねたところ、以下のような回答がありました。

- ◆シングルマザーや元受刑者など求職困難な方々への採用も積極的に取り組んでいる。
- ◆働く女性のライフプラン会議を実施している。
- ◆短時間勤務、フレックスなどの制度はある。定期面談で公私の状況を聞き、配慮することはあるが制度化はされていない。

(4)女性活躍推進にあたっての課題

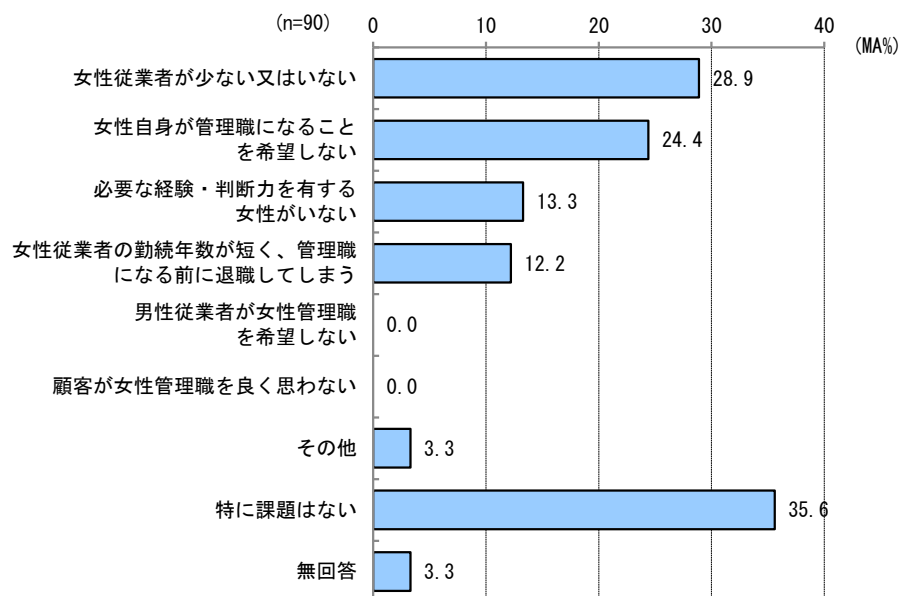
問 7 貴事業所において、女性活躍推進にあたり想定される課題はありますか。(○はいくつでも)



女性活躍推進にあたっての課題は、「家庭生活へ配慮する必要がある」が 52.2%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業中など代替要員の確保」が 45.6%、「結婚・妊娠・出産などを機に退職してしまう」が 31.1%となっています。

(5)女性の管理職登用の促進にあたっての課題

問 8 貴事業所で女性の管理職登用を促進する場合、想定される課題はどのようなものですか。
(○はいくつでも)



女性の管理職登用の促進にあたっての課題は、「特に課題はない」が 35.6%と最も高いものの、「女性従業員が少ない又はいない」が 28.9%、「女性自身が管理職になることを希望しない」が 24.4%と 2 割を占めています。

(6)一般事業主行動計画策定義務の認知状況

国では、次世代育成支援対策推進法(平成17年施行)と女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)(平成27年施行)を定めています。

問 9-1 改正女性活躍推進法(令和4年4月施行)が施行されて、一般事業主行動計画策定義務が常時雇用する労働者が301人以上から101人以上の事業主に拡大されたことをご存じですか。(○は1つ)

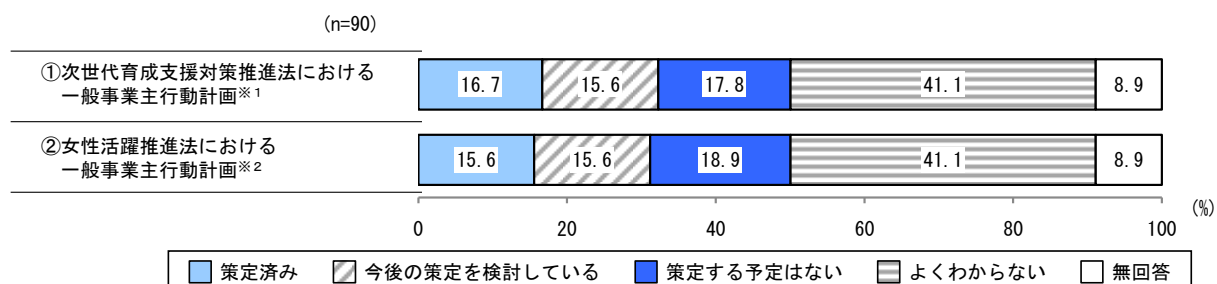


改正女性活躍推進法による対象事業所拡大の認知状況は、「知らない」が 54.4%、「知っている」が 41.1% となっています。

(7)一般事業主行動計画の策定状況

問 9-2 上記の法律における一般事業主行動計画についてお聞きます。

(①、②の項目ごとに○は1つずつ)



「①次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画」の策定状況をたずねたところ、「策定済み」が 16.7%、「今後の策定を検討している」が 15.6%となっています。

「②女性活躍推進法における一般事業主行動計画」の策定状況をたずねたところ、「策定済み」「今後の策定を検討している」がともに 15.6%となっています。

※1 次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画

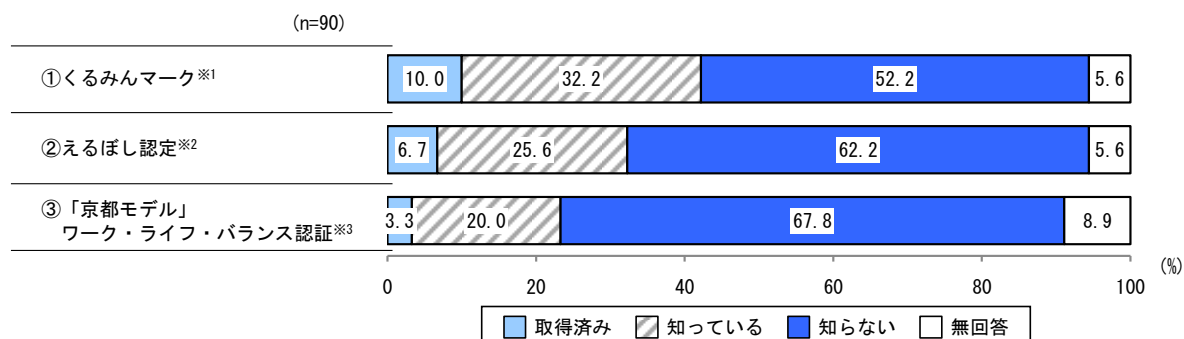
…企業が従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や、子育てをしていない従業員も含めた多様な労働条件の整備などに取り組むにあたって、(1)計画期間、(2)目標、(3)目標達成のための対策及びその実施時期を定めるもの。従業員101人以上の企業には、行動計画の策定・届出、公表・周知が義務づけられています。

※2 女性活躍推進法における一般事業主行動計画

…雇用している、又は雇用しようとする女性労働者に対する活躍を推進するために、①自社の女性の活躍に関する状況把握、課題分析 ②状況把握、課題分析を踏まえた行動計画の策定、社内周知、公表 ③行動計画を策定した旨の都道府県労働局への提出 ④女性の活躍に関する情報の公表が、常時雇用する労働者が101人以上の事業主に対して義務づけられています。

(8)企業認定・認証制度の認知・取得状況

問 9-3 法律などに基づく企業認定・認証制度をご存じですか。(①～③の項目ごとに○は1つずつ)



企業認定・認証制度の認知・取得状況をたずねたところ、「取得済み」は「①くるみんマーク」が10.0%、「②えるぼし認定」が6.7%、「③『京都モデル』ワーク・ライフ・バランス認証」が3.3%となっています。また、「知らない」は「②えるぼし認定」「③『京都モデル』ワーク・ライフ・バランス認証」が6割を占めています。

※1 「くるみんマーク」…(次世代育成支援対策推進法)「子育てサポート企業」として認定

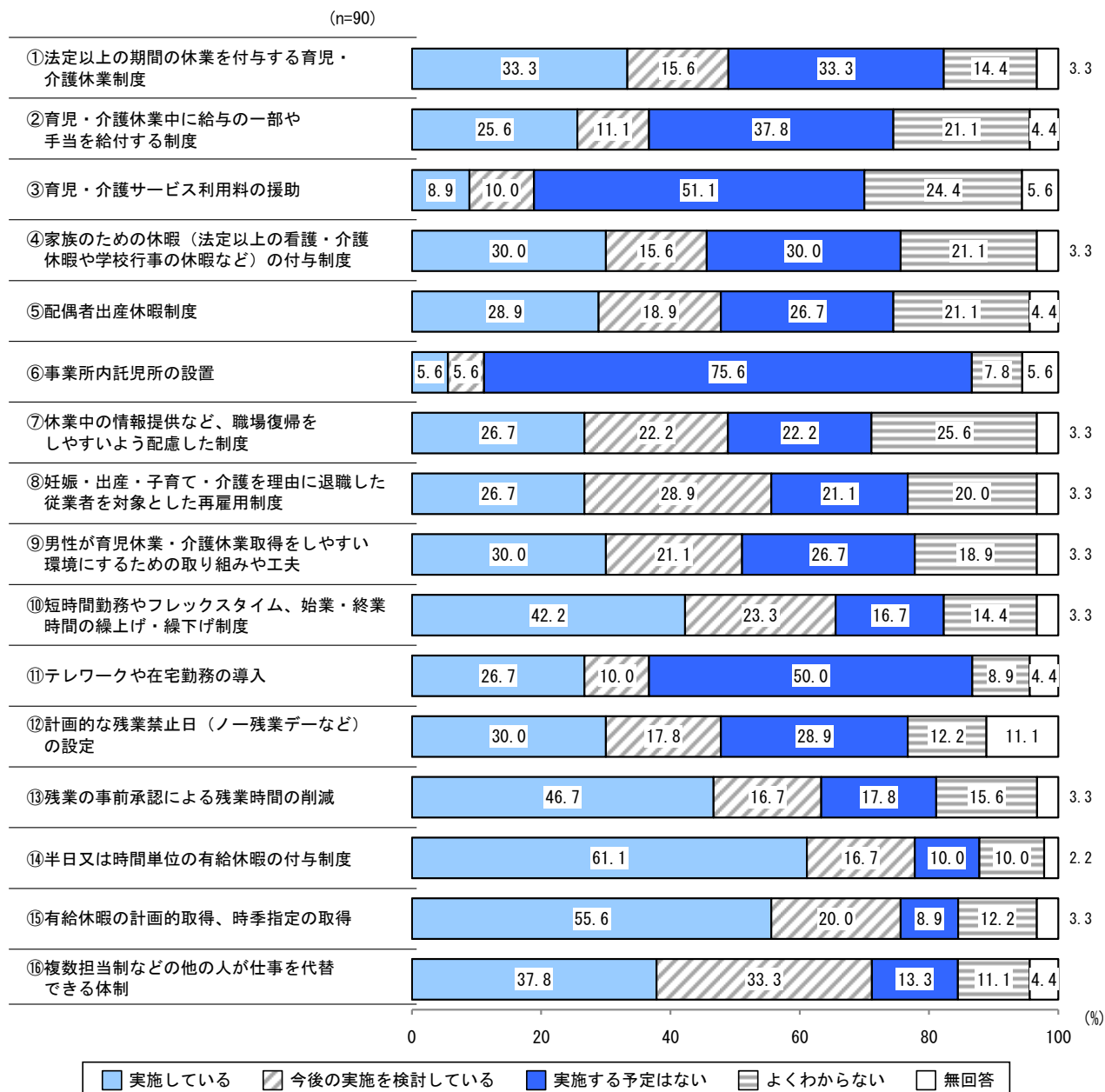
※2 「えるぼし認定」…(女性活躍推進法)女性の活躍推進に関する状況などが優良な事業主の認定

※3 「『京都モデル』ワーク・ライフ・バランス認証」…ワーク・ライフ・バランスに取り組む方針を宣言し、認証基準を満たす従業員300人以下の府内事業所を京都府が認証

3. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ワーク・ライフ・バランスのための取り組み

問10 貴事業所では、仕事と家庭や個人の生活との両立のために、どのような取り組みを行っておられますか。(①～⑯の項目ごとに○は1つつつ)

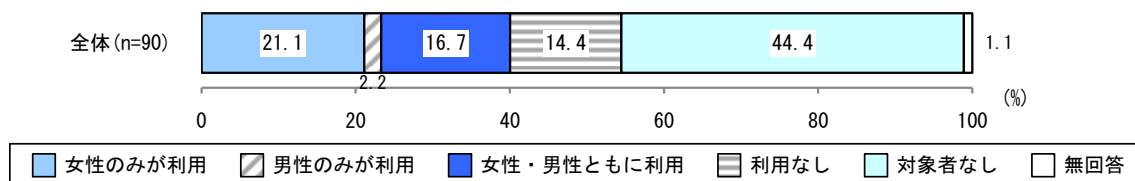


ワーク・ライフ・バランスのための取り組みの実施状況をたずねたところ、「実施している」は「⑭半日又は時間単位の有給休暇の付与制度」が 61.1%と最も高く、次いで「⑮有給休暇の計画的取得、時季指定の取得」が 55.6%、「⑬残業の事前承認による残業時間の削減」が 46.7%となっています。

「実施する予定はない」は「⑥事業所内託児所の設置」が 75.6%と最も高く、次いで「③育児・介護サービス利用料の援助」が 51.1%、「⑪テレワークや在宅勤務の導入」が 50.0%となっています。

(2) 育児休業制度の利用状況

問11 貴事業所での、令和 5 年度の 1 年間の育児休業制度利用状況をお答えください。(○は 1 つ)

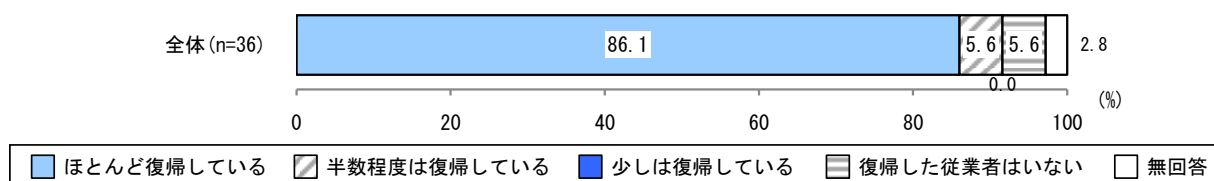


令和 5 年度の 1 年間の育児休業制度の利用状況をたずねたところ、「対象者なし」が 44.4%、『利用あり』※は 40.0%、「利用なし」が 14.4%となっています。

※『利用あり』とは、「女性のみが利用」「男性のみが利用」「女性・男性ともに利用」の合計

(3) 育児休業制度利用後の職場への復帰状況

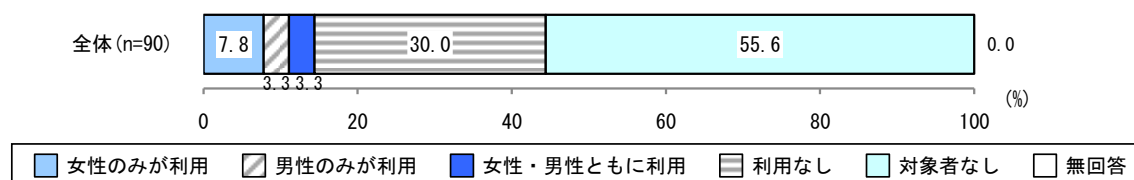
【問11で、「女性のみが利用」、「男性のみが利用」、「女性・男性ともに利用」と回答された方におたずねします。】
問11-1 育児休業制度を利用したあとの、職場への復帰の状況をお答えください。(○は 1 つ)



育児休業制度利用後の職場への復帰状況は、「ほとんど復帰している」が 86.1%と最も高くなっています。

(4)介護休業制度の利用状況

問12 貴事業所での、令和5年度の1年間の介護休業制度の利用状況をお答えください。(○は1つ)

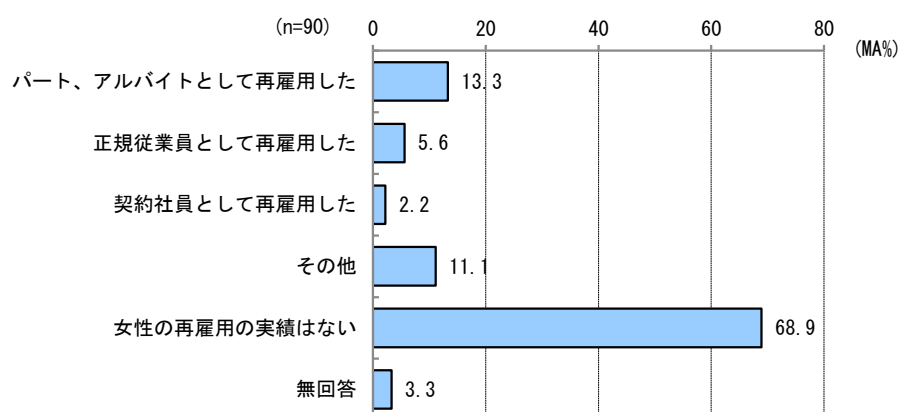


令和5年度の1年間の介護休業制度の利用状況をたずねたところ、「対象者なし」が55.6%、「利用なし」が30.0%、『利用あり』※は14.4%となっています。

※『利用あり』とは、「女性のみが利用」「男性のみが利用」「女性・男性ともに利用」の合計

(5)再雇用の実績と雇用形態

問13 過去5年間で配偶者の転勤や出産、育児、介護を理由として退職をした女性の再雇用の実績はありますか。再雇用の雇用形態はどのようになっていますか。(○はいくつでも)

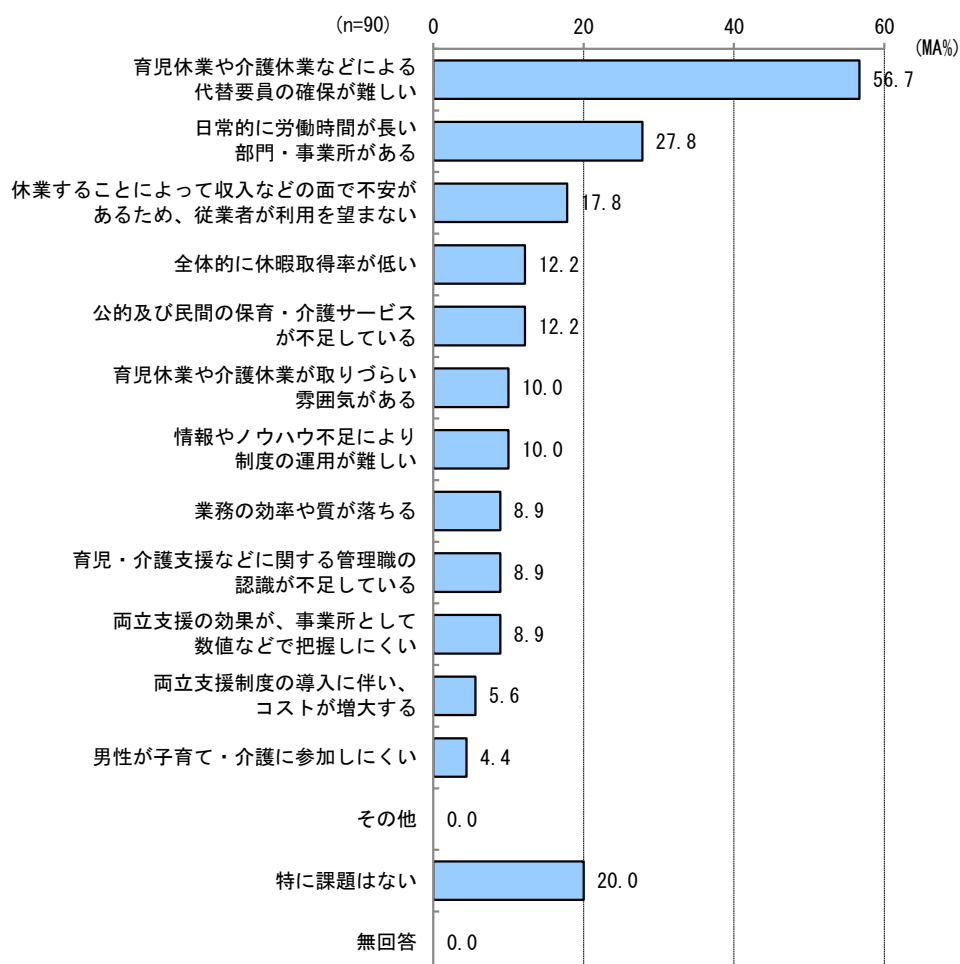


過去5年間で配偶者の転勤や出産、育児、介護を理由として退職をした女性の再雇用の実績をたずねたところ、「女性の再雇用の実績はない」が68.9%となっています。

再雇用の実績がある場合の雇用形態は、「パート、アルバイトとして再雇用した」が13.3%と最も高くなっています。

(6)両立支援制度の利用促進にあたっての課題

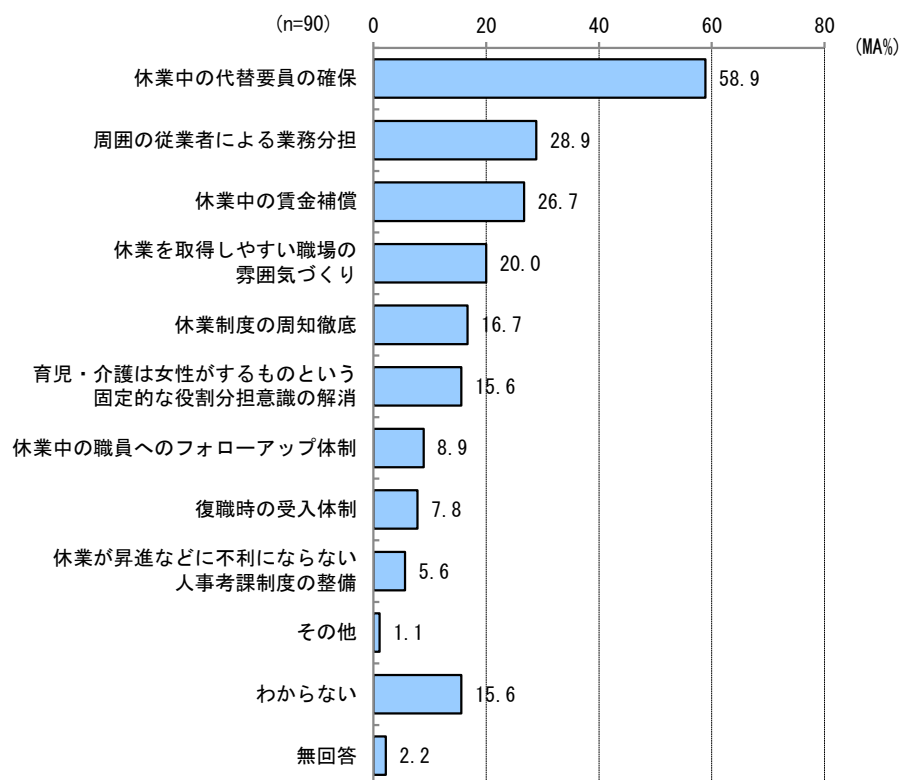
問14 子育てや介護と仕事の両立への支援制度の利用を促進する場合、貴事業所として、想定される課題はどのようなものですか。(○はいくつでも)



両立支援制度の利用促進にあたっての課題は、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が56.7%と最も高く、次いで「日常的に労働時間が長い部門・事業所がある」が27.8%、「休業することによって収入などの面で不安があるため、従業者が利用を望まない」が17.8%となっています。また、「特に課題はない」は20.0%となっています。

(7)男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題

問15 貴事業所において、男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題はどのようなことですか。
(〇はいくつでも)

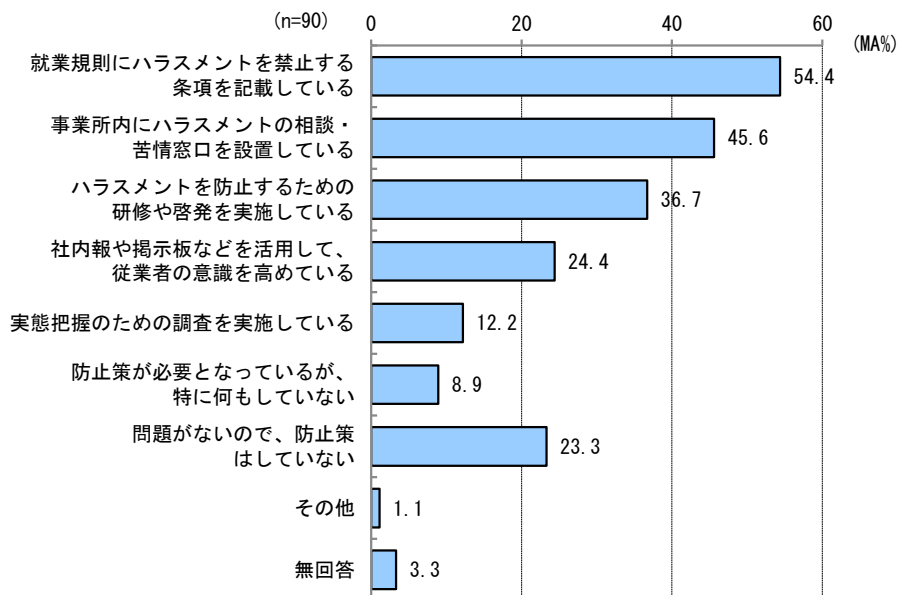


男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題は、「休業中の代替要員の確保」が 58.9%と最も高く、次いで「周囲の従業員による業務分担」が 28.9%、「休業中の賃金補償」が 26.7%、「休業を取得しやすい職場の雰囲気づくり」が 20.0%となっています。

4. ハラスメントへの取り組みについて

(1) ハラスメント防止のための取り組み

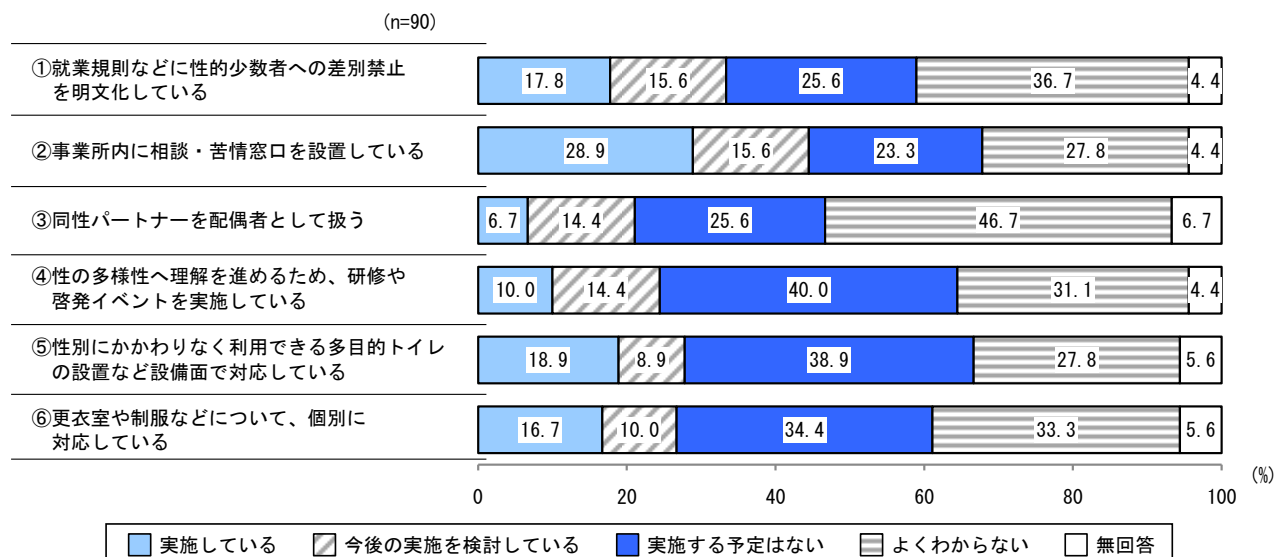
問16 貴事業所では、職場のハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメントなど)を防止するために、どのようなことに取り組んでおられますか。
(○はいくつでも)



ハラスメント防止のための取り組みは、「就業規則にハラスメントを禁止する条項を記載している」が 54.4%と最も高く、次いで「事業所内にハラスメントの相談・苦情窓口を設置している」が45.6%、「ハラスメントを防止するための研修や啓発を実施している」が 36.7%となっています。また、「問題がないので、防止策はしていない」は 23.3%となっています。

(2)LGBT への配慮・差別防止のための取り組み

問17 貴事業所では、LGBT(性的少数者)への配慮、または差別を防止するために、どのような取り組みを行っておられますか。(①～⑥の項目ごとに○は1つずつ)

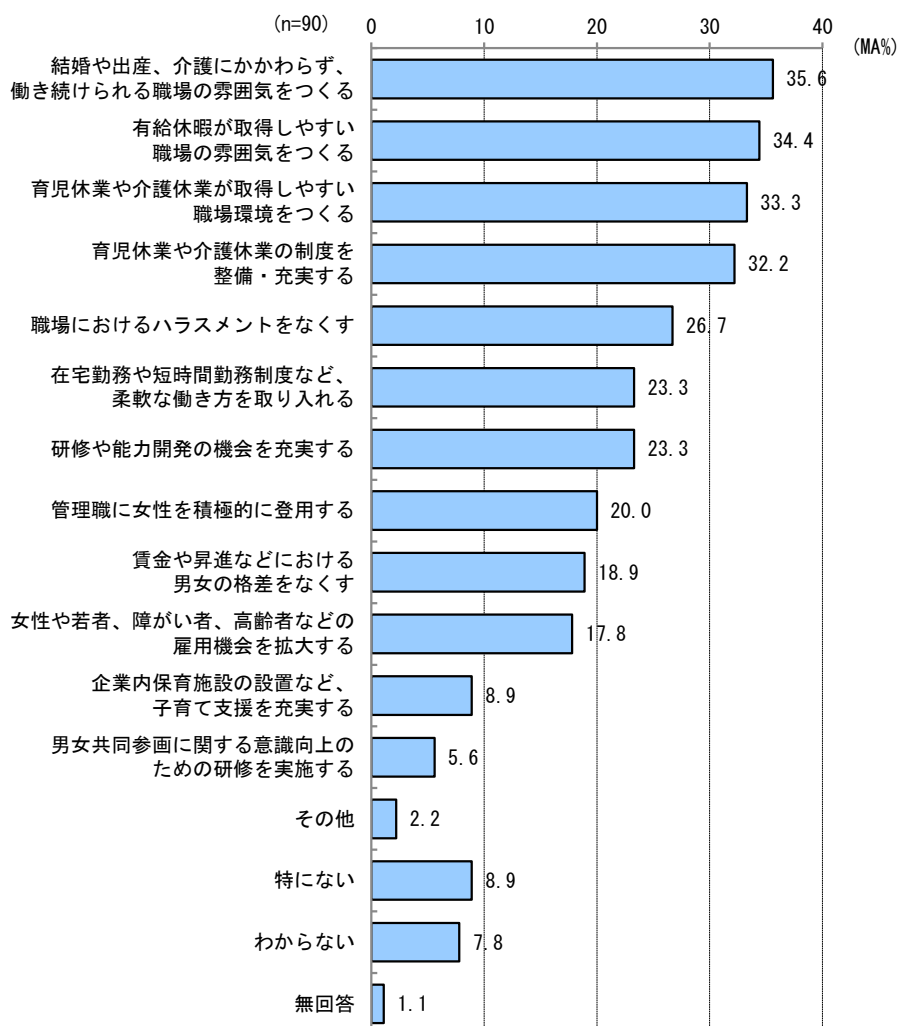


LGBT への配慮・差別防止のための取り組みの実施状況をたずねたところ、「実施している」は「②事業所内に相談・苦情窓口を設置している」が 28.9%と最も高くなっています。また、「実施する予定はない」と「よくわからない」の合計が「③同性パートナーを配偶者として扱う」「④性の多様性へ理解を進めるため、研修や啓発イベントを実施している」で 7 割を占めています。

5. 事業所の今後の取り組みや行政の取り組み、支援について

(1) いきいきと働ける職場をつくるために力を入れるべきこと

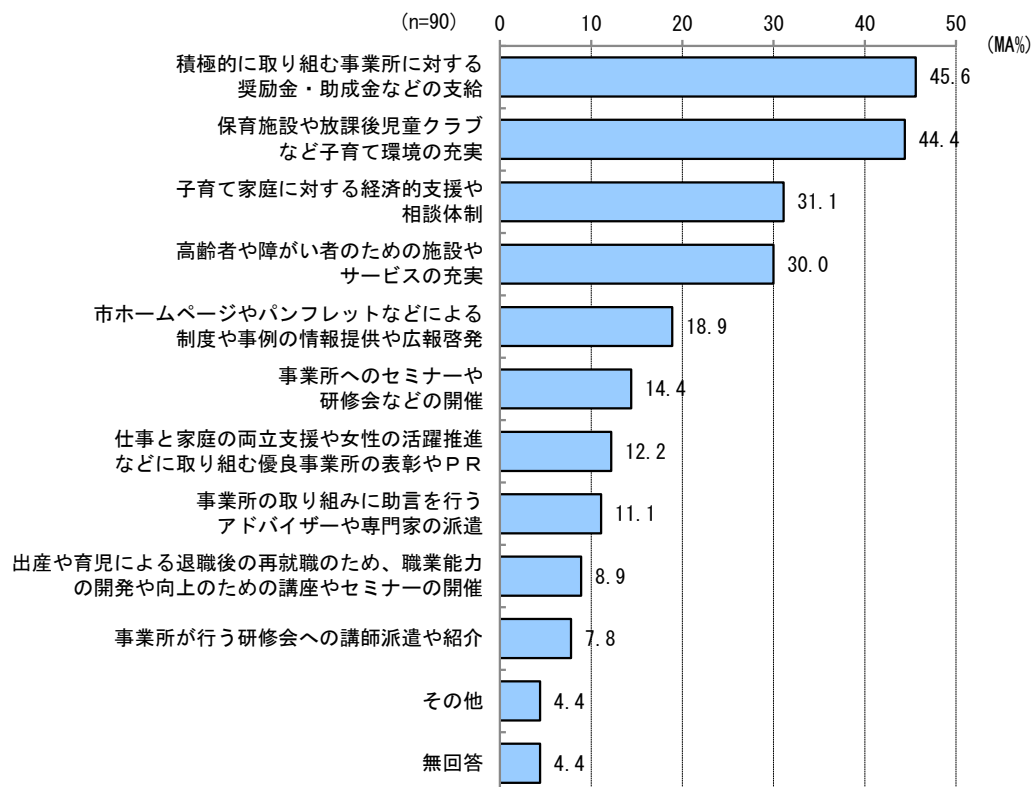
問18 貴事業所において、すべての人が性別にかかわらず、いきいきと働ける職場をつくるためには今後どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。(〇はいくつでも)



いきいきと働ける職場をつくるために企業が力を入れるべきことは、「結婚や出産、介護にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」が 35.6%と最も高く、次いで「有給休暇が取得しやすい職場の雰囲気をつくる」が 34.4%、「育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる」が 33.3%、「育児休業や介護休業の制度を整備・充実する」が 32.2%となっています。

(2)女性の活躍やワーク・ライフ・バランスの推進にあたり長岡京市に望む取り組みや支援

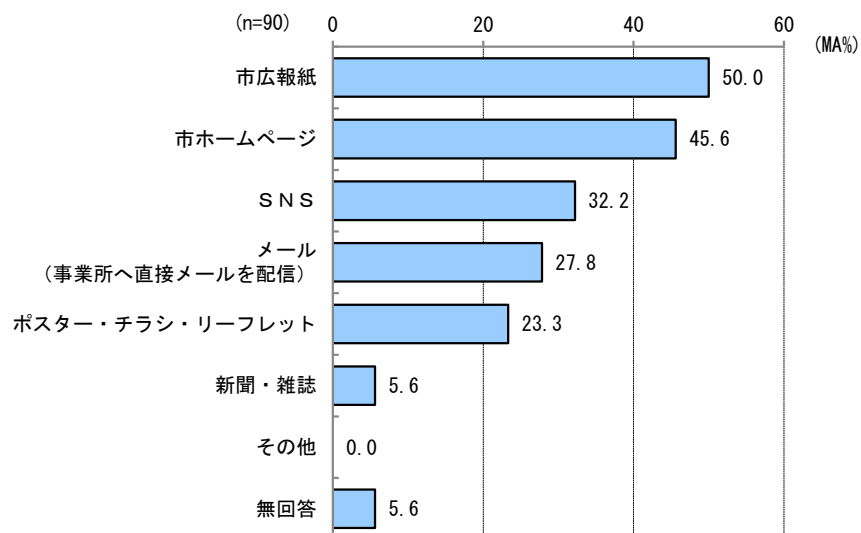
問19 貴事業所が女性の活躍やワーク・ライフ・バランスを推進するにあたり、長岡京市にどのような取り組みや支援を望みますか。(〇はいくつでも)



女性の活躍やワーク・ライフ・バランスの推進にあたり長岡京市に望む取り組みや支援をたずねたところ、「積極的に取り組む事業所に対する奨励金・助成金などの支給」が 45.6%と最も高く、次いで「保育施設や放課後児童クラブなど子育て環境の充実」が 44.4%、「子育て家庭に対する経済的支援や相談体制」が 31.1%、「高齢者や障がい者のための施設やサービスの充実」が 30.0%となっています。

(3)行政の情報発信として望ましい情報媒体

問20 行政が発信する情報は、どのような情報媒体で提供すれば、事業所が情報をより入手しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)



行政の情報発信として望ましい情報媒体は、「市広報紙」が 50.0%と最も高く、次いで「市ホームページ」が 45.6%、「SNS」が 32.2%となっています。

VI 自由意見のまとめ

1. 自由意見の要約

男女共同参画社会実現のための意見、要望について寄せられた自由記述の意見内容を要約・分類しました。
(件数/168 件)

(1)仕事について (13 件)

職場での女性軽視や差別、男女不平等な風習がある	2
男性が休むと賃金面が不安なので、育児休暇などを取りやすい環境がほしい	2
正規雇用と非正規雇用の待遇の差に不満を感じる	2
上司の意識改革がなければ男女共同参画社会は進まない	1
仕事と家事・育児の両立において女性に不利な環境を解消してほしい	1
在宅勤務が可能な雇用を増やしてほしい	1
シルバー人材センター等での高齢者の雇用促進も必要	1
基本給の賃上げをしてほしい	1
性別に関係なく能力で採用すべき	1
自分で自分を養える最低限の強さが大切	1

(2)男女の意識や教育について (30 件)

子どもの頃からの教育が必要である	8
高齢者の意識改革がなければ男女共同参画社会は進まない	7
男女ともに習慣や固定概念を有する人がいるので意識を変える機会が必要	5
男性の意識改革が必要である	3
男女共同参画社会についてあまり知らなかった、意識していなかった	2
男女共同参画の政策に関わる男性方が男女平等にできているのを見せるべき	1
相手を尊重しあうことが大切である	1
差別ではなく、男は男、女は女と区別が必要である	1
家庭での母親への思いやりが必要である	1
私は女性らしく生きていきたい	1

(3)子育てや暮らしについて

(21 件)

子育てや家事、学校行事などに関して女性の負担が大きい	6
減税や経済的支援が必要である	4
保育施設の充実、保育に関わる人材の確保や待遇改善	3
子育て・介護に対する制度やサポートの充実が必要である	3
インターネットなどで自己解決するより、相談しやすい環境が必要	2
介護施設の充実	1
暮らしやすい環境整備が必要	1
育児は母親が適している	1

(4)人権の尊重について

(24 件)

男女だけでなく、障がい、年齢、国籍等あらゆる違いを認め、公平な社会が必要	4
誇張された性的少数者対策は不要、身体特有に基づくトイレ・更衣室などの確保は必要	4
LGBT が社会生活しやすいよう理解が進むと良い、パートナーシップ宣誓制度は良い	3
DV や性暴力に対しての理解が必要	3
男女共に尊重し合い、権利を守ってほしい	2
障がい児・高齢者に対して公共施設などの設備の充実が必要	1
女性の人権が活かせる世の中になってほしい	1
平等は生物学上不可能ではあるものの、相互に理解し補助しあうことは可能	1
経済的、政治的な女尊男卑をやめるべき	1
差別禁止条例を制定してほしい	1
社会制度の充実や、男女を問わない弱者への公的支援が必要	1
あらゆる少数者に対して過保護すぎる	1
男女の人権の度合いが分からない	1

(5)男女共同参画の推進について

(32 件)

押しつけるような「男女共同参画」であってほしくない	5
女性の社会進出は必要だが、女性を前線に出せば良いわけではない	4
意識していなかった、あまり浸透していない、何も見直されていない	4
女性が優遇されていると思う	3
男女平等でいられる世の中になってほしい	3
格差はなくなってきている、もう実現している	3
男女共に子育てをする上での、制度や体制づくり、支援が必要	2
何かを実現することにより何かを失う	1
若者の為、高齢者の為、それぞれの「男女共同参画社会」もあると思う	1
政策立案の場に少数者を組み込む等の対応が必要	1
若い世代は男女共同参画という考え方をしっかり身につけている	1
男女共同参画社会のゴールがどこかわからない	1
男女平等である必要はない	1
性別特有の能力を活かした方が良い	1
異なる意見を活発に交換することで理解が深まる	1

(6)市の男女共同参画の取り組みについて

(32 件)

啓発や広報活動が必要	11
目標と進捗など具体例がないと市民には伝わらない	7
アンケートが知るきっかけにもなり市の取り組みも感じられた	5
良い取り組みなので、続けてほしい	4
長岡京市だけでなく、国や府、別市町村とも共同で取り組んでいくことが必要	2
イベント等に参加したいと思った	1
市として出来ることは何も無い	1
所得が少ない家庭への支援が必要	1

(7)その他の意見

(16 件)

アンケートに関する意見	11
特になし、わからない	3
給付金、住民税の事など	2

2. 主な自由意見

【市民意識調査から】

(1) 仕事について

- ◆基本給の賃上げ。参画社会実現の為、会社を休むと手当が減る、収入減る、会社員は手当で生活している。企業は、手当は上げるが、基本給は上げない。手当は企業の考え方で上げ下げ出来る。会社員は基本給が全て決まる。賃上げ＝基本給を上げる。手当を上げる＝賃上げとはならない。(男性 50～59歳)
- ◆働き方も男性も育休など取りやすい環境を作るべき。子供の熱などで休むのはママだけでなくパパもという考えがだれもが思っていると思う！！(女性 18～29歳)
- ◆正規雇用のテレワーク可の29才～60才までの高収入な雇用を増やして下さい。これをしてくれたら、子育てに意欲がわきます。(男性 18～29歳)
- ◆男女が子育てにとり組む時、男性が仕事を休むことが難しいのは賃金の面での不安があるからであり、女性も子育てしていると社会に進出しにくい世の中であるから。男女の給与格差もいつまでもなくなるならない。男女共同をうたうのであれば、高齢者の意識改革が1番必要であると思う。(女性 50～59歳)
- ◆経済的支援についてもですが、パート・アルバイトでも正社員と同じ量、同じ仕事をしているけど時給が低い点もまた1つの問題点かなと思います。(女性 30～39歳)
- ◆男女関係なく、皆が職を持ち、自分で自分を養える最低限の強さを持つことが大切と考えます。リーマン・ショックの様な出来事が生じ、仕事そのものが社会からなくなる様な事があれば、国の出番と考える。(男性 30～39歳)
- ◆正直あきらめております。広報など(SNS含む)PRしても見ない人は全く見ない。育児休暇とった男性が朝起きないとか、ゲームばかりしていると聞きます。娘が職場で有給を取ろうとしたらすごく嫌味を言われました。祖父母の世代の方は、まだまだ「子供ができたら仕事はやめろ」とか言っております。(女性 60～69歳)
- ◆男女の問題もそうですが女性の年齢が高くなると職場でもいろいろありました結婚していないとなおさらです今の職場はないですが、30代くらいの頃はいろいろ辛かったです(女性 50～59歳)
- ◆まず前提として性別に関係なく能力で人物を評価する能力査定を重視すべきと思う。能力があれば女性を何人採用するなど制限は関係なく必要な人材を選定すれば良い。(女性 30～39歳)

(2)男女の意識や教育について

- ◆男女ともに、習慣や保守的意識を有する人を時々見うけます。教育の重要性を認識しています。(男性 60～69歳)
- ◆男女平等と言うが都合が悪くなれば自分は女性だからできないと言い、自分の思い通りにならないと暴言暴力をふるう女性も増えている。それにともない男性を奴隷の様にあつかう女性も増えている。平等と言うならば男性の仕事(肉体労働)等もすべき。戦争があれば女性も前線で戦うべきとなるができません。私は女性らしく、おくゆかしく生きて行きたいです。(女性 18～29歳)
- ◆「差別」と「区別」はハッキリ区別してほしい！最近「差別」という言葉が横行しているが、差別ではなく区別の場合も多々ある！！(女性 60～69歳)
- ◆高齢化社会に突入する一方で、考え方を換えられる人や固定観念に守られている人が多いと思うので意識を変えさせる努力や機会を与えることが大切と考えます。(男性 60～69歳)
- ◆暮らしやすい生活の大前提に人間としてまずお互いを知る相互理解が必要だと思いますが、まずは教育の場に老若男女いろんな人が抱える事柄を知る機会を多く設けてほしいと思います。その上で、制度としてサポートが充実していけば良いと思います。(女性 30～39歳)
- ◆会社員としての経験から言うと、今の20代の世代の子達は男女共同参画という考え方をしっかり身につけていると思います。Z世代と言われる子達はNoの意志表示もはっきりしています。そのように大学で教養をつけてきたつもりの我が身も、就職して会社で求められるとへらへらと笑ってそういったハラスメント(向こうは冗談のつもり)を受け流すようになってしまいました…。世代が変わるのを待つしかないと思います。(女性 30～39歳)
- ◆女性ががんばるだけの社会になっている。高齢になった市などの仕事に関わる男性方が、果たして家庭まで男女平等の状況にできているのか。自分達はやらずに未来へ担わせるのはちがう。大元がまず変化を見せずして、何も進まないのではないかと。口先だけ、政策だけ、ポーズだけで終わらないことが必要。(女性 40～49歳)
- ◆小さい頃からの適切な教育が重要(男性 60～69歳)
- ◆小学校での食育は効果があったと思うので、小中学校での教育に力を入れてほしいです。正直、市町村がYoutubeとかSNSをやってもそんなに観られないので、地道に駅とかに広報するのがいいと思います。(男性 18～29歳)
- ◆まずは男性が意識を変えないと制度進める方が男女平等の生活をしていると思えない。(女性 40～49歳)
- ◆どんなに制度を整えても人の意識がジェンダーを認め、男女平等を認めないと、解決しないと思う。今もう大人になっている人の意識を変えることはできない。せめて子供達に平等の教育をしてほしい。政治、地域にもっともっと女性の進出をしていかなくては解決しない。いろいろな場面に女性を参画させない男性も悪いが参画しない女性も悪い。これからの教育に期待します。P. S. 私ごとになりますが私は、女性を出さずに対等に、言うべきことは言い、やるべきことはやってきた。でも、女性やし、無理という人に何人も出会ってきた女性を傘にきて、逃げてる女性も悪い。もちろん男性にいつも疎まれてきた。出しゃばりな女といわれて！こんな社会は私の年代で終わってほしい。(女性 60～69歳)

- ◆男女平等とはお互いがお互いを思いやる事ではないのかなと思います。必ずしも、女性も男性のように働いてキャリアをつみたいと思ってないし、それが男女平等の様によく取り上げられているが、まずは学校で色々な人がいる事を教え、相手を思いやる事を大切に生きたらと思います。(女性 50～59歳)
- ◆世の中全体をみても、まだまだ男・女別に考えられる事が多いと思います。確かに男の人・女の人特性上得意な事等はあると思うので、そこをうまく生かし、尊重し合い協力し合うことからが平等に近づいていくと思います。何をもって平等とするか？むづかしい問題ですね！まずは歩みよるが第一歩かと考えます。(女性 60～69歳)
- ◆個人的にあまり男女共同参画社会について深く考えたことはなく、アンケートが来て20年ぶりくらいに「男女共同参画社会」という言葉に触れました。私の母親は、生理休暇もなくなり、男女共同参画社会で損しているのは女性の方だと言っていた時もありますが、今は人手不足の会社も多く、性別に拘っている状況ではないのかなと思います。「男女共同参画社会」という言葉を学校等で学ぶものの、その中身についてふんわりとしか知らない人たちも、意外といたりするのではないかなと思いました。(女性 30～39歳)
- ◆PTAの役員はほとんど母親ばかり会長だけは男性という古い体質(伝統?)が残っていてあきれた。(数年前の小学校で)町内会はおじいさん達が全てを仕切っておりおばさん達にお茶くみをさせていて昭和かと思った(女性 50～59歳)
- ◆自分の家庭もそうですが、どうしても家庭生活では女性への負担が多いと感じます。正社員として働いていますが、正直自分(個人)の時間がなかなかとれません。5年前と比べて男性育児や家庭生活への参加はだいぶ増えてきたとは思いますが、もっともっと男性がPTAや子の参観などに参加してもいいと思います。何度も伝えていますが、なかなか男性の意識が変わらないのであきらめてしまいます。自分の子どもが子育てをする年齢になった頃にはもっと男女共同参画社会になっていますように。よろしくおねがいします。(女性 40～49歳)
- ◆子どもの頃は子ども会の行事等に参加していたが、成人してからは地域の活動にほとんど参加したことがなく、年代の離れた人たちと話す機会を持てていないために、正直、地域での男女平等がどれくらい進んでいるか、身を持って実感できてはいない。ただ、学年が上がるにつれて学校での男女平等に関する教育が増えていったし、それに伴って周りの人たちの問題意識も強くなってきたように思う。今すぐに社会を変える手段にはなり得ないが、将来を担う子どもたちへの教育を丁寧に行っていくことは長期的に重要だと考える。(男性 60～69歳)
- ◆問題意識としては、家庭における母親への思いやりが足りないと思っています。例えば家族の誰かが体調を崩すと母が看病しますが、母が体調を崩すと誰も看病しないなどです。(男性 18～29歳)
- ◆仕事をしていて感じるのは、男女共同参画社会に対する高齢男性の意識の低さが顕著だということです。企業では、意識改革が進みつつあるようですが、すでにリタイアした世代は、意識のアップデートの機会がないことも一因かと思います。こうした方々に対しては、行政による働きかけが有効かと思います。(女性 18～29歳)
- ◆家庭や社会のなかの男性自身の男中心の考え感情が無くなれば良い。(女性 40～49歳)

- ◆若い世代の考え方は、以前とずいぶん変わってきていると思いますが、一方で職場で上の立場にいる、上の世代の考え方はなかなか変わらず、男性の子育てや家庭生活への参画制度があっても、実際には利用しにくいという場面を何度も見てきました。そうした上の世代ほど、勉強会等に参加が必要という認識もなく…。簡単に人の考え方が変わるものでもないことは承知していますが、現実的には共働きでなければ子供を学校にやることも難しい。子育て途中で避けて通れない、子の病気による早退や急な休暇取得を男性(父親)にさせていない職場は、女性(母親)の職場の資源にただ乗りしているという社会認識がもっと広まれば良いと思います。(男性 18～29歳)
- ◆男性は年齢が上にいけばいくほど、女性を見下した考え方をしている人が多いと感じます。女性も活躍している時代なので、もっと女性を認める考え方に切り替えてほしいと思います。もちろん全員がそうとは思いません。女性同士でも男女でも、人によってはあると思いますが、お互い認めあって助け合える社会が理想だと思います。(女性 40～49歳)
- ◆ハラスメントについて思う事があります。小学生も高学年になると、男子がおっぱいやちんちんなど、皆の反応を伺うかのように面白がって学校内で大きな声で言っています。もうこの言葉がハラスメントになる、と理解させる事が必要かと思います。子供だから、と片付けずに学校でもダメな言葉で恥ずかしい行動だと理解させる機会があれば、と思いました。(おそらく家ではそういう単語は言わないと思いますので、親が子に注意する機会は無いかも…)既に対応されていたら申し訳ありません。最近ちょっと気になった事だったので、書かせていただきました。(女性 40～49歳)
- ◆『こういう方向に進めばいい』というのはなんとなく理解できていても、そのために自分が具体的に何を(意識)したらいいか理解している人が少ないのが問題解決が進まない原因の一つだと考えています。(男性 60～69歳)

(3)子育てや暮らしについて

- ◆男性も育児をするべき！とあるが、子供が求めるのは「ママのオッパイ」だ！！やはり育児は母親(女性)がする方が適していると思う。子供はパパ(男性)とママ(女性)を「区別」している。(女性 60～69歳)
- ◆各家庭の困りごとを相談窓口まで行けたら良いが個人差もありむずかしいと思います。今や乳幼児さんがスマホ操作ができてしまう時代、人とかかわりよりネットで調べて解決してしまいがち。悩み多き時代だと感じています。(女性 50～59歳)
- ◆道路ひとつ、整備されるだけでベビーカーで出歩きやすくなり散歩して気分転換しやすくなります。暮らしやすい環境整備もぜひ、よろしくお願いします。(女性 30～39歳)
- ◆社会は、個々の集まりで成り立つもの。各々がまっとうに生きる事以外道はない。地域は、ムダな金を使わず税金を減らし、健康保険料を少しでも安くして欲しい。生活を楽しむこと、(金銭的に)が望まれていることではないか。(女性 50～59歳)
- ◆男性が子育てをする上では、国の制度もより良くする必要があると思います。(経済的な不安や休みやすい環境など)また、保育所などの施設の充実だけではなく、従事されている方、保育士の方の処遇を改善していただければ、より良い人材にめぐまれ、安心して子どもをまかせられる環境になり、社会全体にとって良いことだと思います。(男性 30～39歳)
- ◆シングルマザーへの経済的支援などに力をそそいでもらえたら良い。(男性 40～49歳)
- ◆やはり、女性が子育てをメインですることが当たり前になっている。父が子と2人ででかけるだけで、「すごいねーえらいねー」と言われている。母は毎日しているのに。当たり前に母親として子を見ることが求められていて、助けを求める場が少ない。働きたくても保育料が高く、何の為に働いているか分からなくなる。(女性 30～39歳)
- ◆女性は家庭に入ってる事が多く、保育所に入りにくいと言われてるのでどんな状況であっても子供をあずけるようにしてほしい。(女性 30～39歳)
- ◆生活にゆとりがない。まずはそこからスタート。(男性 60～69歳)
- ◆時代とともに女性の社会進出が促されていると思いますが、依然子育てに対する女性の負担が大きいと感じています。社会全体で子育てに関連する職業の方々の手当を増強するなど子育てに対する強化をさらに図っていただけると嬉しいです。(男性 30～39歳)
- ◆これからも高齢者が多くなるので安くて年金ではいれる施設を多く作ってほしいです。(女性 50～59歳)
- ◆保育園・幼稚園の給料・待遇を良くして子供を安心して預けることができる環境を作れば、女性の社会復帰も早まるので、男女共に社会での活躍の場が広がると思う。(男性 年齢無回答)
- ◆男女が平等に社会で働き、平等に家事育児をするには双方の努力だけでは難しい。特に子育てや介護がある世帯については、家事代行サービスの金銭補助などがあるとよいのでは。共働きで子どもがいない世帯(自分)は金銭補助無しで良い。(男性 40～49歳)
- ◆性別も年齢も関係なく、仕事をしている、していない、SNS を利用している、していないにかかわらず、全ての長岡京市の市民が、有事で何か困った事が起きた場合でも、1人で悩まずに、地域で利用できる制度を整備して、相談しやすい環境を作り安心して生活できる住みやすい街に更になっていただけると、有難いです。(女性 40～49歳)

(4)人権の尊重について

- ◆性的マイノリティへの配慮を重んじすぎず、性的犯罪を生みやすい環境を増やさないことを重視してほしい。(男性 40～49歳)
- ◆私自身は特別な差別etcを受けたこともなく男女の差異を感じずに今迄これだったので非常に恵まれているのかもしれない。“人権”というのは人間に対する尊厳を(ある意味)表現していると思うので男女だけでなく障害、年齢、国籍あらゆるちがいを生かしてその人らしく生きていける社会をめざすことだと思う。ダイバーシティそのものが民主主義ですが結局人の心にある心の中にひそんで差別の心をなくす、人間を教育するしかないと思いますそれが平和を築いていくように思います(女性 60～69歳)
- ◆LGBTに関しては、もっと彼らが周囲の目を気にせず、社会生活できるように理解が進めばよいと思います。世間体のために、相手を利用した結婚などはあってはならないです。また異性と結婚した事でそれを隠れみのかとして好き放題しているLGBTの人もあります。その事を責めても「自分たちは生きづらい、こんな世間が悪い」と被害者ぶる人もいます。社会の理解が進み、同性婚が特別な事でなくなれば、このような異様なことも減ると思います。彼らが全てそのような事をしているわけではありませんが、身近で見ている以上、理解が進まなかったり、差別されるのはそう言った一部の身勝手なLGBTの責任でもあります。本当に苦しんでいる人、正直に生きてる人が損にならないようになれば良いと思います。(女性 30～39歳)
- ◆差別のない社会作りのため差別禁止条例を制定してください。健康に年をとったからと言って長く働くことや地域活動に参加することが本人や社会にとって幸せであるという空気一色になると、労働や社会参加を望まない者には息苦しい世の中になる。(男性 60～69歳)
- ◆シングルマザーもシングルファーザーもどちらも大変でサポートが必要だと思います。おばあさんのおひとり様もひとりくらしのおじいさんも見守りサポートがないとホント大変そうです。個人情報を守られつつも、尊厳が守られたらいいなと思います。(女性 50～59歳)
- ◆どっちの権利もしっかりと守って下さい。(男性 30～39歳)
- ◆社会をより良くする為に、今以上に社会制度の充実や、男女を問わない弱者への公的支援が特に必要と考えます。当然のことですが、“正直者がバカをみる”様な社会であってははいけません。(男性 70 歳以上)
- ◆男女平等の意識は良いが、LGBT系の行きすぎた配慮はいらない。マイノリティーに配慮しすぎて大多数が迷惑を被ることは理にかなっていない。男女は体の性別できびしく分けるべきで、子供にも甘くしないでほしい。(男性 30～39歳)
- ◆自分も大事にし、お互いを尊重し合う社会を作って頂けたらと思います。(女性 50～59歳)
- ◆みな平等です。(男性 60～69 歳)
- ◆特にないが、性別にしても何でも変えようとする背景に保護しすぎてたり(過保護)弁する人の極端なかんじなどが、あまり気分はよくない気がする。男女だけでなく、いろんな生きにくい人に優しくなってるのもわかるけども、そこだけを過保護に言いすぎるのも不自然にみえるTVとかで。(女性 50～59歳)
- ◆LGBTだけの問題ではなく、障害児者・高齢者の介護に携っている者として、公共施設や避難所のトイレやシャワールームは誰もが使えるよう増設を早急に行ってほしいと望みます。人員的に同性介護できないことが多いです。家族の介護も異性で行なっていることが多いのです。(女性 60～69歳)
- ◆暴力(性暴力)などについては、男性→女性が一番多いかと思いますが、男性→男性、女性→男性、女性→女性の場合でも同じ温度感で対応できるよう目指してほしい。(男性 30～39歳)

- ◆長岡京市パートナーシップ宣誓制度はとても良いと思いますが、このアンケートまで知りませんでした。長岡京市がジェンダーに優しい市であることを周知させる必要があると思いました。(女性 40～49歳)
- ◆近年議論はNPOや一般社団法人にて胡散臭い話が多いです。真の意味での平等は生物学上不可能ではあるものの、相互に理解し補助しあうことは可能だと思います。その部分をもって公平感ある環境を市民と行政とで作れればと思います。(男性 18～29 歳)
- ◆男女平等やLGBTQ を推進するあまり、トイレを男女共用にするといった、行き過ぎた配慮には反対です。理想と現実の落としどころの見極めは大事だと思います。(女性 18～29 歳)
- ◆男女平等の名のもとに行われる経済的、政治的な女尊男卑をやめるべき(女性 60～69歳)
- ◆平等を推し進めることが行き過ぎると、一方の優遇になることもあり、歪みをもたらすことがあると考えます。大事なことは「性別・年齢」を無視して何もかも「同じ・均一」にすることではなく、違いを認めたくて「公正・公平」な扱いをすることが大事だと考えます。(女性 50～59歳)
- ◆暴力は否定しますが、個々人の希望・意思に対して社会・他者などが良い意味で過度に干渉しないという態度も必要な気がします。この手の話になると極論が多くなりがちで、冷静さを欠く傾向にあるように思います。(男性 30～39歳)

(5)男女共同参画の推進について

- ◆女性をたてることが男女平等だとは思わない。女性の議員が少いから増やすべき、というのも誤りで、実力、能力ある「人物」が評価されなければならないと思います。パーセンテージを増やすのではなく、むしろ社会に出て行く女性の意識づくりが重要で、周囲の男性がこれを推進できる(する)社会にあってほしいと思います。(男性 60～69歳)
- ◆公共的には進んでいるが、民間的にはまだまだ浸透してはいないと感じる。(男性 60～69歳)
- ◆少数者のことを多数派に属する者だけで議論すること自身、無理があると感じます。政策立案の場に少数者を組み込む等の対応が第一に必要ではないでしょうか？(男性 40～49歳)
- ◆働きざかりの年の方の「男女共同参画社会」もあれば高齢者の為の「男女共同参画社会」もあると思う。若い方の為の企画ばかり目につきます。(女性 60～69歳)
- ◆女性の社会進出、男女差をなくす事自体は必要だと思いますが、単に流行に乗って女性を前に出したら良いとは思いません。その時に男女にとらわれず能力のある人が上に行くべきだと思います。(女性 30～39歳)
- ◆個人個人の能力を正当に認めること。女性だから登用するというのではなく能力があるから登用する社会でありたい。その為には公平な見極めが必要。性別の差でどうしてもできなかつたり苦手なところは助け合い補いあえる社会でありたい。女性の出産等で社会参加できないところは支援されるところが必要だと思います。(女性 60～69歳)
- ◆近年は、男女の格差は少しずつ少なくなっているとは思いますが。(男性 30～39歳)
- ◆女子は身体的に男性よりおとります。それでも平等でいられるような社会になってほしいと願います。(女性 50～59歳)
- ◆男女平等はあたり前の世の中になってほしい。(女性 60～69歳)

- ◆長岡京市ではありませんが、別の市で共同参画の相談室に訪問した事があります。その際、「問題を解決するためにあなた(相談者の私)がどう行動し、何か大きな決断をできるか。できないならここでは相談に応じられない」と対応されました。例えば、「DVだと感じられ辛く、生活を苦しいものと感じる」としても、話を素直にうちあけ聞いてもらうことで「自分が被害的に受けとりすぎてた。前向きに家族と折り合いをつけたい」と答えを出したりできると思うので、私自身は「社会実現のために大きな決断大きな行動」を押しつけるような「男女共同参画」であってほしくないと思います。(女性 40～49歳)
- ◆男女平等になっても暮らしやすい社会にはならないと思う。何もかも平等はありえないと思う。今は男女平等をおしつけている。(女性 60～69歳)
- ◆男女平等をいうけれど、年金の金額の差や子育て介護に関わる時間割合、家庭内での男女の立場の平等は年代が上がるにつれ、何も見直されていない。50歳をすぎ、正社員で働いたところで年金額や介護、家事など女性の負担が減ることはない。女性の高学歴、社会進出が、家族に対する無責任考えが育っている気がする。女性の人権が生かせる世の中になるのは、社会全体の問題を国が解決する必要があると思う(女性 50～59歳)
- ◆社会構造上、男女平等の取組みが進むほど、女性への負担(家事、睡眠不足等の時間的なものも含め)が増していく面があると思います。家庭内では適切な役割分担が必要であり、それを自由に実現できる制度や体制づくりであるべきです。(女性 50～59歳)
- ◆双方にニーズがあるなら、機会を均等に配慮されることでしょう。(男性 60～69歳)
- ◆性別にとらわれず個々の能力を正確に評価出来る様にする事が大切だと思います。無理に女性を、採用する事もしなくて良いと思います。能力の有る方を、きちんと見極める、大人が必要です。(男性 50～59歳)
- ◆家政婦人材派遣業で仕事をしており、関西でも一部の市と提携してヤングケアラー家庭など特殊な事情を抱えた方向けに支援事業として家政婦、シッター派遣を行っています。今は一部の利用者に止まっていますが、今後の日本が男女平等を実現するためには女性の家事からの解放、共働き家庭の家事支援は必要条件と感じており、同時にシルバー人材センター等での高齢者の雇用促進も進めていき、幅広い世代の市民が相互に支え合う仕組みを作っていく事が必要と考えています。(女性 50～59歳)
- ◆難しいですがいかなる場でも自分の意見を言える環境を作ればいいかなと思います。異なる意見を活発に交換することで理解が深まる様に思います(女性 18～29歳)
- ◆「大学理系の女性枠」のような不公平な優遇は不要と考えます。(男性 30～39歳)
- ◆女性優遇ではなく、確実な平等をお願いしたいです。(男性 30～39歳)
- ◆そもそも男女共同参画社会のゴールがどこかわからない。同じ職種につければOK?合う合わないがあるから違うと思います。海外に惑わされず、日本に合わせた形で考えるべき(男性 18～29歳)
- ◆そもそもですが女性が冷遇されていると思っていません。このような考え方の導入で男性より厚遇されていると感じます。職場で出世が遅いなどありますが結婚して退職される割合が多い事実があるからではないでしょうか？働き方も変わって来ているので誰もがチャンスがあればいいと思います。(男性 40～49歳)
- ◆男女共同参画社会は十分に実現されていると思いますが…。(男性 30～39歳)

- ◆社会全体として、どちらが優遇されているというのは目に見える形ではほぼないと思います。一方で、性差による特徴の違いから企業からやしきたりからなど、辛いことが女性側に発生やすいとはまだ思います。ただこれらは風土などによるものも大きく、中々根深い問題だと思います。是非頑張ってください。(男性 50～59歳)
- ◆男女が平等である必要はないと思う(女性 30～39歳)
- ◆何かを得れば何かを失う訳で、実現したなら、色々なものを失った先に、実現するのでは無いでしょうか。ここ 5 年色々とありましたが、既に日本人自体が色々なものを失っている(一番大きなものは思考力の欠如)様に感じられ残念でなりません。(女性 50～59歳)
- ◆残念ながら、あまり意識してなかった!反省しています。(男性 40～49歳)
- ◆身体的に有利な男性こそ身体的負担の多い育児を担当し、平均的に社会性の高い女性が組織で働く方が全体としてプラスに働くと思われる。(女性 40～49歳)

(6)市の男女共同参画の取り組みについて

- ◆社会全体での取り組みが必要であり、長岡京市が独自で取り組んでも、効果は限定的である。国、府、別市町村と共同で取り組んでいくことが必要と思います。(男性 50～59歳)
- ◆政策や方針決定の通知等は充実していても実際に市民がこれだけ参画しているとか、こんな問題がこう解決したとか具体例がないと市民には伝わらない。役所のおこりがちな体質かも知れないが、これだけやっている!と伝えても市民には感じない!担当者を初め役所の人間が“魂”を見せる必要があると思う。(男性 70歳以上)
- ◆相談するだけでは意味がない。明確な支援がない、中身がない、公的な機関は特に、耳ざわりが良い言葉ばかりで、実行力はない。しっかりしてほしい。(男性 30～39歳)
- ◆取り組みを知らない事の方が多いのもっと知りたいと思いました。生活の場など、密室が多くなっている中で虐待も見えていない事が多いのかと思ってしまう。一人生活の人は収入の面でも参加したくとも出来ない人も多いかと思う。収入があつての人の考え方は生活をきりつめている人とは時間の使い方も違う事を考えて欲しい(女性 60～69歳)
- ◆きれい事をならべてるだけの政策な気がする1年後、長岡京市は特に何も変わっていないと思う。具体的に目に見えてわかる取り組み、出来ますか?「1人ひとり」守れますか?(女性 50～59歳)
- ◆初めて聞いた言葉や、知らない事がたくさんあったので多くの人に知ってもらうためにもチラシ?などをポスティングやSNSの配信を多くとり入れることも大切だと思う。(女性 18～29歳)
- ◆市として出来ることは何も無い気がします。男女、ではなく能力で決まる世の中になるべきなので、能力で評価出来る仕組みと評価システム(AIなど)を推進すべき(男性 30～39歳)
- ◆男女共同参画社会にむけて行政がリーダーシップをとることは、何よりだと思います。企業・教育の現場でもどんどん啓発していくと取り組みが進むといいです。何よりひとりひとりの市民の理解がもっともっと広まればと思います。(女性 60～69歳)
- ◆意見はありません。よくがんばっていると思われます。より住みやすい長岡京市にぜひして下さい。(男性 70歳以上)

- ◆男女共同参画に関し国政レベルの対応が必要であり、市として限られた資源を投入すべきでない(本アンケート含め)行き過ぎた性的少数者対策に反対。身体特性に基づく場所の絶対確保(トイレ・更衣室など)(女性 18～29歳)
- ◆今、自分が置かれている立場に大きな問題があったら調べて解決を目指してもがき手段を模索すると思いい知識が広がるだろうと考えますがありがたいことにまだ困る程のことに遭遇してないせいか知らない事だらけです。知るきっかけにもなり市の取り組みも感じられました(女性 50～59歳)
- ◆中身がよくわかっていない。言葉も難しい。わかりやすい言葉で発信してほしい。(女性 50～59歳)
- ◆良い取り組みなので、続けてほしい。(男性 70歳以上)
- ◆本年に長岡京市へ転入したため、長岡京市の施策に対する認知が十分ではありませんが、本アンケートを含め真摯に男女共同参画社会に取り組まれている姿勢を感じました。(男性 30～39歳)
- ◆私も機会があったら、イベントに参加したいです。(女性 18～29歳)
- ◆アンケートをしても、実際の現場に反映されているのかが不明。やっているだけになっていないか。(女性 30～39歳)
- ◆見聞きすることは増えたが、実際に何かが変わったのか実感はないので、取り組みの成果や効果がわかりにくいと思います。もっと行政と企業などが連携して個人の問題を理解しないといけないのではないかと思います。(女性 40～49歳)
- ◆素晴らしい取り組みであると思います。私も微力ながら出来ることから協力していきますので何卒宜しくお願い致します。(男性 50～59歳)
- ◆長岡京市がこの様な取り組みに持論をもち積極的に動いている事をあまりよく知りませんでした。今後はもっと注目してみたいこうと思います。(女性 50～59歳)
- ◆広報活動が必要だと思います。市報や新聞、YouTube、SNS は読まない、アクセスしない人が多いと思うので、駅、スーパー、トイレなどふと見かける場所に掲示するのが良いと思います(女性 30～39歳)
- ◆駅に広告貼ったり、LINE の長岡京市の公式アカウントが発信するのが良いんじゃないかなと思います。長岡京市の取り組みはあまり知りませんでした。もう少し目立つように発信していった方が良いと思います。(学校、駅のアナウンス、広告等)(女性 18～29歳)
- ◆なかなか前には進まないが地道に努力するしかない。微力ながら地域の為の協力は惜しみません。関係職員の皆様も頑張ってください。住みやすい素敵な街にしましょう。(男性 60～69歳)
- ◆今回のアンケート内容を見て、市政の考え方や理解が曖昧なのではないかと思った。言葉や法制度を作る、アンケートを取るなどでやってますアピールをしているだけで、実情は理解ができていないから周りの言ってるように進めてます感がある。男女平等とは何なのか、具体的に何を指すのかをまず文章化して、今、どこまでできているのかを評価するところからがスタートなのではないか？(性別無回答 60～69歳)
- ◆京都府や長岡京市の取り組みについて知らないと回答しましたが、具体的な名称を知らないだけで何かはしているんだろうな、くらいの認識はあります。(男性 18～29歳)
- ◆色々な方法で PR してシツコイくらいに周知させて行き個人個人の意識にすり込んで行くしかないと思います。自分も児童虐待のボランティアを大阪でしてましたがやはり関心が薄いと感じました(女性 40～49歳)

- ◆普段心理支援に携わっているので、今回のような市民意識調査に参加させていただいて、普段の活動でうかがい知る相談に来られる方のお気持ちを反映して回答できたことが良かったと思っております。ありがとうございました。(男性 30～39歳)
- ◆広報誌に、育児休暇を取得した職員の体験談を掲載する。(女性 40～49歳)
- ◆今回の調査をきっかけに、長岡京市男女共同参画センターの事などを知る事ができました。(男性 50～59歳)
- ◆バランスは難しいですが社会を変えるための方針だけではなく、そのために市民一人一人が普段の生活の中でどういうことを(意識)すればいいのかを同時に周知していくことも必要ではないかと思います。(男性 60～69歳)

(7)その他の意見

- ◆「男女共同参画社会実現」を実現させるという大義名分(建前)より所得が少ない家庭への支援が先では？男女平等を掲げる以前、に生活が苦しい家庭等への手厚いサポートを考える方がよっぽど意味があると思います。他市、が劣っている、長岡京市からは5,000円の給付金を頂きました。ありがとうございました！！すごく助かりました！！(男性 30～39歳)
- ◆60歳以上の独身の住民税が高すぎる。男女の人権尊重の度合いはよくわかりません。(男性 60～69歳)
- ◆キャラのお玉ちゃんの相手も必要。(女性 40～49歳)
- ◆アンケートの量が多すぎると思います。高齢者には答えづらいです。(女性 70歳以上)
- ◆こういったアンケートに対しては、自治会役員、民生委員としてもっと勉強しておかねばと痛感しました。(男性 60～69歳)
- ◆障害者です。お答しにくい内容だったので除外して頂いて、健常者の方をお願いした方が良いかと思います。また、用紙が大きく答えづらかったです。(記入)(女性 30～39歳)
- ◆私は、ここ5年は外出していない為社会の状況がわかりません。(男性 40～49歳)
- ◆全然わからなくてすみません。(男性 50～59歳)

- ◆このような市民への丁寧な聞き取りを実施いただきありがとうございます。男女共同参画については関心があるので、集計されたらぜひ結果を拝見したいと思います。さて、本アンケートでは問 1 として性別をヒアリングされましたが、「あなたが認識している性別で」という但し書きと、「自由記入」の解答欄がありました。私自身も仕事でアンケートの作成に携わることもあり、現在の「社会的に正しい姿勢」としてこうした項目づくりが必要なことはとてもよく理解ができます。しかし、今回のように「男女共同参画」と銘打った調査で、しかも問 2 以降についてはほとんど性的マイノリティ(特に身体と別の性別を自認する方)についてのヒアリングがある内容ではない(そして男女の 2 つの性別についてのみ念頭におかれている項目ばかり)にもかかわらず、この調査の肝でもあると思われる「回答者の性別」について、このようなヒアリングの仕方をするのは、統計としての意味が薄れるのではないのでしょうか。アンケートの内容からも推測できる通り、現在の日本においてはまだまだ生まれた性別によって人生のルートが全く別のものになります。私自身、そのことで歯がゆい思いをすることが多々あります。男性もまた違う観点から、性別によって縛られて苦しい思いをすることがあると思います。そういった現状を是正しようとするのであれば、回答者についても説明を尽くして(この調査で性別をヒアリングする意味、意図の説明)、性別を男女いずれかで回答してもらうべきではないでしょうか。また、性的マイノリティの抱える問題については、男女の性差別と重なることもあります。実父からの性的虐待によって、性自認を男性に変えた女性の知人がいますが、性的マイノリティであるがゆえの困難の前に、女性差別、女性蔑視が問題の根底にあると思います。そのような困難も含めて「男女共同参画」で解決しようと思うのであれば、なおさら性別の記載は生まれもってのもので記入を依頼すべきだと感じます。(女性 40～49歳)
- ◆すでに実現できているものに対して意見はありません。(女性 60～69歳)
- ◆アンケートは強い意思で回答している方と、なんとなくで回答している方は、同じひとつの回答になるので、強い意思で回答している方の意見を活かすためには個別ヒアリングで別に調査されたほうが良いと思います。あとアンケートの設問数は多いと思いました。(女性 50～59歳)
- ◆長い(男性 30～39歳)
- ◆長岡京市には就労支援に関する取り組み自体が存在するにもかかわらず、そのことを踏まえてこのアンケートを作られているように思えない部分が見られました。男女共同参画社会を本当に実現させるためには、皆様のお考えあると思いますが、それをどうすればできるだけ語弊無く伝えられるか、また、どのような人がこのアンケートに答えているかについて考えられる余裕が必要だと思います。(男性 40～49歳)
- ◆アンケートの選択肢が十分でなく、選択しにくい項目がある。(女性 60～69歳)
- ◆紙媒体の途中まで記入していましたが、市外からの転入後わずか数ヶ月では返答に困る内容も多く断念しました。対象者を抽出する時点で、5年以上市内に在住されている人(「男女共同参画計画」策定前からの市民)に絞ることが相応しいと思われます。(女性 40～49歳)
- ◆アンケート内容をよく読みながら、記入しました。が、質問の内容は意味があるか疑問に思うものがありました。市民意識調査は良いとは思いますが、個人が特定できそうな質問に加え、ナンセンスな質問は記入するにあたって、少し協力意識を害します。せっかく市民の皆様から意見や統計をとるのであれば、内容をもう少し簡潔にし長いアンケートではなく、SNS やメールなどを使い協力しやすい形を取り入れて頂ける方が、市民意識の改革や協力を得やすいと感じました。(男性 60～69歳)

【事業所意識調査から】

- ◆コロナ禍後、さまざまな価値観に変化が起こり、男女ともに世代間の開きがより大きくなったと感じる。そのような中、子育て世代がのびのびと生活できる環境を考えてあげて欲しい。
- ◆一企業の取り組みだけでは限界も多いので、是非積極的に横のつながりを広げていく活動を長岡京市中心に実施、声かけ発信して頂ければと思います。
- ◆育児、介護のサポート体制の充実。専業主婦等の就業年数が少ない人達への研修、社会、会社、税金等の知識を教えてください。
- ◆少子化社会において、男女問わず、子供の育児を安心して行う環境が、女性の社会進出にもつながると思います。弊社においても兄弟別々の保育園に通わせている方がいるなど安心して働ける体制にはほど遠い現状です。能力を伸ばすというよりも、もっと働きやすい社会にして頂きたいです。
- ◆みな平等
- ◆男女は平等ですので差別した事がなく普通にすれば問題は無くなると思います。雇用する場合でも選択出来ない。人口が減って行くので少人数で回れるシステムを考えたい。女性の意見を取り上げ現状に合致したシステム・労働を作って欲しい。
- ◆保育所の受け入れ人数がもっと増えれば子の1歳時点で復帰できる為、代替要員の確保がしやすくなります。

VII 調査票

1. 市民意識調査



長岡京

～誰もが暮らしやすい未来のために～

「長岡京市 男女共同参画に関する市民意識調査」

◎この調査はパソコン・スマートフォンからも回答することができます。

右記二次元バーコードまたは下記 URL よりご回答ください。

URL: <https://src.webcas.net/form/pub/src2/ds262099>



◇ID

◇パスワード

※上記の ID・パスワードは、二重回答を防ぐためのものです。この番号から個人を特定することはできません。

1. あなたについておたずねします

問1 あなたの性別は。(○は1つ) ※あなたが認識されている性別でお答えください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. () |
|-------|-------|--------|

問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 18～29 歳 | 2. 30～39 歳 | 3. 40～49 歳 |
| 4. 50～59 歳 | 5. 60～69 歳 | 6. 70 歳以上 |

問3 現在、あなたはどなたと一緒に住んでいますか。(○はいくつでも)

※あなたからみた続柄(義理関係を含む)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 配偶者(パートナー) | 2. 父、母 |
| 3. 子ども(子の配偶者を含む) | 4. 孫(孫の配偶者を含む) |
| 5. 祖父、祖母 | 6. 兄弟姉妹 |
| 7. その他() | 8. 同居者はいない(1人暮らし) |

問4 あなたにお子さんはいますか。(別居・同居は問いません)(○は1つ)

- | | |
|-------|-------------|
| 1. いる | 2. いない →問5へ |
|-------|-------------|

問4で、「1.いる」と回答された方におたずねします。

問4-1 お子さんの年代は。(○はいくつでも)

- | | | |
|-----------|-------------------|----------|
| 1. 0歳～就学前 | 2. 小学生 | 3. 中学生 |
| 4. 高校生 | 5. 大学生・大学院生・専門学校生 | 6. 1～5以外 |

問5 あなたの配偶者またはパートナーは、現在収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|------------------|
| 1. している | 2. していない | 3. 配偶者・パートナーはいない |
|---------|----------|------------------|

2. 仕事についておたずねします

問6 あなたの現在の職業は。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1. 農林業者 | 2. 商業・工業・サービス業などの自営業主 |
| 3. 自由業(開業医、芸術家、宗教家、弁護士など) | 4. 1～3の家族従業者 |
| 5. 会社・団体役員 | 6. 正社員・正職員 |
| 7. パート・アルバイト →問7～10へ | 8. 派遣社員 →問7～10へ |
| 9. 内職・在宅就業 →問7～10へ | 10. その他() |
| 11. 専業主婦(主夫)(収入を得る仕事をしていない) | 12. 学生(専門学校生、大学生など) |
| 13. その他の無職(年金生活者、失業中など) | |

問6で「11. 専業主婦(主夫)」、「12. 学生」、「13. その他の無職」に回答された方は、問11にお進みください。

問7～問9は、問6で、「1～10」に回答された仕事をしている方におたずねします。

問7 あなたは、今の職場・仕事に不満や悩みがありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 収入が少ない | 2. 労働時間が長い |
| 3. 休暇が取りにくい | 4. 能力が正當に評価されていない |
| 5. ハラスメントがある | 6. 仕事と家庭や個人の生活の両立がむずかしい |
| 7. 職場の人間関係がむずかしい | 8. 昇進や昇給などの待遇が男女で違う |
| 9. 女性が働き続けることに理解がない | 10. 会社や仕事の先行きが不安 |
| 11. その他() | 12. 特にない |

問8 働くことについて、今後どのようにしていきたいと考えていますか。(〇は1つ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 今の職場で、管理職・役員をめざしたい |
| 2. 今の職場で、資格を取るなどして専門職として働きたい |
| 3. 今の職場で、非正規雇用から正規雇用に転換して働きたい |
| 4. 今の職場で、現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい |
| 5. 転職したい |
| 6. 起業したい |
| 7. 適当な時期に仕事を辞めたい |
| 8. その他() |
| 9. わからない |

問9 あなたご自身の令和5年中の年間収入(税込)はどのくらいですか。年金や資産収入などすべての収入を含めた額をお答えください。(〇は1つ)

- | | | |
|----------------|----------------|------------------|
| 1. 103万円未満 | 2. 103～130万円未満 | 3. 130～250万円未満 |
| 4. 250～500万円未満 | 5. 500～750万円未満 | 6. 750～1,000万円未満 |
| 7. 1,000万円以上 | 8. 収入はない | 9. わからない |
| 10. 答えたくない | | |

問6で「1～6」に回答された方は、問13にお進みください。

問6で、「7. パート・アルバイト」、「8. 派遣社員」、「9. 内職・在宅就業」と回答された方におたずねします。

問10 現在の就労形態を選んでいる理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 専門的な資格・技能を活かせるから
2. 自分の都合のよい時間に働けるから
3. 勤務時間や労働日数が短いから
4. 家計の補助、学費などを得たいから
5. 扶養の範囲内で働きたいから
6. 自分で自由に使えるお金を得たいから
7. 通勤時間が短いから
8. 正社員として働ける職場がなかったから
9. 家庭の事情(家事・子育て・介護など)と両立しやすいから
10. その他 ()
11. 特に理由はない

問6で、「11. 専業主婦(主夫)」、「12. 学生」、「13. その他の無職」と回答された方におたずねします。

問11 働くことについて、今後どのようにしていきたいと考えていますか。(〇は1つ)

1. できるだけ早く雇用されて働きたい
2. 将来的には雇用されて働きたい
3. 自営・起業など雇用されずに働きたい
4. 働く予定はない
5. その他 ()
6. わからない

問11で、「1. できるだけ早く雇用されて働きたい」、「2. 将来的には雇用されて働きたい」と回答された方におたずねします。

問12 あなたが、仕事につきたいと思う上で困ったことや不安がありますか。(〇はいくつでも)

1. 仕事の募集が少ない
2. 勤務時間や雇用形態、賃金などの労働条件が自分の希望と合わない
3. 自分の能力や適性に合った仕事が少ない
4. 就職に関する情報が得にくい
5. 自分にキャリアや資格がない
6. 仕事のブランクが長い
7. 乳幼児の子どもを預けられない
8. 介護や看護の必要な家族がいる
9. その他 ()
10. 特にない

全員におたずねします。

問13 あなたは、すべての人が性別にかかわらず、いきいきと働ける職場をつくるために、企業などは今後どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 育児休業や介護休業の制度を整備・充実する
2. 育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる
3. テレワークや在宅勤務、短時間勤務制度など、柔軟な働き方を取り入れる
4. 有給休暇が取得しやすい職場の雰囲気をつくる
5. 結婚や出産、介護にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる
6. 管理職に女性を積極的に登用する
7. 賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす
8. 研修や能力開発の機会を充実する
9. 男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する
10. 職場におけるハラスメントをなくす
11. 企業内保育施設の設置など、子育て支援を充実する
12. 女性や若者、障がい者、高齢者などの雇用機会を拡大する
13. その他 ()
14. 特にない
15. わからない

3. 子育てや暮らしなどについておたずねします

問14 あなたは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えをどのように思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対 |
| 5. わからない | |

問15 生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味など)」の優先度について、あなたの希望と現実(現状)に最も近いものはどれですか。(〇はそれぞれ1つ)

希望	1. 仕事	2. 家庭生活	3. 地域・個人の生活	4. 仕事と家庭生活
	5. 仕事と地域・個人の生活	6. 家庭生活と地域・個人の生活		
	7. 仕事と家庭生活と地域・個人の生活	8. わからない		
現実	1. 仕事	2. 家庭生活	3. 地域・個人の生活	4. 仕事と家庭生活
	5. 仕事と地域・個人の生活	6. 家庭生活と地域・個人の生活		
	7. 仕事と家庭生活と地域・個人の生活	8. わからない		

問16 あなたは、今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
2. 男性が参加しやすい方法や場づくりをすること
3. 男性のための情報提供を行うこと
4. 男性が子育て、介護、地域活動などを行うための仲間づくりを進めること
5. 講習会や研修などを行い、男性の家事、子育て、介護の知識を高めること
6. 仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること
7. 社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること
8. 事業主や企業に対して、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行うこと
9. 職場における上司や周囲の理解を進めること
10. その他 ()
11. 特にない
12. わからない

問17 あなたは、家庭教育の中で男女平等の考え方を育むためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 協力しあって家事・子育てなどをする
2. 「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない
3. 学校で実践されている男女平等教育に関心を持つ
4. 学校や行政が実施する男女平等に関する学習機会に参加する
5. 男女平等になっているので、家庭の中の男女平等を進める必要はない
6. その他 ()

問18 あなたは、男女平等を進めるために、学校、保育所、幼稚園などでどのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男女平等の意識を育てる授業をする
2. 性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする
3. 幼少の頃から自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる
4. 男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える
5. テレビやインターネットなどの情報を読み解いて使いこなす力をつける教育を進める
6. 性の多様性への理解を進める
7. 校長や園長などに女性を増やしていく
8. 教職員・保育士への、男女平等教育に関する研修を充実する
9. 保護者会などを通じて保護者に男女共同参画の啓発をする
10. 男女平等の意識が備わっているので必要ない
11. その他 ()
12. わからない

問19 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○印をつけてください。
(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

	参加したことがある・ 今後は参加したい	参加したことがある・ 今後は参加したくない	参加したことがない・ 今後は参加したい	参加したことがない・ 今後は参加したくない
① 自治会や町内会の活動	1	2	3	4
② PTAや子ども会の活動	1	2	3	4
③ 地域における文化・スポーツ・学習の活動	1	2	3	4
④ NPO(非営利団体)やボランティアの活動	1	2	3	4
⑤ 民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動	1	2	3	4

問19で、「今後は(も)参加したくない」と回答された方におたずねします。

問19-1 それはどうしてですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 仕事が忙しいから | 2. 家事・子育て・介護で忙しいから |
| 3. 健康状態がおもわしくないから | 4. 活動に魅力がないから |
| 5. 人間関係がわずらわしいから | 6. 活動の情報が得られないから |
| 7. 参加するきっかけがないから | 8. あまり関心がないから |
| 9. その他 () | |

全員におたずねします。

問20 女性と男性では、健康課題の内容も抱えやすい時期も異なります。

あなたは、心とからだの健康を保つために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. 食生活や健康づくりに関する情報を提供する | |
| 2. 安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する | |
| 3. 性別特有の病気などに配慮した外来の情報を提供する | |
| 4. 悩みや不安を相談できる体制を充実する | |
| 5. 暴力の被害者に対する支援体制を充実する | |
| 6. リフレッシュできるような場を提供する | |
| 7. 生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる | |
| 8. その他 () | |
| 9. 特にない | |
| 10. わからない | |

問21 今後の大規模災害に備え、「性別による違い」に配慮した取り組みはどの程度必要だと思いますか。
(①～⑧の項目ごとに○は1つずつ)

	とても必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要ないと思う	全く必要ないと思う	わからない
① 防災計画の策定の場に男女がともに参加する	1	2	3	4	5
② 自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす	1	2	3	4	5
③ 避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる	1	2	3	4	5
④ 避難所運営の責任者に男女がともに加わる	1	2	3	4	5
⑤ 乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際に配慮する	1	2	3	4	5
⑥ 男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う	1	2	3	4	5
⑦ 男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う	1	2	3	4	5
⑧ 発災後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する	1	2	3	4	5

4. 人権の尊重についておたずねします

問22 人権が侵害されていると思うことはどのようなことですか。
(①、②それぞれに○はいくつでも)

	①女性の人権	②男性の人権
1. ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力)やデートDV(恋人からの暴力)	1	1
2. セクシュアル・ハラスメント、マタニティ(パタニティ*)・ハラスメント	2	2
3. 雑誌、インターネットなどで女性(男性)の性が人格と切り離されて商品化されていること(児童ポルノ含む)	3	3
4. ストーカー行為	4	4
5. 売買春(援助交際含む)	5	5
6. 職場における待遇の男女格差	6	6
7. 男女の役割分担を固定化する考え方	7	7
8. 社会進出のための支援制度の不備	8	8
9. その他 ()	9	9
10. 特になし	10	10

※パタニティ・ハラスメント:育休制度などを利用しようとする男性社員への嫌がらせ・不当な扱いのこと。

問23 あなたは、職場や学校、地域などにおいて次のような行為を受けたことがありますか。

(○はそれぞれいくつでも)

	職場	学校	地域
1. 年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる	1	1	1
2. 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる	2	2	2
3. 結婚や異性との交流についてしつこく聞かれる	3	3	3
4. 異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる	4	4	4
5. 交際や性的行為を強要される	5	5	5
6. 権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる	6	6	6
7. 妊娠・出産を理由に不当な扱いを受ける	7	7	7
8. しつこくつきまとわれる(ストーカー行為)	8	8	8
9. 上記のような経験はない	9	9	9

問24 あなたは、次の問題について知っていますか。(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

	よく知っている	少しは中身を知っている	言葉は聞いたことがある	知らない
① デートDV※	1	2	3	4
② デートレイプドラッグ※	1	2	3	4
③ リベンジポルノ※	1	2	3	4
④ JKビジネス※	1	2	3	4
⑤ AV出演強要※	1	2	3	4

※デートDV: 交際中のカップル間で起こる暴力のこと。相手を自分の思いどおりにコントロールしようとする態度や行動。殴る、蹴るだけでなく、ひどい言葉で傷つける、監視する、友達との交際を制限するなど「暴力」の種類は、様々です。

※デートレイプドラッグ: デートや飲み会ですすめられた飲食物に睡眠導入剤などが混入されており、意識を失ったところで性暴力にあう被害のこと。

※リベンジポルノ: 交際中に撮影した画像や動画が、元交際相手によって同意なくインターネット上に公表されること。

※JKビジネス: 甘い言葉で誘われ、高収入アルバイトに応募すると、性的サービスを要求されたり、性暴力・ストーカー行為などの被害にあう危険性の高いアルバイトのこと。

※AV出演強要: モデル契約などと偽ってスカウトされ、半ば強引にアダルトビデオ(AV)への出演強要や、出演を拒否すると多額の違約金を請求されること。

問25 あなたは、LGBT※などセクシュアルマイノリティ(性的少数者)全般を指す言葉を知っていますか。

(○は1つ)

1. よく知っている	2. 少しは中身を知っている
3. 言葉は聞いたことがある	4. 知らない

※LGBT: L=レズビアン(女性同性愛者)、G=ゲイ(男性同性愛者)、B=バイセクシュアル(両性愛者)、T=トランスジェンダー(身体的な性別と生きようとする性別が異なる人)の頭文字を組み合わせたもので、セクシュアルマイノリティ(性的少数者)全般を指す言葉として広く使われています。

問26 性的少数者の人権を守り、性の多様性を認める社会を実現するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 性的少数者の生きづらさや困りごとを社会的な課題として啓発する
2. 同性パートナーシップなど制度面の配慮を行う
3. 性的少数者に対する差別や人権侵害を禁止する条例などを制定する
4. 性的少数者のための相談窓口を設置する
5. 性の多様性について学校教育を充実する
6. 公文書などにおける性別表記に配慮する
7. 性別にかかわらず利用できる多目的トイレなどの設置を推進する
8. その他 ()
9. 特にない
10. わからない

問27 本市の性の多様性に関する施策(啓発事業や制度)や、あなたやあなたの周りで性の多様性についての理解が進んでいると思いますか。(①～③の項目ごとに〇は1つずつ)

	進んでいる	どちらかといえば進んでいる	あまり進んでいない	進んでいない	わからない
① 性の多様性に関する本市の施策	1	2	3	4	5
② あなた自身の性の多様性についての理解	1	2	3	4	5
③ あなたの周りでの性の多様性についての理解	1	2	3	4	5

アンケートはもう少しで終わります。
ご協力をお願いいたします。



お玉ちゃん

問28 あなたはこれまでに、あなたの配偶者やパートナー、恋人から次のようなことをされたこと、あなたの配偶者やパートナー、恋人にしたことがありますか。
(「されたこと」「したこと」について、①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

	されたことがありますか			したことがありますか		
	何度もあった	1～2度あった	まったくない	何度もあった	1～2度あった	まったくない
① 身体的な暴力 殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど	1	2	3	1	2	3
② 精神的な暴力 大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫するなど	1	2	3	1	2	3
③ 性的な暴力 性行為を強要する、嫌がっているのにポルノ雑誌や動画などを見せる、避妊に協力しない、中絶を強要するなど	1	2	3	1	2	3
④ 経済的な暴力 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、相談なく無計画な借金をさせるなど	1	2	3	1	2	3
⑤ 社会的な暴力 外出や親友・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックするなど	1	2	3	1	2	3

問28で「何度もあった」、「1～2度あった」と回答された方におたずねします。

問28-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(○はい/○いいえ/○何でも)

1. 家族や親族	2. 友人・知人
3. 配偶者暴力相談支援センター	4. 警察
5. 公的機関の相談窓口、電話相談など	6. 学校関係者(教員・養護教諭・スクールカウンセラー)
7. 医療関係者	8. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセリング機関など)
9. その他()	
10. 相談しなかったが、しなかった	11. 相談しようと思わなかった

問28-1で「10.相談しなかったが、しなかった」、「11.相談しようと思わなかった」と回答された方におたずねします。

問28-2 あなたが、相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(○はい/○いいえ/○何でも)

1. 相手の行為は愛情表現だと思ったから	2. 自分さえがまんすればすむと思ったから
3. 自分にも悪いところがあると思ったから	4. 世間体が悪いと思ったから
5. 相談するほどのことではないと思ったから	6. 相談することで自分が傷つきたくなかったから
7. どこに相談していいかわからなかったから	8. 仕返しが怖かったから
9. その他()	

5. 困難な問題を抱える女性に関することをおたずねします

全員におたずねします。

問29 令和6年4月1日から「困難な問題を抱える女性※への支援に関する法律」が施行されました。あなたの周りで困難な問題を抱えている女性を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

※「困難な問題を抱える女性」とは「性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活に営む上で困難な問題を抱える女性(そのおそれのある女性を含む)」

1. 周りで見たことがある(知っている)

2. 見たことがない

→問30へ

問29で、「1.周りで見たことがある(知っている)」と回答された方におたずねします。

問29-1 あなたの周囲にいる女性が以下のような困難な問題を経験していることを、見聞きしたことがありますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。(○はいくつでも)

1. 配偶者や元配偶者、交際相手からの暴力・暴言
2. 学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害
3. 親や兄弟、子からの暴力・虐待
4. 家庭不和(家族が抱える問題も含む)
5. 離婚問題(養育費問題も含む)
6. ストーカー被害
7. セクシュアル・ハラスメントや性暴力被害
8. リベンジポルノやAV出演被害
9. 経済的困窮(非正規雇用・多重債務など)
10. 家出、住居喪失
11. その他()
12. そのような経験はない

全員におたずねします。

問30 問29-1のような困難な問題を抱える女性が相談できる以下のような相談機関(窓口)があります。次の中から知っているものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 女性の相談室(長岡京市男女共同参画センター)
2. DV相談(長岡京市男女共同参画センター)
3. 女性のカウンセリングルーム(長岡京市男女共同参画センター)
4. 女性の法律相談(長岡京市男女共同参画センター)
5. 女性のための相談(京都府男女共同参画センター らら京都)
6. 女性相談(京都家庭支援総合センター)
7. 性犯罪相談ダイヤル「ハートさん」
8. ヤングテレホン(京都府警察本部少年サポートセンター)
9. 被害者カウンセリング(京都府警察本部)
10. ストーカー相談(京都ストーカー相談支援センター)
11. 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター(京都 SARA)
12. DV 相談ナビ・DV 相談プラス
13. 性暴力 SNS 相談(Cure Time)
14. どれも知らない

問31 女性が困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(特に必要だと思うものを3つまで○)

1. 困難な状況に気づいてくれる人の存在
2. 安心できる居場所
3. 支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること
4. 実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること
5. 弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート
6. 経済的な自立
7. 経済的な自立に必要な支援や自立のためのスキルや資格
8. 一時的な経済支援
9. その他 ()
10. 必要なことはない

問32 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所ですたいですか。(○はいくつでも)

1. 電話
2. メール
3. SNS
4. 学校(対面)
5. 支援機関(対面)
6. 自宅に訪問してもら(対面)
7. 気軽に立ち寄れる場所で相談(対面)
8. その他 ()
9. 相談したり支援を受けたりしたいと思わない

6. 男女共同参画社会についておたずねします

問33 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(①～⑧の項目ごとに○は1つずつ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている
① 家庭生活では	1	2	3	4	5
② 職場では	1	2	3	4	5
③ 地域(自治会やPTA、子ども会など)では	1	2	3	4	5
④ 社会通念・習慣・しきたりでは	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5
⑥ 政治・行政の場では	1	2	3	4	5
⑦ 学校教育の場では	1	2	3	4	5
⑧ 社会全般として	1	2	3	4	5

問34 あなたは、次の法律や言葉、長岡京市の取り組みを知っていますか。

(①～⑪の項目ごとに○は1つずつ)

	よく知って いる	少しは中身を 知っている	言葉は聞いた ことがある	知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3	4
② 長岡京市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
③ 女性活躍推進法 働く場面で活躍したいという希望を持つ女性が活躍できるよう、一定規模以上の企業などに取り組みを義務づけた法律。	1	2	3	4
④ 「えるぼし」※「くるみん」※「『京都モデル』ワーク・ライフ・ バランス認証」※などの認定制度 女性の活躍推進や仕事と子育ての両立支援について一定の要件 を満たした企業を国や京都府が認定する制度。	1	2	3	4
⑤ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3	4
⑥ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	1	2	3	4
⑦ ジェンダー	1	2	3	4
⑧ 積極的格差是正措置(ポジティブ・アクション)	1	2	3	4
⑨ 男女共同参画センター (女性の相談室・男性の電話相談)	1	2	3	4
⑩ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律 (女性支援新法)	1	2	3	4
⑪ 長岡京市パートナーシップ宣誓制度 一方又は双方が、性的少数者であるお二人が、互いを人生の パートナーとして、日常生活において、相互に協力し合うこと を宣誓し、市がその宣誓書の受領を証明する制度。	1	2	3	4

※「えるぼし」マーク



※「くるみん」マーク



※「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証



問35 長岡京市では、令和3年6月より「長岡京市パートナーシップ宣誓制度」を導入しています。この制度は、一人ひとりの人権が尊重され、多様な生き方や価値観を認め合い、誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目的としています。あなたは、この制度についてどう思われますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. とても良い | 2. どちらかといえば良い |
| 3. どちらかといえば必要ない | 4. 必要ない |
| 5. 法律の改正で対応すべきだ | 6. わからない |

問36 問34で挙げたような制度や言葉、長岡京市の取り組みについて、よりたくさんの方に知ってもらうためには、どの広報活動が一番効果的だと思いますか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1. SNSなどを使った発信を充実させる |
| 2. イラストや漫画などを多く使った親しみやすい内容にする |
| 3. YouTube のショート動画などで簡単に概要を知ることができる広報を充実させる |
| 4. 駅やスーパーなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する |
| 5. 広報紙や新聞に掲載する |
| 6. その他 () |

問37 あなたは、この5年間で次のようなことが、どの程度進んだと思いますか。
(①～④の項目ごとに○は1つずつ)

	前進した	前進した どちらかといえば	5年前と 変わらない	後退した どちらかといえば	後退した	わからない
① 男女平等の考え方	1	2	3	4	5	6
② 職場や地域などでの女性の活躍	1	2	3	4	5	6
③ 仕事と生活のバランスの実現	1	2	3	4	5	6
④ セクシュアル・ハラスメントやDV、児童虐待などあらゆる暴力への対応	1	2	3	4	5	6

問38 あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、長岡京市はどのようなことに取り組むことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 政策の立案や方針決定の場への市民参画の促進
2. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
3. 保育施設・保育サービスや高齢者の施設や介護サービスを充実する
4. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
5. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
6. DVや児童虐待を根絶するための取り組みを進める
7. その他 ()
8. 特にない
9. わからない

■ 男女共同参画社会実現のためのご意見など、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご多忙の中、誠に恐縮ですが、調査票を同封の返信用封筒に入れ、**9月30日(月)**までにお近くの郵便ポストにご投函ください。(切手を貼る必要はありません。)

調査へのご協力ありがとうございました。



2. 事業所意識調査



～誰もが働きやすい職場づくりのために～ 「長岡京市 男女共同参画に関する事業所意識調査」

◎この調査はパソコン・スマートフォンからも回答することができます。
右記二次元バーコードまたは下記 URL よりご回答ください。
URL:<https://src.webcas.net/form/pub/src2/dj262099>



◇ID

◇パスワード

※上記の ID・パスワードは、二重回答を防ぐためのものです。この番号から個人を特定することはできません。

1. 事業所についておたずねします

問1 貴事業所の業種についてお答えください。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 建設業 | 2. 製造業 |
| 3. 電気・ガス・熱供給・水道事業 | 4. 情報通信業 |
| 5. 運輸業 | 6. 卸売・小売業 |
| 7. 金融・保険業 | 8. 不動産業 |
| 9. 飲食・宿泊業 | 10. サービス業 |
| 11. 教育・学習支援業 | 12. 医療・福祉 |
| 13. 農林漁業 | 14. その他() |

問2 貴事業所の区分についてお答えください。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 単独事業所 | 2. 本社・本店 |
| 3. 支社・支店などの出先部門 | 4. その他() |

問3 貴事業所の従業者数についてお答えください。(○は1つ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 9 人以下 | 2. 10～29 人 |
| 3. 30～49 人 | 4. 50～99 人 |
| 5. 100～299 人 | 6. 300 人以上 |

問4 貴事業所の従業者数・管理職及び役員数についてお答えください。(下記枠内に数字でご記入ください)

	①女性	②男性
A. 役員の数	人	人
B. 管理職の数	人	人
C. 正規社員・職員の数 ※管理職は除く	人	人
D. 非正規社員・職員の数	人	人

※該当者がいない場合は「0」をご記入ください。

※「役員の数」は、管理職以外で取締役などにあたる方の人数をご記入ください。

※「管理職の数」は、部課長など一定の権限を持つ方の人数をご記入ください。

※「正規社員・職員」とはいわゆる正社員・正職員で期間を定めずに雇われている従業者です。

※「非正規社員・職員」とは、パートタイム、アルバイト、派遣社員などで常用従業者以外です。

2. 女性の活躍についておたずねします

問5 貴事業所では、女性従業者の活躍をどのように考えておられますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 大いに期待している | 2. 期待している |
| 3. あまり期待していない | 4. 期待していない |
| 5. わからない | |

→問5で、「1.大いに期待している」、「2.期待している」と回答された方におたずねします。

問5-1 それは、どうしてですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 男女にかかわらず能力発揮を期待するのは当然であるため
2. 多様な視点を持つことで多方面からのニーズに応えられるため
3. 女性従業者の活躍が、生産性の向上や競争力アップにつながるため
4. 働きやすい事業所として認められ、優秀な人材を確保するため
5. 事業所のイメージアップにつながるため
6. 職場風土が改善され、組織が活性化するため
7. 社会的な動向であり、法律で規定されているため
8. その他() |
|--|

全員におたずねします。

問6 貴事業所では、女性活躍推進のために、どのような取り組みを行っておられますか。

(①～⑩の項目ごとに○は1つずつ)

	実施している	今後の実施を検討している	実施する予定はない	よくわからない
① 非正規雇用者を正規雇用者への転換、管理職に登用する制度	1	2	3	4
② 男女差のない客観的基準で人事考査を行うため、基準の明確化や評価者の研修の実施	1	2	3	4
③ 女性従業員の人材育成を目的とした研修の実施、外部研修への参加促進、会議・打合せへの参加	1	2	3	4
④ 女性の積極的な採用、採用時の面接・選考担当者に男女社員を配置	1	2	3	4
⑤ 自己申告制など、従業員の勤務時間や担当業務などの意欲や希望を反映する制度	1	2	3	4
⑥ 資格取得などの自己啓発や、健康増進活動、社会貢献のための休暇付与(時間単位も含む)、経済的支援	1	2	3	4
⑦ 従業員から仕事や職場・就業環境について意見要望を取り上げるなどの改善	1	2	3	4
⑧ 従業員のメンタルヘルスに関するサポート	1	2	3	4
⑨ 管理職を対象にした女性従業員活用のための指導や研修の実施	1	2	3	4
⑩ 仕事の不安や悩みの相談にのり、業務のアドバイスをを行うなど先輩社員(メンター)がサポートする制度	1	2	3	4

問6-1 女性活躍推進の取組について、上記①～⑩以外に実施されていることがあればご自由にお書きください。

問7 貴事業所において、女性活躍推進にあたり想定される課題はありますか。(〇はいくつでも)

1. 家庭生活へ配慮する必要がある
2. 顧客や取引先の理解が得られにくい
3. 男性従業員の認識、理解が不十分である
4. 経営層の意識、理解が不十分である
5. 結婚・妊娠・出産などを機に退職してしまう
6. 女性自身の昇進や仕事に対する意識が低い
7. 所定時間外労働(残業)、深夜労働をさせにくい
8. 育児休業や介護休業中など代替要員の確保
9. 更衣室など職場環境・設備などの整備コストがかかる
10. 前例がなく、進め方がわからない
11. その他()
12. 特に課題はない

問8 貴事業所で女性の管理職登用を促進する場合、想定される課題はどのようなものですか。

(〇はいくつでも)

1. 必要な経験・判断力を有する女性がいらない
2. 女性自身が管理職になることを希望しない
3. 女性従業員の勤続年数が短く、管理職になる前に退職してしまう
4. 男性従業員が女性管理職を希望しない
5. 顧客が女性管理職を良く思わない
6. 女性従業員が少ない又はいない
7. その他()
8. 特に課題はない



お玉ちゃん

国では、次世代育成支援対策推進法(平成17年施行)と女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)(平成27年施行)を定めています。

①次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画

企業が従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や、子育てをしていない従業員も含めた多様な労働条件の整備などに取り組むにあたって、(1)計画期間、(2)目標、(3)目標達成のための対策及びその実施時期を定めるもの。従業員101人以上の企業には、行動計画の策定・届出、公表・周知が義務づけられています。

②女性活躍推進法における一般事業主行動計画

雇用している、又は雇用しようとする女性労働者に対する活躍を推進するために、①自社の女性の活躍に関する状況把握、課題分析 ②状況把握、課題分析を踏まえた行動計画の策定、社内周知、公表 ③行動計画を策定した旨の都道府県労働局への提出 ④女性の活躍に関する情報の公表が、常時雇用する労働者が101人以上の事業主に対して義務づけられています。

問9-1 改正女性活躍推進法(令和4年4月施行)が施行されて、一般事業主行動計画策定義務が常時雇用する労働者が301人以上から101人以上の事業主に拡大されたことをご存じですか。(〇は1つ)

1. 知っている
2. 知らない

問9-2 上記の法律における一般事業主行動計画についてお聞きます。

(①、②の項目ごとに〇は1つずつ)

	策定済み	今後の策定を検討している	策定する予定はない	よくわからない
①次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画	1	2	3	4
②女性活躍推進法における一般事業主行動計画	1	2	3	4

問9-3 法律などに基づく企業認定・認証制度をご存じですか。

(①～③の項目ごとに〇は1つずつ)

① 次世代育成支援対策推進法 「子育てサポート企業」として認定 (くるみんマーク)	  	1. 取得済み 2. 知っている 3. 知らない
② 女性活躍推進法 女性の活躍推進に関する 状況などが優良な事業主の 認定(えるぼし認定)	   	1. 取得済み 2. 知っている 3. 知らない
③ 「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証 ワーク・ライフ・バランスに取り組む方針を宣言し、 認証基準を満たす従業員300人以下の府内 事業所を京都府が認証		1. 取得済み 2. 知っている 3. 知らない

3. ワーク・ライフ・バランス※についておたずねします

※ワーク・ライフ・バランス:「仕事」と子育てや介護、趣味や学習、休養、地域活動といった仕事以外の「私生活」を調和させ、そのどちらも充実(両立)させることで、お互いの相乗効果を生み出すという働き方や生き方を選択し実現できること。

問10 貴事業所では、仕事と家庭や個人の生活との両立のために、どのような取り組みを行っておられますか。(①～⑯の項目ごとに○は1つずつ)

	実施している	今後の実施を検討している	実施する予定はない	よくわからない
① 法定以上の期間の休業を付与する育児・介護休業制度	1	2	3	4
② 育児・介護休業中に給与の一部や手当を給付する制度	1	2	3	4
③ 育児・介護サービス利用料の援助	1	2	3	4
④ 家族のための休暇(法定以上の看護・介護休暇や学校行事の休暇など)の付与制度	1	2	3	4
⑤ 配偶者出産休暇制度	1	2	3	4
⑥ 事業所内託児所の設置	1	2	3	4
⑦ 休業中の情報提供など、職場復帰をしやすいよう配慮した制度	1	2	3	4
⑧ 妊娠・出産・子育て・介護を理由に退職した従業者を対象とした再雇用制度	1	2	3	4
⑨ 男性が育児休業・介護休業取得をしやすい環境にするための取り組みや工夫	1	2	3	4
⑩ 短時間勤務やフレックスタイム、始業・終業時間の繰上げ・繰下げ制度	1	2	3	4
⑪ テレワークや在宅勤務の導入	1	2	3	4
⑫ 計画的な残業禁止日(ノー残業デーなど)の設定	1	2	3	4
⑬ 残業の事前承認による残業時間の削減	1	2	3	4
⑭ 半日又は時間単位の有給休暇の付与制度	1	2	3	4
⑮ 有給休暇の計画的取得、時季指定の取得	1	2	3	4
⑯ 複数担当制などの他の人が仕事を代替できる体制	1	2	3	4

問11 貴事業所での、令和5年度の1年間の育児休業制度利用状況をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| 1. 女性のみが利用 | 2. 男性のみが利用 | 3. 女性・男性ともに利用 |
| 4. 利用なし →問12へ | 5. 対象者なし →問12へ | |

→問11で、「1.女性のみが利用」、「2.男性のみが利用」、「3.女性・男性ともに利用」と回答された方におたずねします。

問11-1 育児休業制度を利用したあとの、職場への復帰の状況をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. ほとんど復帰している | 2. 半数程度は復帰している |
| 3. 少しは復帰している | 4. 復帰した従業員はいない |

問12 貴事業所での、令和5年度の1年間の介護休業制度の利用状況をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|---------------|
| 1. 女性のみが利用 | 2. 男性のみが利用 | 3. 女性・男性ともに利用 |
| 4. 利用なし | 5. 対象者なし | |

問13 過去5年間で配偶者の転勤や出産、育児、介護を理由として退職をした女性の再雇用の実績はありますか。再雇用の雇用形態はどのようなになっていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 正規従業員として再雇用した | 2. パート、アルバイトとして再雇用した |
| 3. 契約社員として再雇用した | 4. その他() |
| 5. 女性の再雇用の実績はない | |

問14 子育てや介護と仕事の両立への支援制度の利用を促進する場合、貴事業所として、想定される課題はどのようなものですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 日常的に労働時間が長い部門・事業所がある |
| 2. 全体的に休暇取得率が低い |
| 3. 育児休業や介護休業が取りづらい雰囲気がある |
| 4. 育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい |
| 5. 業務の効率や質が落ちる |
| 6. 育児・介護支援などに関する管理職の認識が不足している |
| 7. 両立支援制度の導入に伴い、コストが増大する |
| 8. 情報やノウハウ不足により制度の運用が難しい |
| 9. 両立支援の効果が、事業所として数値などで把握しにくい |
| 10. 公的及び民間の保育・介護サービスが不足している |
| 11. 男性が子育て・介護に参加しにくい |
| 12. 休業することによって収入などの面で不安があるため、従業員が利用を望まない |
| 13. その他() |
| 14. 特に課題はない |

問15 貴事業所において、男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題はどのようなことですか。
(〇はいくつでも)

1. 休業制度の周知徹底
2. 休業を取得しやすい職場の雰囲気づくり
3. 育児・介護は女性がするものという固定的な役割分担意識の解消
4. 休業中の代替要員の確保
5. 周囲の従業員による業務分担
6. 休業中の賃金補償
7. 休業が昇進などに不利にならない人事考課制度の整備
8. 休業中の職員へのフォローアップ体制
9. 復職時の受入体制
10. その他()
11. わからない

コラム

令和6年5月に改正育児・介護休業法が公布され、令和7年4月から段階的に施行される予定です。

◇育児・介護休業法の改正ポイント

- ① 柔軟な働き方を実現するための措置などが事業主の義務になります
- ② 所定外労働の制限(残業免除)の対象が拡大されます
- ③ 育児のためのテレワークの導入が努力義務化されます
- ④ 子の看護休暇が見直されます
- ⑤ 仕事と育児の両立に関する個別の移行聴取・配慮が事業主の義務になります
- ⑥ 育児休業取得状況の公表義務が300人超の企業に拡大されます
- ⑦ 介護離職防止のための個別の周知・意向確認、雇用環境整備などの措置が事業主の義務になります

4. ハラスメントへの取り組みについておたずねします

職場におけるハラスメントの防止のために事業主には雇用管理上取り組まなければならない措置が義務付けられています。

問16 貴事業所では、職場のハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント※など)を防止するために、どのようなことに取り組んでおられますか。(〇はいくつでも)

1. 就業規則にハラスメントを禁止する条項を記載している
2. 事業所内にハラスメントの相談・苦情窓口を設置している
3. ハラスメントを防止するための研修や啓発を実施している
4. 社内報や掲示板などを活用して、従業員の意識を高めている
5. 実態把握のための調査を実施している
6. 防止策が必要となっているが、特に何もしていない
7. 問題がないので、防止策はしていない
8. その他()

※パタニティ・ハラスメント:育休制度などを利用しようとする男性社員への嫌がらせ・不当な扱いのこと。

問17 貴事業所では、LGBT※(性的少数者)への配慮、または差別を防止するために、どのような取り組みを行っておられますか。(①～⑥の項目ごとに〇は1つずつ)

	実施している	今後の実施を検討している	実施する予定はない	よくわからない
① 就業規則などに性的少数者への差別禁止を明文化している	1	2	3	4
② 事業所内に相談・苦情窓口を設置している	1	2	3	4
③ 同性パートナーを配偶者として扱う	1	2	3	4
④ 性の多様性への理解を進めるため、研修や啓発イベントを実施している	1	2	3	4
⑤ 性別にかかわらず利用できる多目的トイレの設置など設備面に対応している	1	2	3	4
⑥ 更衣室や制服などについて、個別に対応している	1	2	3	4

※LGBT:L=レズビアン(女性同性愛者)、G=ゲイ(男性同性愛者)、B=バイセクシュアル(両性愛者)、T=トランスジェンダー(身体的な性別と生きようとする性別が異なる人)の頭文字を組み合わせたもので、セクシュアルマイノリティ(性的少数者)全般を指す言葉として広く使われています。

5. 貴事業所の今後の取り組みや行政の取り組み、支援についておたずねします

問18 貴事業所において、すべての人が性別にかかわらず、いきいきと働ける職場をつくるためには今後どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 育児休業や介護休業の制度を整備・充実する
2. 育児休業や介護休業が取得しやすい職場環境をつくる
3. 在宅勤務や短時間勤務制度など、柔軟な働き方を取り入れる
4. 有給休暇が取得しやすい職場の雰囲気をつくる
5. 結婚や出産、介護にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる
6. 管理職に女性を積極的に登用する
7. 賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす
8. 研修や能力開発の機会を充実する
9. 男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する
10. 職場におけるハラスメントをなくす
11. 企業内保育施設の設置など、子育て支援を充実する
12. 女性や若者、障がい者、高齢者などの雇用機会を拡大する
13. その他()
14. 特にない
15. わからない

問19 貴事業所が女性の活躍やワーク・ライフ・バランスを推進するにあたり、長岡京市にどのような取り組みや支援を望みますか。(〇はいくつでも)

1. 市ホームページやパンフレットなどによる制度や事例の情報提供や広報啓発
2. 事業所へのセミナーや研修会などの開催
3. 子育て家庭に対する経済的支援や相談体制
4. 保育施設や放課後児童クラブなど子育て環境の充実
5. 高齢者や障がい者のための施設やサービスの充実
6. 事業所の取り組みに助言を行うアドバイザーや専門家の派遣
7. 事業所が行う研修会への講師派遣や紹介
8. 出産や育児による退職後の再就職のため、職業能力の開発や向上のための講座やセミナーの開催
9. 積極的に取り組む事業所に対する奨励金・助成金などの支給
10. 仕事と家庭の両立支援や女性の活躍推進などに取り組む優良事業所の表彰やPR
11. その他()

問20 行政が発信する情報は、どのような情報媒体で提供すれば、事業所が情報をより入手しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 市広報紙
2. 市ホームページ
3. 新聞・雑誌
4. ポスター・チラシ・リーフレット
5. SNS
6. メール(事業所へ直接メールを配信)
7. その他()

■ 男女がともに活躍できる職場づくりや男女共同参画全般について、本市に対するご意見・ご要望など、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご多忙の中、誠に恐縮ですが、調査票を同封の返信用封筒に入れ、**9月30日(月)**までにお近くの郵便ポストにご投函ください。(切手を貼る必要はありません。)

調査へのご協力ありがとうございました。





長岡京市男女共同参画社会についての
市民・事業所意識調査報告書

発行：令和7年3月

長岡京市 対話推進部 男女共同参画センター
〒617-0833 長岡京市神足2丁目3番1号 総合交流センター(6階)
電話：075-963-5501 FAX：075-963-5521
メール：danjo-c@city.nagaokakyo.lg.jp